

妻沼町埋蔵文化財調査報告 第1集

妻沼西南遺跡群 I

— 道ヶ谷戸条里・道ヶ谷戸・飯塚南 —

1981

埼玉県大里郡妻沼町教育委員会

妻沼町埋蔵文化財調査報告 第1集

妻沼西南遺跡群 I

— 道ヶ谷戸条里・道ヶ谷戸・飯塚南 —

1981

埼玉県大里郡妻沼町教育委員会



遺跡付近航空写真（南方上空より）

序

全国各地に於いて、埋蔵文化財の発掘調査が行なわれ多くの新知見を提供している昨今、我が郷土、妻沼町に於きましても西南地区の農業の近代的、合理的な経営を目指す県営は場整備事業が実施されるに至り、当該地域内の埋蔵文化財の発掘調査が、昭和53年度より行なわれました。

その結果、当初の道ヶ谷戸条里遺跡にとどまらず、集落遺跡も発見され、我々祖先の貴重な資料が明らかにする事が出来、ここに報告書刊行の運びとなりました。

本報告書が、多くの出土遺物と共に、学術研究に、あるいは社会教育に御活用いただければ幸いです。

最後に、発掘調査に、整理作業に御尽力いただきました埼玉県教育局文化財保護課、深谷土地改良事務所、地元住民、学生諸君等、多くの皆さんの御協力、御理解に対し心より感謝の意を表し序文といたします。

昭和56年3月

埼玉県大里郡妻沼町教育委員会

教育長 増 田 稔

例 言

- 1 本書は昭和53、54年度県営妻沼西南地区ほ場整備事業に伴い、国庫補助を得て実施した埋蔵文化財発掘調査の報告書である。
- 2 遺跡の名称は、文化庁あて発掘通知では妻沼西南遺跡群として提出したが、本報告をまとめるにあたり所在地の字名を冠し遺跡名を改めた。
- 3 発掘調査は、深谷土地改良事務所が妻沼町教育委員会に委託したものである。
- 4 本書の執筆は文末記載のとおりである。
- 5 縄文時代後期の出土遺物については、市川修氏に考察をお願いした。
- 6 石質鑑定は、県立自然史博物館準備事務所の本間岳史氏によったものである。
- 7 花粉、鉾物分析はパリノ、サーヴェイ株式会社に委託したものである。
- 8 本書の編集は担当者の協議によったものである。
- 9 飯塚南遺跡の縄文・弥生時代の遺物、遺構については後日報告の予定である。

昭和 53 年 度 調 査

遺 跡 名 道ヶ谷戸条里遺跡 大里郡妻沼町大字道ヶ谷戸字地蔵木60他

道ヶ谷戸遺跡 大里郡妻沼町大字道ヶ谷戸字向野28他

調 査 期 間 昭和54年 1 月 22 日～同年 3 月 31 日

調査主体者 埼玉県大里郡妻沼町教育委員会 教 育 長 高 橋 茂

事 務 局 埼玉県大里郡妻沼町教育委員会 庶務課長 小 暮 千 吉

担 当 者 日 本 考 古 学 協 会 員 駒 宮 史 朗

発掘参加者 (五十音順 敬称略)

青 木 豊	油 橋 浩	飯 島 禎 治	内 田 ふみ子
浦 野 た け	江 森 国太郎	大 山 雄 三	岡 田 まり子
掛 川 はな子	金 子 彰 男	金 子 章	神 山 ア サ
神 山 和 雄	川 田 勝 己	川 田 みつ枝	黒 沢 まり子
黒 沢 良 子	小久保 憲 司	小 暮 明 彦	小 暮 和 子
小 林 江美子	小 峰 秀 樹	坂 本 行 弘	笹 井 嘉 則
篠 崎 潔	鈴 木 ひろ子	竹 井 五智子	田 島 一 郎
田 沼 真 子	寺 田 は な	長 島 富士子	橋 本 淳
橋 本 やよい	原 口 い せ	針ヶ谷 広 美	逸 見 智 一
増 田 貫 一	山 川 守 男	山 崎 茂	吉 場 シ ゲ
吉 場 しょう			

昭和 54 年 度 調 査

遺 跡 名 飯塚南遺跡 大里郡妻沼町大字飯塚字飯塚南 490 他

調 査 期 間 昭和 54 年 12 月 16 日～55 年 3 月 31 日

調査主体者 埼玉県大里郡妻沼町教育委員会 教 育 長 増 田 稔

事 務 局 埼玉県大里郡妻沼町教育委員会 庶務課長 小 暮 千 吉

担 当 者 埼玉県大里郡妻沼町教育委員会 主 事 補 荒 川 弘

発掘参加者 (五十音順 敬称略)

相 川 好 江	青 木 喜美子	青 木 茂 子	青 木 孝 之
青 木 豊	油 橋 浩	荒 木 春 江	飯 島 禎 治
井 田 和 夫	内 田 ふみ子	浦 野 恵 子	浦 野 た け
大 山 雄 三	掛 川 つや子	掛 川 はな子	川 田 勝 己
神 山 和 雄	黒 沢 まり子	小 暮 明 彦	小 暮 久美子
小 島 一 幸	小 島 緑	小 林 久美子	小 峰 秀 樹
坂 上 正 明	笹 井 嘉 則	佐 藤 久 子	鈴 木 ひろ子
高 尾 章	滝 沢 安 男	田 島 一 郎	田 沼 真 子
寺 田 は る	中 島 啓 子	中 島 宏 道	奈良原 栄 司
西 田 博 和	野 村 昌 義	増 田 貫 一	茂 木 和 子
吉 場 シ ゲ	吉 場 ま さ	矢 島 祐 治	

遺物整理参加者

相 川 好 江	青 木 豊	浅 見 峯 子	油 橋 浩
飯 島 亮 子	掛 川 つや子	掛 川 はな子	小 島 緑
小 峰 秀 樹	田 沼 真 子	中 島 宏 道	野 村 昌 義

本報告書作成にあたり、発掘調査、整理等について下記の諸氏、諸機関より
種々の御指導、御協力いただき、御芳名を記して御礼を申し上げます。

埼玉県教育局文化財保護課	深谷土地改良事務所
妻沼町消防署	秋山農機具店
太田神社	石塚久則
市川 修	内田 信一
柿沼幹夫	菅谷浩之
高木義和	田口一郎
洞口正史	本間岳史
前原儀久	増田逸朗
吉場三郎	

目 次

序

例 言

I	発掘調査に至る経過	1
II	遺跡の立地と環境	2
III	道ヶ谷戸条里遺跡	5
1.	遺跡の概観	6
2.	トレンチ各説	7
3.	出土遺物	14
4.	花粉・鉦物分析	18
IV	道ヶ谷戸遺跡	29
1.	遺跡の概観	30
2.	遺構と遺物	30
(1)	遺 構	
住 居 址		30
溝		36
(2)	遺 物	
住居址出土遺物		45
V	飯塚南遺跡	65
1.	遺跡の概観	66
2.	遺構と遺物	66

(1) 遺 構

住 居 址 66

溝 73

井 戸 址 73

土 壇 74

(2) 遺 物

住居址出土遺物 102

溝 出 土 遺 物 125

井戸址出土遺物 127

その他の出土遺物 159

Ⅵ ま と め 160

挿 図 目 次

第1図	妻沼町遺跡分布図…………… (折り込み)	第35図	第7号住居址出土遺物……………58
第2図	第1号トレンチ土層図(1)……………8	第36図	第8号住居址出土遺物……………58
第3図	第1号トレンチ土層図(2)……………10	第37図	第10号住居址出土遺物(1)……………59
第4図	第2・4号トレンチ土層図……………12	第38図	第10号住居址出土遺物(2)……………60
第5図	条里遺跡出土遺物(1)……………16	第39図	第11号住居址出土遺物(1)……………61
第6図	条里遺跡出土遺物(2)……………17	第40図	第11号住居址出土遺物(2)……………62
第7図	条里遺跡出土遺物(3)……………17	第41図	第12号住居址出土遺物……………63
第8図	重鉾物組成……………28	第42図	第13号住居址出土遺物……………64
第9図	道ヶ谷戸遺跡全測図…………… (折り込み)	第43図	飯塚南遺跡全測図…………… (折り込み)
第10図	第1号住居址実測図……………31	第44図	第1号住居址実測図……………75
第11図	第1号住居址カマド実測図……………32	第45図	第2号住居址実測図……………76
第12図	第2号住居址実測図……………33	第46図	第2号住居址カマド実測図……………76
第13図	第3号住居址実測図……………34	第47図	第4号住居址実測図……………77
第14図	第3号住居址カマド実測図……………35	第48図	第4・5号住居址カマド実測図……………77
第15図	第4号住居址実測図……………35	第49図	第5号A・B住居址実測図……………78
第16図	第5号住居址実測図……………37	第50図	第5号A住居址カマド実測図……………79
第17図	第5号住居址カマド実測図……………37	第51図	第6号住居址カマド実測図……………79
第18図	第6号住居址実測図……………38	第52図	第6号住居址実測図……………80
第19図	第7号住居址実測図……………39	第53図	第7・8号住居址実測図……………81
第20図	第9号住居址実測図……………40	第54図	第7号住居址カマド実測図……………82
第21図	第8・10号住居址実測図 (折り込み)	第55図	第9号住居址カマド実測図……………82
第22図	第10号住居址カマド実測図……………41	第56図	第9・11・15号住居址実測図 …………… (折り込み)
第23図	第11号住居址実測図……………42	第57図	第11号住居址カマド実測図……………83
第24図	第11号住居址カマド実測図……………42	第58図	第15号住居址カマド実測図……………83
第25図	第12号住居址カマド実測図……………43	第59図	第10号住居址実測図……………84
第26図	第13号住居址実測図……………43	第60図	第12号住居址実測図……………85
第27図	第13号住居址カマド実測図……………44	第61図	第13号住居址実測図……………86
第28図	第14号住居址実測図……………44	第62図	第13号住居址カマド実測図……………86
第29図	第1号住居址出土遺物……………55	第63図	第14号住居址実測図……………87
第30図	第2号住居址出土遺物……………55	第64図	第16号住居址カマド実測図……………87
第31図	第4号住居址出土遺物……………55	第65図	第16号住居址実測図……………88
第32図	第6号住居址出土遺物……………55	第66図	第17号住居址実測図……………89
第33図	第3号住居址出土遺物……………56	第67図	第18号住居址カマド実測図……………89
第34図	第5号住居址出土遺物……………57		

第68図	第18号住居址実測図	90	第104図	第11号住居址出土遺物(1)	143
第69図	第19号住居址・S E 0 2 実測図	91	第105図	第11号住居址出土遺物(2)	144
第70図	第21号住居址カマド実測図	91	第106図	第12号住居址出土遺物	144
第71図	第21号住居址実測図	92	第107図	第13号住居址出土遺物(1)	145
第72図	第22号住居址実測図	93	第108図	第13号住居址出土遺物(2)	146
第73図	第22号住居址カマド実測図	93	第109図	第14号住居址出土遺物	146
第74図	第23号C住居址カマド実測図	93	第110図	第15号住居址出土遺物	147
第75図	第23号A・B・C住居址実測図	94	第111図	第16号住居址出土遺物	148
第76図	第23号A・B住居址カマド実測図	95	第112図	第21号住居址出土遺物(1)	149
第77図	第24・25号住居址実測図	96	第113図	第21号住居址出土遺物(2)	150
第78図	第26・27号住居址実測図	97	第114図	第18号住居址出土遺物	150
第79図	第28号住居址・S K 0 8 実測図	98	第115図	第23号住居址出土遺物	151
第80図	第28号住居址カマド実測図	98	第116図	第22号住居址出土遺物	152
第81図	S D 0 2 土層図	99	第117図	第24号住居址出土遺物	152
第82図	S K 0 9 実測図	99	第118図	第25号住居址出土遺物	153
第83図	S E 0 1 実測図	99	第119図	第26号住居址出土遺物	153
第84図	S E 0 3 実測図	100	第120図	第28号住居址出土遺物	154
第85図	S E 0 4 実測図	100	第121図	S D 0 2 出土遺物(1)	155
第86図	S E 0 5 実測図	101	第122図	S D 0 2 出土遺物(2)	156
第87図	S E 0 6 実測図	101	第123図	S D 0 1 出土遺物	156
第88図	第1号住居址出土遺物	128	第124図	S E 0 4・0 5 出土遺物	157
第89図	第2号住居址出土遺物	129	第125図	S K 0 8 出土遺物	157
第90図	第4号住居址出土遺物	130	第126図	グリット出土土錘	157
第91図	第5号住居址出土遺物(1)	131	第127図	第25号住居址出土勾玉	157
第92図	第5号住居址出土遺物(2)	132	第128図	第5号住居址出土臼玉	158
第93図	第5号住居址出土遺物(3)	133	第129図	第6号住居址出土臼玉	158
第94図	第6号住居址出土遺物(1)	134	第130図	飯塚南遺跡出土石製品	158
第95図	第6号住居址出土遺物(2)	135			
第96図	第6号住居址出土遺物(3)	136			
第97図	第6号住居址出土遺物(4)	137			
第98図	第7号住居址出土遺物(1)	138			
第99図	第7号住居址出土遺物(2)	139			
第100図	第7号住居址出土遺物(3)	140			
第101図	第9号住居址出土遺物(1)	141			
第102図	第9号住居址出土遺物(2)	142			
第103図	第8号住居址出土遺物	142			

写真図版目次

巻頭図版 遺跡付近航空写真

図版 1 妻沼西南地区航空写真

図版 2 道ヶ谷戸条里遺跡遠景，同作業風景

図版 3 1号トレンチ，2号トレンチ

図版 4 1号トレンチ（西→東），1号トレンチD断面

図版 5 1号トレンチC断面，同近景

- 図版 6 1号トレンチB断面, 同
- 図版 7 1号トレンチE灰釉陶器出土状態, 同縄文土器出土状態
- 図版 8 1号トレンチF断面, 高台坏出土状態
- 図版 9 2号トレンチB断面, 1号トレンチ古墳周溝
- 図版10 道ヶ谷戸条里遺跡出土遺物
- 図版11 道ヶ谷戸遺跡遠景, 同作業風景
- 図版12 1号住居址, 同カマド
- 図版13 2号住居址, 同炭化材出土状態
- 図版14 3号住居址, 4号住居址
- 図版15 5号住居址, 同カマド付近遺物出土状態
- 図版16 同出土状態, 6号住居址
- 図版17 7号住居址, 同炭化材出土状態
- 図版18 同出土状態, 同遺物出土状態
- 図版19 8・10号住居址, 10号住居址カマド
- 図版20 9号住居址, 11号住居址
- 図版21 同カマド, 1号溝
- 図版22 3号住居址出土遺物
- 図版23 5・7号住居址出土遺物
- 図版24 8・10号住居址出土遺物
- 図版25 11・12・13号住居址出土遺物
- 図版26 飯塚南遺跡航空写真
- 図版27 飯塚南遺跡遠景(東方より), 同(西方より)
- 図版28 同作業風景, 1号住居址
- 図版29 2号住居址, 同貯蔵穴遺物出土状態
- 図版30 同カマド, 5号住居址
- 図版31 同貯蔵穴遺物出土状態, 6号住居址遺物出土状態
- 図版32 6号住居址, 同臼玉出土状態
- 図版33 同カマド, 7・8号住居址
- 図版34 7号住居址カマド付近遺物出土状態, 同貯蔵穴遺物出土状態
- 図版35 9号住居址, 同遺物出土状態
- 図版36 11号住居址, 12・17号住居址
- 図版37 13号住居址遺物出土状態, 同カマド
- 図版38 15号住居址, 同カマド
- 図版39 同遺物出土状態, 21号住居址
- 図版40 同カマド遺物出土状態, 同カマド
- 図版41 22号住居址, 23号A・B・C住居址
- 図版42 24・25号住居址, 25号住居址遺物出土状態
- 図版43 28号住居址, S D 0 2
- 図版44 S E 0 1, S E 0 2
- 図版45 S E 0 3, S E 0 5
- 図版46 S E 0 5, S K 0 9
- 図版47 1・2号住居址出土遺物
- 図版48 5号住居址出土遺物
- 図版49 6号住居址出土遺物(1)
- 図版50 6号住居址出土遺物(2)
- 図版51 6号住居址出土遺物(3)
- 図版52 6号住居址出土遺物(4)
- 図版53 7号住居址出土遺物
- 図版54 4・8・12号住居址出土遺物
- 図版55 9号住居址出土遺物(1)
- 図版56 9号住居址出土遺物(2)
- 図版57 11・14・15号住居址出土遺物
- 図版58 13号住居址出土遺物
- 図版59 18号住居址出土遺物
- 図版60 21号住居址出土遺物
- 図版61 23・24号住居址出土遺物
- 図版62 25・26・28号住居址出土遺物
- 図版63 S D 0 2 出土遺物
- 図版64 S K 0 8, グリット出土遺物
- 図版65 花粉化石拡大写真(1)
- 図版66 花粉化石拡大写真(2)

I 発掘調査に至る経過

昭和53年度埼玉県農林部では、妻沼西南地区土地改良事業が計画され予定地内に所在する文化財の取り扱いについて、担当課の県耕地事業課と文化財保護課では事前の協議が進められた。

工事計画は総工事面積30000 m²を3年間にわたって実施するもので、初年度の昭和53年度は飯塚道ヶ谷戸地区を中心とした10000 m²である。

飯塚地区は、かつて弥生時代中期須和田式の土器を出土した飯塚遺跡が所在することで知られてあり、県内でも数少い該期の遺跡として、深谷市上敷面遺跡とともに利根川沿岸の初期農耕文化を代表する県重要遺跡に選定されている。又、江原地区にあっては埼玉県遺跡地名表登載の妻沼町№7遺跡が含まれているなどから、文化財保護課では昭和53年6月5日深谷土地改良事務所及び妻沼町教育委員会と合同のもとに現地を確認し、その重要性に鑑み遺跡部分についてはできるだけ工事計画から除外するように要望した。

この結果、農林部では種々検討を重ね、当初計画では飯塚遺跡にかかる水路をずらし、№33遺跡は削平して水田化の計画予定を、そのまま畑地として利用するなど保存につとめた。それでも工事予定地の大部分を占める地域には条里の区割が残里、ほ場整備事業により表土が削られることによりその区割も消滅するため、条里遺跡は調査の必要が認められた。

そこで妻沼町教育委員会では調査計画を立案し、稲刈り後に開始すべくその準備にかかった。

調査に先きだち深谷土地改良事務所から文化財保護法第57条の3の規定に基づく発掘通知、妻沼町教育委員会からは同法98条の2の規定に基づく発掘調査通知を文化庁長官あて提出された。そして文化庁から昭和54年4月13日付け委保第22-294号の指示通知を受けて、昭和54年1月22日から調査が開始された。

調査と並行して工事は進められていたが、道ヶ谷戸地区では工事中に古墳時代の集落跡が発見されたが、この時点ですでに道構の上面が大きく削られ、急傾水路建設部分に限り調査範囲を拡大した。さらに飯塚南地区でも弥生時代中期の土器が発見された。しかし調査期間と経費などの関係から今回は、今後調整をはかることとして調査の対象からはずした。

このため、昭和53年度は弥生時代遺跡の発見された飯塚南地区は、工事を一時中止し、54年度は休耕地とすることになり、調査は54年秋に第二次調査として引き続き実施するよう計画された。

しかし、遺跡外については一応工事を実施するため、遺跡の範囲を限定するため53年度の調査時に試掘調査を行ない、一部露出していた弥生時代中期の土坑を調査して遺物を取り上げて基礎資料を得た。

この資料をもとに、54年度の調査計画が練られ、土地改良事務所及び妻沼町教育委員会からそれぞれ法にもとずく通知が文化庁へ提出され、54年12月16日より第二調査の運びとなった。

(駒宮 史朗)

Ⅱ 遺跡の立地と環境

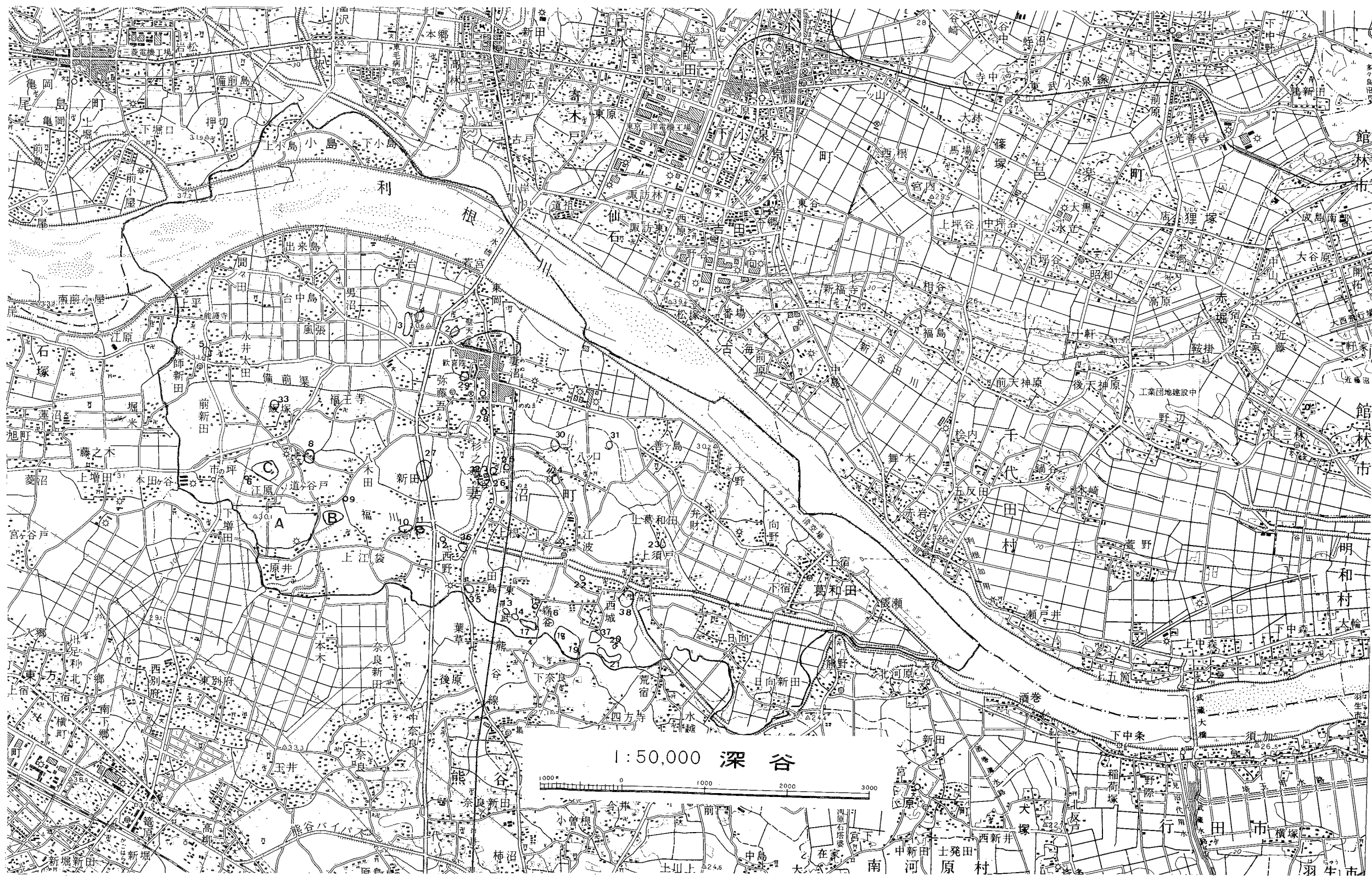
妻沼町は、埼玉県北端のはば中央部利根川に依って形成された低地帯に位置し、その大部分は、右岸にあり小島地区のみ左岸の所謂“群馬側”に位置する。同地区は、西方の尾島町、北東に流れる石田川を境に太田市と接し、利根川沿いに大泉町、千代田村の各市町村と境界をなすと同時に、この境界は、群馬県との境界でもある。この隣接する群馬県とは、地理的には勿論、文化、社会、経済活動等、あらゆる面で密接な交流があり、近年主要地方道熊谷太田線のバイパスの開通によって流通活動は特に著しいものがある。

地形的に見ると、同地域は、妻沼低地の呼称にみられる如く、かつて利根川、荒川の両河川及びその支流によって形成された自然堤防とその後背湿地からなる低地帯であり、現在利根川の人口堤防を除き西側の前新田附近で約32m、東側の日向新田附近で約24mであり、西から東に向い、漸次、その高度を低くする。更に、詳細に観るならば、福川と奈良川との間に形成された南側の微高地、芝川と福川の間の中部微高地及び、芝川と利根川との間に形成された北側の台地の3つに大別する事が出来る。北側の利根川沿いの台地を除き、他の微高地は、孤立丘状として、点在している。そしてこれらの微高地は、現在集落及び畑地となり、その間の後背湿地は水田として利用されている。（この後背湿地は沼沢地となり、今でも僅かながら残っている。又、町名の由縁ともなり、町名各地に「沼・池・江・井・瀬……」などを用いた地名が現在も多く残っている。）このような土地利用は、遺跡の立地にも顕著にみられ、それらは、微高地上に集落、古墳を形成し条里遺跡として営まれた水田は今日に至っている。然かしながら、度重なる河川の氾濫によって土砂は微高地上に厚く推積し遺跡の確認はかならずしも容易ではない。当初、道ヶ谷戸条里遺跡のみが調査対象でありながら、工事の削平作業に伴い、隣接する集落遺跡及び北西の飯塚南遺跡が新たに確認され調査対象となった経過にも察せられる。このことは、同地域内の埋蔵文化財の所在について考える時に、利根川、荒川の古流路をより明確に把握し、その周囲の自然堤防の緻密な調査によって遺跡の数は、更に、増加するものであろう。

次に歴史的に概観すると、最古の土器は縄文前期の関山式土器が西城字切通しで一片のみ発見されているにすぎない。中期になると、今回調査された条里遺跡から加曽利E式土器が出土している。後期になると、その数は比較的多く、加曽利B、堀之内、安行系の各土器の散布する遺跡がいくつか見られる。晩期については、現在のところ明確ではない。

弥生時代になると、飯塚遺跡（注1）及び今回調査された飯塚南遺跡に、中期の須和田の好資料を見出すことができる。これら縄文から弥生にかけての遺跡は、南部及び中央の自然堤防上に立地し、北部の台地にはそれらの痕跡はなく、まだ安定した地形には、至っていなかったようである。

古墳時代になると、弥藤吾新田遺跡（注2）、鶴ノ森遺跡（注3）、上江袋遺跡（注4）に五領期の住居が調査されており、これは、対岸の群馬県側に広く分布する石田川式土器との関係が考慮されるが、なお不明な部分が多く、今後資料の増加を待たねばならない。和泉期の遺構は、まだ調査されていないが、遺物は各所に散布する。鬼高期以降になると、その数は著しく増加する傾向にあり、その規模も又同様に大きくなる。古墳は、現在墳丘の残るものとしては、妻沼字大塚の摩多



第1図 妻沼町遺跡分布図

利神社古墳のみであるが、調査された古墳址（注5）にみられるように、これらは、表土下に埋没したものであり、おそらく、その数は、かなり多くあったと思われ、埴輪の散布するところも多い。

更に、平安時代以降になると、妻沼小学校校庭拡張作業中に発見された経塚、土地改良事業のさい発見された観音堂瓦窯跡の注目すべき遺跡がある。前者は、長井齊藤氏との関連性を示唆するむきもあるが（注6）詳かではない。後者の瓦窯は、低地に築かれた「有牀式平窯」で、縄目、布目の平瓦が出土し、平安末から中世初頭と言われているが、瓦の供給先をはじめとし、不明な部分が多い。

歓喜院長楽寺、通称“聖天様”は、1179年（治承3年）齊藤別当実盛により、白髪神社を改修合祀し、「聖天宮」とし奉られたのが、その起りと言われる。その後、1197年（建久8年）良応僧都によって、聖天宮舎を改修し、別当聖天山歓喜院長楽寺として建立され、近隣地方の信仰の中心として、今日に至り、妻沼町は、門前町として栄え、現在でも周辺にその面影が残っている。

（荒川 弘）

注1 増田逸朗 飯塚遺跡「埼玉県土器集成4」所収 1976 埼玉考古学会

注2 田部井功他「弥藤吾新田遺跡発掘調査報告者」埼玉県遺跡調査会報告 第29条 1976

注3 同遺跡は、埼玉県遺跡調査会により、昭和49年～51年にかけ調査を実施し、鬼高～国分にかけての集落、及び古墳址等を検出し、昭和54年に町教育委員会の調査により、五領期の住居址が1軒確認されている。

注4 昭和55年の調査で五領期の住居が1軒確認され、他に6基の古墳址が調査されている。

“No10・11遺跡”

注5 注3、注4に同じ

注6 「妻沼町誌」妻沼町 1977

妻沼町遺跡分布図地名表

	名 称	所 在 地	種 別	時 代	備 考
A	道ヶ谷戸条里	大字道ヶ谷戸字地蔵木	条里、古墳址	古墳(後)平安 弥生(中)古墳 (後)平安、中世	
B	道ヶ谷戸集落	大字道ヶ谷戸字地蔵木	集落		
C	飯塚南	大字飯塚字南飯塚	集落、再葬墓		
1	妻沼小校庭	大字妻沼字大我井	集落、祭祀	古墳(後)	昭55年度調査 “
2		大字妻沼1356	集落		
3		大字妻沼	集落		
4	摩多利神社	大字妻沼字大塚	古墳(円)	古墳(後)	
5		大字永井太田1265	集落	古墳(前)	
6		大字飯塚2126	古墳址	古墳(後)	
8		大字八木田	集落	古墳(後)	
9	江袋 A 江袋 B	大字道ヶ谷戸	集落	古墳(後)	
10		大字上江袋	古墳址	古墳(後)	
11		大字上江袋	古墳址	古墳(後)	
12		大字上江袋字大橋	集落、古墳(円)	古墳(後)	
13		大字田島字中大ヶ谷戸	集落	奈良、平安	
14		大字田島字南大ヶ谷戸	集落	奈良、平安	
15		大字森谷	集落	縄文(後)	

	名 称	所 在 地	種 別	時 代	備 考
16		大字甲鵜森 9 4 3	集落	古墳(後)	
17		大字森谷	集落	古墳(後)	
18	鵜 森、入 胎	大字西城甲鵜森 943 外	集落古墳址	奈良、平安	昭49年調査
19		大字西城鵜森	古墳(円)	古墳～平安	
20		大字西城字長安寺1134	古墳址	古墳(後)	
21		大字西城字長安寺1134	集落	古墳(後)	
22		大字西城字切通 157	集落	古墳(後)～平安	
23		大字 和田	集落	縄文(後)	
24		大字江袋60ー 1	集落	縄文(後)	
25		大字弥藤 吾南王子	集落	縄文(後)	
26	王 字 古 墳	大字弥藤 吾字王子	集落	古墳(後)～奈良	昭43年度調査
27	弥 藤 吾 新 田	大字弥藤 吾字新田	古墳	古墳(後)	
28		大字弥藤 吾字下宿	集落	古墳(前)～古墳後	昭49年度調査
29		大字妻沼字寺内	集落	古墳(後)	
30		大字ハッロ字境堀	集落	古墳(後)	
31		大字ハッロ字長淵 500	集落	奈良	
32		大字弥藤 吾	集落	古墳(後)	
33	飯 塚	大字飯塚	再葬墓	弥生(中)	
34		大字市ノ坪	集落	平安	
35		大字田島字場違ヶ谷戸	集落	縄文(後)	
36	実 盛 館	大字西野字堀内	館址	平安	
37	西 城 址	大字西城字長安寺	館址	平安	
38	東 城	大字上須戸字道南	館址	平安	

道ヶ谷戸条里遺跡

Ⅲ 道ヶ谷戸条里遺跡

1. 遺跡の概観

条里遺構の所在する道ヶ谷戸地区は、妻沼町の南西部に位置し、利根川との距離約3,000 mを測る。南は福川、上江袋地区を狭んで熊谷市奈良地区と接している。

福川は深谷市上敷面、岡部町普濟寺方面より流れ来る2筋の流れを集め、町内西城、葛和田へぬけ行田市酒巻で利根川に流入する。

この間いくつかの支流が合流し複雑な地形を形成する。

又、利根川は現在の流路が定まる以前は、濫氾のたびに大きく流れが変わり、その痕跡は連結してつながる水田地帯と、これをはさむ様に発達する畑地帯や現集落地の自然提防地形の上からも容易に推定することができる。

妻沼町で条里の区割の痕跡が比較的良好に留めているのは道ヶ谷戸地区であるが、地区西側に「市の坪」など条里関係地名がみられることからその存在が推定される。

この地で現集落の発達する微高地は標高30～30.5 m、水田面は28～29 mの間に求められ差程の高低差は認められない。

条里区割は福川南岸一帯にかけて残存するが、市の坪付近や江原の集落及びこれを越えて県道深谷弁済線の地区では、その痕跡を見い出すことはむずかしい。これは濫氾時の流路変化による乱れと、その後の開発によって消滅したと思われる。

調査は現在の地形と、水路・農道の位置を考慮しながらも、工事計画に基づく基幹水路部分の調査に限定され、これに制約せざるを得なかったが、幅2 m、深い所では2 m程掘り下げ土層の観察から現在の条里区割につながる水田の変遷を確認することを調査の主眼とした。

トレンチの設定

トレンチは先に記した如く、工事計画と合わせ灌漑水路建設予定地に設定し、第1トレンチは条里遺構のほぼ中心を通り長さ540 m、第2トレンチはその北側200 m離れて長さ530 m、第3トレンチは第2トレンチと接し南北に長さ100 m、第4トレンチは、第1トレンチほぼ中央に接し南北長さ220 m、第5トレンチは第1トレンチ東端に接し南北長さ80 mの規模となり、各々のトレンチは90度で交っている。

次に標準的土層は、以下の通りである。

第1層—耕作土。

第2層—灰色の火山灰層、天明の火山灰層。

第3層—マンガン粒子を含む砂質の灰褐色土層（粒子の大きさ3 mm～4 mm）。

第4層—マンガン粒子を含む砂質の茶褐色土層。

第5層—4層中に粘土をやや含む。

第6層—砂と粘土の混土層、微量の酸化マンガンを含む茶褐色土（乾燥すると硬化）。

第7層—灰褐色粘質土。微量の砂を含む。

第8層—有機質と砂粒を含む暗褐色土。

第9層—チョコレート色を呈する粘性の強い黒褐色土。

第10層—明灰色粘質土。

（駒宮 史朗）

2. トレンチ各説

1号トレンチA

トレンチ最西端部分より、古墳の周溝が認められる。周溝は2本で両者の間隔は約18m、第5層を切り込み構築されたもので、溝幅は西側が2.3m、東側が3.1m、深さは各々約0.8mを測る。墳丘は天明以前に概に消失されている。各々の周溝内より円筒埴輪が若干出土している。又両溝のほぼ中央部の第8層上面より、縄文中期の土器片が集中して出土し、東側に壁の立ち上がりを想わせる層の変化が認められるものの、遺構としては明確性に乏しい。

A—粘質茶褐色土

B—茶褐色土

C—砂の混入する暗灰色土層

1号トレンチB

古墳の東側約3m付近で、現行水路及びそれに先立つ水路址である。現行水路は幅2m、深さ0.45mの幅広の形状を示すものであるが、これは先行のC段階水路を踏襲している。このCは第4層を切り込んだもので、初現期の切り込みと同層である。初現の水路は最深部で約0.9mを測り、中心軸はやや西側へズレる。

A—黒褐色土

B—灰色粘質土

C—黄褐色砂層

D—黄褐色粘質土

E—灰褐色砂層

1号トレンチC

現行水路は、幅広で、2層の火山灰層を切り込み構築されたもので、数回の改築が考えられる。現行水路下に大形の水路址が認められ、4層を切り込み、底面は6層及び7層に達するものである。先行する西側の水路、幅約2.7m前後、深さは切り込み面より1.1mのものである。東側の水路は現行水路のほぼ真下に位置するもので、幅2.9mの幅広のもので深さは1m弱を測る。又下方に隣接する小落ち込みが2ヶ所認められる。

A—2層の火山灰を含む褐色粘質土

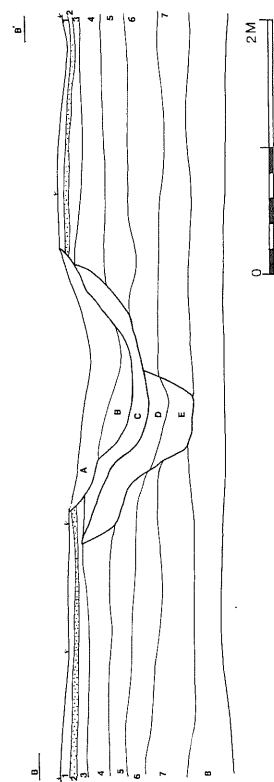
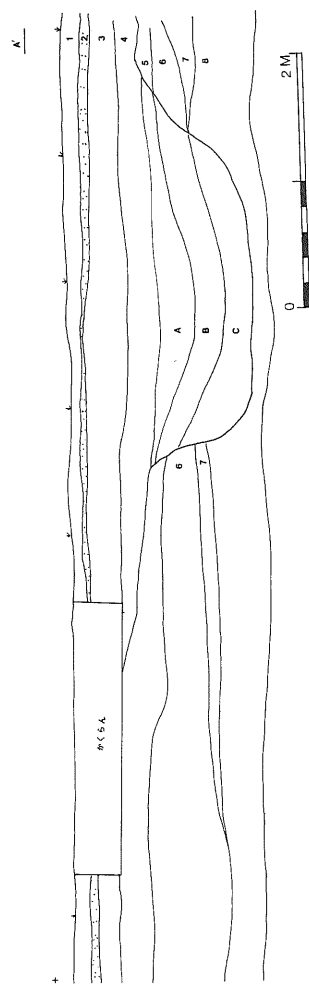
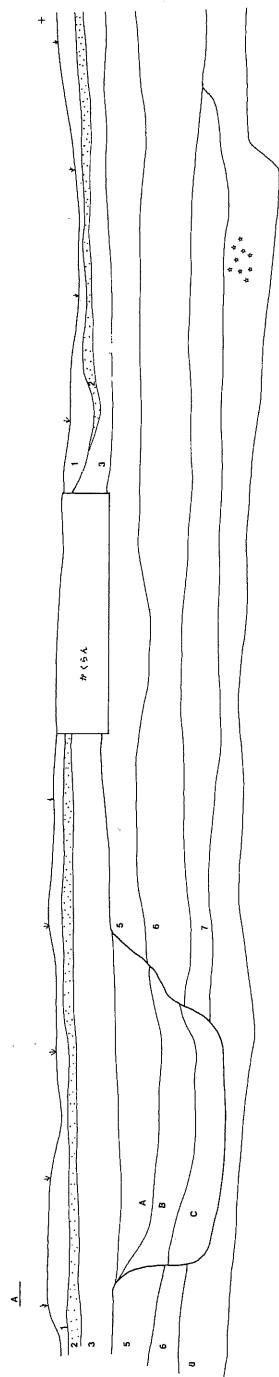
B—砂質混りの灰褐色粘質土

C—砂質灰褐色土

D—灰褐色粘質土

E—褐色粘質土

第2図 第1号トレンチ土層図(1)



F—黄灰色土（マンガン粒子を多量に含む）

G—暗灰褐色土

H—灰褐色粘質土（黄褐色ブロック混）

1号トレンチD

断面「U」字形を呈し、第4層を切り込み構築されたもので、B以下各々に砂を含み、水路として使用されていたものである。幅約1.5 m、深さは約0.5 mを測るもので、覆土はほぼ自然推積を示す。

A—灰褐色土（やや粘性強い）

B—砂と茶褐色粘質土の混土層（鉄分含む）

C—砂と暗褐色土の混土層（鉄分やや多く含む）

D—砂を主に灰色の粘質土を含む

E—純砂層

1号トレンチE

第3層の最下層に第6図21の灰釉陶器を出土する。

1号トレンチF

畦に沿った小落ち込みで、第2層を切り込み、Bは盛り土と思われる。断面形は、直線の強い「U」字形で、幅0.5 m、深さは0.2 m弱の小規模なものである。東側の4層中に第6図22の高台付の土師器の坏が出土している。

又、下部の第6層に乱れがあり、覆土の識別は明瞭ではないが、2つの小落ち込み状を示す。第6層と8層の間層にうすい砂層が確認出来る。

A—暗褐色土（やや粘性強い）

B—軽石混じりの黒褐色土

1号トレンチG

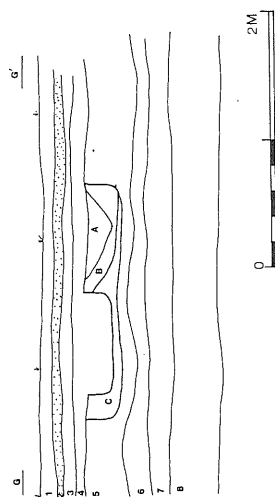
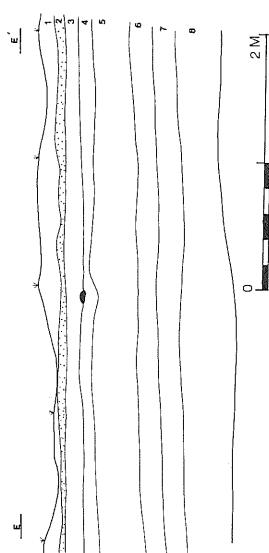
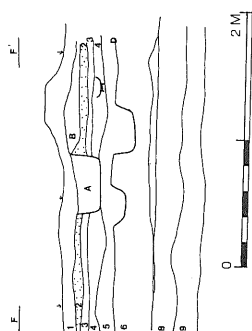
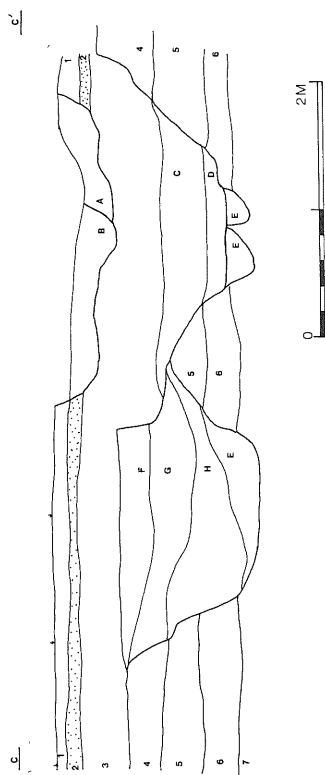
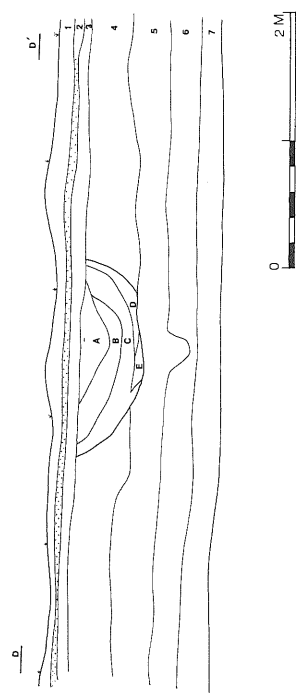
5層を切り込んだ落ち込みで、数度の改築が考えられる。Cの幅広（1.8 m）のものから、A・Bを覆土に持つ断面の不整形水路に移り、更に第4層を覆土にする、浅い「U」字形のものへと移行するものと思われる。

A—暗褐色土（少量の砂を含む）

B—砂質灰褐色土（粘性やや強い）

C—砂質暗灰色粘質土

第3図 第1号トレンチ土層図(2)



2号トレンチA

2号トレンチ最西端部分で、近年埋没したと思われる幅の広い（約2.8m）水路、及び第2層の天明の火山灰層を切り込んだ水路がある。先行水路は、断面が浅い「U」字形を呈し、幅1.6m、深さ0.5m弱を測るもので、東側に覆土の乱れがある。

- A—黒褐色土
- B—黄褐色土（軽石、粘土ブロックを含む）
- C—灰褐色粘質土（砂を含む）
- D—灰白色粘質土
- E—暗黄褐色粘質土（砂を含む）

2号トレンチB

第4層を切り込んだ埋没水路で、西壁は、約0.5m掘り下げ段階状を呈し、底面へ移行するもので、幅1.7m、最深部は約1.1mを測る。更にCの先行する落ち込みが認められ、底面はほぼ同一の深度を示すが、残存部分から全容を伺う事はやや困難であるが、切り込みは第7層と思われる。

- A—黄褐色土（やや粘性を帯び、微量の砂を含む）
- B—灰褐色粘質土（砂を少量含む）
- C—暗褐色粘質土（砂の混入はごく僅か）

2号トレンチC

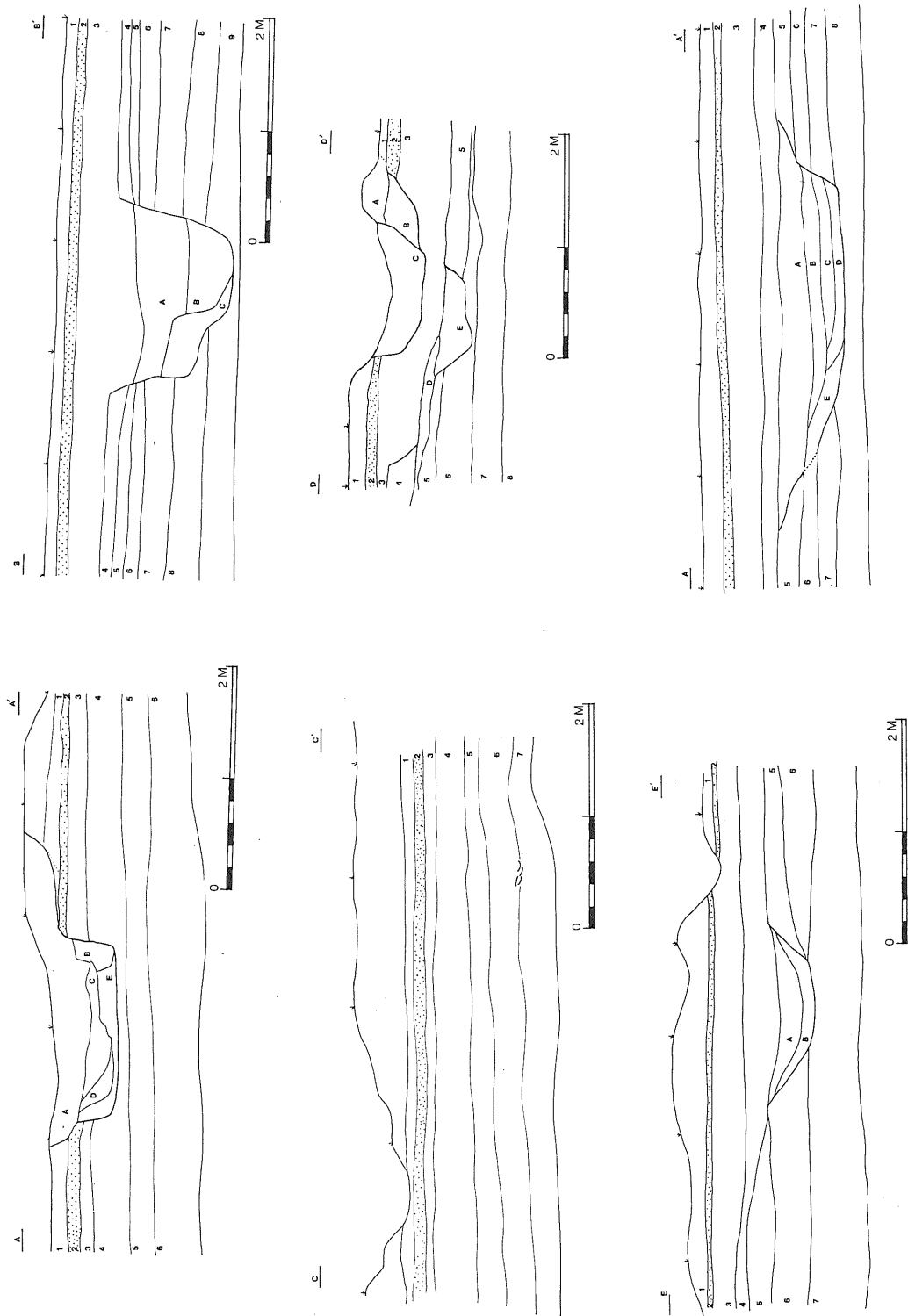
第6層の最下層に第7図1に示した縄文後期の土器を出土する。

2号トレンチD

現行水路、及び先行する埋没水路が認められるもので、第1トレンチCに対応するものである。現行水路は、幅が狭くなり、畦は盛り土によって作られたものである。本来Bの幅広の水路が、C段階でBの上面に畦を作り改築し、更に現行水路へ移行したものである。B・C共に第2層を切り込んでいる。これらに先行する水路が第4層を切り込み構築されているが、西側は、Dの流入によって西壁を寸断し、東壁部は第4層が消失し、切り込み面が確認する事が出来ないが、幅広の水路址が存在していたであろう。

- A—畦（盛り土）
- B—暗褐色粘質土（砂を微量含む）
- C—黄褐色土（砂を多く含み、粘性弱い）
- D—純砂属
- E—砂質黄褐色土（粘性強い）

第4図 第2・4号トレンチ土層図



2号トレンチE

第5層を切り込む、断面、舟底形を呈する落ち込みで、幅1.6 m、深さ0.4 mを測るもので、覆土は自然堆積を示している。

A—暗褐色土（黄褐色のマンガン粒を含む）

B—暗褐色粘質土（下底に微量の砂を含む）

3号トレンチ

本トレンチ内に於いては、際立った土層の変化は確認されていないが、第7図2の縄文後期の土器が出土している。

4号トレンチ

本トレンチでは、僅かに1ヶ所図示した、落ち込みが確認出来る。第5層を切り込んだもので、断面形態は、舟底形で、北壁の立ち上がりが直線的となる。幅は3.6 m、深さは0.6 mを測る。

A—灰褐色土（少量の砂を含む）

B—灰褐色粘質土

C—黒褐色粘質土

D—灰白色粘質土

E—暗褐色土（やや粘性あり）

5号トレンチ

土層の変化及び出土遺物は皆無である。

（荒川 弘）

3. 出土遺物

縄文時代中期（第5図1～11）

いずれも第1トレンチの第7層中より出土したもので、全体に磨滅が著しい。1は、口縁下に沈線が巡り、単節の撚りの緩い縄文を地文とし、沈線が垂下する。器内はやや薄く、胎土中に砂粒が多く含む。2も口縁部破片で、口縁下に幅広の沈線が巡るもので、無文である。3～9は胴部破片で地文に縄文を有するもの（3～7・9）と無文のもの（8）とがあり、前者のうち4は、隆帯が付き、他はいずれも沈線を有する。これらの地文の縄文は、3がRL、他はLRで、全体に撚りが緩く、磨滅が著しい。9は無節の可能性もある。10は口縁文様帯を隆帯で構成するもので、楕円の区画文が構成されるものと思われ、RLの縄文が横位に施される。11は底部で、底径6cmである。

（荒川 弘）

縄文時代後期（第7図1・2）

1. 直線的な口頸部は強く開いて、括れ部の収縮が強い形態を備えた深鉢である。口縁には、円縦長の刻文を伴う大型の把手と逆し字状の小突起が配置されている。口縁部は無文帯が占めて体部との境界には浅い凹線と点刻により画されている。体部には 沈線を3段に施すが、施文工程は上位より下位に向って、 $\searrow$ 、 $\nearrow$ 、 $\searrow$ 方向と順序を示している。括れ部には体部と同様の斜沈線が $\searrow$ 方向に施文されている。体部には、斜沈線に先立つ器面整形時の擦痕を横方向に残している。内面には2条の横線が巡っている。内面の整形は、入念な研磨を加え光沢を備えている。色調は暗褐色である。胎土は荒く径1～0.5mmの白色不透明、透明、灰色、茶色、黒色の粒子を含んでいる。第2号トレンチ第6層より出土した。加曽利B式

2. 口縁部は、「く」の字状に内折する特徴的な深鉢である。体部の開きは強いが、収縮の弱い形態を示している。口縁部には、縄文無節Lを地文として、頂部に圧痕を加えた棒状浮文を配置して縦に区画し、2条の沈線が連結する文様帯を備える。体部および胴部には斜沈線が羽状に施文されている。斜行沈線の施文工程は、 $\searrow$ $\nearrow$ を示している。括れ部は横方向のナデを施している。内面は、口縁から胴部下半にかけて丁寧なナデを加えている。色調は暗褐色である。胎土は、0.3～0.5mm前後の、白色不透明、透明、灰色、茶色の粒子を含んでいる。第3号トレンチより出土した。曾谷式土器。

（市川 修）

埴輪（第5図13～17、第6図18～20）

いずれも第1号トレンチの周溝内より出土したもので、全て円筒埴輪であり、全体を知ることのできるものはない。18～20が底径が各々、10.0・11.5・12.3cmで、18・19は凸帯を有する。13～17は、小片で、13は比較的厚手となり、明褐色。14・15はゆるやかに外反し、17は外傾する。17の内面に×印の篋痕、16の外面に円形の篋痕がある。色調は黄褐色を呈する。

（荒川 弘）

須恵器（第5図12）

第1号トレンチより出土した甕の胴部と思われる小片で、外面にロクロ痕が僅かに残り、内面に青海波文を有する。色調青灰色、出土層位は不明。

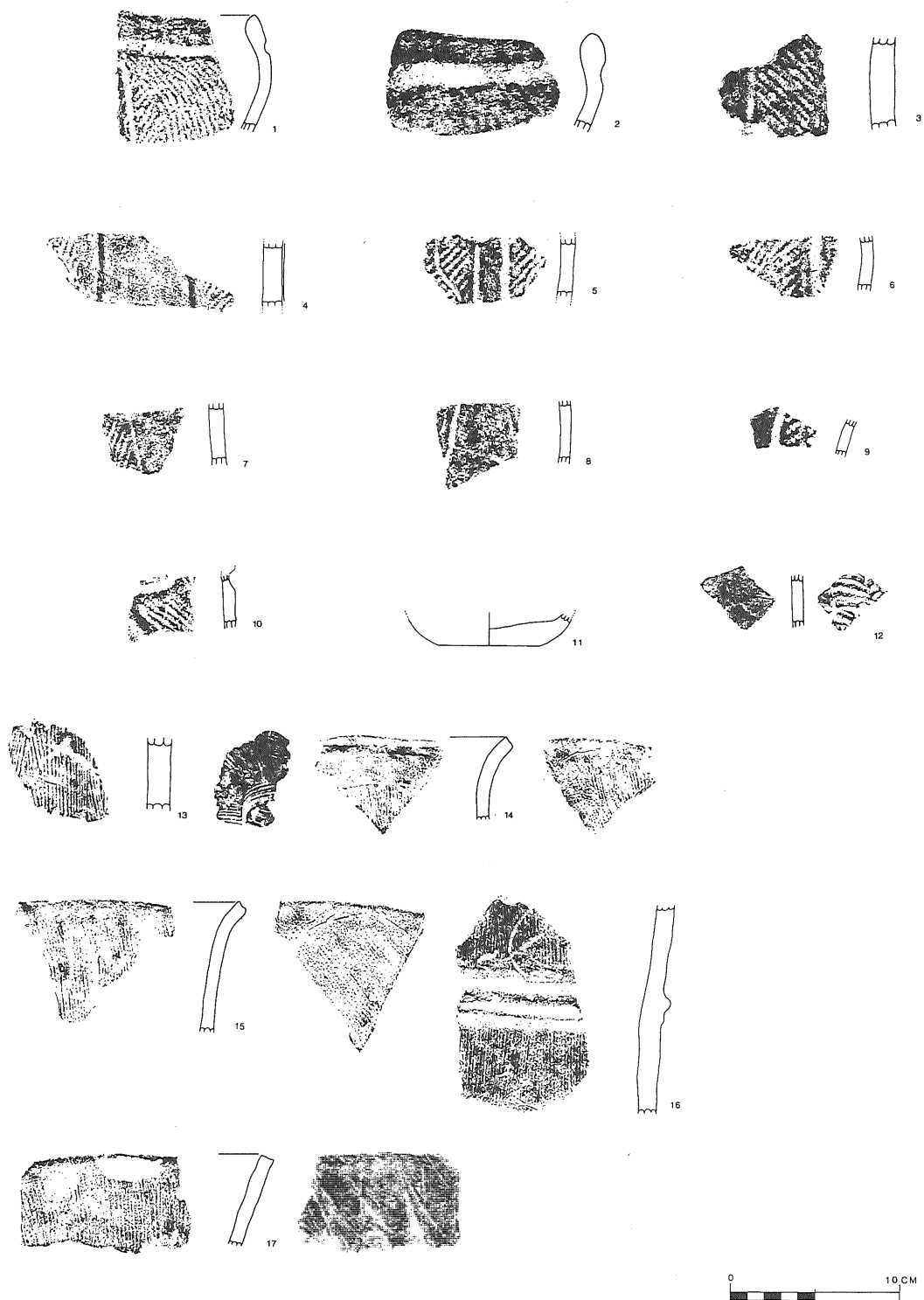
灰釉陶器（第6図21）

第1号トレンチの第3層中より出土したもので、内面にロクロ目があり、外面にロクロ目が消された調整痕がある。器壁は1cm前後で、器形については明瞭ではない。色調は淡灰色で外面の上端に、淡いグリーンの釉がかかり、内面の下端にも同様な釉がかかる。

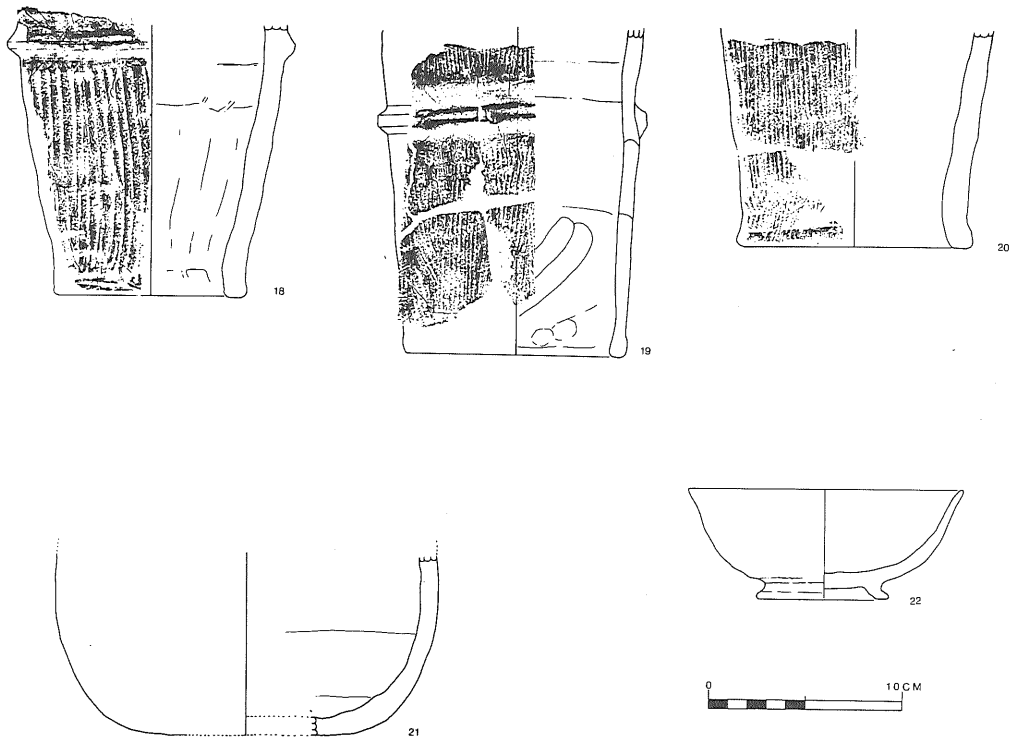
土師器（第6図22）

第1号トレンチの第4層中より出土したもので、3分の1が、トレンチ設定時に、削失している口径14.5cm、器高5.8cm、底径6.8cmの形態の整う、土師器の高台の付く坏で、底部にロクロの糸切り痕を僅かに残す。内面は黒色処理を施し、外面の口縁の上端にも及んでいる。体部外面に、ロクロ痕を残し、色調は淡黄褐色で、胎土に微粒の砂を僅かに含む。

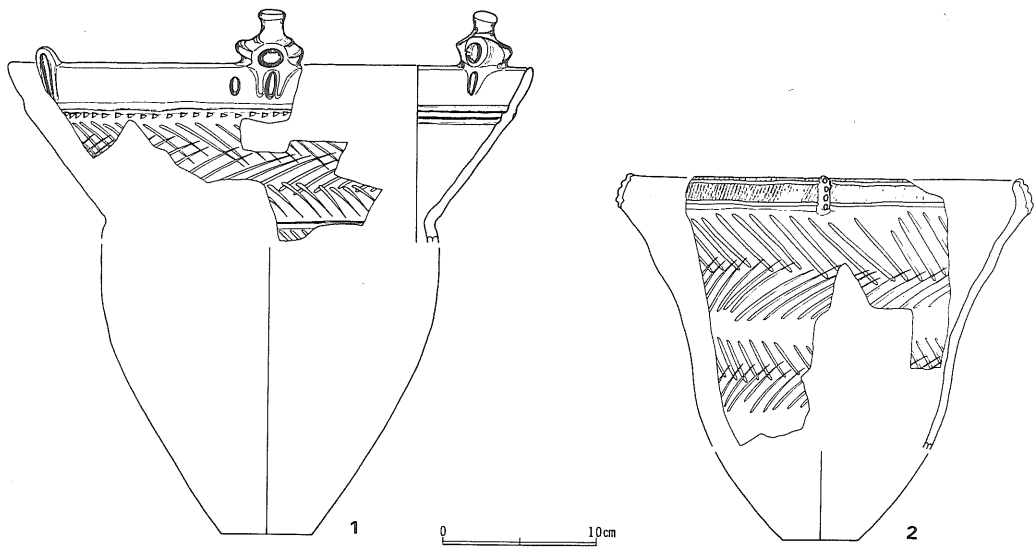
（荒川 弘）



第 5 图 条里遺跡出土遺物(1)



第 6 图 条里遺跡出土遺物(2)



第 7 图 条里遺跡出土遺物(3)

4. 花粉・鉱物分析

1. 試料

花粉分析試料は、いずれも暗灰色～灰色粘土であり、合計12点である。

これらの試料について、試料番号、採集場所、土質および花粉・孢子化石産出状況を各項目別にまとめ、第1表—1より3まで試料表として作成したので参照されたい。

2. 結果および考察

花粉分析結果は、鑑定した花粉・孢子化石総数を基数とした百分率で各試料における花粉・孢子化石の割合を表し、付表—1として後掲した。

この中で主要なものについては、付図—1のようにダイアグラムで表示した。

さらに写真図版 (P L A T E—64、65) を作成したので参照されたい。

次に今回の分析の結果検出された花粉・孢子化石を列挙すると、下記のとおりである。

《A P—1 (針葉樹花粉)》

Abies (モミ属), Picea (トウヒ属), Pinus (マツ属), Tsugasieboldii (ツガ), Taxodiaceae (スギ科), Cryptomeria (スギ属), Sciadopitys (コウヤマキ属), T. C. T. (Taxaceae イチイ科, Cupressaceae ヒノキ科, Taxodiaceae スギ科)。

《A P—2 (広葉樹花粉)》

Liquidambar (フウ属), Carya (ペカン属), Juglans (クルミ属), Pterocarya (サワグルミ属), Salix (ヤナギ属), Alnus (ハンノキ属), Betula (シラカンバ属), Carpinus (クマシデ属), Corylus (ハシバミ属), Castanea (クリ属), Castanopsis (クリカシ属), Fagus (ブナ属), Cyclobanopsis (アカガシ亜属), Lepidobalanus (コナラ亜属), Celtis (エノキ属), Ulmus (ニレ属), Zelkova (ケヤキ属), Hamamelidaceae (マンサク科), Acer (カエデ属), Ericaceae (ツツジ科)。

《N A P (草本花粉)》

Persicaria (サナエタデ属), Caryophyllaceae (ナデシコ科), Chenopodiaceae (アカゲ科), Thalictrum (カラマツソウ属), Cruciferae (アブラナ科), Umbelliferae (セリ科), Artemisia (ヨモギ属), Cichorioideae (タンポポ科), Iridaceae (アヤメ科), Gramineae (イネ科), Cyperaceae (スゲ科), Sagittaria (オモダカ属), Justicia (キツネノゴマ属), Labiatae (シソ科), Leguminosae (マメ科), Fagopyrum (ソバ属), Calystegia (ヒルガオ属), Carduoideae (キク科)。

《FP (形態分類花粉)》

Triporate pollen (三孔型花粉), Monocolpate pollen (単溝型花粉), Tricolpate pollen (三溝型花粉), Tricolporate pollen (三溝孔型花粉), Inaperturate pollen (無口径花粉)。

《FS (羊歯類孢子)》

Lycopodiaceae (ヒカゲノカズラ科), Osmundaceae (ゼンマイ科), Polypodiaceae (ウラボシ科), Sphagnum (ミズゴケ属), Monolete spore (単条溝型孢子), Trilete spore (三条溝型孢子)。

《その他の微化石》

Pseudoschizaea (淡水生藻類)。

次に、各試料について花粉・孢子化石構成の特長ならびに古植生、古気候、古環境について考察する。

A — 1 I 層

この試料は非常に多くの花粉・孢子の化石が検出された。特に草本花粉が全体の 68.3% を占め非常に多かった。主なものとしては、Gramineae が 50.4% 検出され優占した。これに次いで、Crusiferae, Caryophyllaceae, Cyperaceae などが若干検出された。

針葉樹花粉としては、Taxodiaceae が 7.9%, Pinus が 6.1% 検出されたのをはじめ、Tsugasieboldii, Cryptomeria が若干検出された。

広葉樹花粉としては Lepidobalanus が 4.3%, Alnus が 3.6% 検出された他は少なく、Castanea, Zelkova, Carpinus, Corylus, Fagus, Cyclobalanopsis などが若干検出された。

羊歯類孢子としては全体で 2.9% 検出され、少なかったものの、Palypodiaceae, Monolete spore, Triletespor が若干検出された。

従って古植生は Gramineae を主体とし、Crusiferae, Caryophyllaceae, Cyperaceae などを僅かに加えた草地が推定される。

この草地の内外には、Taxodiaceae, Pinus, Tsugasieboldii, Cryptomeria などの針葉樹類や、Lepidobalanus, Alnus, Castanea, Zelkova, Carpinus, Corylus, Fagus, Cyclobalanopsis などの広葉樹類も散在して生育していたことが考えられる。

古気候は前述の樹木の存在により、温帯に相当すると思われる。

A — 2 II 層

この試料も草本花粉のGramineaeが52.4%検出され優占したのをはじめ、Artemisiaが4.7%、Cichorioideaeが3.6%、Crusiferaeが3.3%検出された。その他Cyperaceae, Carduoideae, Caryophyllaceae, Chenopodiaceae, Sagittaria, Justicia, Labiatae, Fagopyrum, Leguminosaeなど多くの種類の草本花粉が検出された。

針葉樹花粉は全体で4.4%と低率だが、Taxodiaceaeが2.2%, Pinusが1.1%など、若干検出された。

広葉樹花粉は全体で16.6%検出され、主な花粉としてはLepidobalanusが4.0%, Castaneaが2.5%, Alnusが1.8%, Betulaが1.8%, Celtisが1.8%, Corylusが1.1%, Zelkovaが1.1%などが検出された。

羊歯類孢子はTrilete spore, Monolete sporeが若干検出された。

従って古植生は、Gramineaeを優占とし、Artemisia, Cichorioideae, Crusiferae等の草本類から成る草地が推定される。また、この草地の周囲には、Taxodiaceae, Pinusなどの針葉樹や、Lepidobalanus, Castanea, Alnus, Betula, Celtis, Corylus, Zelkova等の落葉広葉樹が散在していたことが推定される。

古気候は、これらの樹木の存在により、現在とはほぼ同じ温帯であろう。

A — 3 III 層

この試料は、今まで優占して検出された草本花粉のGramineaeが急減し、18.5%検出された。その他Artemisiaが6.0%, Cichorioideaeが5.4%, Cyperaceaeが4.3%が主に検出された。

針葉樹花粉は全体で15.3%検出され、主なものとしてLepidobalanusが3.8%, Castaneaが3.8%, Zelkovaが2.1%, Corylusが1.6%検出された。

羊歯類孢子としては全体で30.6%検出され多かった。主なものは、Polypodiaceaeが6.5% Lycopodiaceaeが2.7%およびMonolete sporeが9.2%, Trilete sporeが11.4%検出された。

従って古植生は、Gramineae, Artemisia, Cichorioideae, Cyperaceaeなどから成る草地が推定される。また、この草地の周囲には、Cryptomeria, Taxodiaceae, T. C. T.などの針葉樹、Lepidobalanus, Castanea, Zelkova, Corylusなどの落葉広葉樹が若干生育していたものと考えられる。

古気候は、これらの樹林の存在により温帯に相当しよう。

A — 4 IV 層

この試料は、草本の割合が全体の45.5%を占めて多く、主なものとしてArtemisiaが19.3%、Gramineaeが17.2%検出されたほか、Cyperaceae, Crusiferaeなどが若干検出された。

針葉樹花粉は、合計で6.8%と少なかったが、Taxodiaceae, T. C. T., Pinusなどが検出された。

広葉樹花粉は合計で28.9%検出され多く、主なものとしてLepidobalanusが17.9%、Celtisが3.4%、Carpinusが2.0%検出されたほか、Alnus, Castanea, Fagus等が多少検出された。

羊歯類胞子は、Lycopodiaceae, Polypodiaceae, Osmundaceae などが若干検出された。

従って古植生は、Artemisia, Gramineae, Cyperaceae, Carpinus などの落葉広葉樹類が主に生育していたものと思われる。

古気候は、これらの樹木の生育により温帯であると推定される。

A — 5 V 層

この試料は、草本花粉が全体の約60%を占め、多かった。主なものとしてGramineaeが44.4%検出された。その他Artemisiaが8.3%、Cyperaceaeが2.3%、Sagittariaが2.0%、Cichorioidaeが1.7%などが検出された。

針葉樹花粉は合計で3.3%と低率であり、Taxodiaceae, Pinus, Tsuga sieboldiiなどが若干検出された。

広葉樹花粉は合計で22.8%検出され、Lepidobalanusが7.9%、Cyclobalanopsis が3.3% Salixが2.6%、Pterocarya が2.0%、Celtis が2.0%などが主に検出された。

従って古植生はGramineaeを優占とし、Artemisia, Cyperaceae, Sagittaria, Cichorioidaeが繁茂する草地が推定され、その周囲でCeltisなどの広葉樹や、Taxodiaceae, Pinus, Tsuga sieboldiiなどの針葉樹が散在して生育していたものと推定される。

古気候は、これらの樹木の生育により、温帯に相当するものと思われる。

A — 6 VI 層

この試料は草本花粉が全体の50%検出され多かった。このうち、主なものとして、Gramineaeが29.0%、Artemisiaが9.8%検出された。割合的には少なかったが、Sagittaria, Carduoideae, Cyperaceaeなども検出された。

針葉樹としては、Pinusが3.4%、Taxodiaceaeが2.5%、T. C. T. が1.7%、それにPiceaが若干検出された。

広葉樹花粉は全体で11.9%と低率であったが、Lepidobalanus, Castanea, Alnus, Cyclobalanopsis などが若干検出された。更にこの試料から、第三紀層中より一般的に検出される花粉のLiguidambarが検出されたが、一緒に検出される花粉と比較して大分変質しており、他地域より運搬、堆積されたものと思われる。

羊歯類胞子化石は合計で18.8%検出され、Polypodiaceae, Manolete spore が良好に検出された。

従って古植生は、Gramineae, Artemisiaをはじめ、Sagittaria, Carduoideae, Cyperaceaeなどが生育する草地が推定される。この草地の周囲には、Pinus, Taxodiaceae, T. C. T. な

どの針葉樹類, *Lepidobalanus*, *Castanea*, *Alnus*, *Cyclobalanopsis*などの広葉樹類も生育していたものと思われる。

古気候は、これらの樹木の生育よりして温帯であろう。

A — 7 VII 層

この試料は針葉樹花粉の *Pinus* が 12.8 % 検出され多かった。更に *Tsuga sieboldii*, *Taxodiaceae*, *Cryptomeria* などが若干検出された。

広葉樹花粉は、割合としては多くはないが種類数が多く、*Lepidobalanus*, *Alnus*, *Fagus*, *Betula* などが若干検出された。

草本花粉は合計で 29.6 % 検出され、主なものは *Artemisia* が 13.2 %, *Gramineae* が 7.9 %, *Cyperaceae* が 2.2 %, *Cardoideae* が 2.2 % が検出された。その他、*Sagittaria*, *Iridaceae*, *Umbelliferae*, *Crusiferae*, *Thalictrum* などが僅かに検出された。

羊歯類胞子は全体で 38.0 % 検出され多かった。主なものとしては、*Polypodiaceae* 11.0 %, *Lycopodiaceae* が 2.2 %, それに *Monolete spore* が 19.4 %, *Trilete spore* が 4.8 % 検出された。

従って古植生は、*Artemisia*, *Gramineae*, *Cyperaceae*, *Carduoideae* などの草本や、*Polypodiaceae*, *Lycopodiaceae* などの羊歯類が繁茂する草地の環境が推定される。

この草地の周囲には、上述の多くの種類の樹木類が生育していたことが推定される。

古気候は、現在とはほぼ同じ温帯に相当すると思われる。

A — 8 VIII 層

この試料は針葉樹花粉が全体の 16.4 %, 広葉樹花粉が 18.9 %, 草本花粉が 31.1 %, 羊歯類が 29.2 % 検出された。

針葉樹花粉では *Pinus* が 6.7 %, *Cryptomeria* が 3.6 %, *Taxodiaceae* が 1.8 %, *Abies* が 1.8 % 等と良好に検出された。広葉樹花粉では、*Lepidobalanus* が 7.3 %, *Alnus* が 3.0 %, *Betula* が 1.8 %, *Fagus* が 1.8 % 検出された。草本花粉では *Artemisia* が 17.7 % 検出され多かった。次いで *Gramineae* が 6.7 %, *Chenopodiaceae* が 2.4 %, *Calystegia* が 1.2 % などが良好に検出された。羊歯類胞子としては、*Polypodiaceae* が 3.0 %, *Lycopodiaceae* が 2.4 %, それに *Monolete spore* が 14.0 %, *Trilete spore* が 9.1 % 検出された。

従って古植生としては、*Artemisia* を主体に *Gramineae*, *Chenopodiaceae*, *Calystegia*, *Carduoideae* などの草本や、*Polypodiaceae*, *Lycopodiaceae*, *Monolete spore*, *Trilete spore* などの羊歯類が繁茂する草地が推定される。この草地の周囲には、*Pinus*, *Cryptomeria*, *Abies* などの針葉樹類や、*Lepidobalanus*, *Alnus*, *Betula*, *Fagus* などの落葉広葉樹類が散在して生育していたものと考えられる。

古気候は、*Abies*, *Betula*, *Fagus* が検出されることにより、現在より若干涼しかったものと

推定される。

A — 9 IX 層

この試料は、羊歯類孢子の割合が合計で41.8%検出され多かった。主なものとして、Polypodiaceaeが16.3%、Lycopodiaceaeが10.9%、Trilete sporeが7.2%、Monolete spore が5.4%検出された。

草本花粉ではArtemisiaが20.0%、Gramineaeが18.2%検出された。

針葉樹花粉ではPinusが3.6%、Cryptomeriaが3.6%、広葉樹花粉ではAlnus, Corylus, Lepidobalanus, Zelkovaの他に、第三紀層より一般的に検出されるCaryaが検出された。このCaryaは、他の化石と比較して変質度合が著しく、A—6 VI層のLiquidambarと同じく二次堆積したものであろう。

従って古植生はPolypodiaceae, Lycopodiaceaeなどの羊歯類と、Artemisia, Gramineaeなどの草本が繁茂する草地が推定される。この草地の周囲にはPinus, Cryptomeriaなどの針葉樹や、Alnus, Corylus, Lepidobalanus, Zelkovaなどの落葉広葉樹が僅かながら生育していたであろう。

A — 10 X 層

この試料は含有花粉、孢子化石が合計で11個体と非常に少なく、古植生等について考察するには不十分な試料であった。

B — 4 VI 層

この試料は草本花粉が合計で52.1%検出され優占した。主な花粉として、Gramineaeが33.9%検出され非常に多かった。量的には多くはなかったが、Cyperaceae, Artemisia, Chenopodiaceaeが若干検出された。

針葉樹花粉では、Abies, Taxodiaceae, Tsuga sieboldiiが良好に検出された。

広葉樹花粉は合計で18.2%検出され、主なものとしてLepidobalanusが9.3%検出されたが他は少なく、Corylus, Fagus, Cyclobalanopsisなどが若干検出された。

羊歯類孢子はLycopodiaceaeが9.7%、Monolete sporeが5.1%、Trilete sporeが3.8% Polypodiaceaeが1.2%検出された。

従って古植生は、Gramineaeを主体とし、Artemisia, Cyperaceae, Chenopodiaceaeなどの草本や、Lycopodiaceae, Monolete spore, Trilete spore, Polypodiaceaeなどの羊歯類が良好に繁茂する草地が推定され、周囲には、Abies, Taxodiaceae, Tsuga sieboldiiなどの針葉樹と、LepidobalanusをはじめとしてCorylus, Fagus, Cyclobalanopsisが僅かであるが

生育していたであろう。

古気候は温帯であろう。

C — 2 VI 層

この試料は、含有化石が非常に少なく（合計で5個体）花粉構成の特長について考察することは困難であった。

次に、A—1 I 層～A—1 0 層の試料について、花粉・孢子化石構成の近似する試料ごとにまとめて整理すると、第2表（別紙）に示すような花粉帯に分帯することができる。

埼玉県大里郡妻沼町西南遺跡

第 1 表 — 1 9 7 № 1 5 — A

試料番号	採取場所	土 質	花粉・胞子化石数 個体/1g dry
A 1	I 層	灰 色 粘 土	6.8×10^4
A 2	II 層	〃	3.1×10^4
A 3	III 層	暗 灰 色 粘 土	1.1×10^3
A 4	IV 層	〃	2.3×10^3
A 5	V 層	灰 色 粘 土	3.5×10^3
A 6	VI 層	〃	8.8×10^2
A 7	VII 層	淡 灰 色 粘 土	3.8×10^3
A 8	VIII 層	灰 色 粘 土	9.3×10^1
A 9	IX 層	暗 灰 色 粘 土	9.7×10^2
A 10	X 層	灰 色 粘 土	—————

第 1 表 — 2 9 7 № 1 5 — B

試料番号	採取場所	土 質	花粉・胞子化石数 個体/1g dry
B 4	VI 層	灰 色 砂 混 り 粘 土	1.4×10^4

第 1 表 — 3 9 7 № 1 5 — C

試料番号	採取場所	土 質	花粉・胞子化石数 個体/1g dry
C 2	VI 層	黄 灰 色 粘 土	—————

花 粉 帯 と そ の 特 長

第 2 表

試 料 番 号	花粉帯	古 植 生	古 気 候
A-1 I 層 }	A	Gramineae が優占し、Crusiferac , Cichorioideac ,Cyperaceae から成る草 地、周囲には、Taxodiaceae , Pinus , Alnus , Lepidobalanus も若干生育。	温 帯
A-2 II 層			
A-3 III 層 }	B	Gramineae , Artemisiaを主体とし、 Cyperaceae から成る草地。 周囲にはLepidobalanus , Castaneaなどの 広葉樹、Taxodiaceae , Cryptomeria などの 針葉樹が若干生育。	温 帯
A-4 IV 層			
A-5 V 層 }	C	Gramineaeを主体として、Artemisia , Sagittaria , Cyperaceae から成る草地。 周囲にはLepidobalanus , Cyclobalanopsis Taxodiaceae 等が生育。	温 帯
A-6 VI 層			
A-7 VII 層 }	D	Monolete spore , Polypodiaceae , Lycopodiaceae , Trilete sporeなどの 羊歯類や、Artemisia , Gramineae など の草本から成る草地。 周囲には、Pinus , Tsuga sieboldii , Taxodiaceae , Cryptomeria などの針 葉樹、Lepidobalanus , Alnus などの広 葉樹が良好に生育。	温 帯
A-9 IX 層			
A-10 X 層		?	?

1. 試 料

重鉍物分析を実施した試料は次の2個である。

A—No. 1 淡褐色 泥質砂

B—No. 4 暗褐色 泥

2. 試料調整方法

No. 1, No. 4 試料共泥分が多く、比較的軟かであったので大きな蒸発皿に入れ、水中でゴム栓を使い押しつぶし、構成鉍物粒を分離しやすくした。

鉍物粒の酸化鉄の皮膜を除くため、これを10%の塩酸にて、約20分煮沸し、その後水洗をくり返して、塩酸分を除くと共に泥分を流し去り乾燥させた。

乾燥試料は60メッシュ（約0.25 mm）の篩を通過させ試料の粒度を0.25～0.06 mmに揃えた。

この試料数grを重液（テトラブロムエタン、比重≒2.9）に入れ、重鉍物と軽鉍物を分離した。

得られた重鉍物を秤量し、磁石で磁鉄鉍をのぞいたのち、さらに秤量し、使用した試料中の重鉍物量（%）および重鉍物中にしめる磁鉄鉍量（%）を求めた。

重鉍物をスライドガラスにのせ、リゴラック（合成樹脂）に封じこみ、岩石顕微鏡下で観察して透明重鉍物を約250個数え透明重鉍物の百分率を求めた。

3. 重鉍物組成とその起源

本2試料中の重鉍物は、紫蘇輝石60～70%、普通輝石10数%、普通角閃石20および9%であり、重鉍物中占める磁鉄鉍の量は10%強である。

粒子の大きさは0.06～0.08 mmのものが多く、0.12～0.16 mmの大きさのものが混じる。

紫蘇輝石、普通輝石、普通角閃石はいずれも火山噴出物起源のものと考えられる。淡青緑色角閃石や、A—No. 1 試料中のらん閃石、緑れん石は、変成岩起源の鉍物と考えられ、その量の少ないことから、かなり遠くに露出していた変成岩類から、なまたまもたらされたと推定される。

4. 対 比

多量の紫蘇輝石、かなりの量の普通輝石、普通角閃石を含む組成の地層を本地域の周辺に求めてみると、関東地方南部、東京周辺のローム層では「立川ローム層」、「武蔵野ローム層」ともに、かんらん石を含むことが特長とされているが、本試料の組成とはあわない。

しかし関東北部の「上部ローム層」は、多量の紫蘇輝石とそれに次いで普通輝石、磁鉄鉍を含み、「中部ローム層」は、普通角閃石が特長的であるという。

従って、本試料の重鉍物組成は、関東北部の「上部ローム層」に非常によく似ている。

「上部ローム層」に普通角閃石が含まれているとの記載はないが、藤岡市付近の「上部ローム層」は数%の普通角閃石を含んでおり、下位へその量を増すことがある。本試料はかなりの普通角閃石を含んでいるが、あるいは下位層のものが、洗い出されて運びこまれたかもしれない。

結論として、A No. 1 と B No. 4 とともに関東北部の「上部ローム層」に鉱物組成上は比較される。それらのものの火山噴出物の供給源は、浅間山である。

5. ま と め

本2試料は、多量の紫蘇輝石、普通角閃石、磁鉄鉱を含む。この起源は火山噴出物と考えられる。

その他含まれている少量の重鉱物は、遠隔地に露出していた変成岩起源であろう。

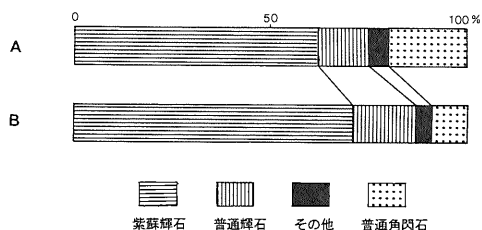
火山噴出物の組成は、関東北部の「上部ローム層」中のものと類似しており、この地層のものは浅間山起源である。従って、この試料も浅間山起源である可能性が大きい。

鉱物名	A—No. 1	B—No. 4
紫蘇輝石	62	71
普通輝石	13	16
普通角閃石	20	9
酸化角閃石	1	1
淡青緑色角閃石	2	2
らん閃石	+	
緑れん石	2	1
重鉱物量	24	30
磁鉄鉱量	12	11

1%以下

$$\text{重鉱物量} = \frac{\text{重鉱物重量}}{\text{分析試料重量}} \%$$

$$\text{磁鉄鉱量} = \frac{\text{磁鉄鉱重量}}{\text{重鉱物重量}} \%$$

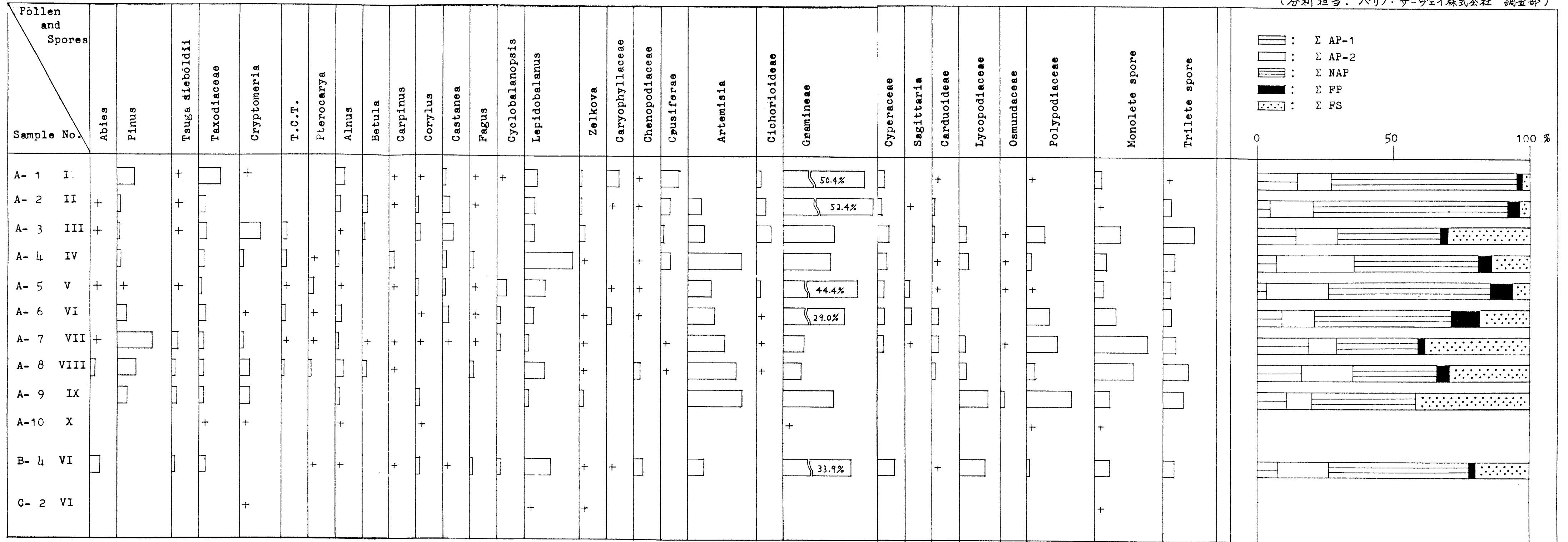


第8図 重鉱物組成

付図-1

妻沼町西南遺跡試料主要花粉・孢子化石ダイアグラム

(分析担当: パリノ・サーウェイ株式会社 調査部)



0 10 20 30 40 50 (%)

+ : 1%未満の検出および、貧微化石試料における検出を示す。

道ヶ谷戸遺跡

Ⅳ 道ヶ谷戸遺跡

1. 遺跡の概観

遺跡は、福川の左岸にある微高地の北縁に位置し、条里遺跡の東側にあたるもので、偶々、整備事業の整地作業中に発見され、急拠条里遺跡と平行して調査が行なわれたが、すでに削平が進み、保存状態はあまり良好ではない。今回の調査は、水路部分に限定されたものであったが、遺跡は、更に、南側へも広がっていると思われる。調査によって発見された遺構は、住居址が14軒・溝が2本であった。住居址の内2軒は、プランが確認されるに過ぎず、壁高はすべて削平されている。その他の住居址についても、部分的に残っているものが、約半数あり、全容を伺えるものは少ない。時代は、古墳時代後期以後のものが大部分で、わずかに1軒のみ平安時代のものもあったが、これは、カマド部分のみで、プランは不明である。溝は、2本あり、何れも、部分的調査であったが、比較的新しい時代のものと思われ、遺物は何ら出土していない。

(荒川 弘)

2. 遺構と遺物

(1) 遺 構

第1号住居址 (第10図)

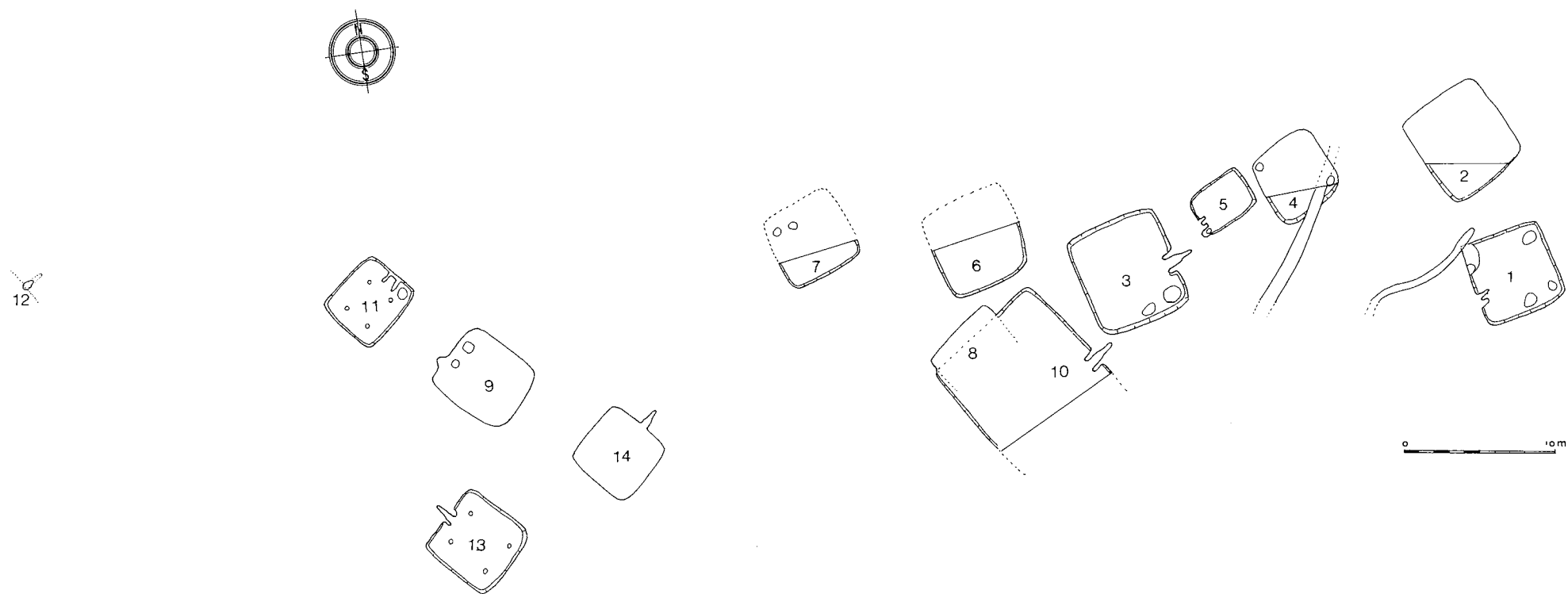
本遺跡の最も東側に位置し、第2号住居址に隣接し、北東コーナー部分を1号溝により切られている。大きさは、 $5.50 \times 5.50m$ を測るもので、プランは、隅丸方形を呈する。周溝は、西壁のカマド以北を除きはば一周する。周溝の幅は10～23cm前後、深さは床面から数cm。カマドは、西壁南寄りに構築され、壁内に焚口、燃烧部を持ち、壁外0.9mに「形の浅い落ち込みがあり、覆土内に焼土がみられ、カマドに付随する煙道と解せるが、やや異質のカマド構造と言える。壁はゆるやかに立ち上がり、壁高は上部を削平され僅かに残すだけである。ピットはいずれも浅く、柱穴の可能性は少ない。北東コーナー部に浅い貯蔵穴状のピットがあり、内に自然礫が出土している。

第2号住居址 (第12図)

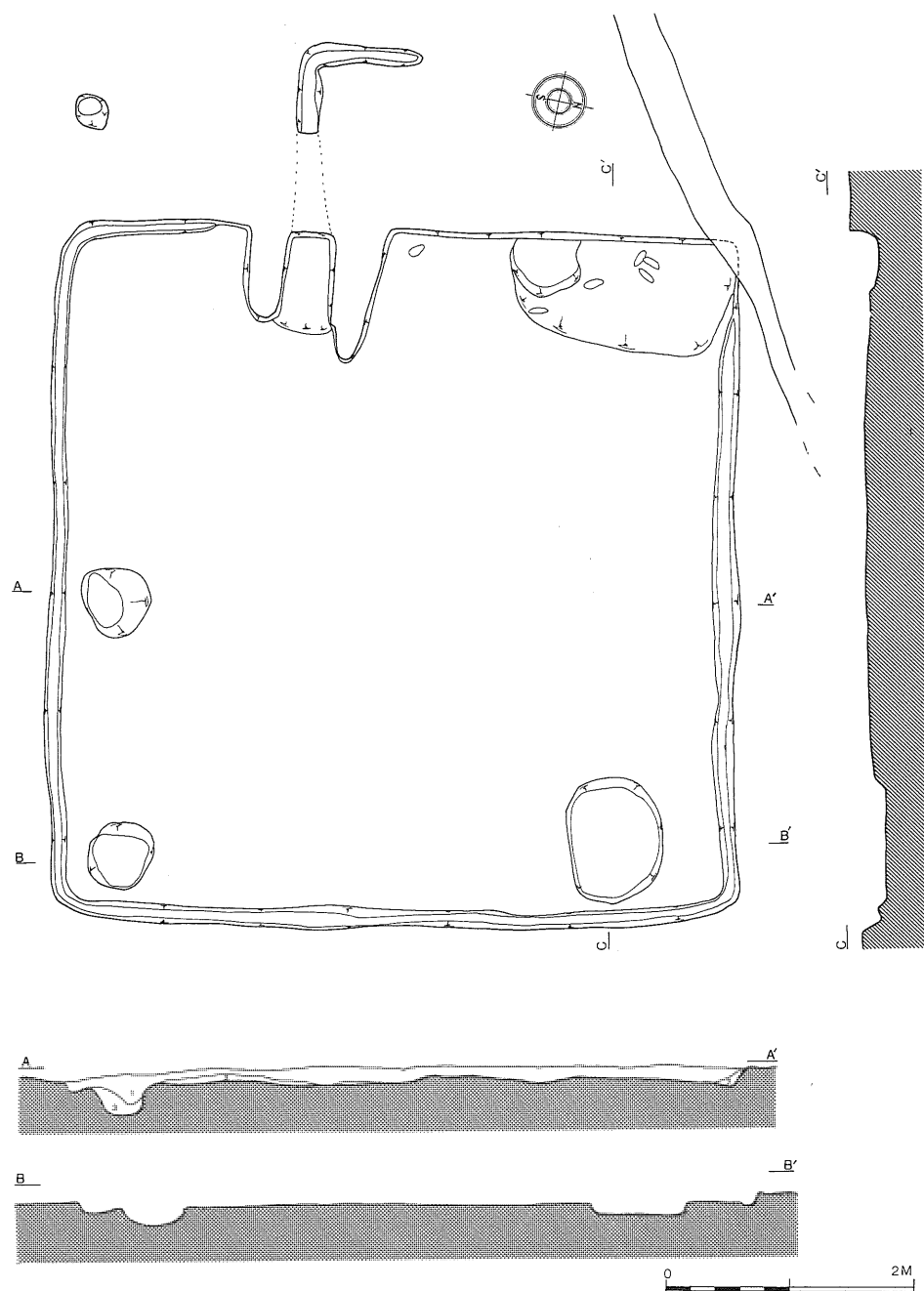
本址は、第1号住居址の北側に位置し、大部分が既に削平されているが、大きさは $5.6 \times 5.0m$ の不整形の方形を呈すものである。床面は、南側に僅かに残すだけであるが、残存部分に長楕円のピットが1本確認され、又、床面に炭化材がみられ、焼失住居と思われる。壁はゆるやかで、壁溝、カマドは確認出来ない。

第3号住居址 (第13図)

第5・6・10号の各住居址に隣接する。大きさは $6.40 \times 6.10m$ のやや南北に長い長方形を呈し、本遺跡に於いては第10号住居址に次ぐものである。カマドの左右、ピット付近を除いて、浅い周溝がある。カマドは東壁、南寄りに構築され、壁内に焚口、燃烧部を持ち、煙道は、壁外へ1.3m延びるもので、先端部は、浅い楕円形の落ち込みとなっている。カマドの右、住居址コーナー部分に、 $1.2 \times 1.0m$ 、深さ0.3mの楕円形の貯蔵穴状のピットがあり、隣接して $0.9 \times 0.6m$ の浅い長楕円形のピットがあるが、柱穴は認められない。床面に多量の炭化材、焼土がみられ焼失住居である。

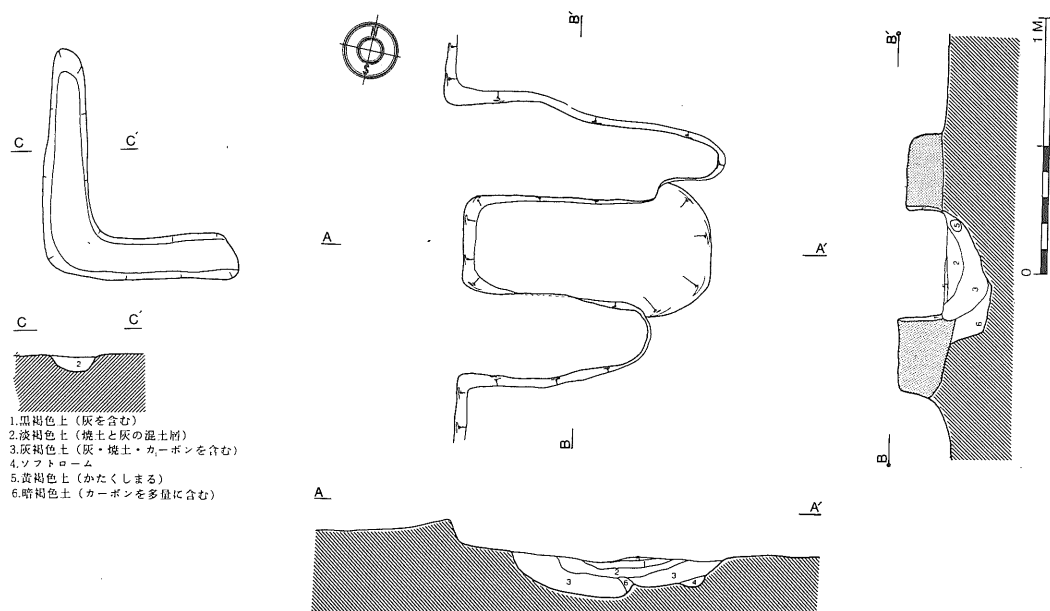


第 9 図 道ヶ谷戸遺跡全測図



第10図 第1号住居址実測図

1.暗褐色土 2.黄褐色土（カーボンを含む）
3.暗茶褐色土



第11図 第1号住居址カマド実測図

遺物は、甕・甑・坏・高坏・甕等が出土し、甕は遺跡中唯一のものである。

第4号住居址（第15図）

第5号住居址の東側1mに近接するもので、第2号住居址同様、北側のほとんどが削平され、プランをかりうじて確認出来るにすぎず、更に、2号溝により、南壁部分を切られ、残存状態は不良である。大きさは、4.60×4.40m前後のものと思われる。南東、北西各コーナーの対角線上に、円形、長楕円形の浅いピットがみられるが、カマド、貯蔵穴等は不明。床面は、一面に炭化材、焼土がみられ、焼失住居で、遺物は、甕・坏等の破片が若干出土している。

第5号住居址（第16図）

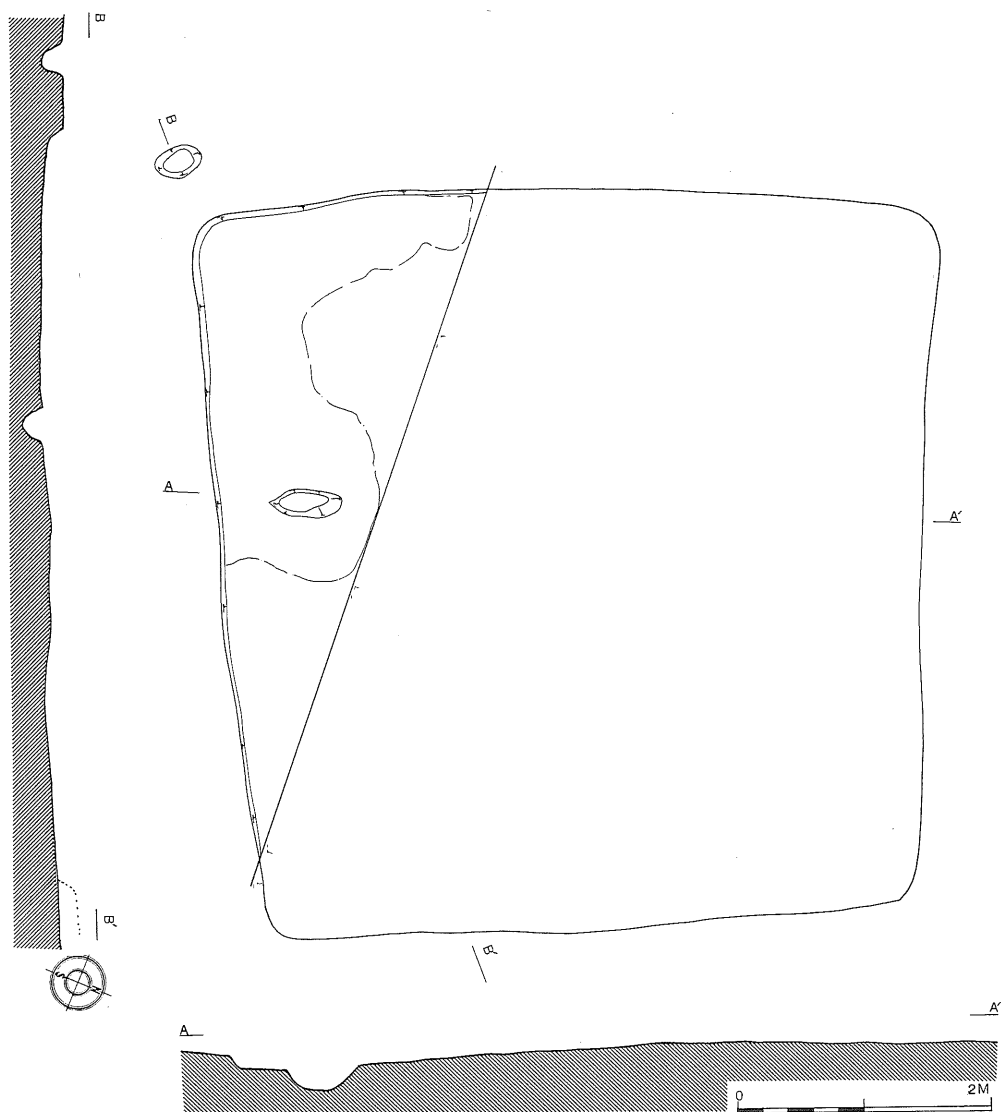
第3号・4号各住居址に挟まれる様に位置し、北側の上部が削平されている。大きさは、4.20×3.10mの隅丸長方形であるが、カマドの左、南側のコーナー部分に、半円形の張り出しがあり、貯蔵穴を構築する。貯蔵穴は、1.40×1.0mの長楕円形プランで、床面より0.4m程の深さを有するものであるが、他にピットは認められない。カマドは、住居址内に構築されたもので、左の裾は、張り出し部の住居址の壁へそのまま移行する。周溝は、張り出し部分を除き、ほぼ一周するもので、幅10～18cm、深さは5～8cm前後のものである。壁の立ち上がりは直線的で、床面の残存部分はよく踏み固められたものである。

第6号住居址（第18図）

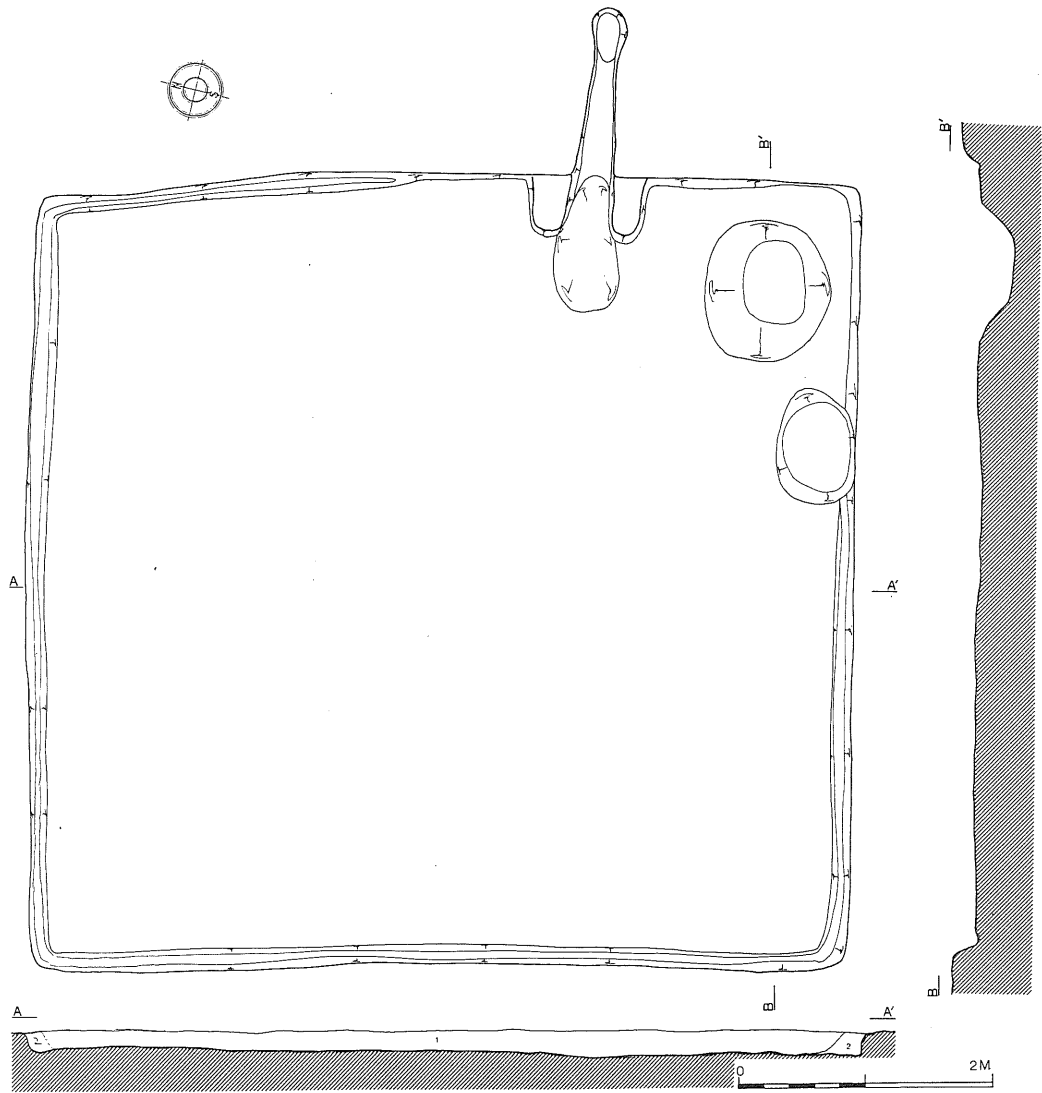
北側部分は、削平によって完全に消失し、大きさは東西部分で5.20m、南北部分が、3.40m程度残るのみであり、プランは残存部分は隅丸形態をとる。床面は平坦で、ピット、壁溝、カマド等是不明、遺物は小片が僅かに出土する。

第7号住居址（第19図）

第6号住居址の西約5mに位置し、同様に北側部分を削平され、残存面積は少ない。大きさは、東西5.10m、南北は4.10m程残り、おそらく5m前後となると思われる。形態は、残在部分は隅丸を呈する。南壁部分のみに、幅30cm、深さ20cmの周溝が確められる。又、削平された北東コーナー部分に、大小2つのピットがあり、カマドは不明、壁の立ち上がりはほぼ垂直である。床面は、多量の炭化材、焼土がみられ、焼失住居で、遺物は、甕・甑・坏・高坏等が出土しているが、完形品は少ない。他に自然礫が、いくつか出土している。



第12図 第2号住居址実測図



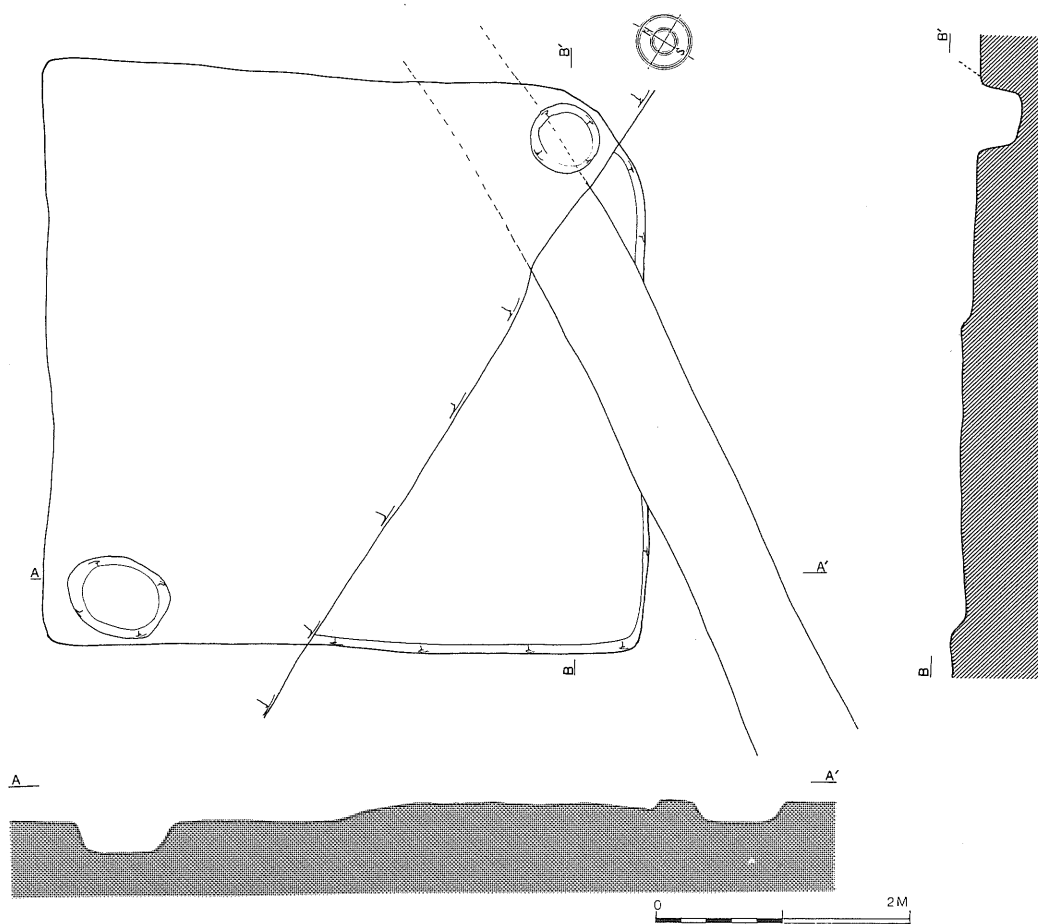
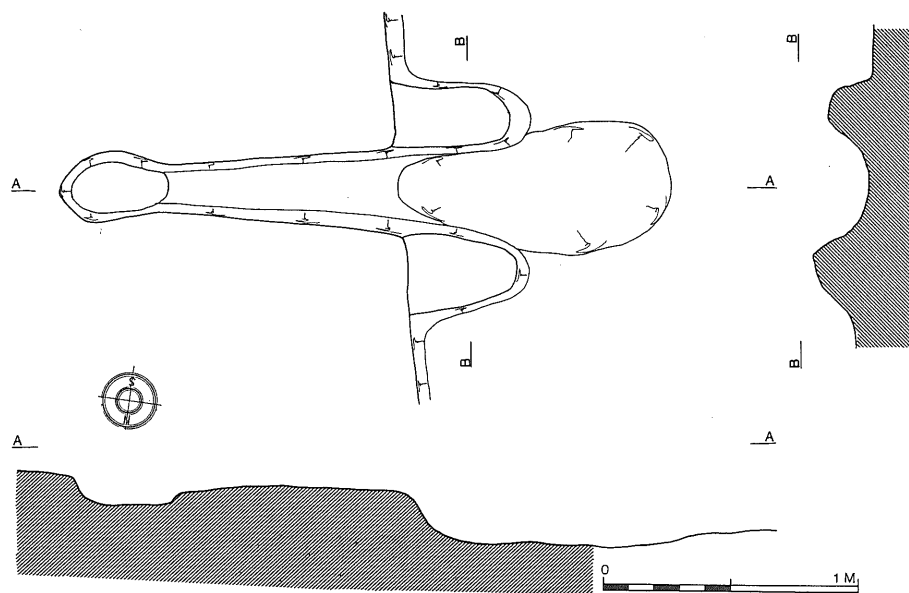
第13図 第3号住居址実測図

1. 暗褐色土 2. 黄褐色土

第8号住居址（第21図）

第10号住居址の北壁の西側部分で重複するもので、一辺4.7mを測り、他辺は保存状態が悪く判然としない。床面も第10号住居址との区別は明瞭でなく、壁はほぼ垂直に立ち上がる。本住居址出土遺物も、平面的にみると、10号住居址内の範囲に当たるもので、正確性に於いてやや疑問が残る。いずれにしろ、時間的にみると10号住居址に後出するものであるが、不明点が多い。

第14図 第3号住居址カマド実測図



第15図 第4号住居址実測図

第9号住居址（第20図）

削平により、プランがかりうじて検出されたもので、壁高は皆無である。大きさは $4.70\text{m} \times 5.50\text{m}$ の隅丸の長方形を呈する。北西の短辺、南寄りに、半円形のカマド部分が認められ、カマド前面に $50\text{cm} \times 40\text{cm}$ の円形ピット、北側 80cm に $60\text{cm} \times 40\text{cm}$ の長方形プランのピットがあり、後者は、床面より 30cm の深さがあり、貯蔵穴の可能性もあるが、遺物は出土していない。

第10号住居址（第21図）

第8号住居址と重複し、南側は既に削平され全容を伺うことはできないが、北壁部分で 8.60m を測り、本遺跡中最大の規模を誇るものである。カマドは東壁の南寄りに構築され、煙道部は、住居址の壁外 2.4m 延び、先端で 50cm 径の円形の落ち込みをもつ。壁溝、貯蔵穴、柱穴等は検出されていないが、住居の中央西寄りに、 $1\text{m} \times 0.5\text{m}$ の長楕円のピットがあり、内に僅かの焼土が出土している。壁の立ち上がりはほぼ垂直で、遺物は比較的多く出土している。

第11号住居址（第23図）

第9号住居址の北西約 4m に位置し、大きさは、 $4.2\text{m} \times 4.2\text{m}$ で、一部内に入り込み、不正の隅丸方形を呈する。柱穴は $1.7\text{m} \sim 1.9\text{m}$ の内にはほぼ等間隔に並び整然とし、深さも床面から、 $40 \sim 50\text{cm}$ のもので良好である。カマドは北東の壁の東寄りに構築され、壁外施設はない。カマドの右に $70\text{cm} \times 60\text{cm}$ の不正楕円の貯蔵穴を有する。周溝は南西コーナー付近に一部確認出来る。壁はほぼ垂直に立ち上がり、壁高は $30 \sim 50\text{cm}$ を測る。遺物は甕・甔・坏等が出土している。

第12号住居址（第25図）

遺跡中最西端に位置し、唯一の平安時代の住居であるが、カマド部分が僅かに残り、内から、土師器の高台の付く坏、羽釜が各々出土している。カマドは $65\text{cm} \times 48\text{cm}$ の不整楕円の落ち込みで、焼土が充満し、裾、煙道部も不明で、燃烧部の一部が残ったものと思われる。

第13号住居址（第26図）

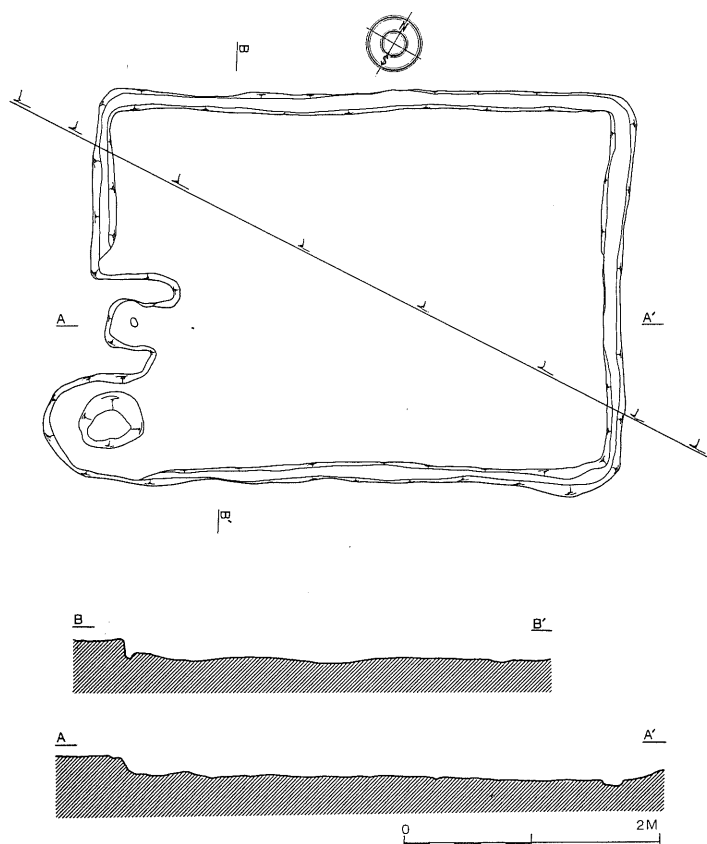
遺跡中最南端に位置し、大きさは 5m 四方の隅丸方形を呈す。柱穴は $3.10\text{m} \sim 3.20\text{m}$ 間で整然と並び、円形の小ピットであるが、深さは各々 70cm 前後と深く良好である。カマドは東西の壁の中央やや西寄りに構築され、幅広の煙道が壁外 1.4m 程ゆるやかに延びる。壁溝、貯蔵穴等は検出されていない。遺物は甕・甔・坏等が出土している。

第14号住居址（第28図）

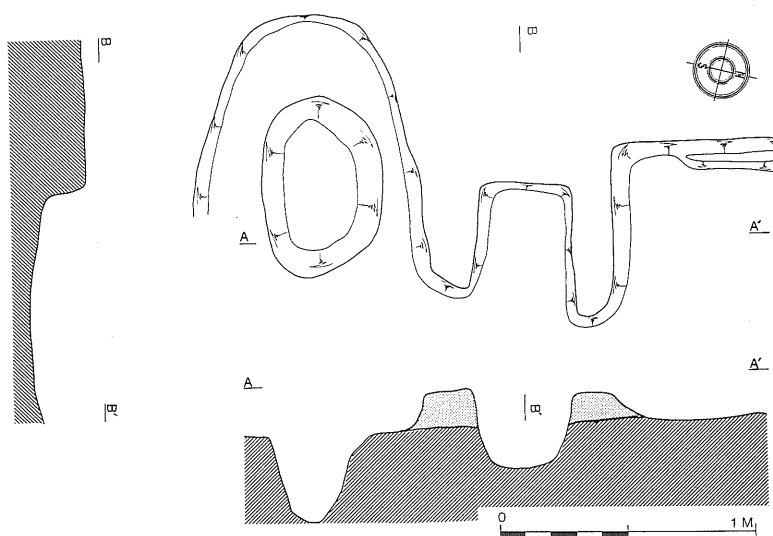
第9号住居址の 2.5m 東側に位置するものであるが、大部分削平され、プランをかりうじて確認する事が出来る。大きさは $4.8\text{m} \times 4.3\text{m}$ の隅丸の長方形を呈すると思われる。カマドは壁外に延びる煙道と思われる焼土の散り具合により推定したもので、やや疑問もある。

1号溝・2号溝（第8図）

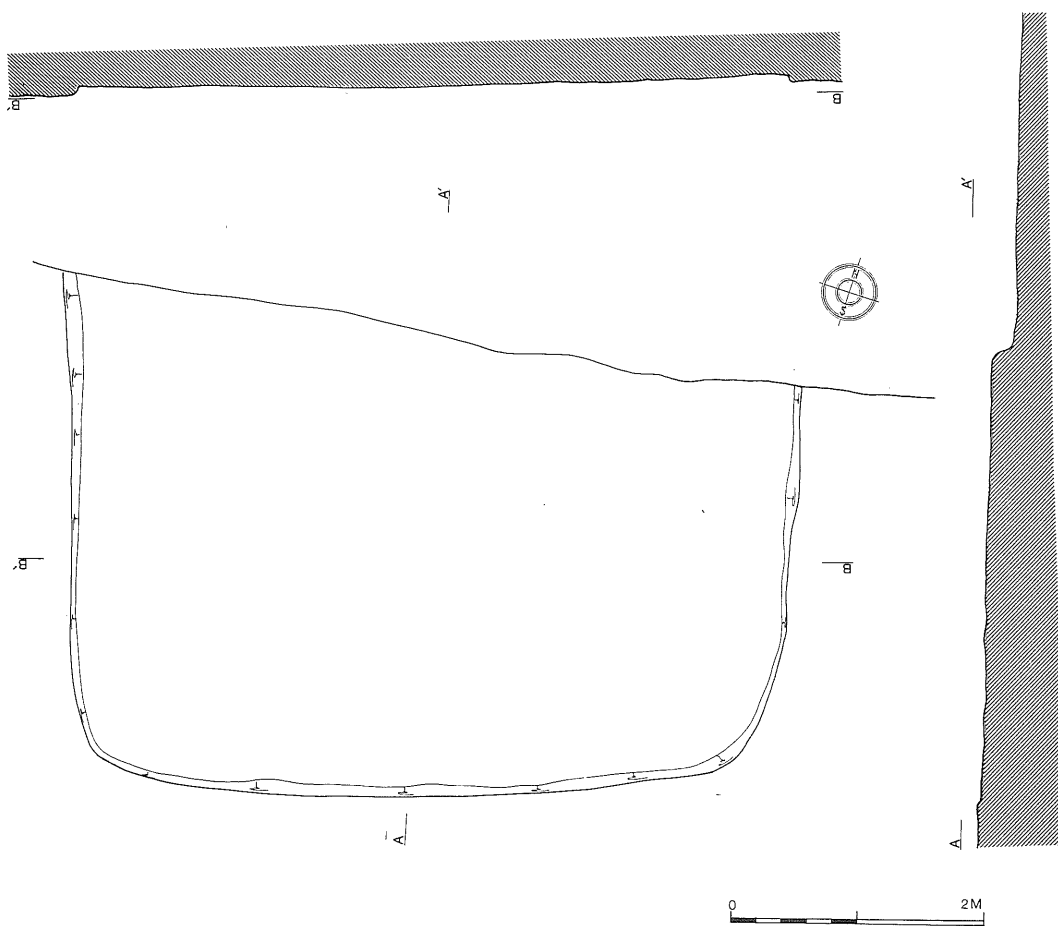
調査区の東側にあり、1は1号住、2は4号住と重複する。1は幅 30cm 前後、2は同 70cm 前後を測り、時間的にも充分な調査が出来ず、遺物も全く出土していない。従って詳細は明らかではないが、比較的近時の溝と思われる。



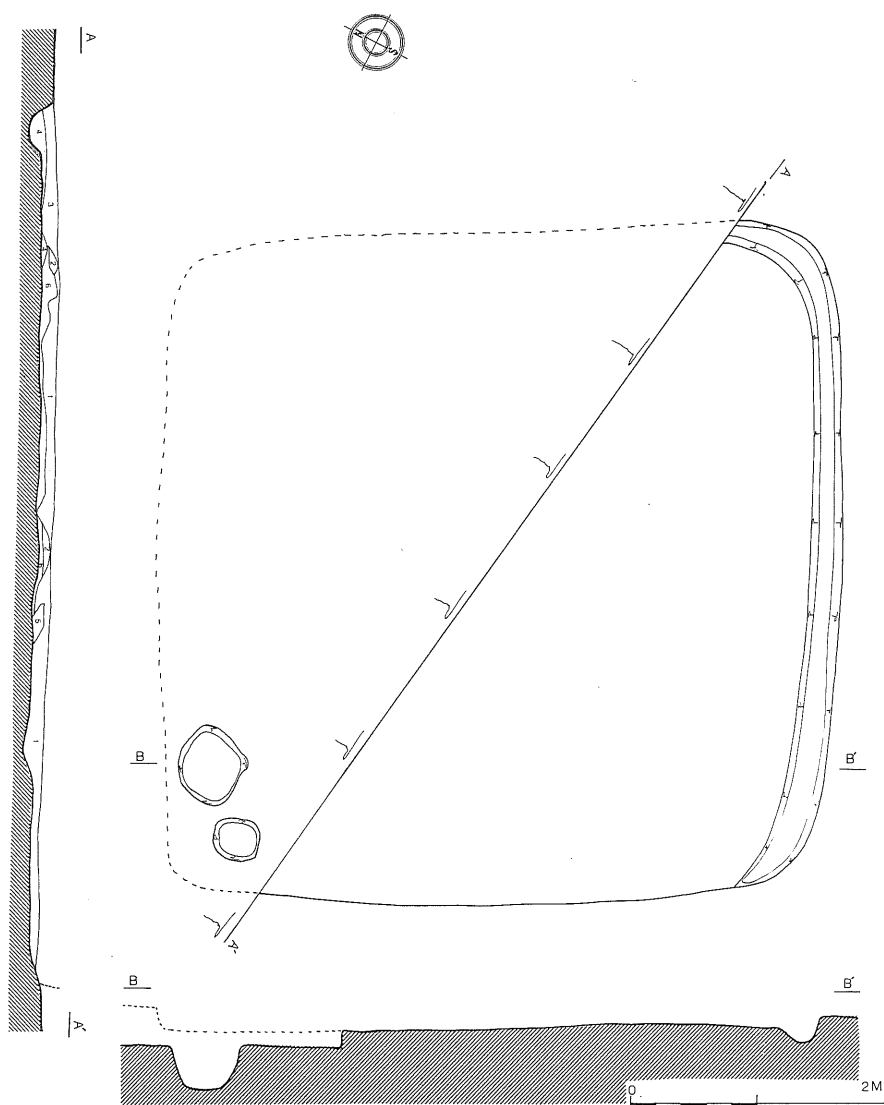
第16図 第5号住居址実測図



第17図 第5号住居址カマド実測図

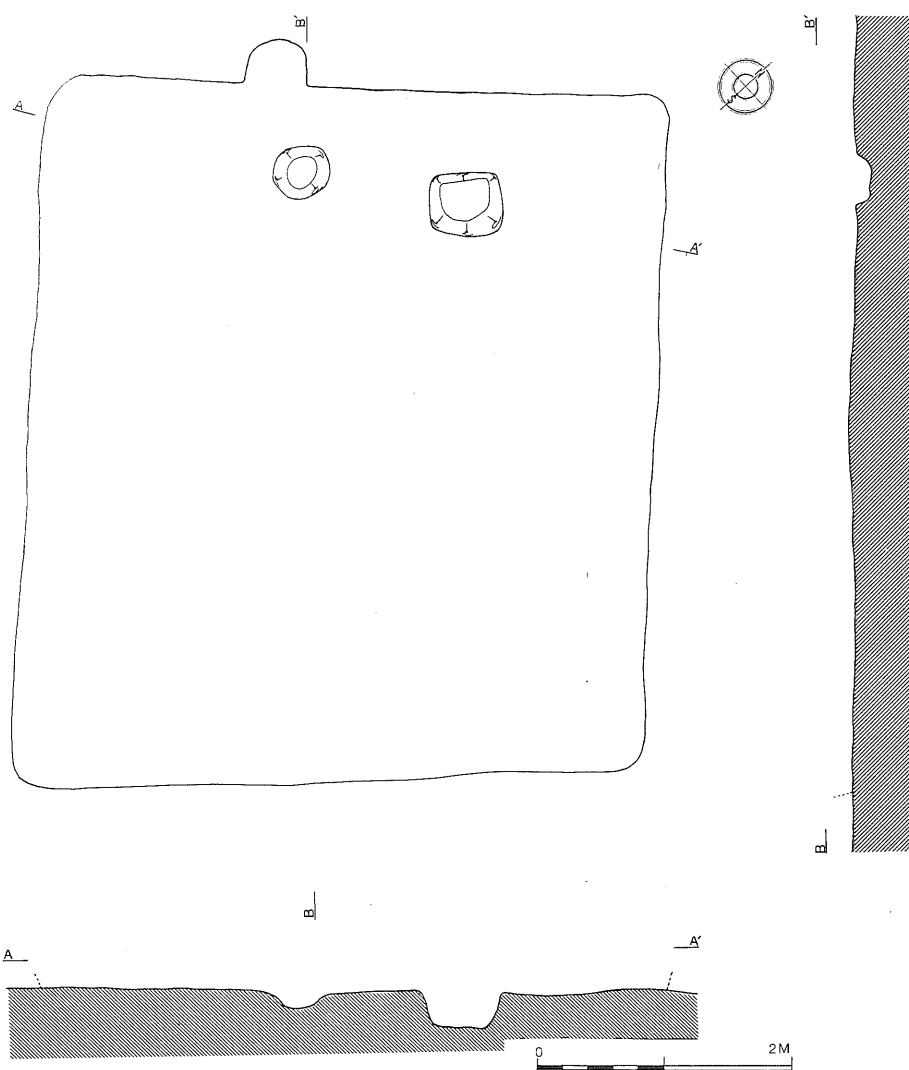


第18图 第6号住居址实测图

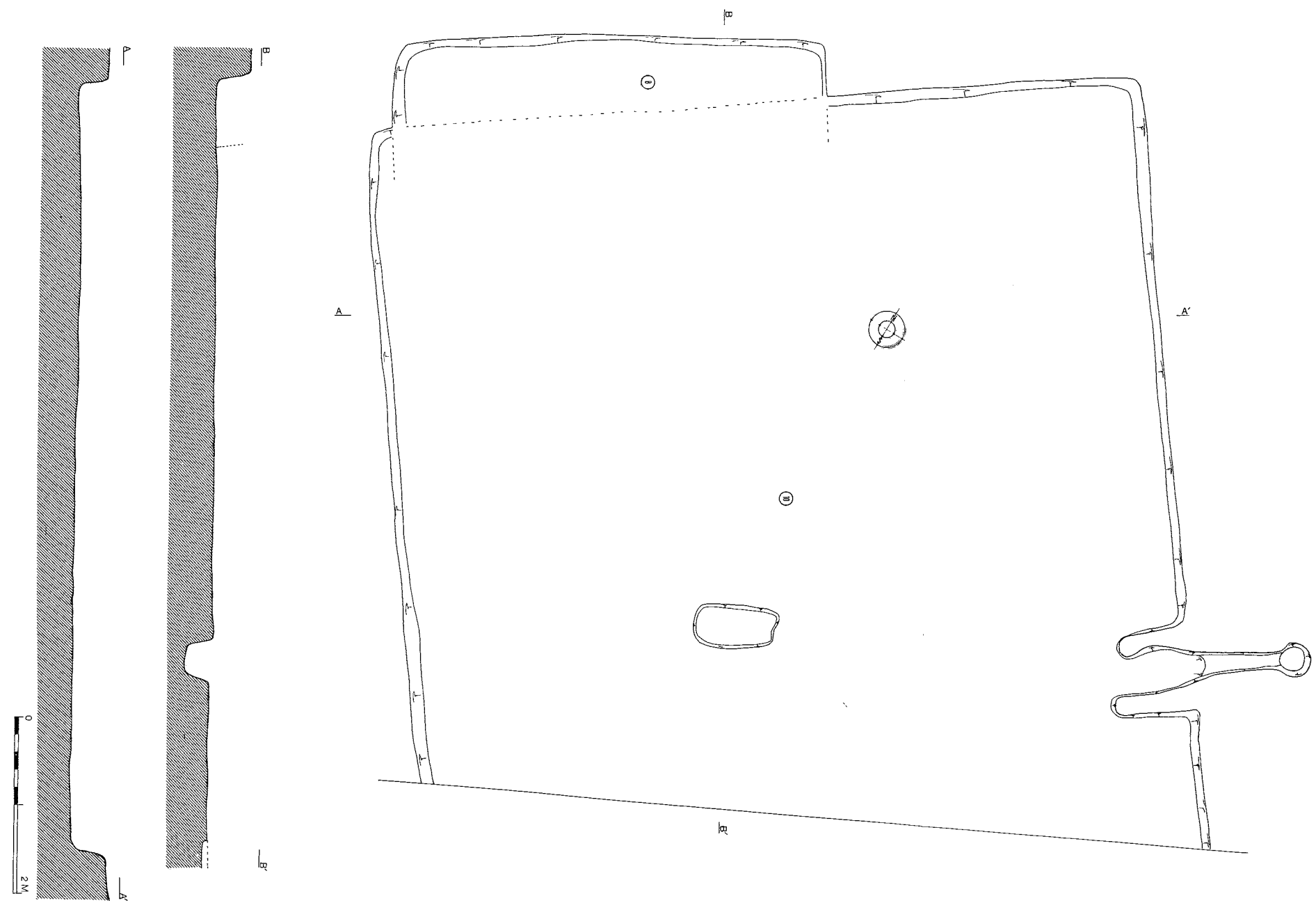


第19図 第7号住居址実測図

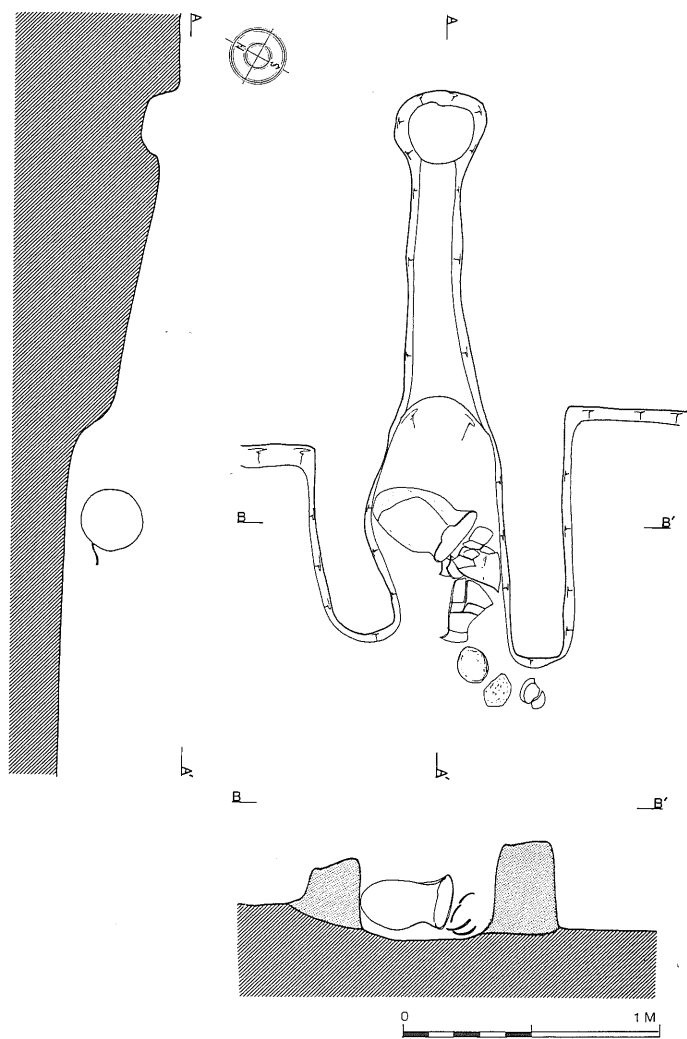
- 1.暗褐色土（焼土粒・カーボンを含む） 2.焼土ブロック 3.黄褐色土
 4.黄褐色土（焼土を多量に含む） 5.暗褐色土（カーボンを多量に含む）
 6.明褐色土（焼土・カーボンを含む）



第20图 第9号住居址实测图

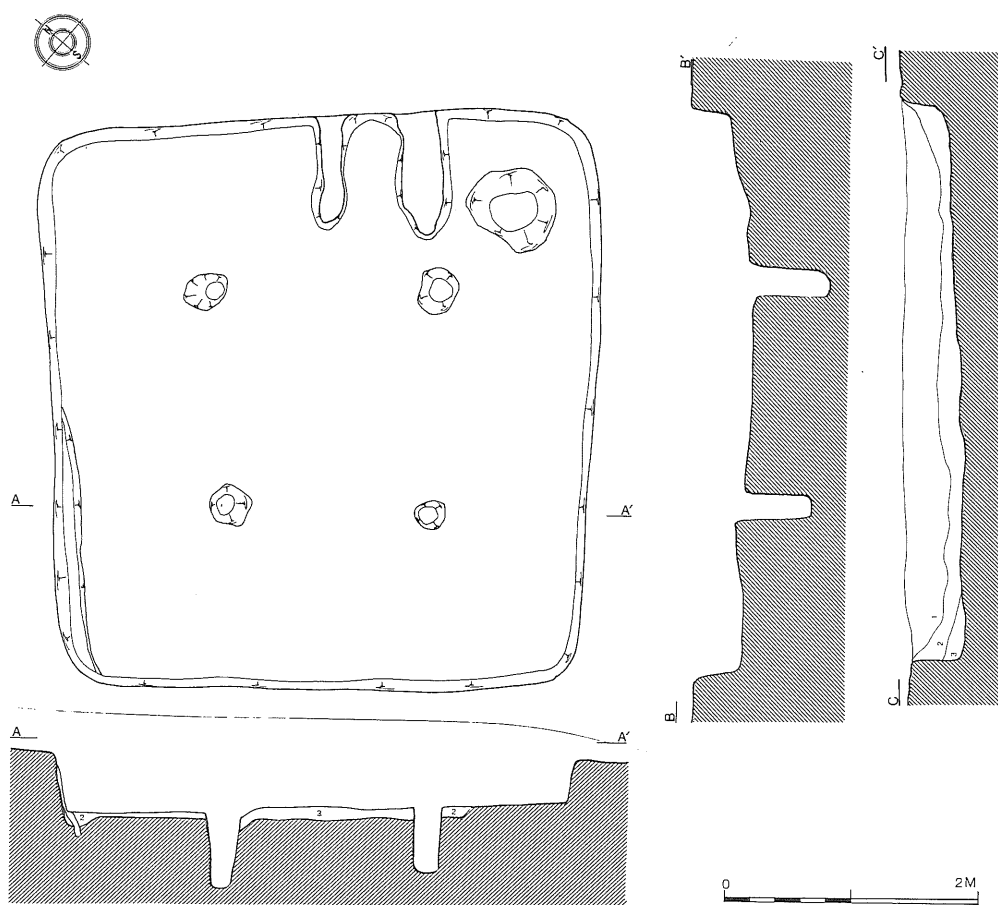


第21図 第8・10号住居址実測図

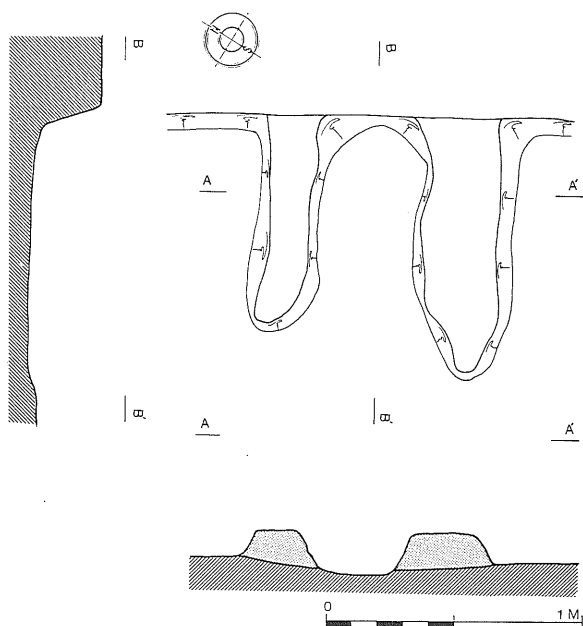


第22図 第10号住居址カマド実測図

第23図 第11号住居址実測図

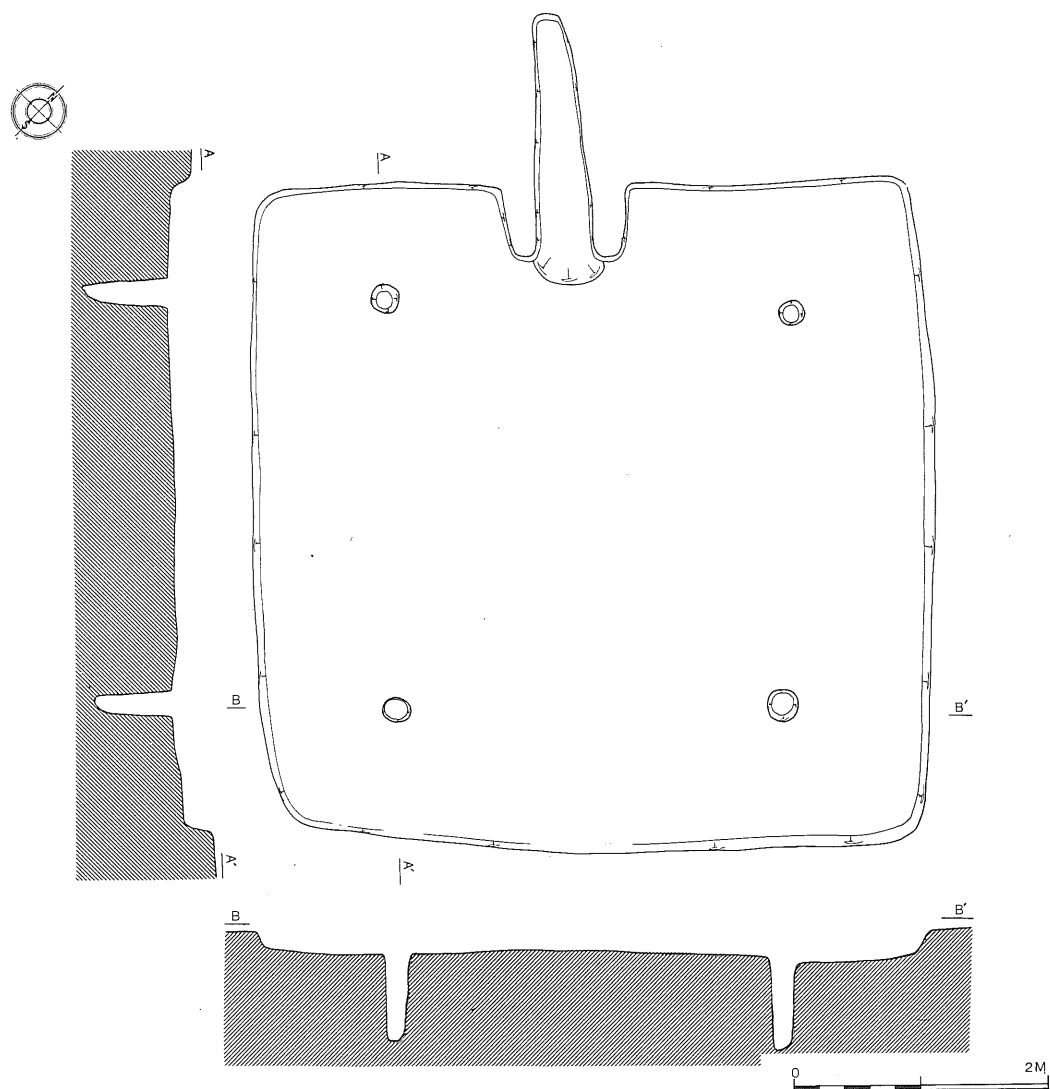
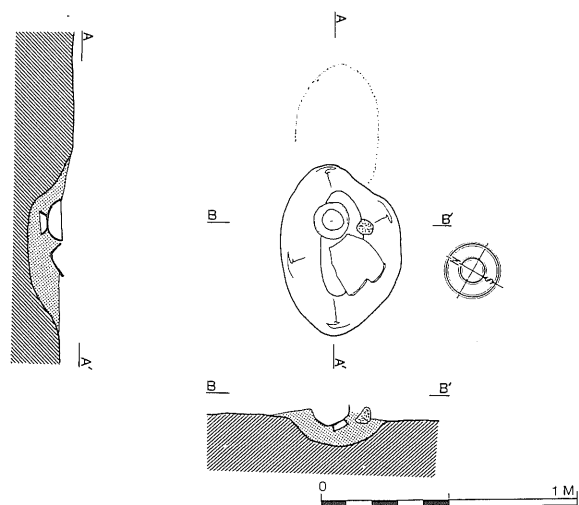


- 1 2 3
 黒褐色土
 黄褐色土
 暗褐色土（焼土粒を含む）
 黄褐色土（カーボン少量含む）



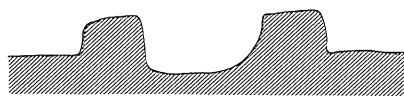
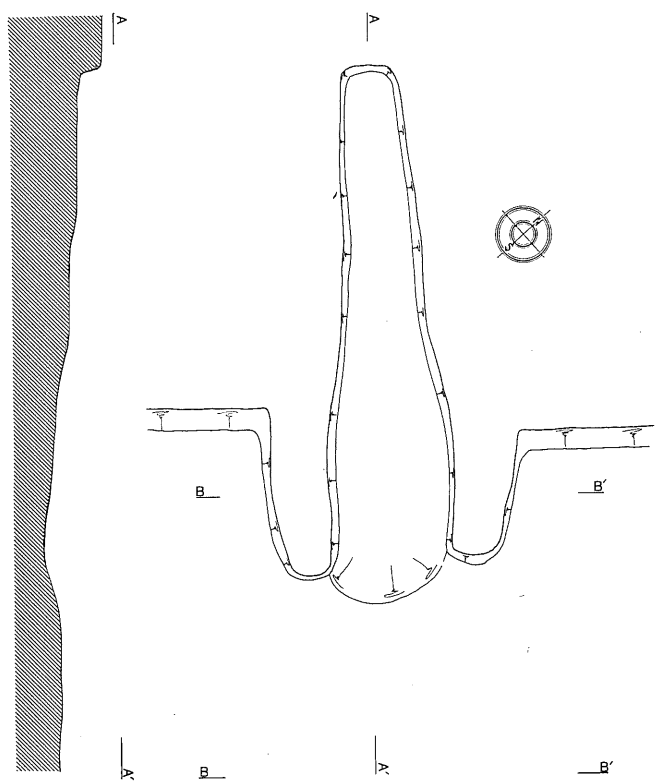
第24図 第11号住居址カマド実測図

第25図 第12号住居址カマド実測図

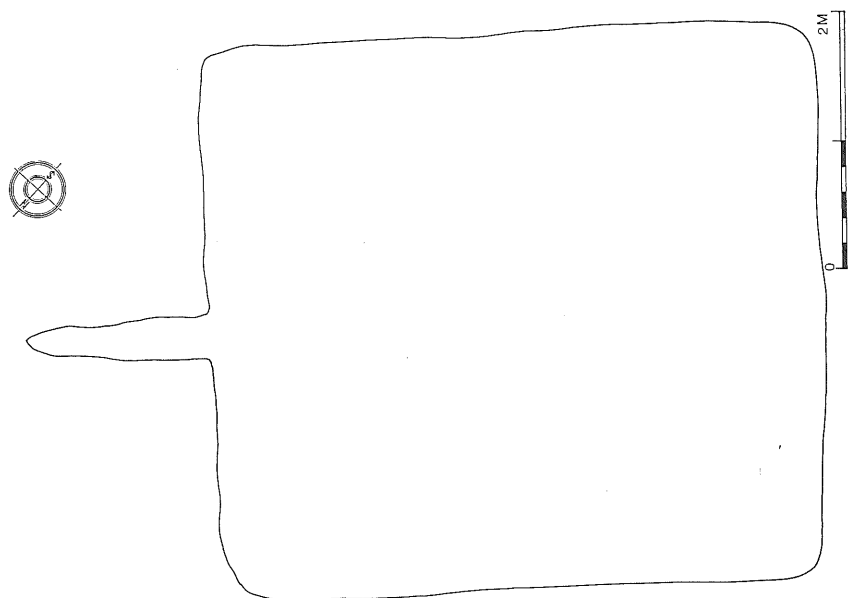


第26図 第13号住居址実測図

第27図 第13号住居址カマド実測図



第28図 第14号住居址実測図



(2) 遺物

第1号住居址出土遺物（第29図）

器種	番号	大きさ (cm)	形態の特徴	手法の特徴	備考
甕	1	口径(16.2)	小形、口縁外反、胴部緩やかに開く。	口縁丁寧な横撫、胴部篋削り、胎土砂粒多く含、焼成良、色調茶褐色。	
坏	2	口径(13.9) 器高(3.4)	稜部でくびれ、口縁外反し、薄手。	口縁横撫、胴部篋削り、胎土細焼成良、色調赤褐色。	
〃	3	口径(11.4)	小形、2に類似。	口縁横撫、胴部篋削り、器面滑らか、胎土精選、焼成良、色調明褐色。	
〃	4	口径(12.3)	口縁わずかに外反、口唇内側より削り尖る。	口縁横撫、胴部篋削り、胎土細焼成良好、色調黄褐色。	
〃	5	口径(11.9)	体部の稜浅く、口縁内湾。	口縁横撫、胴部篋削りわずかに残る。胎土細、焼成良、色調明褐色。	
〃	6	口径(10.1)	稜端やや尖り、小形、底部浅い。	口縁横撫、胴部篋削り、胎土やや細、焼成良、色調明褐色。	

第2号住居址出土遺物（第30図）

器種	番号	大きさ (cm)	形態の特徴	手法の特徴	備考
甕	1	口径(12.4)	小形、やや厚手、口縁緩やかに外反。	口縁横撫、体部磨滅、整形不明瞭。胎土砂粒多く含む。焼成やや甘い、色調淡黄褐色。	

第3号住居址出土遺物（第33図）

器種	番号	大きさ (cm)	形態の特徴	手法の特徴	備考
甕	1	口径(20.5)	口縁外反し、胴部わずかにふくらむ。	口縁丁寧な横撫、体部篋削りやや粗雑、器面凹凸有り。胎土に砂粒を多く含む。焼成良、色調淡黄褐色。	
〃			口縁やや短く、口唇尖る。器面やや凹凸有り。	口縁横撫後、胴部からの間隔の狭い篋削りが施される。胎土に砂粒を多く含み、焼成やや良、色調淡黒褐色。	

器 種	番 号	大 き さ (cm)	形 態 の 特 徴	手 法 の 特 徴	備 考
甕	3	底径 8.1	底部薄く、器内に均一性無し、 胴部の凹凸目立つ。	胴部篋削りやや粗雑。胎土砂粒 を多く含む。ロクロ痕明瞭に残り 内面整形粗雑。焼成不良、色調黒 褐色。	二次的加熱 を受ける。
〃	4	底径 4.3	底部わずかに上底、緩やかに胴 部へ移行。	外面細い篋削り、内面平滑。胎 土細、焼成良、色調黒褐色。	
〃	5	口径(10.9)	有段口縁、形態整う。	口縁横撫、刷毛痕残る。体部刷 毛目明瞭、胎土精選、焼成良、色 調明褐色。	
甕	6	口径(14.0) 器高 12.7 底径 5.1	小形、形態整い、整形やや粗雑。 口唇細く尖る。	上部横撫、下半より篋削り。胎 土細、焼成やや良。色調灰白色、 黒斑有り。	貯蔵穴出土 二次的加熱を 受ける。
坏	7	口径(15.1) 器高 7.3	大形、底部深く稜浅い。口縁直 立、口唇尖る。	口縁丁寧な横撫、胴部篋削り後 撫で、篋削りの稜わずか、胎土精 選、焼成良、色調明褐色。	
〃	8	口径 13.8 4.8	形態整う。稜浅く、口縁ほぼ直 立。	口縁横撫、体部篋削り、胎土砂 粒多く表面露出。焼成やや良、色 調淡黄褐色。	
〃	9	口径(13.8)	口縁ほぼ直立、稜低い。	表面摩滅し、整形不明瞭、口縁 に篋痕残る。内面平滑、胎土細、 焼成良、色調淡褐色。	
〃	10	口径(13.2)	口縁わずかに外反、口唇尖る。	口縁横撫、体部摩滅、篋削り痕 わずかに残る。胎土やや細、焼成 やや甘い、色調黄褐色、内面明褐 色。	
〃	11	口径(13.5) 器高 5.2	底部やや尖り、口縁直立、口唇 篋削り平滑。	口縁横撫、胴部篋削り、胎土細 焼成良、色調淡黄褐色、底部に黒 斑。	
〃	12	口径 13.6 器高(4.4)	底部やや浅い、稜明瞭、口縁や や外反気味に直立。	口縁横撫、胴部篋削りわずかに 残る。胎土やや細、焼成不良、色 調淡黄褐色。	
〃	13	口径 12.1 5.2	胴部深く球形、体部との境の稜 わずか。	口縁横撫、一部沈線残る。胴部 下端に篋削り残り、上端丁寧な撫 でにより消える。胎土やや細、焼 成ほぼ良、色調黄褐色。	二次的加熱 を受ける。

器 種	番号	大 き さ (cm)	形 態 の 特 徴	手 法 の 特 徴	備 考
坏	14	口径(15.0) 器高 4.5	形態整い、口縁内湾。	口縁丁寧な横撫、胴部入念な篋削り。内面撫でやや凹凸。胎土細焼成良好、色調黒褐色。	貯蔵穴内出土。
〃	15	口径(12.0)	口唇尖り、体部丸味をおび、稜を持たない。	口縁横撫、胴部篋削りわずかに残る。胎土細、焼成良、色調黒褐色。	
高 坏	16	口径 19.0	大形、厚手、形態整う。	全面横撫、坏部と脚部の接合痕明瞭に残る。胎土砂粒をやや含み焼成良好、色調明褐色。	
〃	17	口径 16.5	一部球形を呈し、頸部の屈曲少なく、碗状を呈する。形態整う。	口縁横撫、口唇外面に沈線残る。胴部磨滅し篋削り痕わずかに残る。脚部丁寧な撫でにより滑らか、胎土細、焼成はほぼ良、色調淡黄褐色。	
甕	18	口径 7.8 器高 10.8	形態整う。	器面丁寧な撫で平滑、下端篋削りわずかに残る。胎土細、焼成良、色調淡黄褐色。	貯蔵穴出土

第 4 号住居址出土遺物 (第31図)

器 種	番号	大 き さ (cm)	形 態 の 特 徴	手 法 の 特 徴	備 考
甕	1	口径(15.0)	小形、頸部の屈曲やや急。	口縁横撫、体部の篋削り入念、稜良く残る。内面やや粗雑、胎土やや細、焼成良、色調灰白色。	二次的加熱を受ける。
〃	2	口径(16.1)	口縁の立ち上り緩やか。口唇やや丸い。	口縁やや粗雑な横撫、下方に篋痕残る、胎土やや細、焼成甘い、色調灰白色。	
〃	3	底径(7.4)	底部わずかに突出、器壁薄い。	外面丁寧な撫でにより平滑。底部接合時の篋痕有り。底面篋削り痕残る。胎土やや細、焼成良、色調赤褐色。	
坏	4	口径 12.8	形態整い、稜低く、口唇先端やや尖る。	口縁横撫、体部篋削り、胎土細焼成やや甘い、色調赤褐色。	
〃	5	口径 13.2	4に類似し、稜ほとんど消え、口縁はほぼ直立。	口縁横撫、体部の篋削りわずかに残る。胎土細、焼成良、色調黄褐色。	
〃	6	口径(12.1)	口縁直立、稜低い。	口縁横撫、体部の篋削り磨滅により一部残る。胎土細、焼成不良、色調淡黄褐色。	
〃	7	口径(14.0)	稜明瞭、口唇尖る。	口縁横撫、体部篋削り、胎土細焼成良、色調明褐色、黒斑有り。	
碗	8	口径	体部わずかにふくらみ、胴部球形。	体部入念な篋削り後磨き、平滑。内面丁寧な撫で、滑らか。胎土精選、焼成良、色調黄褐色、黒斑。	

第 5 号住居址出土遺物 (第34図)

器 種	番号	大 き さ (cm)	形 態 の 特 徴	手 法 の 特 徴	備 考
甕	1	口径 10.5	頸部の屈曲急、胴部やや開く。	口縁粗雑な横撫、整形時の沈線一周。下半に篋痕顕著に残る。体部篋削り。内面平滑、胎土やや細焼成良、色調灰白色。	
〃	2	口径 16.8	口縁短く外反、胴部のふくらみ無し。	口縁粗雑な撫で、体部荒い篋削り、胎土中に小石、砂粒多く表面露出。焼成不良、色調黄褐色。	
〃	3	底径 5.0	形態整う。底部やや厚く、わずかに上底。	胴部入念な篋削り、胎土やや細焼成やや甘い。色調灰黒褐色。	
〃	4	底径 5.0	形態整う。3に比べやや小形。	体部篋削り、一部叩き目残る。胎土砂粒を含む。焼成やや甘い。色調黒褐色。	
甔	5	口径 27.8 器高 28.4 底径 8.7	大形、形態整い、胴部上半に輪積痕残り、凹凸やや目立つ。	口縁横撫 体部篋削り、内面滑らか。胎土細、焼成良好、色調淡黄褐色、黒斑。	
碗	6	口径 12.9 器高 6.7	口縁わずかに内湾、胴部球形、形態整う。	口縁横撫やや平滑、体部横方行の篋削り。内面滑らか、胎土微砂粒含む。焼成やや甘い。色調黄褐色。	
〃	7	口径 11.3 器高 5.9	やや小形、口縁内湾、形態整う。	6に類似し、体部の篋削りやや入念。胎土、焼成、色調6に類似。	
埴	8	胴径 15.0 胴高 9.3	胴部球形、形態整う。	体部入念な撫、上端に浅い刷毛目残る。頸部は接合面より剥離、一部折り返し残る。底部にわずかな篋削り残る。胎土細、焼成良、色調明褐色。	
台付甕	9	底径(9.0)	「ハ」の字に開き、接合面より剥離。	外面横撫、上部に3条単位の刷毛目。内面指頭痕明瞭。脚端折り返し、胎土細、焼成良、色調灰白色、内面黒褐色。	フク土混入。

第 6 号住居址出土遺物 (第32図)

器 種	番号	大 き さ (cm)	形 態 の 特 徴	手 法 の 特 徴	備 考
甕	1	口径(16.4)	口縁ゆるやかに外反、沈線残る。	口縁横撫、体部篋削り、胎土砂粒多く表面露出、焼成良、色調暗褐色。	
坏	2	口径(14.1)	稜浅く、上方に沈線残る。	口縁横撫、体部篋削り、胎土やや細、焼成不良、色調暗黄褐色。	
〃	3	口径(10.8)	口縁中央に浅い沈線、やや薄手。	口縁粗雑な横撫、胎土に微砂粒含、焼成やや甘い。色調黄褐色。	

第7号住居址出土遺物（第35図）

器 種	番号	大 き さ (cm)	形 態 の 特 徴	手 法 の 特 徴	備 考
甕	1	口径(20.8)	口縁外反し、口唇やや尖る。	口縁横撫、胴部篋削り、胎土微砂粒、雲母片多量に含む。焼成やや良、色調淡黄褐色。	二次的加熱を受ける。
〃	2	口径(21.4)	口縁わずかに外反、肥厚。胴部のふくらみほとんど無し。	口縁横撫、体部に細い篋削り。胎土小砂含む、焼成良、色調黄褐色。	
〃	3	口径(22.6)	大形で、口縁に整形時の沈線深く残る。	口縁横撫、体部入念な篋削り。胎土やや細、焼成良、色調暗褐色。	
〃	4	口径(13.5)	口縁外反し、口唇先細。頸部の稜明瞭。口縁中ほどに沈線一周。	口縁丁寧な横撫、体部篋削り、胎土やや細、焼成良、色調淡黄褐色。	
甗	5	底径(10.5)	底部先端尖る。	胴部篋削り、内面平滑、胎土やや細、焼成良、色調黒褐色。	
甕	6	底径(7.2)	底部突出、やや上底。	外面磨滅、整形不明、内面撫で平滑。胎土やや細、焼成良、色調暗茶褐色。	
鉢	7	口径(14.1)	薄手、口縁先細、端部尖る。口縁に接合時の沈線残る。	口縁横撫、体部篋削り、胎土やや細、焼成やや良、色調黒褐色。	
坏	8	口径 13.7 器高 4.3	器形やや歪む。口縁有段。	口縁横撫、体部の篋削りわずかに残る。胎土やや細、焼成やや細色調黒褐色。	
〃	9	口径(11.0)	薄手、口縁直立し、先端鋭く尖る。	口縁横撫、体部撫でにより篋削り痕消える。胎土細、焼成やや甘い。色調淡黄褐色。	
〃	10	口径 12.9 器高 4.4	形態整う。有段口縁、口唇細く尖る。	口縁横撫、体部篋削り、胎土やや細、焼成不良、色調灰白色。	
高 坏	11	口径(13.7)	口縁大きく開き、口唇やや尖る。稜部に整形時の沈線が一部残る。	全面丁寧な横撫、器面滑らか、胎土精選、焼成良、色調明褐色。	

第8号住居址出土遺物（第36図）

器 種	番号	大 き さ (cm)	形 態 の 特 徴	手 法 の 特 徴	備 考
甕	1	口径(15.6)	「く」の字状口縁。	外面全面に撫で、口縁に整形時の沈線、篋痕残る。胎土粗、焼成不良、色調淡黄褐色。	
〃	2	口径(18.5)	「コ」の字状口縁。	口縁横撫、胎土粗、焼成やや良色調淡黄褐色。	

器 種	番号	大 き さ (cm)	形 態 の 特 徴	手 法 の 特 徴	備 考
碗	3	口径 13.4 器高 4.8 底径 3.5	形態整う。口縁やや内湾、厚手。	口縁横撫、体部に刷毛痕を残す。底部篋削り。胎土砂粒を多く含む。焼成良、色調暗褐色。	内外とも丹をわずかに残す。
〃	4	口径 14.0 器高 4.9	口縁部にやや歪みを持つ。	口縁丁寧な横撫、体部篋削り後撫でにより篋痕がわずかに残る。胎土細、焼成良、色調黄褐色、黒斑。	内外とも丹彩よく残る。二次的加熱を受ける
高 杯	5		脚部やや細く、表面の凹凸目立つ。	外面撫、内面絞り痕残る。胎土細、焼成良、色調淡褐色、黒斑有り。	
須恵器 甕	6			外面叩き目、内面青海波文わずかに残る。	

第10号住居址出土遺物（第37、38図）

器 種	番号	大 き さ (cm)	形 態 の 特 徴	手 法 の 特 徴	備 考
甕	1	口径 21.0 器高 35.7 底径 4.6	形態整う。口縁外反し、外面沈線一周する。頸部の接合痕残り、胴部との境明瞭。	口縁丁寧な横撫、体部篋削り、胎土小砂わずかに含む。焼成良、色調淡黄褐色。	カマド内出土。
〃	2	口径 18.9 器高 34.3 底径 6.0	形態整う。器面やや凹凸、胴部わずかにふくらむ。	口縁横撫、指頭痕残る。体部縦の篋削り、底部付近、斜め、横の篋削りやや入念。胎土中に砂粒多く含む表面露出。焼成良、色調淡黄褐色、下半赤褐色。	カマド内出土。
〃	3	口径(18.2)	口縁外反し、胴部やや凹凸。	口縁横撫後間隔の狭い篋削り。体部篋削痕、沈線深く残る。内面篋削り粗雑、沈線残る。胎土に砂粒を含む。焼成良、色調淡黄褐色。	
〃	4	口径(21.5)	口縁有段、胴部大きく開く。	口縁横撫、体部篋削りわずかに残る。内面の撫でやや粗雑。胎土やや細、焼成良、色調暗褐色。	
〃	5	底径 9.8	やや大形、形態整う。	外面篋削り、一部横撫。胎土小石を含み、表面露出 焼成良、色調淡黄褐色、黒斑有り。	
〃	6	底径 5.8	底部平滑、胴部やや凹凸。	体部篋削り後撫、胎土砂粒多く含む露出。焼成良、色調黒褐色。	

器 種	番号	大 き さ (cm)	形 態 の 特 徴	手 法 の 特 徴	備 考
甕	7	底径 6.4	底面中央部で丸味をおび、やや高台状を呈し、胴部緩やかに開く。	胴部篋削り、胎土やや細、焼成良、色調淡黄褐色、黒斑有り。	
〃	8	底径 6.0	底面平滑、胴部篋削りによる凹凸顕著。	篋削り、胎土やや細、焼成良、色調黄褐色。	
〃	9	口径 14.3 器高 18.0 底径 4.6	形態整う。口縁外反し、端部外側を削る。	口縁横撫、一部整形時の沈線残る。頸部に篋痕顕著に残る。体部入念な篋削り、胎土砂粒、雲母片含み表面に露出。焼成良、色調明褐色。	
〃	10	口径 13.8 器高 15.0	9にやや類似し、胴部丸味が強い。	口縁横撫、下端に篋削り、体部篋削り。胎土砂粒を含みやや露出。焼成良、色調明褐色。	二次的加熱を受ける。
甌	11	口径 22.0 器高 22.1 底径 7.5	形態整う。頸部の屈曲ゆるい。器面の凹凸やや目立つ。	口縁横撫やや粗雑、体部篋削り内面下端の輪積痕明瞭 胴部に整形時の篋痕顕著に残る。胎土やや細、焼成良、色調淡黄褐色、黒斑有り。	
〃	12	底径(8.6)	やや薄手、大形。	表面やや磨滅し篋削り痕わずかに残る。胎土やや細、焼成やや甘い。色調淡黄褐色。	
〃	13	底径 3.0	孔小さく、胴部やや丸味をおびる。	磨滅、剥離し、下方に篋削りわずかに残る。胎土砂粒を含む。焼成良、色調淡黄褐色、黒斑有り。	
坏	14	口径(12.0) 器高 6.1	球形の胴部から、頸部で内湾し短い口縁がつく。口縁先細になり先端やや尖る。	全面横撫、器面滑らか。胎土精選、焼成良。色調淡褐色。	
〃	15	口径(13.0) 器高 4.8	胴部やや深く球形。稜浅く口縁わずかに開く。	口縁横撫、胴部磨滅し篋痕わずかに残る。胎土細、焼成やや甘い、色調黄褐色。	二次的加熱を受ける。
〃	16	口径(14.9)	やや大形で底部浅い。	器面全体に滑らか。口縁横撫、胴部の篋削り不鮮明。胎土細、焼成良、色調淡黄褐色。	
〃	17	口径(15.9) 器高(6.1)	底部深く、頸部のくびれごくわずか。口縁鋭く開く。	口縁丁寧な横撫、平滑。体部篋削り。内面滑らか、胎土細、焼成良、色調外面灰白色、内面赤褐色。	内面及び口縁の一部丹残る。
〃	18	口径 12.6	形態整う。胴部やや浅く稜明瞭。	口縁横撫、体部篋削り、胎土細	

器 種	番号	大 き さ (cm)	形 態 の 特 徴	手 法 の 特 徴	備 考
坏	19	器高 4.5 口径(12.6)	口縁直立し、上端で外反。内側より削り尖る。 稜端丸味をおび口縁外反。	焼成良好、色調明褐色。 内外とも磨滅多く整形不明。胎土粗雑。焼成やや良、色調暗黒褐色。	
〃	20	口径 14.0 器高 4.7	稜浅く不鮮明、口縁ほぼ直立。 胴部やや凹凸目立つ。	口縁横撫、体部篋削り。胎土細焼成やや甘い。色調明褐色。	
〃	21	口径(15.8) 器高 3.5	底部やや浅い、有段口縁	口縁横撫、体部篋削り後磨きにより滑らか。内側に暗文。胎土精選、焼成良、色調黒褐色。	
〃	22	口径(17.1) 器高 3.9	形態整う。口縁外反し、口唇折返し。	口縁横撫、体部篋削り、器面滑らか、胎土細、焼成良、色調茶褐色、黒斑有り。	
高坏?	23	口径(16.8)	稜部から口縁大きく開き先端やや丸くなる。	口縁横撫、体部篋削り、器面滑らか、胎土細、焼成良、色調暗褐色、黒斑有り。	
坏	24	口径(14.7)	口縁やや内湾気味に立ち上り、先端やや広がる。	口縁丁寧な横撫、体部篋削り、胎土やや細、焼成良、色調黒褐色。	
須恵器 蓋	25	口径(24.1)	肩部の稜鋭く明瞭。	口縁横撫、体部残存部分少なく不明、胎土に微砂粒やや多く含む色調青灰色。	

第11号住居址出土遺物（第39、40図）

器 種	番号	大 き さ (cm)	形 態 の 特 徴	手 法 の 特 徴	備 考
甕	1	口径(17.0)	口縁外反、胴下半に最大径。	口縁横撫、平滑、胴部篋削り、胎土に砂粒多く含む。焼成良、色調黒褐色	
〃	2	口径(18.0)	頸部ややふくらみ、胴部のふくらみ少ない。	口縁上端のみ横撫、下半粗雑な篋削り、体部縦の篋削り。胎土多量の小砂含み表面露出、焼成やや良、色調黒褐色、黒斑有り。	
〃	3	底径 7.9	大形で底部わずかに突出し、胴部大きく開く。	体部わずかに篋削り、篋痕を残し、整形粗雑、底部木の葉痕を残し丁寧な磨きにより滑らか。内面深めの指頭痕残す。胎土粗雑、焼成やや良、色調暗褐色。	
鉢	4	口径(24.0)	口縁肥厚、ゆるやかに外反し、端部わずかに折返し状を呈する。	口縁横撫、頸部以下に棒状工具と思われる痕、沈線残る。胴部やや粗雑な篋削り。胎土細、焼成良色調淡黄褐色。	
甕	5	底径(6.5)	底部の器壁やや薄く、胴部丸味をおびる。	やや荒い篋削り、部分的撫、内面平滑、胎土砂粒含む、焼成良、色調淡黄褐色。	
〃	6	底径(7.0)	底部上げ底、胴部立ち上りやや	表面磨滅し篋削り痕わずかに残	二次的加熱

器 種	番号	大 き さ (cm)	形 態 の 特 徴	手 法 の 特 徴	備 考
甗	7	口径 22.0 器高 30.8 底径 9.0	急。 形態整う。胴部の凹凸やや目立つ。	る。胎土やや細、焼成良、色調赤褐色。 口縁粗雑な横撫、胴部縦の筥削り、内面平滑、胎土やや細、焼成やや良、色調黄褐色、黒斑有り。	を受ける。
〃	8	底径 4.6	やや小形。	体部筥削り、胎土に小砂を含み表面露出、焼成不良、色調暗褐色黒斑。	
〃	9	口径 13.7 器高 5.2	底部やや深く、口縁緩やかに外反する。	口縁横撫、胴部筥削り、胎土やや細、焼成やや甘い。色調明褐色	
坏	10	口径 13.9 器高 4.7	形態整う。器肉の厚さ不均等。	口縁横撫、体部筥削り後撫、胎土細、焼成やや甘い。色調淡黄褐色。	
〃	11	口径 12.6 器高 4.7	底部やや浅く、口縁やや直立し口唇尖る。形態整う。	口縁横撫、胴部磨減し、整形不鮮明、胎土細、焼成良、色調淡黄褐色。	
〃	12	口径 12.9 器高 5.4	形態整う。底部やや深く、口縁ほぼ直立。	口縁横撫、体部磨減し、筥削りわずかに残る。胎土砂粒含む。焼成やや良、色調淡黄褐色。	
〃	13	口径 13.0 器高 5.1	11にほぼ類似。	口縁横撫、胴部筥削り、胎土砂粒を多く含み器面ザラつく。焼成やや良、色調赤褐色。	二次的加熱を受ける。
〃	14	口径(15.1) 器高(3.8)	口縁わずかに内湾し、口唇尖る。	口縁横撫、体部粗雑な筥削り、胎土やや細、焼成良、色調淡黄褐色、黒斑有り。	
〃	15	口径(14.0) 器高 3.6	14にほぼ類似。	口縁横撫、体部筥削り後撫、滑らか。胎土精選、焼成良、色調黒褐色。	

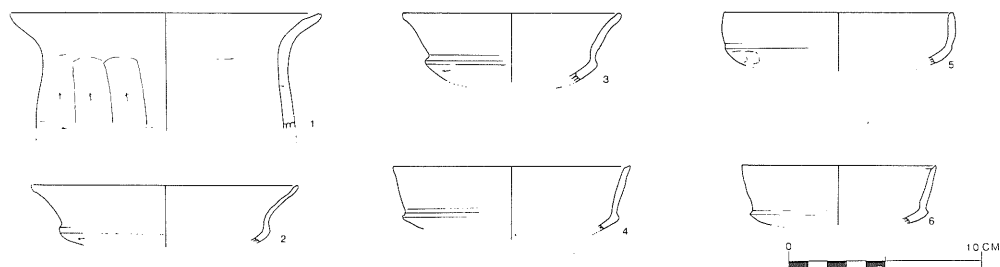
第12号住居址出土遺物（第41図）

器 種	番号	大 き さ (cm)	形 態 の 特 徴	手 法 の 特 徴	備 考
羽 釜	1	口径(21.0) 器高(30.8) 底径(12.9)	口縁内湾、鐔は、断面三角形、体部接合痕残り、凹凸目立つ。	鐔貼付、体部下半に斜位の筥削り胎土に、5mm前後の礫、小砂粒を含み表面に露出、焼成良、色調淡黄褐色、口縁赤褐色に変色。	
坏	2	口径 14.6 器高 6.3 底径 9.0	高台垂下し、下半で「ハ」の字状に開く。	ロクロ成形、高台貼付、外面のナデ粗雑、胎土砂粒多く、表面ザラつく、焼成やや良、色調淡黄褐色。	

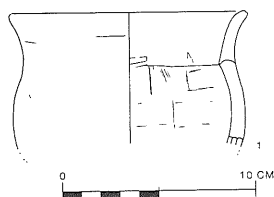
第13号住居址出土遺物（第42図）

器 種	番号	大 き さ (cm)	形 態 の 特 徴	手 法 の 特 徴	備 考
甕	1	口径(20.5)	有段口縁、大きく外反。	口縁横撫、一部指頭痕残る。体部篋削り、胎土に砂粒多く表面ザラつく。焼成やや良、色調黄褐色黒斑。	カマド内出土。
〃	2	口径(15.2)	「く」の字状口縁、口唇外側より削り尖る。	口縁横撫、篋痕顕著に残る。胴部篋削り、胎土小砂含み表面露出焼成良、色調黄褐色。	
〃	3	口径 16.0 器高 15.7	形態整い口辺にやや歪み。	口縁横撫、下端に指頭痕明瞭。胴部磨滅、整形不明瞭ザラつく。内面平滑、胎土やや細、焼成やや良、色調黒色。	
〃	4	口径(13.0)	小形、口縁「く」の字状を呈し、口唇やや尖る。	器面全体が磨滅、頸部に篋整形時の粘土盛り上る。胎土やや細、焼成良、色調暗褐色。	
〃	5	底径(6.0)	底部の突出無し、胴部の立上りやや急。	胴部やや入念な篋削り、胎土に砂粒多く表面露出。焼成良、色調暗褐色。	
甕	6	口径(20.0) 器高(15.1) 底径(7.1)	やや小形、口縁わずかに外反。	口縁粗雑な横撫、胴部篋削り叩き目残る。胎土やや細、焼成良、色調淡褐色、黒斑有り。	
坏	7	口径 13.2	底部やや浅く、有段口縁。	口縁粗雑な横撫、体部篋削り、胎土やや細、焼成甘い。色調黄褐色、暗青灰色。	二次的加熱(高温)により一部青灰色
〃	8	口径 11.4 器高 3.4	7とほぼ同様、やや小形。	7と類似。	7に類似し変質著しい。
〃	9	口径(14.1) 器高(4.5)	形態整う。有段口縁。	口縁横撫、体部篋削り、胎土細焼成やや良、色調黒褐色、黒斑有り。	
〃	10	口径(12.8) 器高 4.0	胴部丸味をおび、口縁開く。	磨滅著しく不明瞭。内面剥離著しい。胎土やや細、焼成不良、色調黒褐色。	
〃	11	口径(12.8) 器高 4.0	体部との境の稜ごくわずか。口唇尖る。	口縁横撫、体部磨滅により不鮮明、胎土中にやや大きめの石含む。焼成不良、色調暗青灰色。	7、8同様二次的加熱による変質著しい。
〃	12	口径(13.4)	体部との境の稜明瞭。口縁直立気味に立ち上り口唇尖る。	口縁横撫、体部篋削り後撫で滑らか、胎土やや細、焼成良、色調明褐色。	

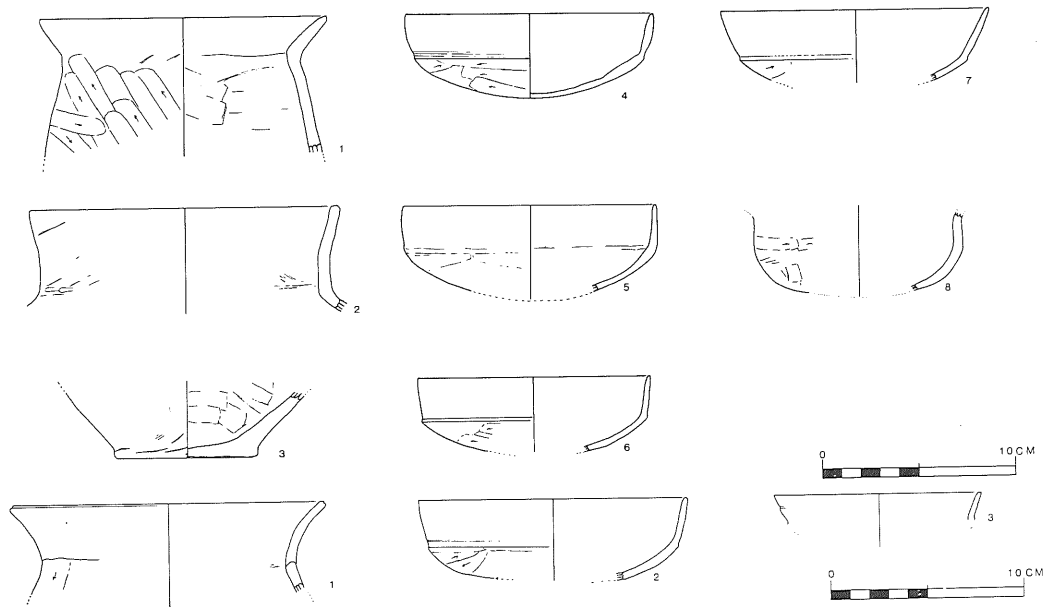
器 種	番号	大 き さ (cm)	形 態 の 特 徴	手 法 の 特 徴	備 考
坏	13	口径 10.9 器高 3.9	小形、口縁内湾気味に立ち上る。 形態整う。	口縁横撫、体部篦削り、胎土やや細、焼成良、色調暗褐色。	
高 坏	14	底径(11.4)	脚部ゆるやかに開き、裾は大きく開く。	外面丁寧な撫でにより滑らか。 内面やや粗雑。胎土精選、焼成良 色調明褐色。	



第29図 第1号住居址出土遺物

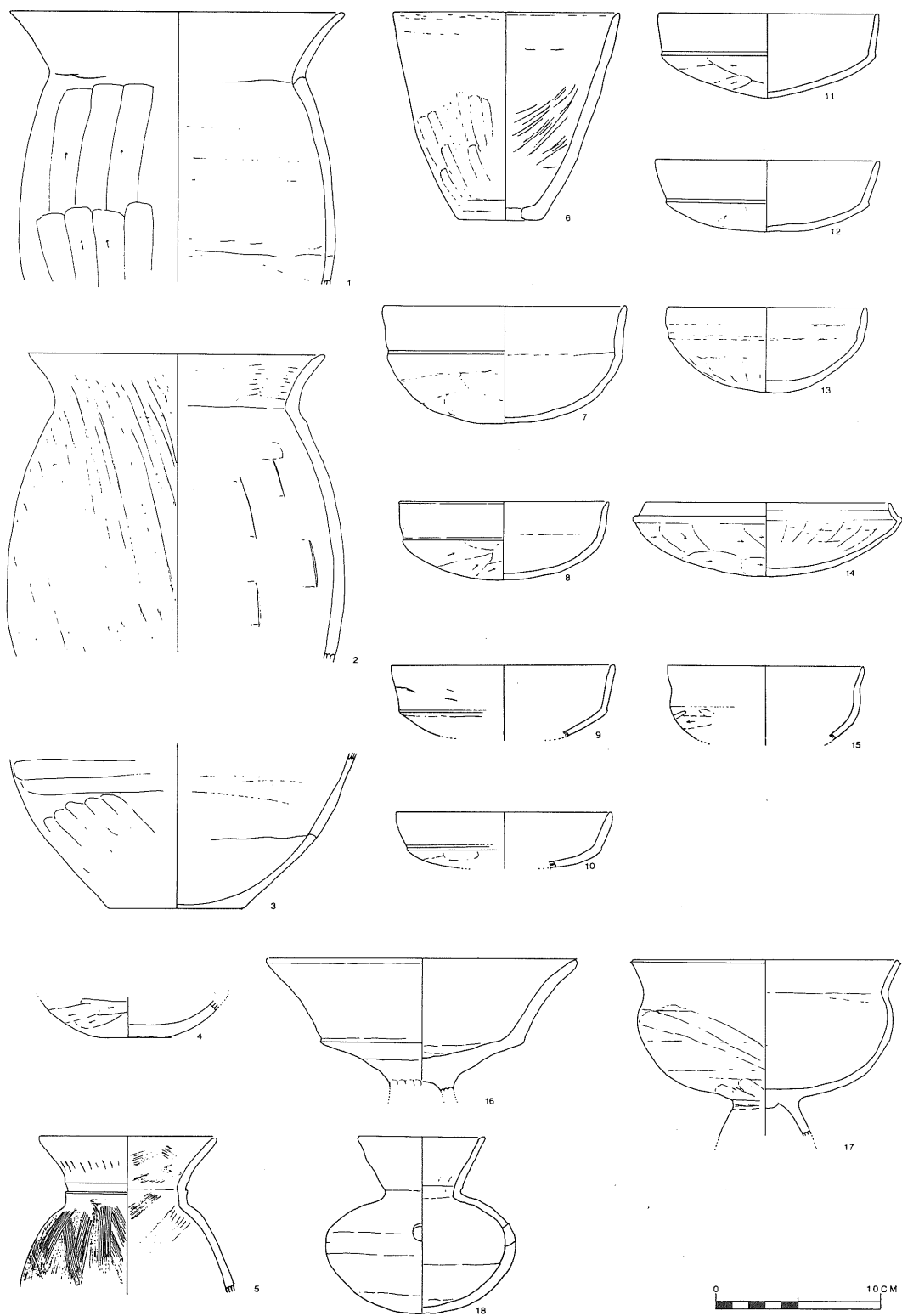


第30図 第2号住居址出土遺物

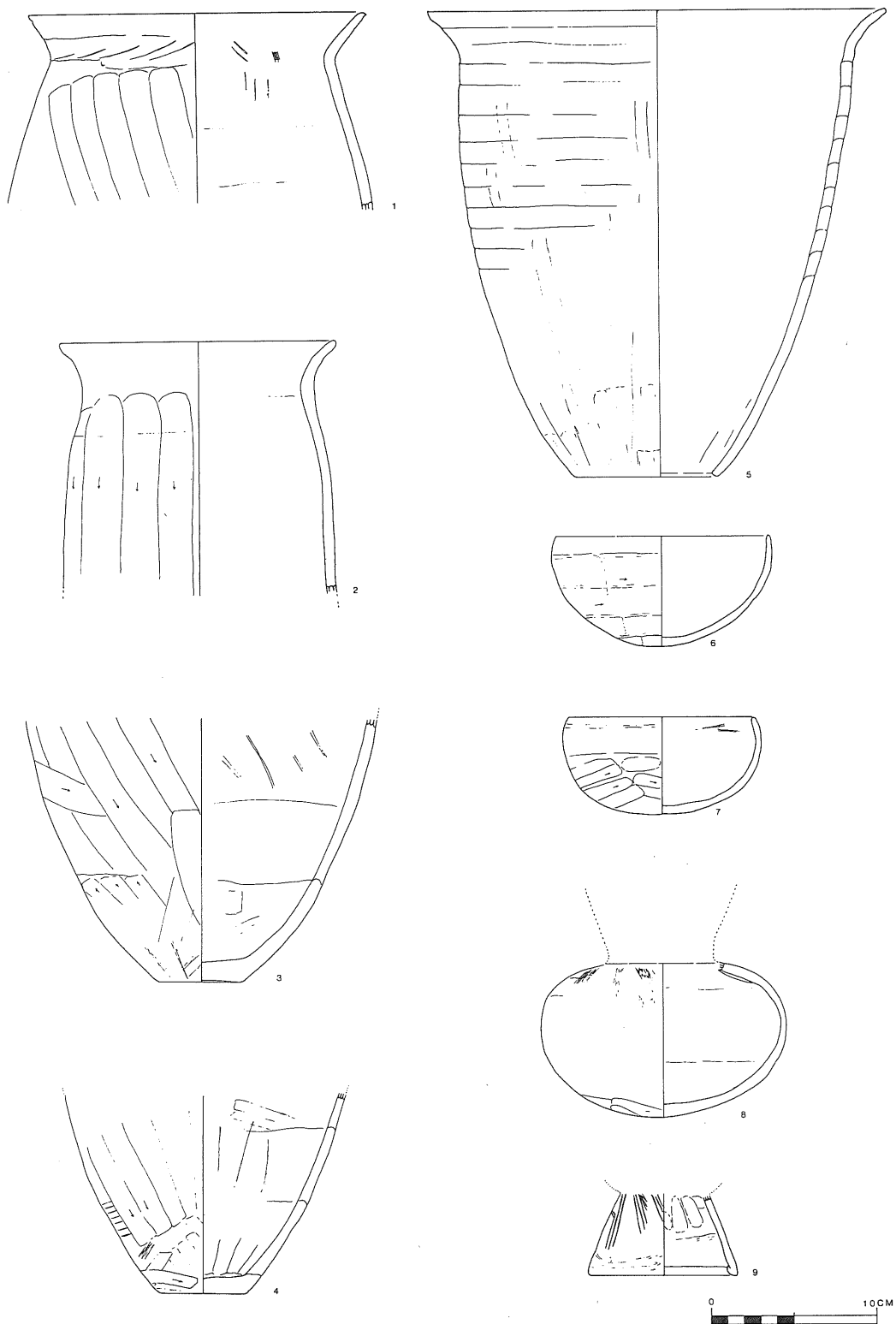


第32図 第6号住居址出土遺物

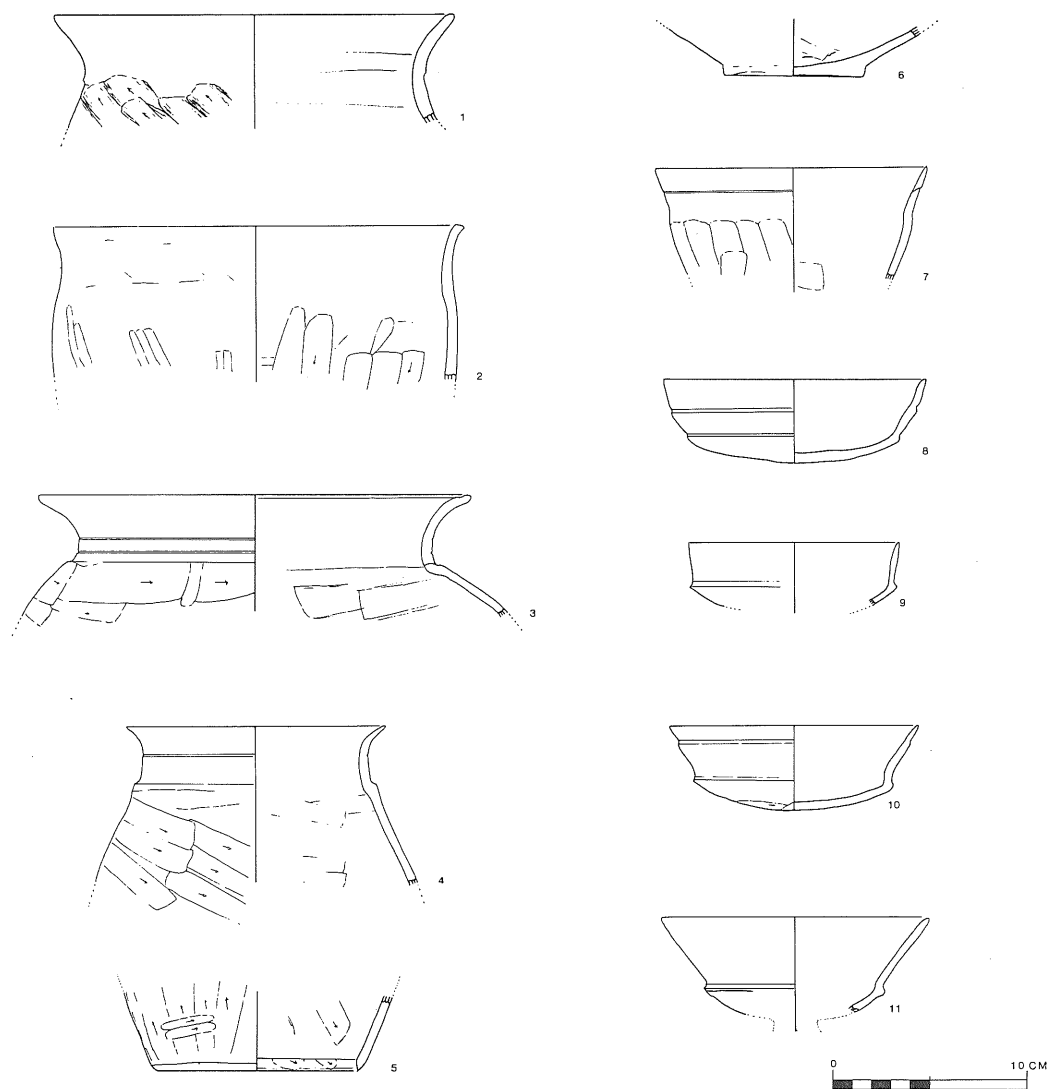
第31図 第4号住居址出土遺物



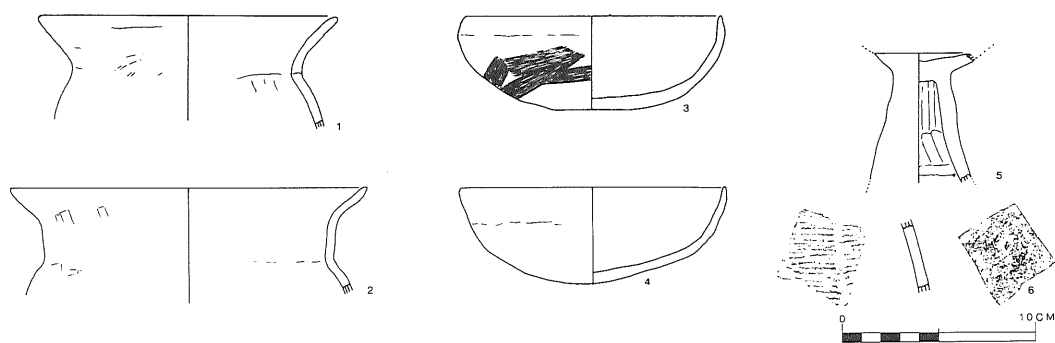
第33図 第3号住居址出土遺物



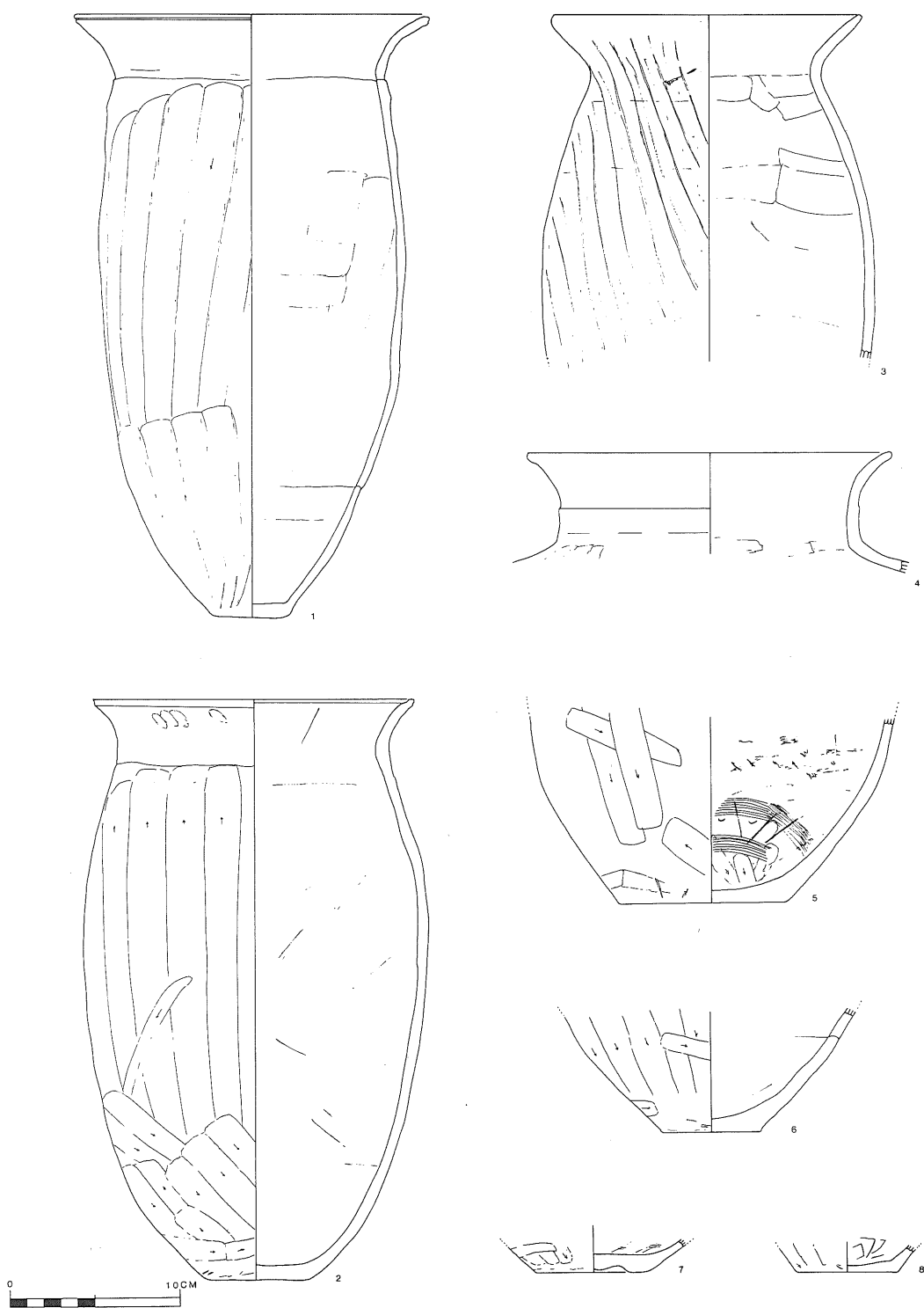
第34図 第5号住居址出土遺物



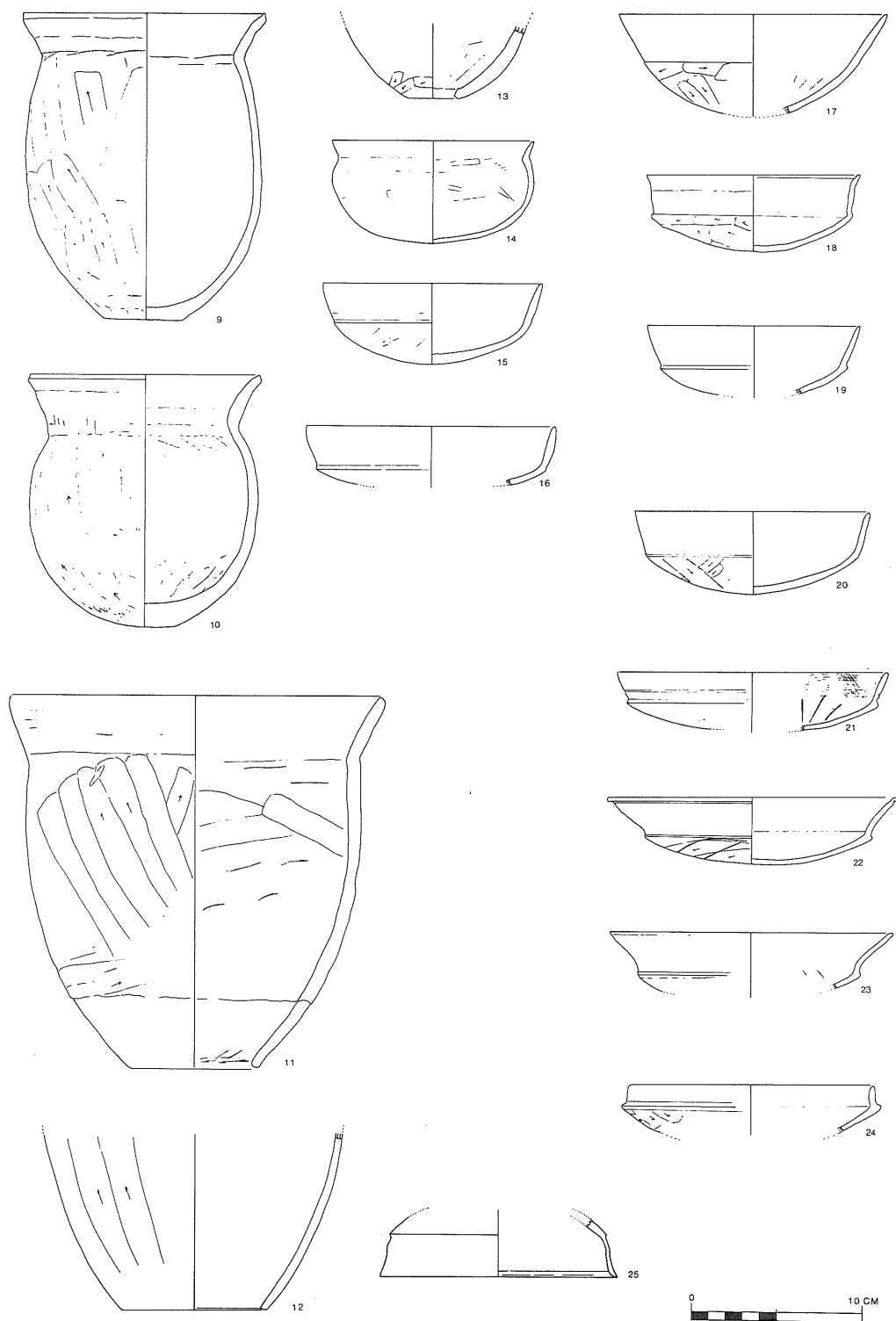
第35図 第7号住居址出土遺物



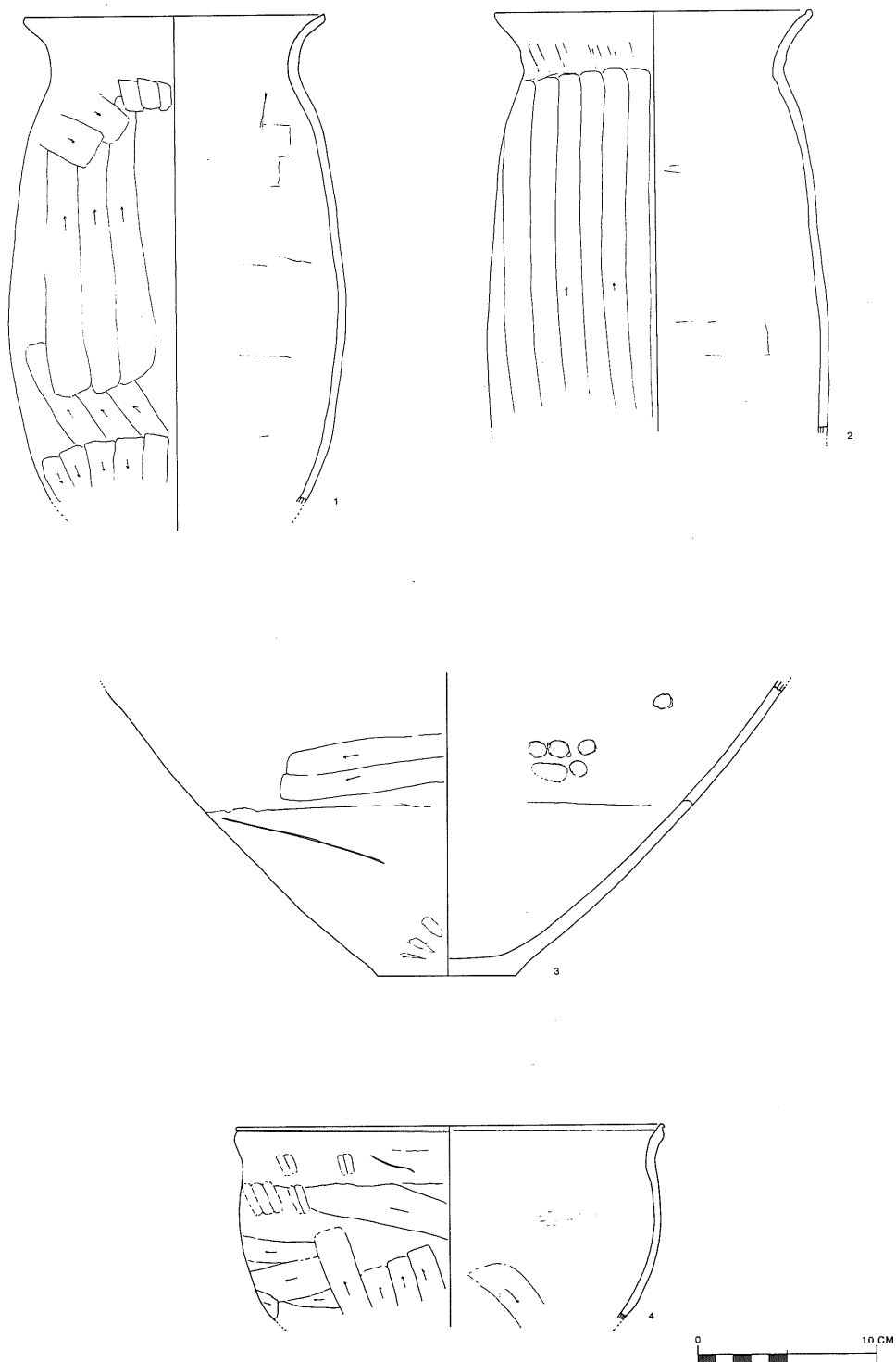
第36図 第8号住居址出土遺物



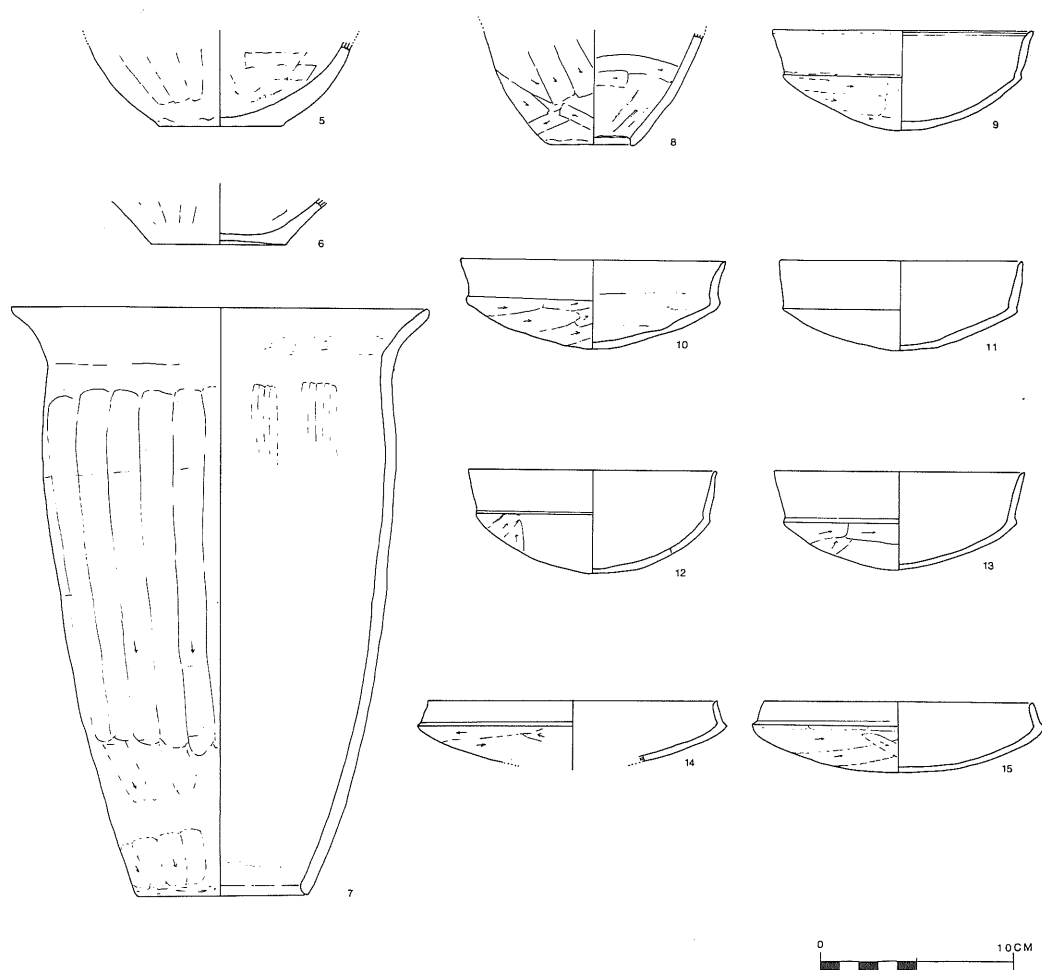
第37図 第10号住居址出土遺物(1)



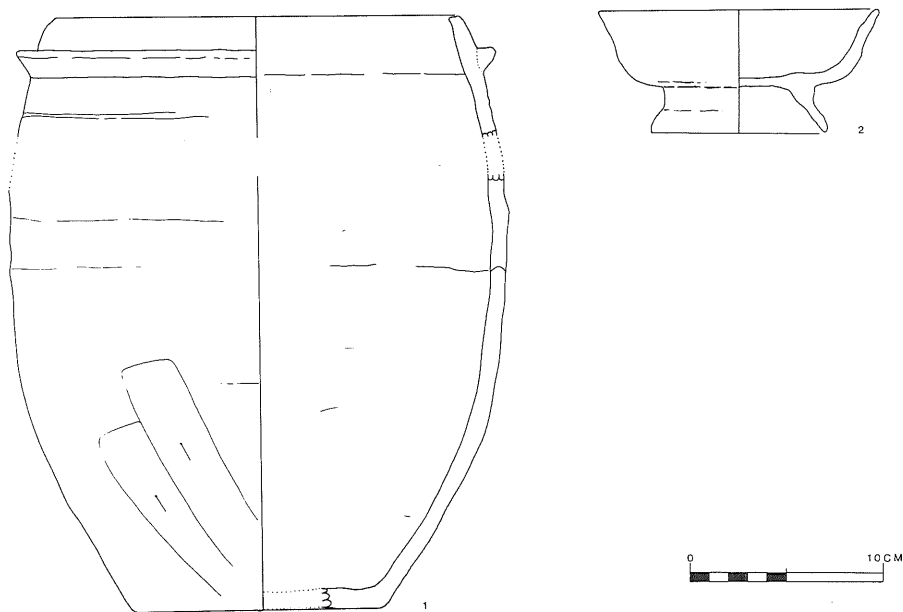
第38図 第10号住居址出土遺物(2)



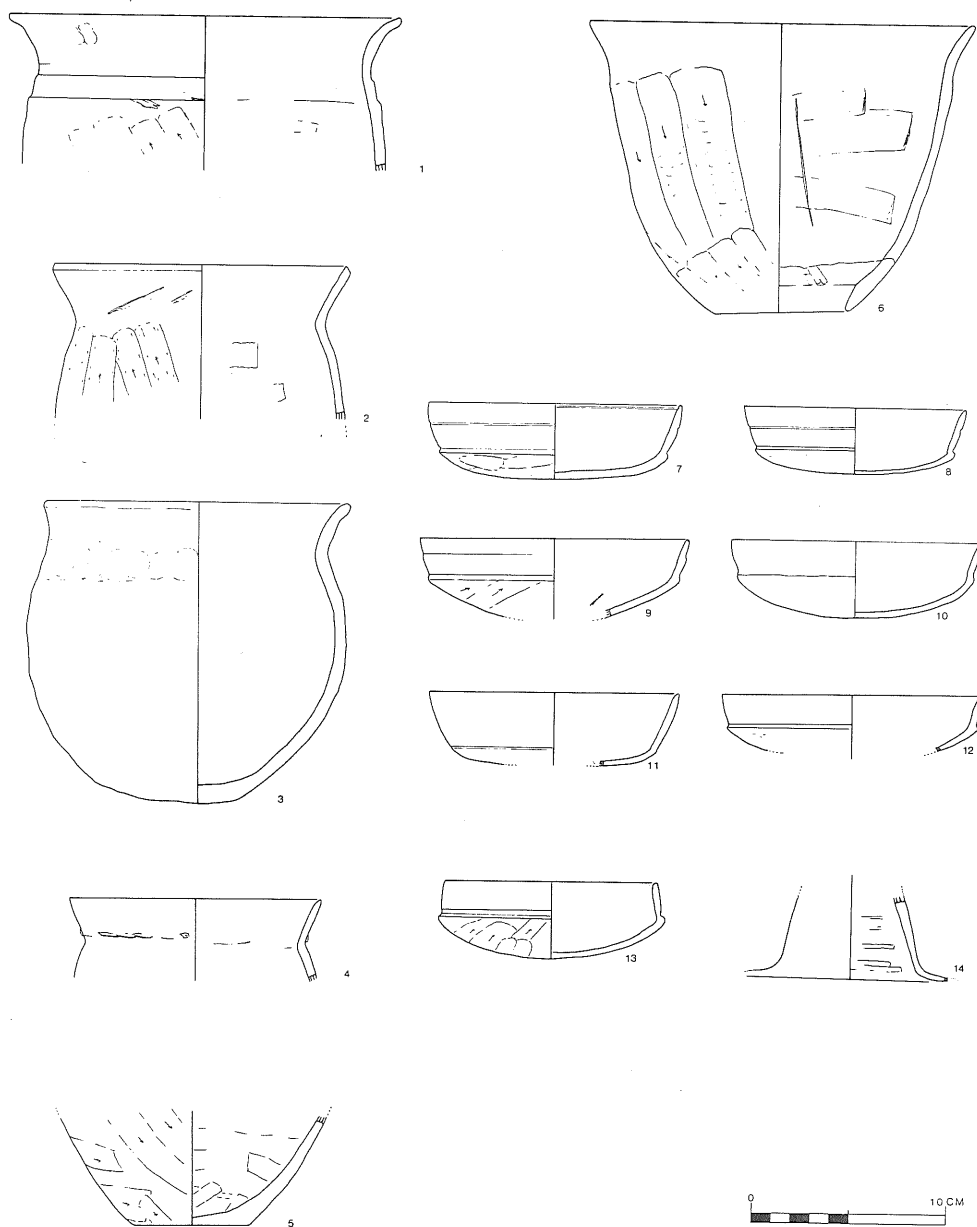
第39図 第11号住居址出土遺物(1)



第40図 第11号住居址出土遺物(2)



第41図 第12号住居址出土遺物



第42図 第13号住居址出土遺物

飯 塚 南 遣 跡

V 飯塚南遺跡

1. 遺跡の概観

本遺跡も、道ヶ谷戸遺跡同様、条里遺跡の調査中新たに確認された遺跡であったが、その調査と平行し、一部試掘を行ない、弥生時代中期の再葬墓、住居址及びカマドを有する住居址が、確認され、次年度の調査事業として実施されたものである。

遺跡は、従来知られている飯塚遺跡の南西約500m、道ヶ谷戸条里遺跡の北西約1,000mの微高地上にあり、すでに表土を削られているが、南側の畑の標高は、約31mあり、水田との比高は、1.5～2m程あったと思われる。調査は、微高地とその東側の低地約6,000㎡を調査することができたが、遺跡の範囲は、かなり広がると思われる。調査によって確認された遺構は、住居址が33軒（弥生4軒、古墳後期22軒、平安1軒、不明6軒）、土坑9、弥生の単独埋設土器3、井戸址6、溝2本である。その他、表土中より縄文後期、弥生中期の遺物が発見されている。特に、弥生中期の住居址は、その類例に乏しく、極めて有益な資料と言える。更に、出土遺物においても、豊富な資料を得ることができた。これらをより有益なものとするために、当初の予定を変更し、この弥生時代の資料、縄文の遺物については、後日、新たに刊行する予定である。

（荒川弘）

2. 遺構と遺物

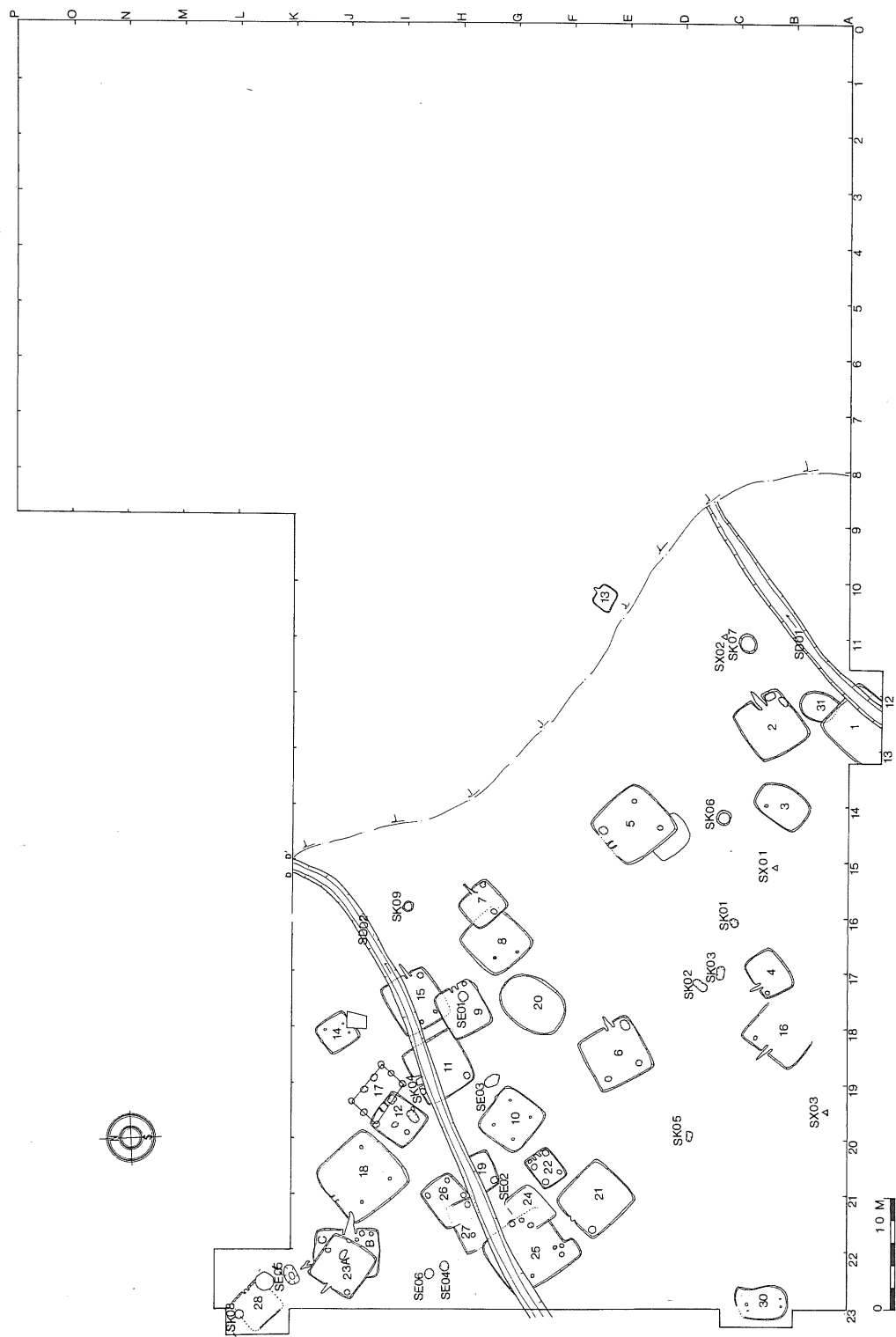
(1) 遺構

第1号住居址（第44図）

遺跡中、最も南に位置し、一部調査区域外に当たるため全容は、明瞭ではないが、短辺が4.7m、長辺が5m強の長方形プランになるものと思われる。短辺は、弥生の住居31号住居址を壊し造られ又、SD01によって切られている。このSD01の構築に際し、カマドは、壊され現存しないが、溝の左側に焼土が集中し、及び溝中にも焼土がみられることから、東北に向くカマドがあったものと推定される。壁の立ち上がりは、ゆるやかで床面には炭化材、焼土があり焼失した住居で、炭化材の中には、細い竹がみられた。柱穴、貯蔵穴等のピットは、確認されていない。遺物は、鬼高期の土器を主体とするが、ほとんどが小片である。又、土錘が覆土中より1個出土している。

第2号住居址（第45図）

1号住居址の北に隣接し、その最短距離は約1mである。プランは、一辺が約5mのほぼ隅丸の正方形となり、壁は、垂直に近い立ち上りを示す。床面は、全体的によく堅くしめる。カマドは東壁やや南よりに構築され、住居址内に左の袖1.1m、右の袖1.2mほど延び煙道が住居址外に0.8mほど延びて、比較的保存状態は、良好であったが、カマド内には土器はみられなかった。カマドの右に平面長方形の貯蔵穴と思われるピットを2つ有し、P.1は床面から約0.7mほど深く掘り下げられ、中から小形の壺が底近くから出土している。P.2は、P.1に較べやや小さく深さも浅く約0.3mであり、長甕・甗が出土している。その他、カマド近くに、円形の小ピットがあるが、柱穴と思われるようなものはない。



第43図 飯塚南遺跡全測図

第4号住居址 (第47図)

16号住居址の東に接するもので、16号住居址の保存状態が悪く、あるいは16号住居址を壊して、構築された可能性もある。プランは、南北3.1m東西4.2mを測り、隅丸長方形といえる。カマドは、長辺の中央、西よりに作られ、右に浅い貯蔵穴状のピットを有し、その上部及び、カマド周辺に遺物が集中するがその数は多くない。貯蔵穴以外にピットは2本あり、深さはあまり深くなく、柱穴かどうかは明瞭でない。遺物は土師器を主体とし須恵器の蓋が1個出土している。

第5号A住居址 (第49図)

長辺6.2m、短辺5.1mの長方形のプランで南のコーナー部分に、5号B住居址を壊し、造られ、カマドに接する付近に攪乱を受けている。周溝は攪乱部分を除き、全周し幅15cm前後、深さ10cm前後でカマドは北壁の中央部にあり、全て住居址内に造られ、保存状態はあまりよくない。ピットは全部で3本あるが、P1は、カマドの右に造られた。貯蔵穴で、平面プランは楕円形、深さは床面より約1mを測る。同ピット内より、長甕、甑、杯が出土している。P2、P3は南壁近くにあり、柱穴と思われる。全体的に、遺物の出土が多く、西壁の中央附近の覆土中より、滑石製の臼玉が、出土している。壁は、やや斜めに立ち上がる。

第5号B住居址 (第49図)

3.5×2.5mの長方形プランと思われるが、第5A住居以前に造られたものであるが、遺物もなく判然としない。

第6号住居址 (第52図)

一辺5.5mのほぼ正方形のプランを呈し、浅い壁溝が一周する。カマドは東壁南寄りに構築され、壁外70cmに煙道が延び、カマド内に、破損した高坏、小型の壺を倒立し、支柱として利用し、長甕が立て掛けて残り、その他、土器片がカマド内より多く出土している。カマドの右側に、楕円形プランの貯蔵穴があったが、遺物は小片のみ出土している。その他2本のピットがあるが、P2は円形で浅く、P3は、床面より約30cm程掘り鉢状に掘り下げ、以下垂直に20cm掘り下げられたもので柱穴であろう。壁はほぼ垂直に立ち上がり床面から20～30cmの壁高を測るものである。本住居址は、火災に依り、焼失したもので、覆土、床面に焼土、炭化材が顕著に認められたが、炭化材は、屋根材と思われる細かいもので、角材や丸太材等の骨格材料は確認されていない。遺物は、覆土中の小片を除くと、大部分が床面より出土した完形品、及びそれに近いもので、特にカマド周辺に多く集中した傾向が強い。又、西壁中央部の壁際に、臼玉を納めた坏が出土している。以上の様に本住居址は、火災に依って、内部の土器がそのまま放置され残ったもので、本遺跡中最も多くの遺物を出土したものである。

第7号住居址 (第53図)

西壁部で第8号住居址と重複するもので、大きさは $3.7m \times 3.5m$ の隅丸不正形プランを呈する。カマドは東壁の北寄りに、壁内 $70cm$ に焚口、燃燒部をもち、煙道は壁外へ約 $1m$ 程延びているものでカマド内から、坩の口縁部を利用した支柱に乗せた状態で、長甕、更に天井部に小形の壺を組み合わせた状態で出土している。その他、カマドの左側の床面に土製の支柱が出土している。貯蔵穴は、東南コーナー部に、楕円形で、深さ $1m$ のものがあり、内から、甕・甗・坏が出土している。壁溝、柱穴は認められない。

第8号住居址 (第53図)

東壁の $\frac{3}{4}$ 、及び南壁の一部が第7号住居址の構築に依り消失し、カマドもこの部分にあったものと思われ残っていない。大きさは、残存部分から一辺約 $5.0m$ 前後の隅丸方形を呈するものと思われる。第7号住居址と重複する、東南コーナー部分に、楕円形のピットが認められるが、本住居址に伴う貯蔵穴に思われ、内から土師器の小片が若干出土している。他に2本の小ピットがあり何れも深さ数 cm のもので柱穴の可能性は少ない。遺物は少なく、坏、甕の口縁部、高坏の坏部等非常に少ない。

第9号住居址 (第56図)

第11・15号住居址と重複し、住居址内に井戸址SE01が構築されるもので、一辺 $4.5m$ 前後の隅丸方形プランを呈し、南壁の張り出しは攪乱である。カマドは東壁中央部に作られ、壁外の煙道は認められず、内から甕が2個体出土している。貯蔵穴はカマドの右に $0.8m \times 0.6m$ の楕円形プランを呈し深さは床面より約 $0.6m$ を測るもので、坏が2個体出土している。壁溝、柱穴は認められない。遺物は他に高坏・坩・鉢・坏等比較的多く出土している。

第10号住居址 (第59図)

1辺 $5.5m$ の隅丸方形プランを呈し、4本の柱穴状の小ピットを有し、北東隅にカマド状の張り出しを持ち、住居址状を呈するが、床面は軟弱で、出土遺物は全く無い。カマド状の張り出し部に於いても、焼土は勿論、掘り下げも全く認められない。柱穴状ピットも、深さは $15cm \sim 20cm$ の浅いものである。従って、これ等を考慮して、必ずしも適当ではないが、住居を構築の際、何らかの要因で、中止され、現状で放棄されたものと解し、住居址として掲載するものである。

第11号住居址 (第56図)

第9号住居址、SD02、SK04の各遺構と重複するもので、特にSD02に依ってカマドの裾の一部が消失している。大きさは $5.0m \times 4.5m$ で、プランは隅丸の長方形を呈する。柱穴、壁溝は認められず、南西コーナー部に $0.8m \times 0.6m$ 、深さ $0.5m$ の長方形プランのピットの上面から甗が出土しており、貯蔵穴と思われるが、貯蔵穴とするなら他の住居に比べ、位置的にみると異質と言える。カマドは北壁中央部の壁内に構築される。遺物は比較的多く出土しているが、大部分が、覆土内で

しかも、完形品は少なく、図示したものもほとんどが3分の2から2分の1程度のもので、多くは小片で絶対量はかなり多い。更に、土層をみると、中央部に、焼土の充填が認められ、住居挨拶後捨て場として利用され、ゴミ焼き場の機能を有していたものと思われる。他に2～3の土器と、土製の支柱が出土していたが、盗難を受けている。

第12号住居址 （第60図）

住居址内に、掘立遺構の第17号住居址のピットがあり、一部重複する。大きさは $4.1m \times 3.8m$ で、プランは不整の長方形を呈する。全体に保存状態が悪く、床面は軟弱で特に南側は明瞭性に乏しい。カマドは、北東壁の中央に位置するが、袖の部分が僅かに残り、焼土が微量に認められる程度である。カマドの右に $0.7m \times 0.5m$ 、深さ $0.4m$ の長方形を呈する貯蔵穴がある。他に3本の小ピットがあるが、何れも楕円形を呈し、深さは $0.2m \sim 0.3m$ を測る。遺物は、甕・甑・坏等が出土しているが、完形品は坏が2個体のみで、他は破片であり、遺構、遺物共、保存状態が悪い。

第13号住居址 （第61図）

遺跡中、最も東に位置し、唯一の国分期に属する住居址である。この位置は自然堤防を離れ、後背湿地上に相当するもので、細かい黄褐色の砂層を切り込み構築されプランの認定は困難を極め、特に北西壁は判然とせず、図示の様なプランで、南東、北東部は約 $2.7m$ 、南西部は $2.2m$ の不整形形を呈する。壁高は、確認面より $10cm$ 強であるが、本来は更に深いものであったと思われる。カマドは南東壁のほぼ中央に位置し、大部分が壁外にあり、地山の砂層を浅く掘り下げられたもので、住居址内の掘り下げは極くわずかにすぎない。カマドの右に $0.7m \times 0.3m$ の長楕円形のピットと、更にコーナー部に、 $1m \times 0.7m$ の楕円形のピットが認められ、深さは床面より $15cm$ 程であるが、後者は貯蔵穴と思われ、土師器、須恵器の小片が数片出土している。遺物は、土師器の甕と須恵器の坏で、前者は完形品は無い。柱穴、壁溝は認められず、又壁外柱の確認を行ない、周辺を精査したが、認められない。以上の如く、本住居址は、かつての後背湿地に該当する地形に構築されたもので、しかも他の住居址に比べ、明らかに時間的に後出するもので、注目に値するものである。

第14号住居址 （第63図）

$3.3m \times 2.5m$ の不整長方形プランを呈し、北壁の東コーナー寄りに、張り出し部を持ち、焼土の推積が認められ、カマドが存在していたと思われるが、袖は確認出来ない。この部分の南に $0.6m \times 0.5m$ 、深さ $0.5m$ の楕円形のピットが有り、上部に、甕、もしくは甑と思われる土器が確認されていたが、盗難に依り、粉失している。他に小ピットが4本認められ、壁溝は無い。

第15号住居址 （第56図）

第9号住居址、SD02と重複するもので、1辺 $4.4m$ の正方形プランを呈する。カマドは東壁の南寄りに構築されたもので、煙道部は壁外に $1.4m$ 延び、先端は楕円形の落ち込みになる。燃焼部に胴部以下を欠く、埴を利用した支柱が出土している。貯蔵穴はカマド右に $0.8m \times 0.7m$ 、深さ $0.7m$ の

規模のもので、甕1個体が出土している。柱穴は2本認められ、各々、平面が0.5m～0.6m、深さ0.5mを測るものである。壁の立ち上がりは、ほぼ垂直で、壁高は0.4mを測り、壁溝は無い。遺物は、甕、甗、坏と先の埴の土器類と滑石製の模造品がカマドの左袖付近より出土している。

第16号住居址 （第65図）

第4号住居址に隣接し、南壁部は攪乱により、全容を伺う事は出来ないが、北壁部は6.3mを測り比較的大形の隅丸長方形プランを呈するものと思われる。カマドは北壁東寄りに位置し、右袖の一部は既に崩壊している。土師器の甕を左右の壁に備え、自然石を支柱として利用するもので、全長2.3mを測る大形のカマドである。カマドの右のピットは、0.6m×0.5m、深さ0.5mの楕円形プランを呈するもので、柱穴と思われるが、他の柱穴、貯蔵穴、壁溝等は認められない。遺物は土師器の甕・坏・須恵器の蓋の土器類のほか、自然礫が若干出土している。

第17号住居址 （第66図）

一部第12号住居址と重複する堀立柱遺構で、南北に長い長方形で、2間×3間となるものと思われるが西側部分に柱穴2本が検出されていない。柱穴は円形・楕円形で、径0.5m～0.7mを測り、深さは確認面より0.5m～0.6m前後の内に入るもので、柱穴間距離は芯真で、東西で1.2m～1.4m、南北が1.6m～1.7mと、長軸と短軸に各々差が認められる。本址に伴うと思われる遺物は出土していない。

第18号住居址 （第68図）

北西コーナー部で第23号B住居址と重複する。大きさは6.3m×6.2mで、東壁にやや脹らみを持つ隅丸方形プランを呈する。カマドは北壁の中央部に住居址内に構築されたものであるが、上面が削平を受け保存状態は悪い。柱穴は4本認められ、径0.5m前後の円形で、深さは0.3m～0.4mと浅い。貯蔵穴、壁溝は検出されていない。壁高は削平により、8cm～20cmを測る。遺物は土師器の甕・坏があり少ない。

第19号住居址 （第69図）

北側をSD02に依り切られ、南壁にSE02が構築され全容は明らかでない。南壁は3.8mを測り、西コーナーは丸味が強く、東コーナーは、ほぼ垂直に曲がる。柱穴・貯蔵穴・カマド等の諸施設は認められず、遺物も覆土中に土師器の小片が若干出土するのみで性格は判然とせず、井戸址に伴う施設とも思われたが、SE02は本址の南壁を壊し、明らかに後出のものである。

第21号住居址 （第71図）

第22・24・25号の各住居址に隣接し、大きさは5.7m×5.6mを測り、プランは不整の隅丸長方形を呈する。壁溝は一周し、幅13cm～30cm、深さ10cm～20cmで明瞭に残る。カマドは北壁の東寄りに位置し、全て住居址内に構築され、前庭部に、土師器の甕の破片を敷きつめる。カマド内から土製の支柱が置かれたままで出土している。貯蔵穴は、カマド左に0.7m×0.6m、深さ0.6mを測り、内から

甕が1個体と小片、及び炭化材が出土している。柱穴は全く検出されていない。壁高は30cm前後を測り、部分的に差はあるがほぼ垂直に立ち上がる。火災を受け床面に炭化材・焼土ブロックが認められる。

第22号住居址 (第72図)

第10・24・21号住居址に隣接するもので、大きさは3.2m×2.6mの長方形を呈し、本遺跡内に於いては小形の部類に属する。カマドは北壁のほぼ中央に位置するもので、全て住居址内にあり、壁外施設は認められない。貯蔵穴はカマド右にあり0.7m×0.6mの楕円形を呈し、深さ0.6mで、内からは土師器の小片が若干出土している。他に4本のピットが検出されたが、形状・位置・規模等を考慮しても、それらの機能は判然とせず、P2・P3に柱穴の可能性もあるが、絶対性に於いては疑問がある。壁溝は全く認められず、壁の立ち上がりは、垂直に近いもので、壁高は20cm前後で、上部は削平を受けている。遺物は、土師器の甕及び坏で量的に少ない。

第23号A・B・C住居址 (第75図)

各々、3軒が重なり、B住居址のカマド先端が、第18号住居址と重複する。当初B住居址のみ確認され、西壁の確認中に新たにA住居址が明らかになり、最終的にC住居址としたカマドが検出され、従ってA・B・Cの各3住居址が重複するもので、特にC住居址はカマドとその右側に2つのピットが認められるものの全容は不明である。

A住居址は、大きさ4.8m×4.5mを測り、プランは不整の長方形を呈する。カマドは北壁の西寄りに構築され、煙道は壁外1.1m程延び、住居址内0.8m入り、カマドの掘り込みは浅い。壁溝は東壁の攪乱部を除き一周する。幅10cm～18cmで、深さは8cmを測る。ピットは住居址内に大小7本、プランも円形、楕円形、長方形等の種々有り、それらの性格は明らかではないが、西隅にある0.6m×0.5mの楕円形を呈し、深さ0.6mのピットは柱穴の可能性が強い。従って貯蔵穴として確認出来るものはない。壁は外にわずかながら開き気味に立ち上がり、西側では壁高35cmを測る。

B住居址は、A住居址に先行するもので西壁及び北壁の一部がA住居址の構築により消失するが一辺5.3mの隅丸方形プランを呈するものであろう。カマドは東壁中央に位置するもので、燃焼部は30cm程壁外を掘り下げ、煙道部へ移行する。尚、先端は第18号住居址の壁と重複する。壁溝は、カマドの右から、A住居址と接する南壁のほぼ中央部まで確認され、幅30cm～45cmとやや広く、深さは10cm前後を測るものである。ピットはA住居址同様プラン内に大小様々なものが有り明らかではなく、特に住居の東半分に多くみられる。壁は外方に開き気味に立ち上がる。

C住居址は、A住居址の北西コーナー部に接するカマドに依り検出されたものであるが、全容は不明で、図上の南北方向の長方形は、落ち込みとしてとらえたものであるが、住居址のプランではなく、後世の攪乱として理解するものである。

遺物として図示したものは、大部分覆土中として取り上げたもので、平面的な拡がりとして、A・B各住居址に該当するものであるが、遺構として両者の区分が不可能な為一括したものであるが遺物は小片が多く、他にB住居址の東南コーナー付近に自然礫が集中して出土している。

第24号住居址 (第77図)

第25号住居址と重複し、大きさは $4.3m \times 2.8m$ の長方形プランを呈する。カマド、貯蔵穴、柱穴等の諸施設は認められず、壁高も、削平に伴い、 $8cm$ 前後を測るのみで、保存状態は悪い。遺物は各々床面から、壺・甕・甑・埴・坏が出土し、器種は多いが、量は少ない。

第25号住居址 (第77図)

第24号住居址、SD02と重複するもので、大きさは $6.5m \times 5.5m$ を測り、南壁コーナーに、 $1.4m \times 0.6m$ の張り出しを持つ、東壁ほぼ中央に径 $0.6m$ の円形のピットがあり、内及び周辺に若干の焼土の散布をみいだすが、カマドとして認められるものではない。同ピットの右、24号住居址の床面下に2つのピットがあり、1つは、 $0.9m \times 0.8m$ 、深さ $0.6m$ の楕円形のプランを呈し、長方形の底部形態をとり、貯蔵穴と思われるが、遺物は出土しない。その他不揃いのピットが5本検出されるが判然としない。遺物は、土師器の甕・坏・須恵器の蓋・及び小形の勾玉が床面より出土する。

第26号住居址 (第78図)

第27号住居址とSD02と重複し、大きさは $5m \times 3.9m$ で、西壁コーナー部はゆるやかにカーブする。東壁沿いに柱穴状のピットがあるが、カマド、貯蔵穴、壁溝は認められず、壁高は約 $20cm$ を測り、遺物は図示した甕の他小片が若干出土するのみで住居址としてやや疑問がある。

第27号住居址 (第78図)

南壁はSD02の構築により消失し、現存部は $6.1m \times 2.3m$ で、長方形プランを呈すると思われる住居址内に、長方形・楕円形・円形のピットが検出されたが、性格は判然としない。カマド、壁溝も認められず、遺物も覆土中より土師器の小片が出土しているが、26号住居址同様、不明瞭な住居址である。

第28号住居址 (第79図)

遺跡中、最北端に位置し、攪乱及び削平の為に保存状態は良好でない。大きさは $4.6m \times 4.2m$ を測るが、各コーナー部が失なわれプランは明確ではないが長方形もしくは隅丸のものになると思われる。カマドは東壁の中央部に位置し、貯蔵穴・柱穴・壁溝は検出されていない。壁は残存部で $8cm$ 前後のもので、わずかに外方へ開き気味に立ち上がる。遺物は土師器の甕・坏・須恵器の甕の口縁部・石製の紡錘車出土している。

SD01 (第43図)

幅 $1.3m \sim 1.5m$ 、深さ $0.8m$ 前後で、南から東の後背湿地へ移り、同地内では消滅する。調査部分は約 $25m$ で、覆土中より須恵器及び土師器の甕、その他土師器の小片が出土しているが、量的には少ない。土層上部に天明の火山灰層の推積がみられ、鬼高期の住居である。第1号住居址を切り込む。

SD02 (第43・81図)

形態、規模はSD01とはほぼ同様な数値であるが、出土遺物は豊富で、弥生・土師・須恵器の各土器類、中世陶器、自然礫とはるかに多く出土するが、やはり上部に天明の火山灰層が推積し、鬼高期の住居址を切り込んでいる。西から東、更に北へと流れ、調査部分は約46m。

SE01 (第83図)

第9号住居址の床面に掘られたもので、上面プランはほぼ円形で、ゆるやかに底部へ移行し、底部は約0.9mの深さである。底部近くに緑泥片岩の自然礫を出土する。

SE02 (第69図)

第19号住居址の南壁の一部を壊し構築されている。プランは径0.8mのほぼ円形を呈し、底部へゆるやかに移行する。深さ1.2m、遺物の出土はない。

SE03 (第84図)

第10・11号住居址に隣接し、上面プランは2m×1.1mのやや歪んだ長楕円形を呈し、東側は、上面より0.3mゆるやかに掘り下げ、以下はほぼ垂直に掘り下げる。西側は、上面の掘り下げが2段になり、上段は、0.15m垂直に掘り、壁より0.4mほど平坦面をもち、東側同様、斜めの掘り下げ後、底部へ移行するもので、深さは1.3mを測る。遺物は土師器、須恵器の小片が覆土中より若干出土する。

SE04 (第85図)

SE06と隣接するもので距離は約1mである。径0.8m前後の円形プランで、ほぼ垂直に底部へ移行するもので、深さは1.8mを測る。遺物の出土はない。

SE05 (第86図)

第23号住居址と28号住居址に隣接し、上面プランは、1.2m×1.0mの不整形で、底部は、0.45m×0.3mの長方形を呈する。断面は、上面より0.5m擋鉢状に掘り下げ、井筒はわずかに外側に開き気味となり、底部には湧水があり、上面より1.6mで調査を断念したが、底面は更に深くなる。遺物は土師器、須恵器の小片が覆土中よりやや多く出土し、下方からは李と思われる種子が出土する。

SE06 (第87図)

SE04とはほぼ同形態で、径0.8mの円形プラン、深さ1.8m、掘り下げは垂直に近く、遺物は出土しない。

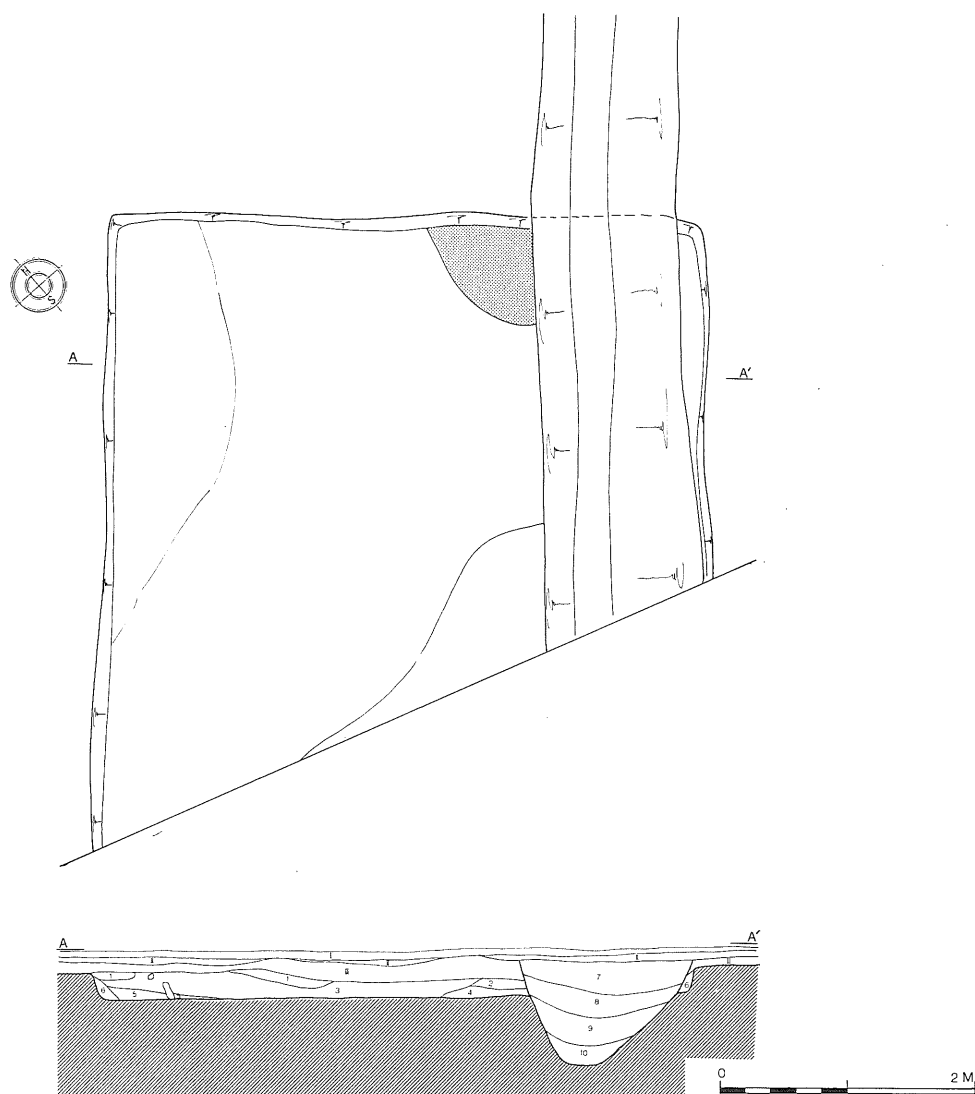
SK08 (第79図)

第28号住居址の北壁部を壊し構築されたもので、プランは1.1m×1.0mの楕円形を呈し、深さは、1.5mを計測するが、上面は削平をうけている。遺物は、須恵器の蓋、土師器の坏が出土する。

SK09 (第82図)

径2.8mの円形プランで、壁はほぼ垂直で、東壁でわずかに内へ入る。深さは0.45m、遺物は出土せず。覆土に焼土ブロックが認められる。

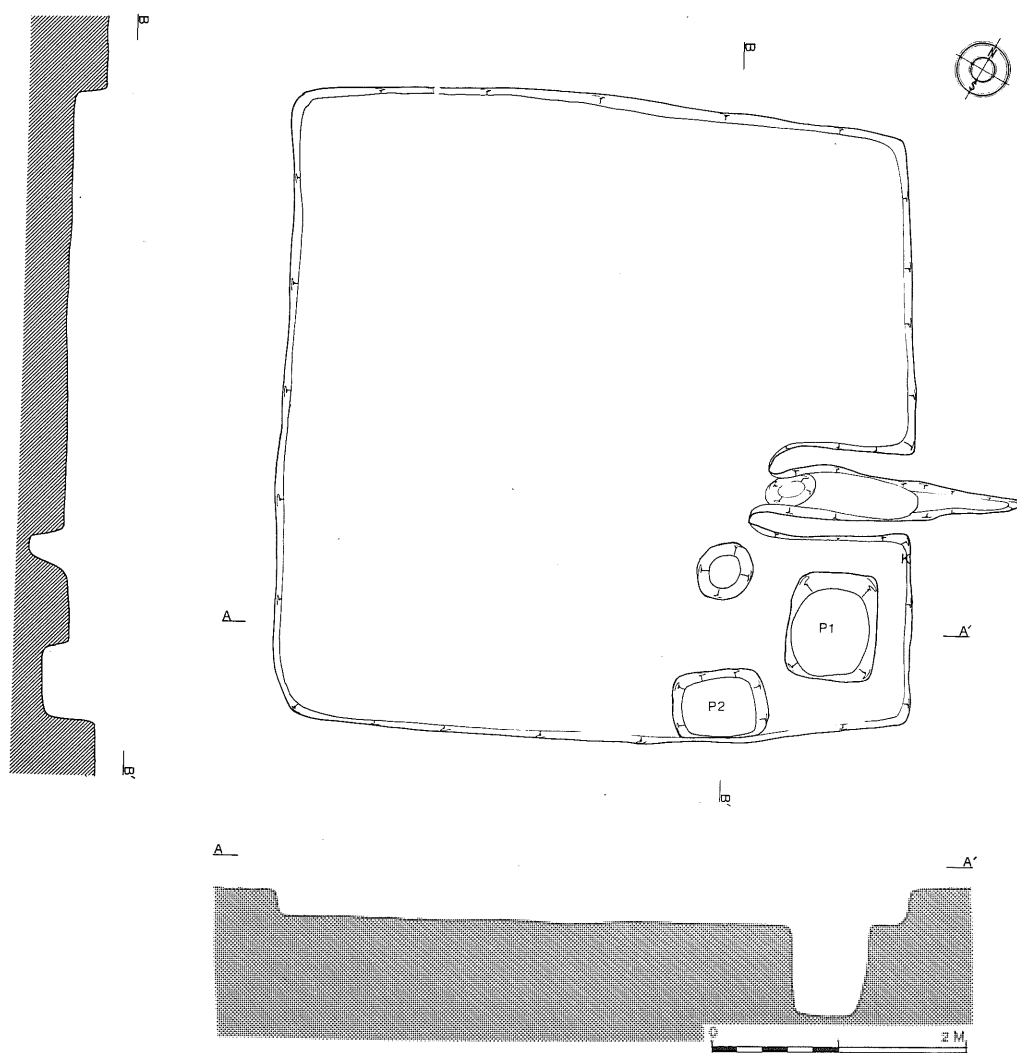
(荒川弘)



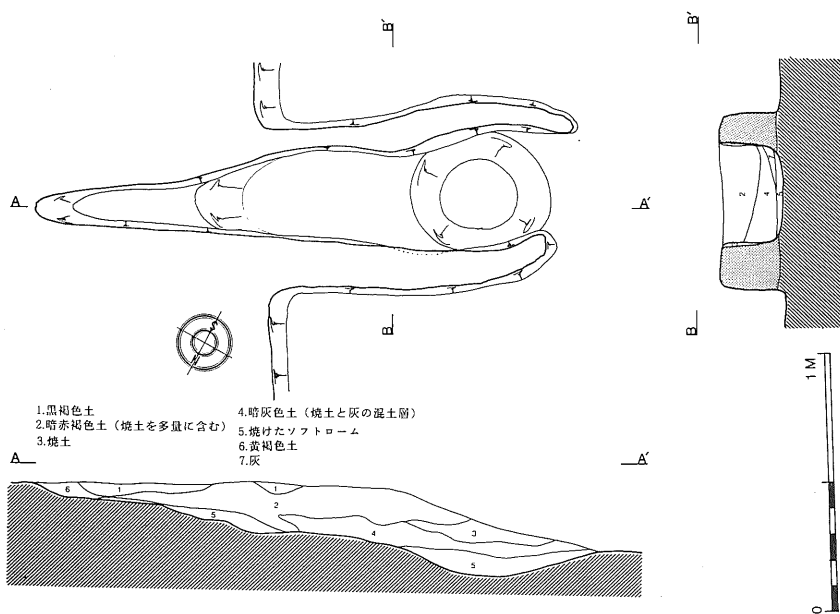
第44図 第1号住居址実測図

- | | |
|---------------|------------------|
| I 耕作土 | 5. 焼土、カーボン |
| II 灰褐色火山灰層 | 6. 焼けたソフトローム |
| III 暗褐色土 | 7. 暗灰色土（火山灰を含む） |
| 1. 黒褐色土 | 8. 黄褐色土（粘性強い） |
| 2. 黒褐色土（焼土含む） | 9. 灰色粘質土 |
| 3. 暗褐色土 | 10. 暗灰色粘質土（砂を含む） |
| 4. 灰、粘土の混土 | |

第45図 第2号住居址実測図

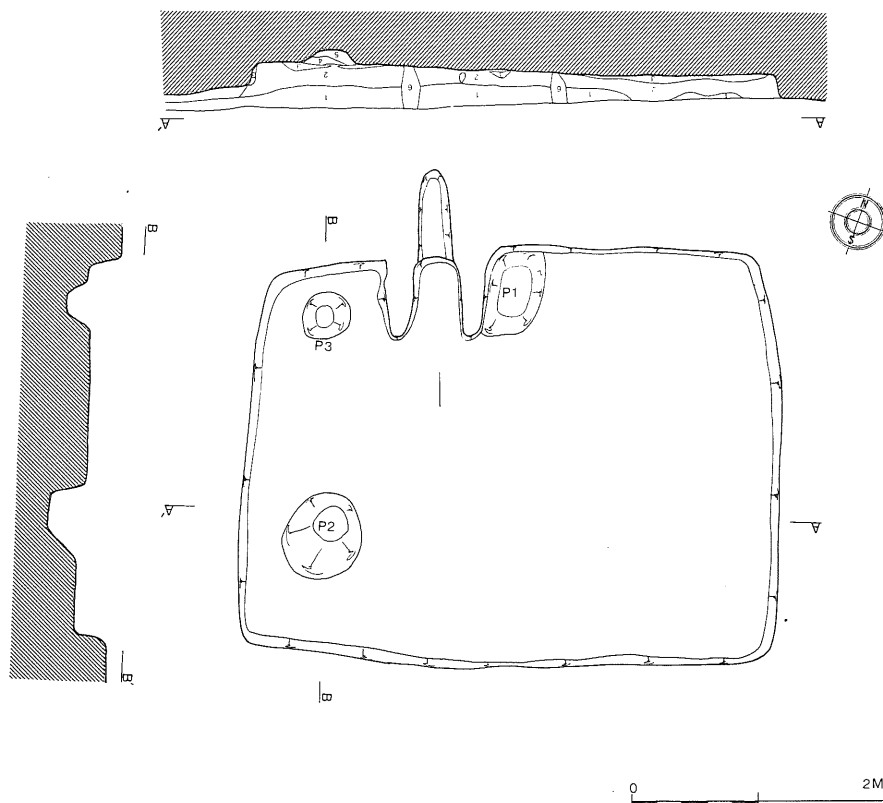


第46図 第2号住居址カマド実測図



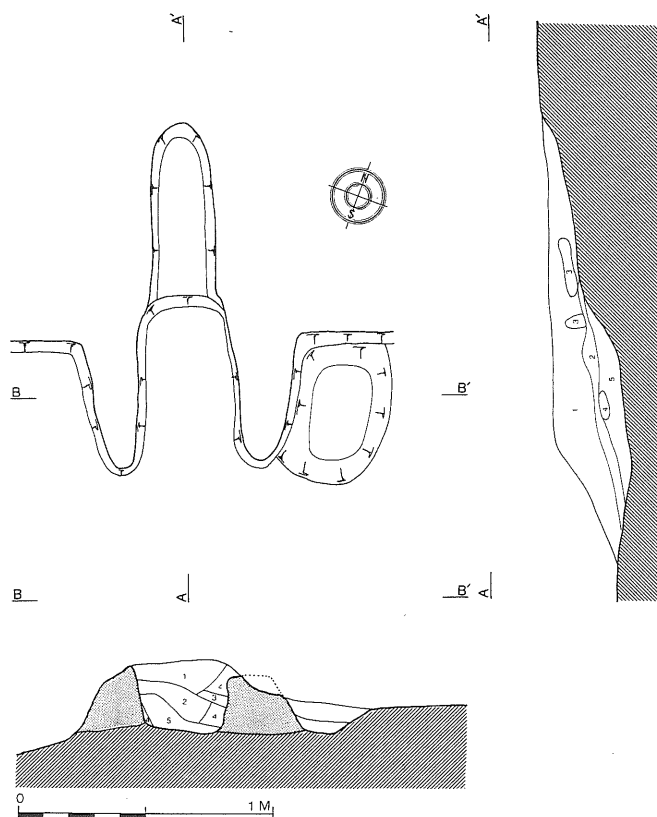
第47図

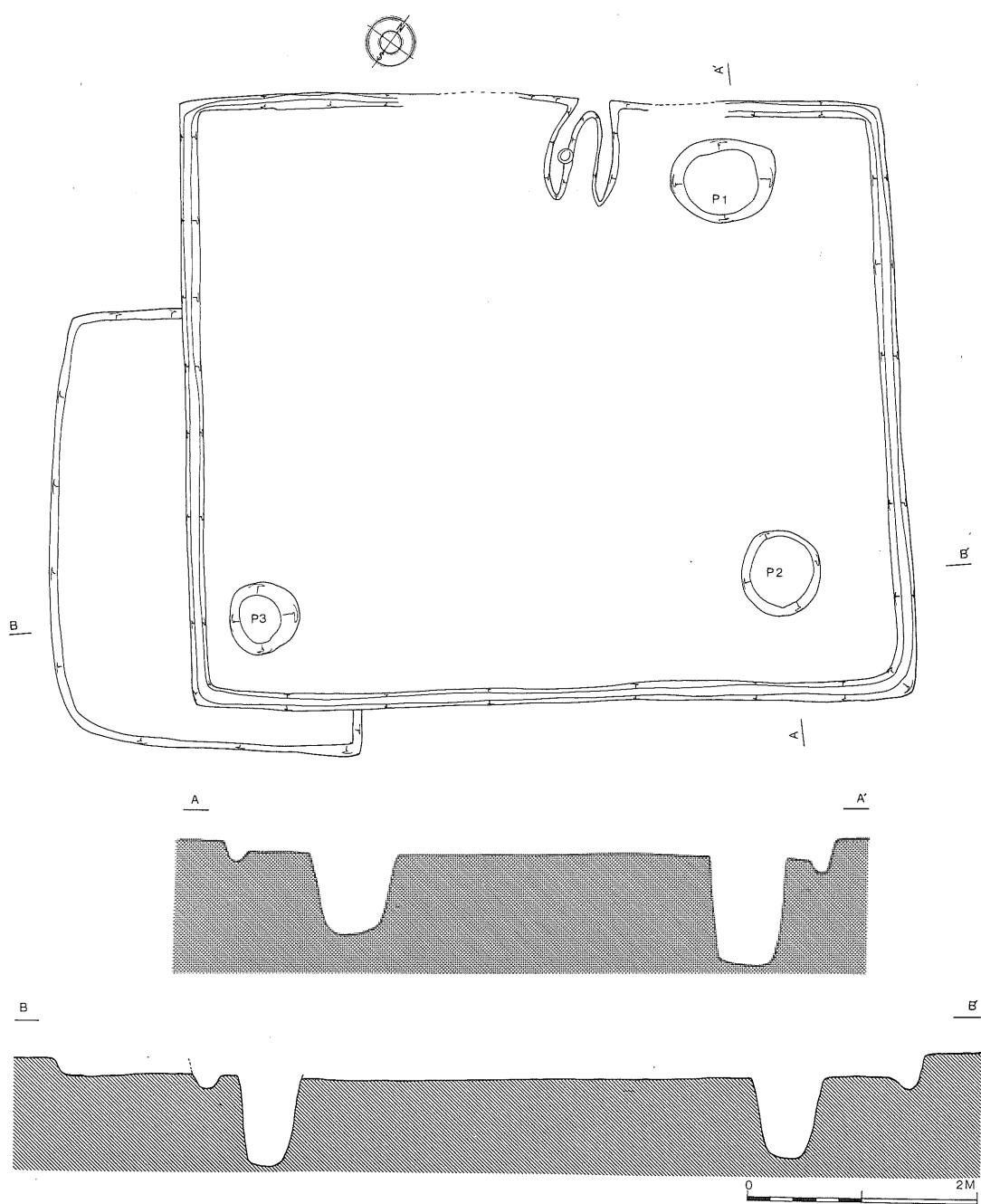
- 第4号住居址実測図
- 1 黒褐色土
 - 2 暗褐色土
 - 3 黄褐色土
 - 4 黒色土（カーボンを少量含む）
 - 5 淡黄褐色土
 - 6 黄色砂質土



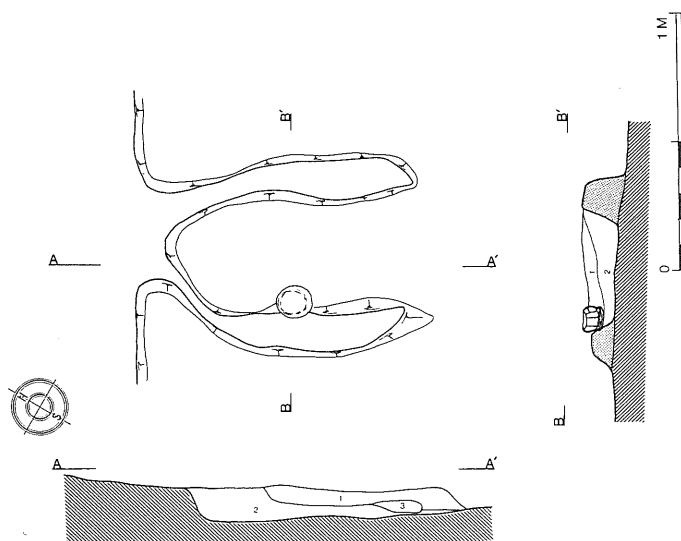
第48図

- 第4号住居址カマド実測図
- 1 黒褐色土
 - 2 赤褐色土（焼土、灰を含む）
 - 3 焼土ブロック
 - 4 黒褐色土（カーボン、焼土含む）
 - 5 暗黒色土（灰、カーボンの混土層）



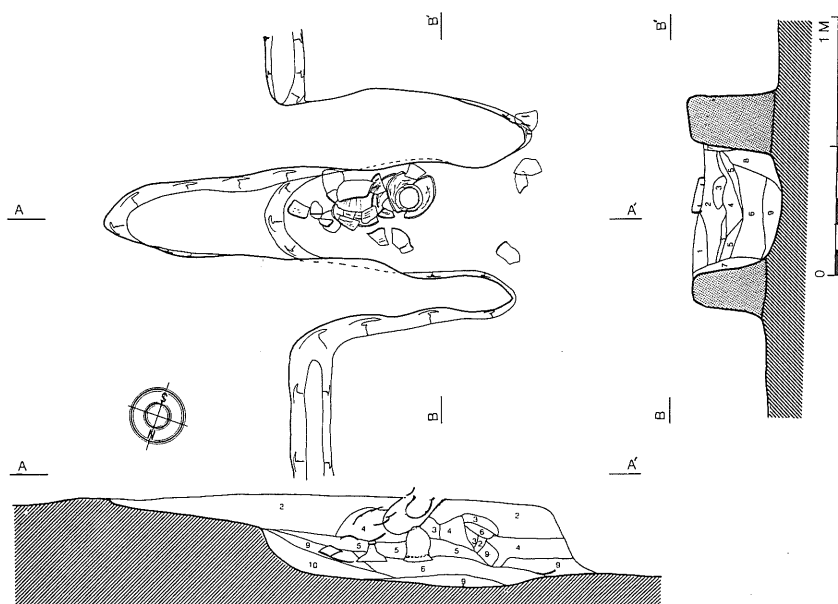


第49図 第5号A・B住居址実測図



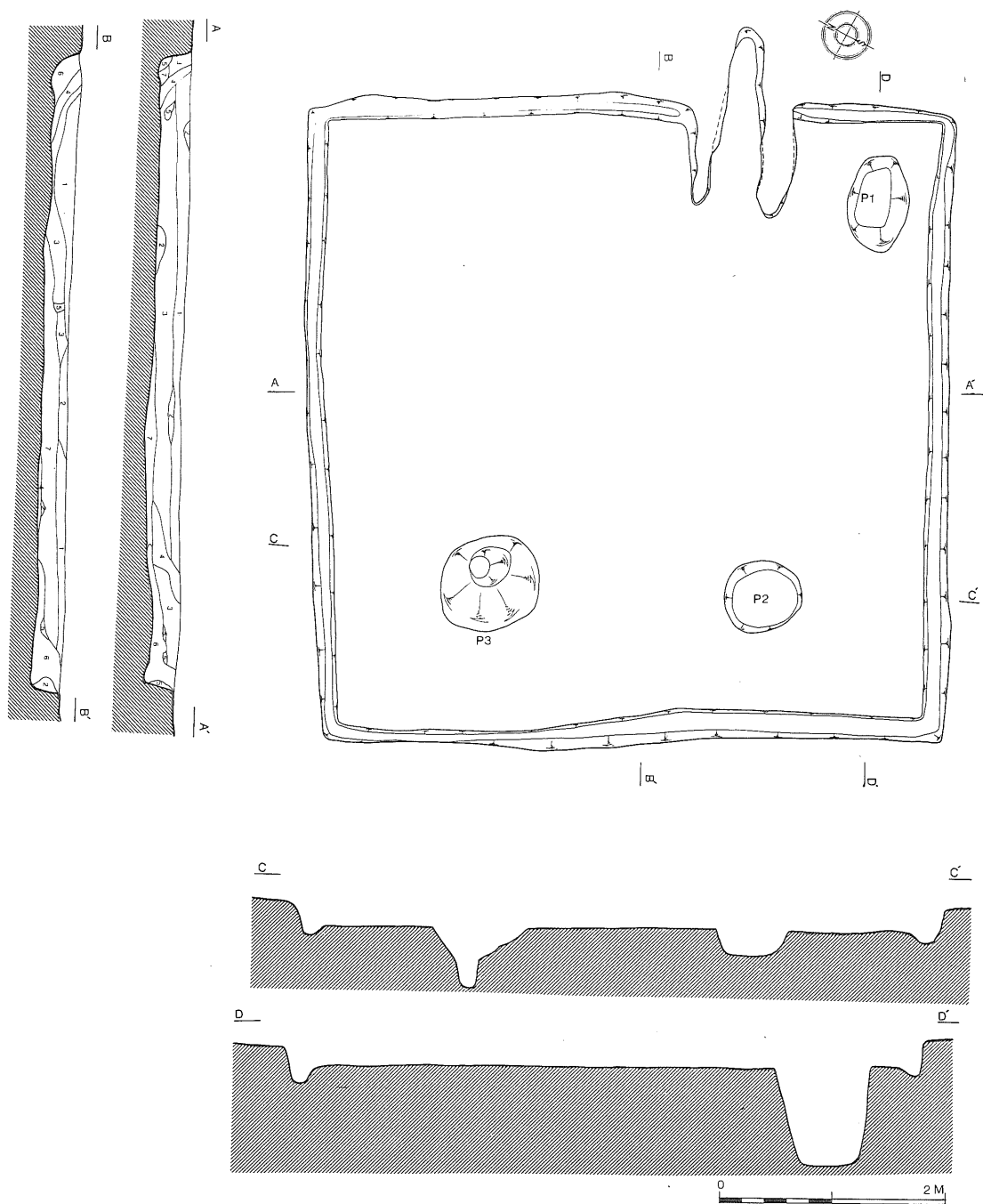
第50図 第5号A住居址カマド実測図

- 1.黒褐色土
- 2.暗灰色土（焼土粒、カーボン含む）
- 3.黄褐色土



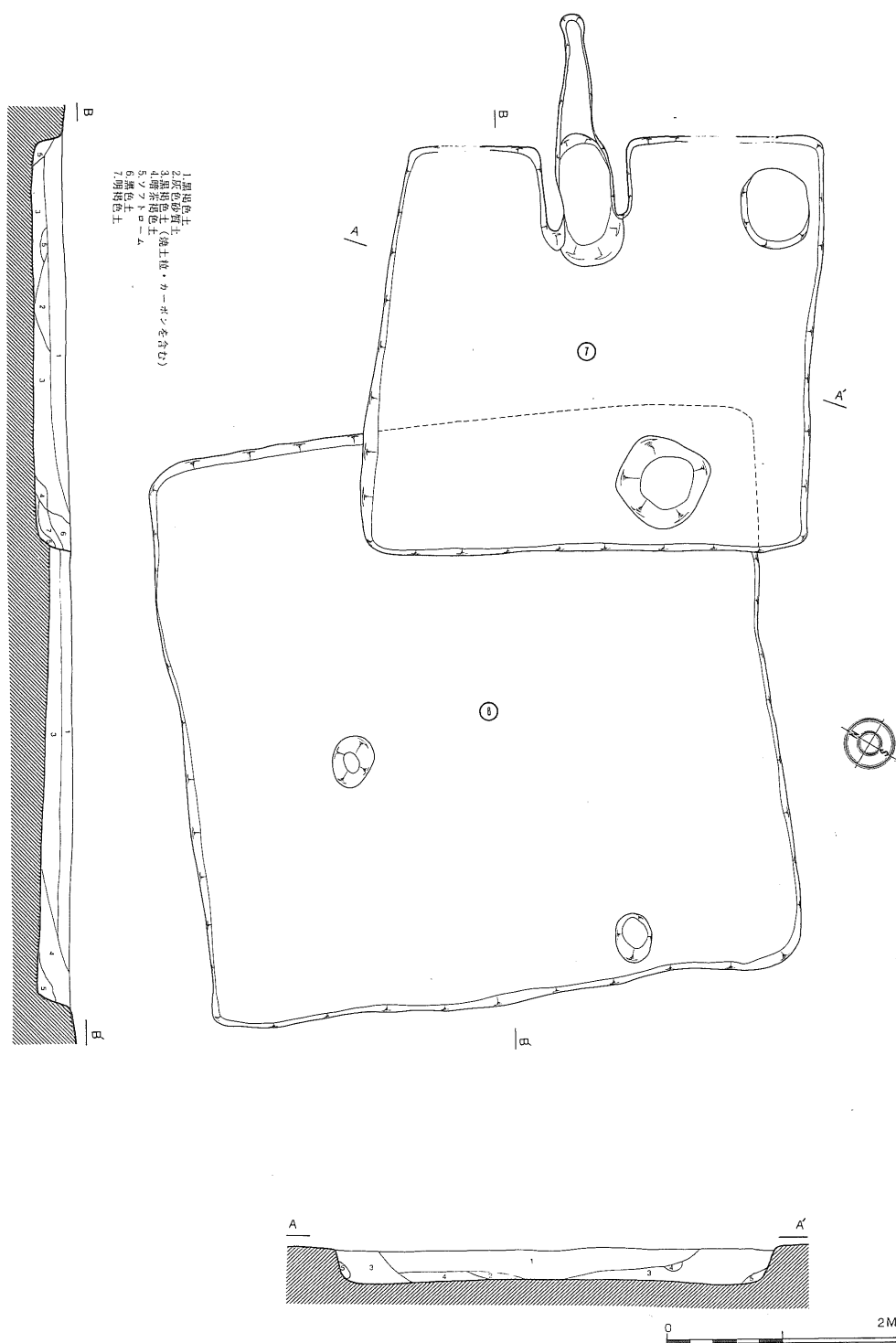
第51図 第6号住居址カマド実測図

- 1.黒褐色土（微量の焼土粒を含む）
- 2.黄褐色土（焼土・カーボンを含む）
- 3.焼土ブロック
- 4.暗褐色土（焼土にカーボンを少量含む）
- 5.赤褐色土（焼土と灰の混土層）
- 6.暗灰色土（カーボン・灰を含む）
- 7.焼土（レンガ状）
- 8.焼土（やや軟質）
- 9.黄褐色土（一部焼ける）
10. 焼けたソフトローム

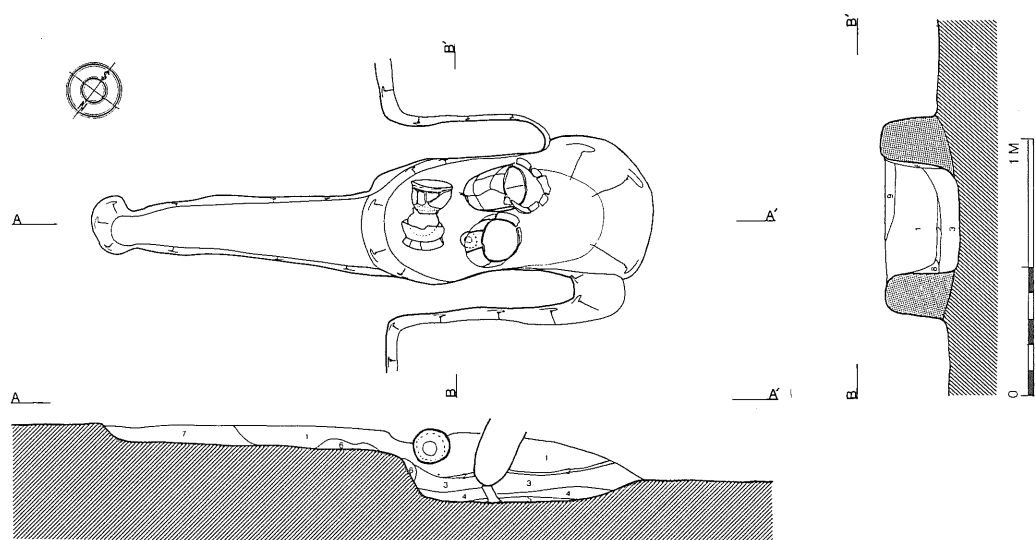


第52図 第6号住居址実測図

1.黒褐色土（焼土粒を微量含む）	2.黒色土
3.暗褐色土（カーボンを含む）	4.黒色土（灰・カーボンを含む）
5.焼土ブロック	6.黄褐色土（ソフトロームに灰・焼土を含む）
7.淡赤褐色（焼土・灰・カーボンの混土層）	



第53図 第7・8号住居址実測図



第54図 第7号住居址カマド実測図

1.黄褐色土

2.灰

3.赤褐色土 (灰・焼土を含む)

4.暗褐色土 (灰・カーボンを含む)

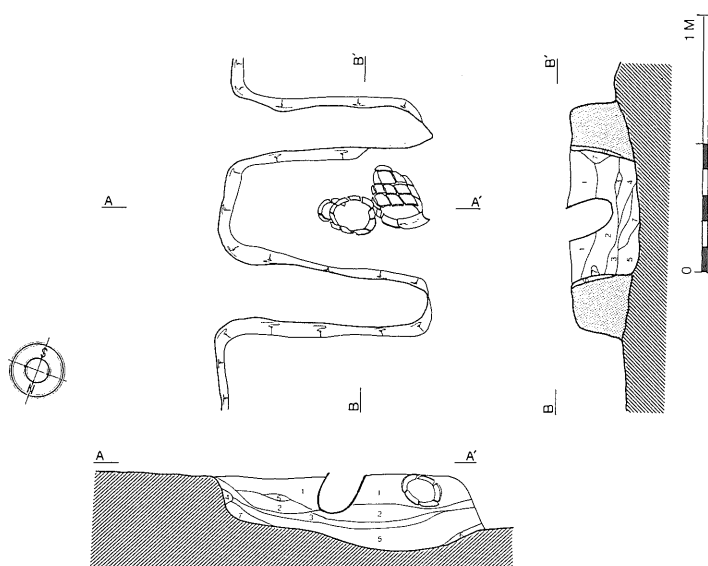
5.黄褐色土

6.焼土

7.暗褐色土 (焼土
カーボンを含む)

8.焼土 (かたくレンガ状)

9.黒褐色土



第55図 第9号住居址カマド実測図

1.黒褐色土

2.暗褐色土

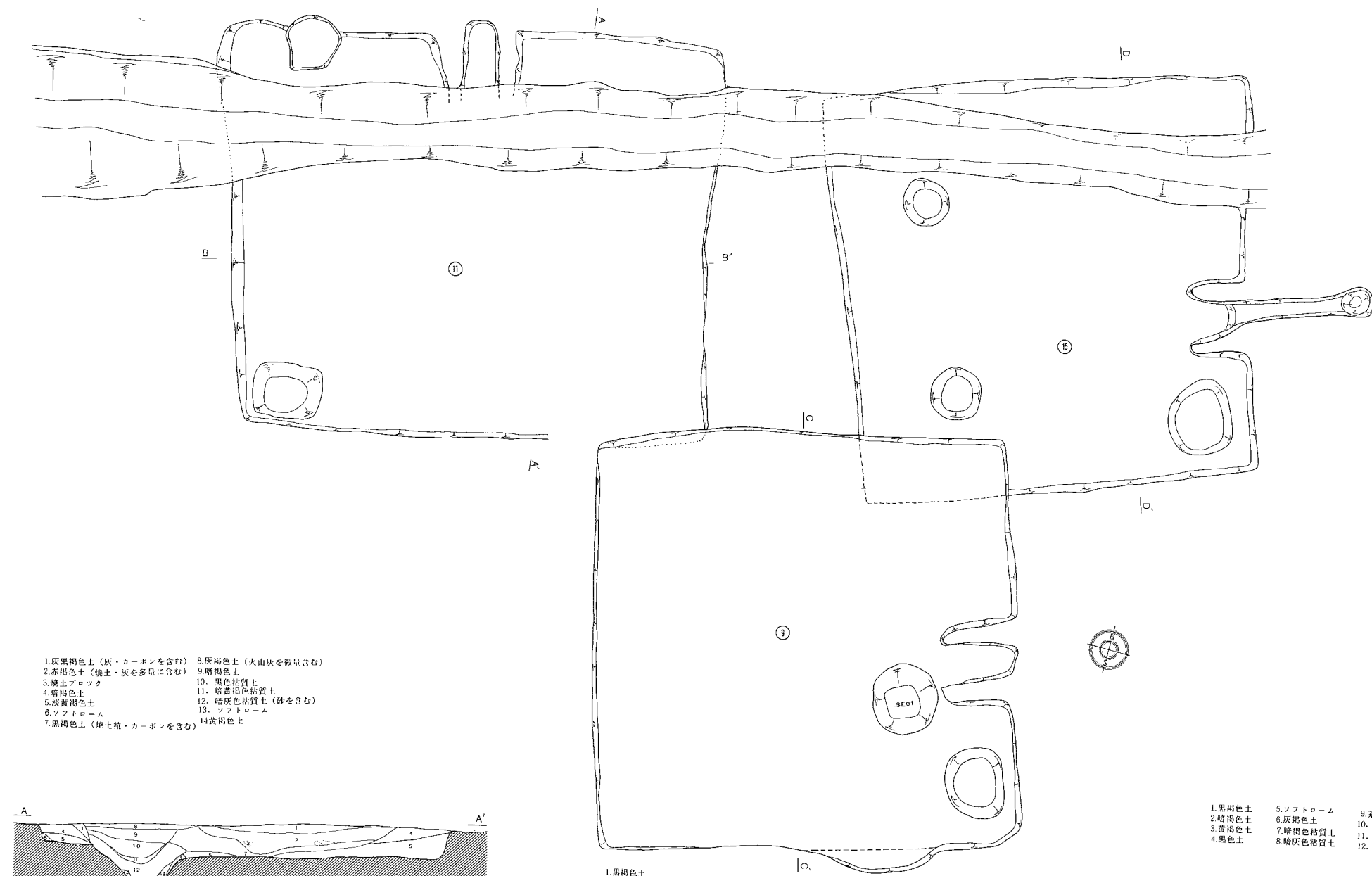
3.灰

4.焼土

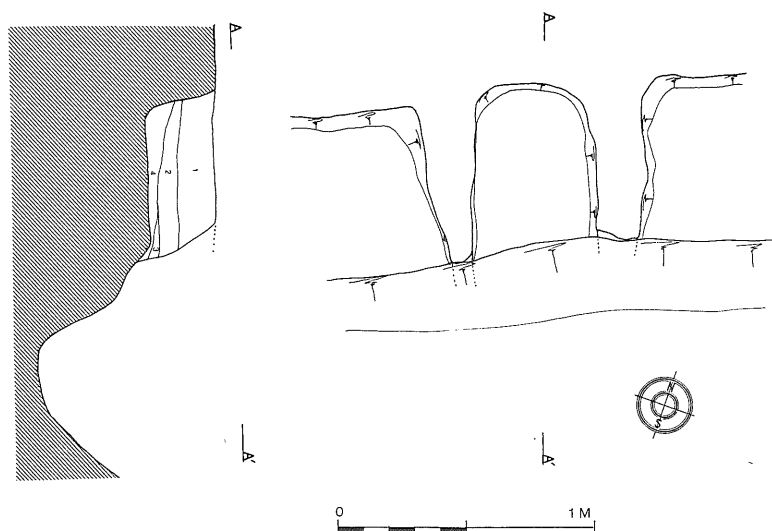
5.暗黒褐色土 (灰、焼土、カーボンの混土層)

6.焼土 (レンガ状)

7.ソフトローム

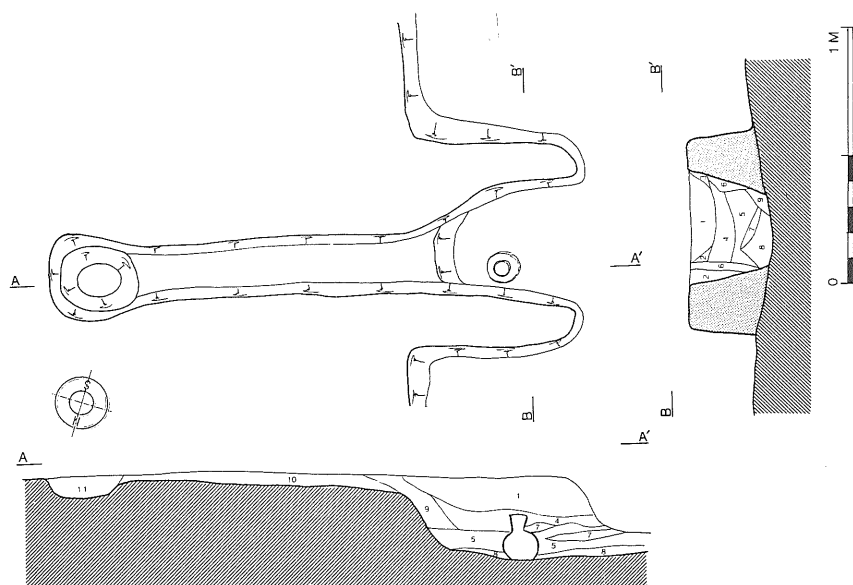


第56図 第9・11・15号住居址実測図



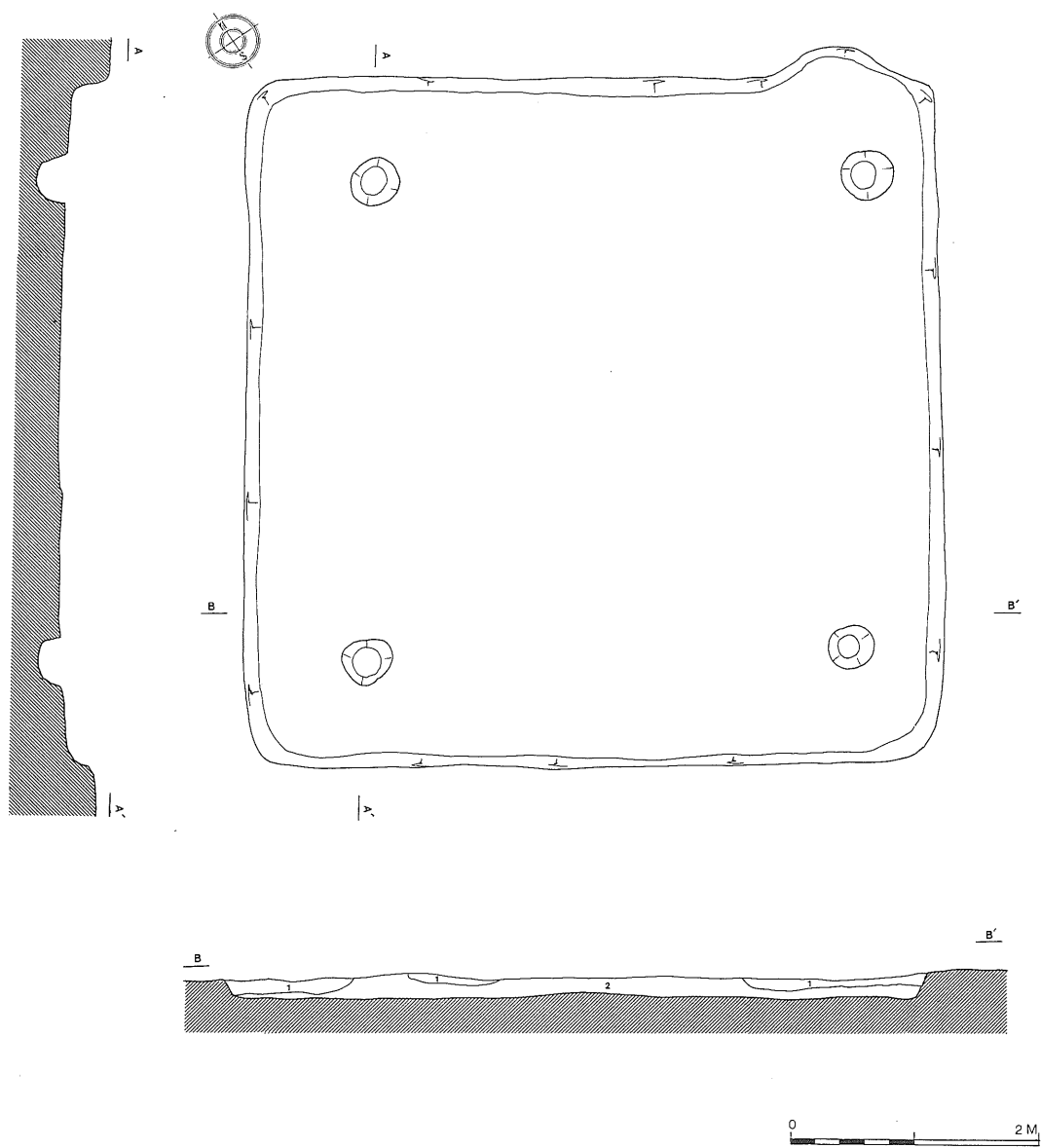
第57図 第11号住居址カマド実測図

- 1.黒褐色土
- 2.赤褐色土（焼土に灰を微量含む）
- 3.灰
- 4.暗褐色土



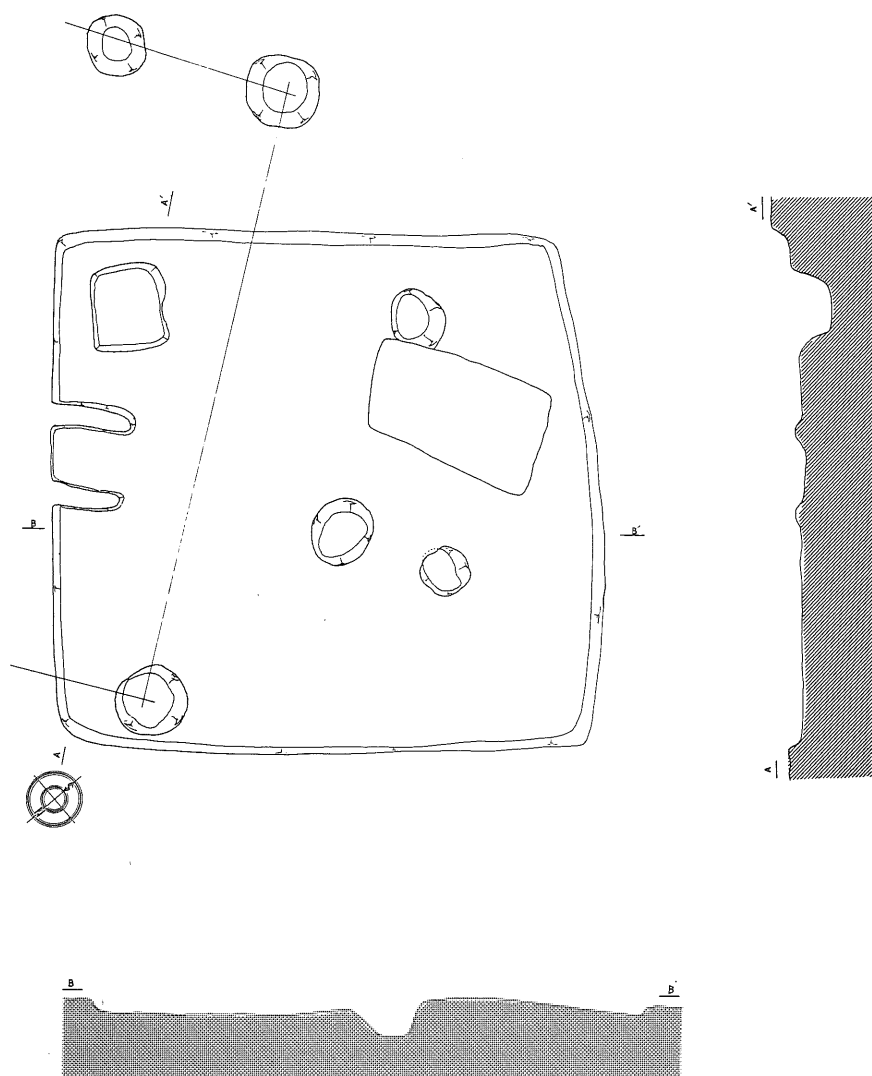
第58図 第15号住居址カマド実測図

- 1.黒褐色土
- 2.焼土（レンガ状）
- 3.焼土（やや軟質）
- 4.暗灰色土（灰を主に焼土粒を含む）
- 5.明褐色土（焼土を多く含む）
- 6.焼土
- 7.灰
- 8.焼けたソフトローム
- 9.暗茶褐色土
- 10.黒褐色土（灰、焼土を微量に含む）
- 11.暗褐色土（焼土粒、カーボンを含む）



第59図 第10号住居址実測図

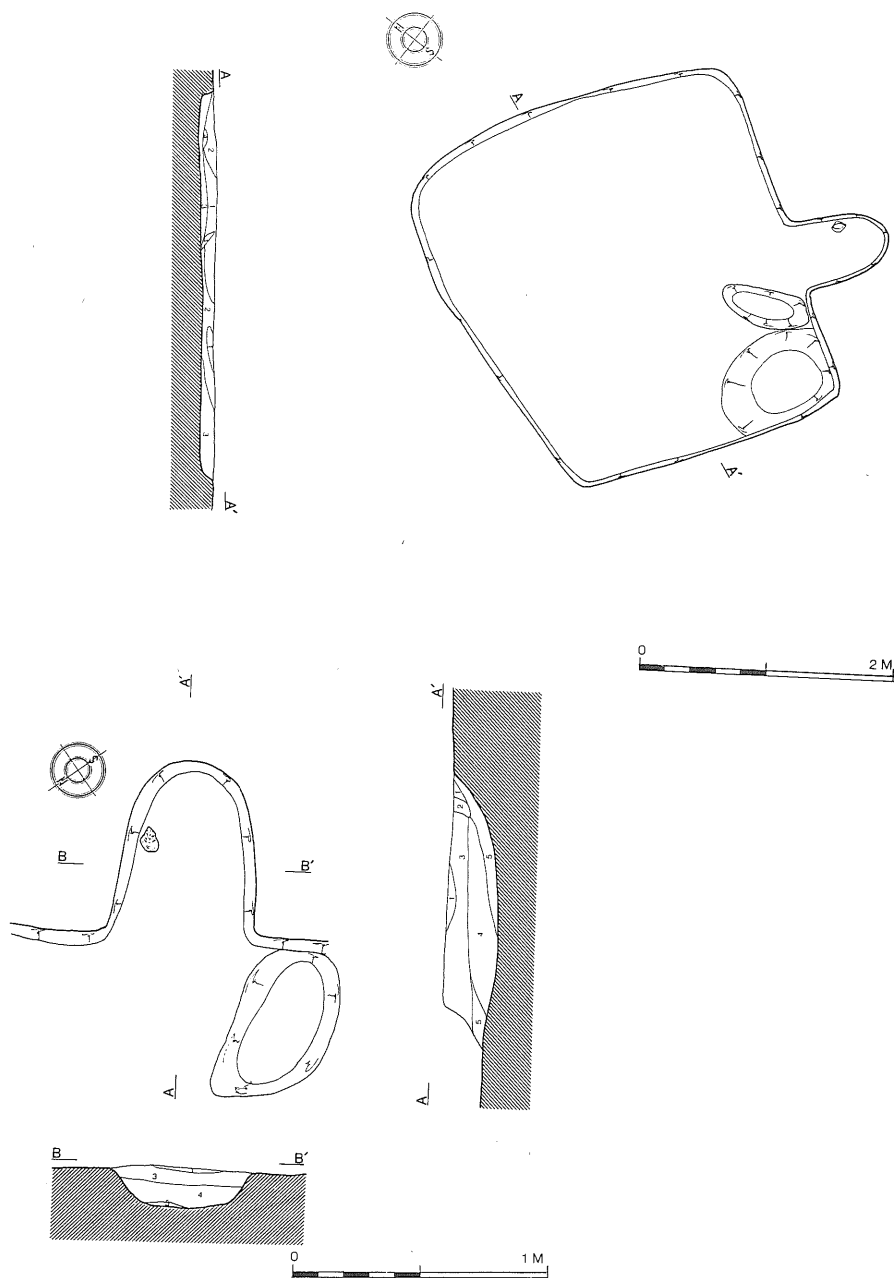
- 1.黒色土
- 2.黒褐色土（ソフトロームを含む）



第60图 第12号住居址实测图

- 1.黒色土 2.黄褐色土 3.黄褐色砂層 4.カーボン

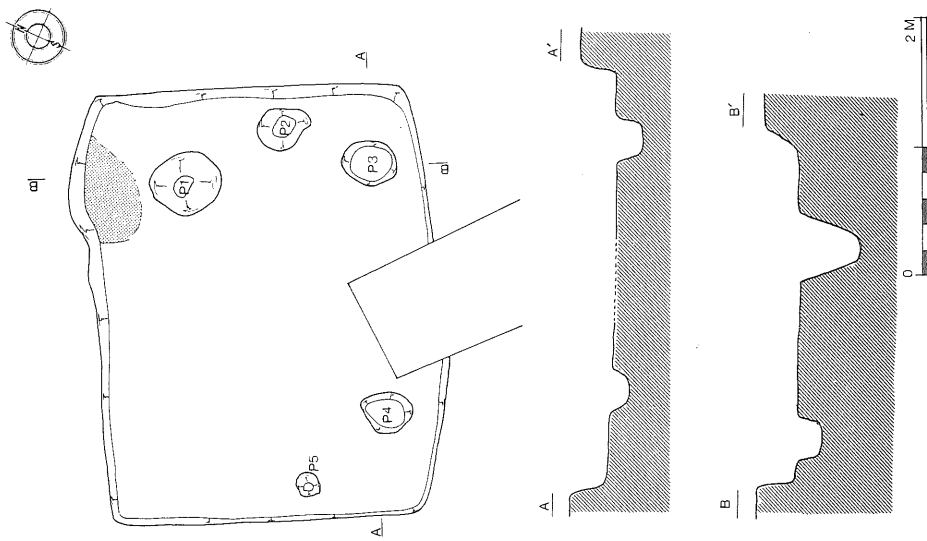
第61図 第13号住居址実測図



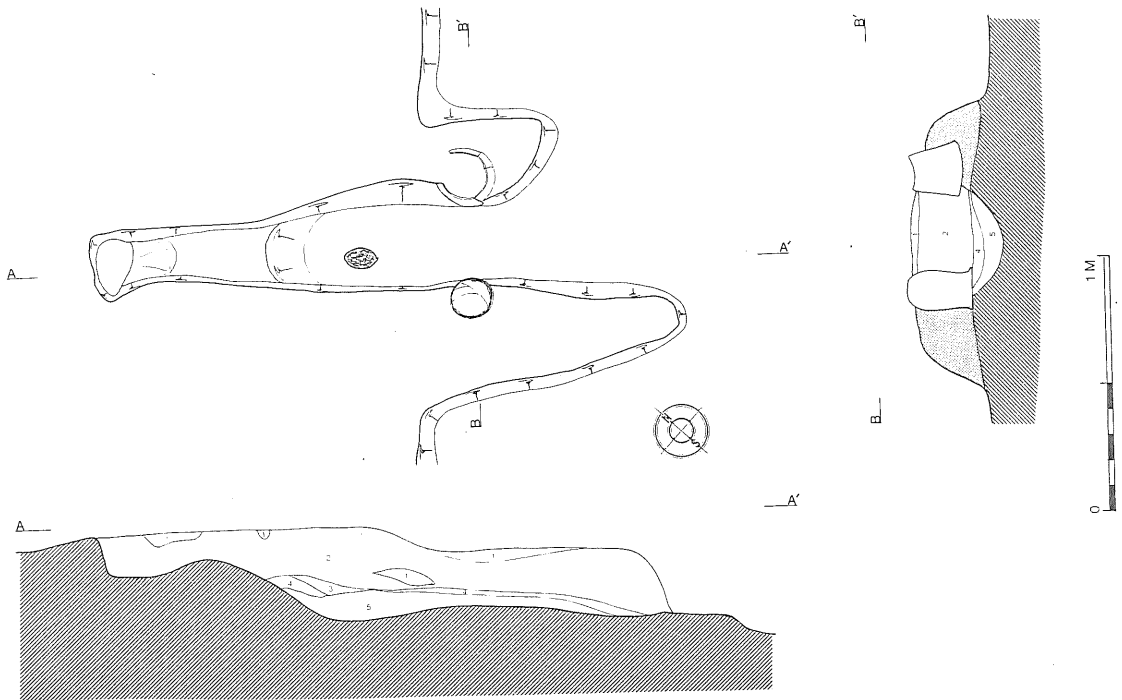
- 1.黒褐色土 2.焼土 3.明褐色土（焼土・灰を含む）

第62図 第13号住居址カマド実測図

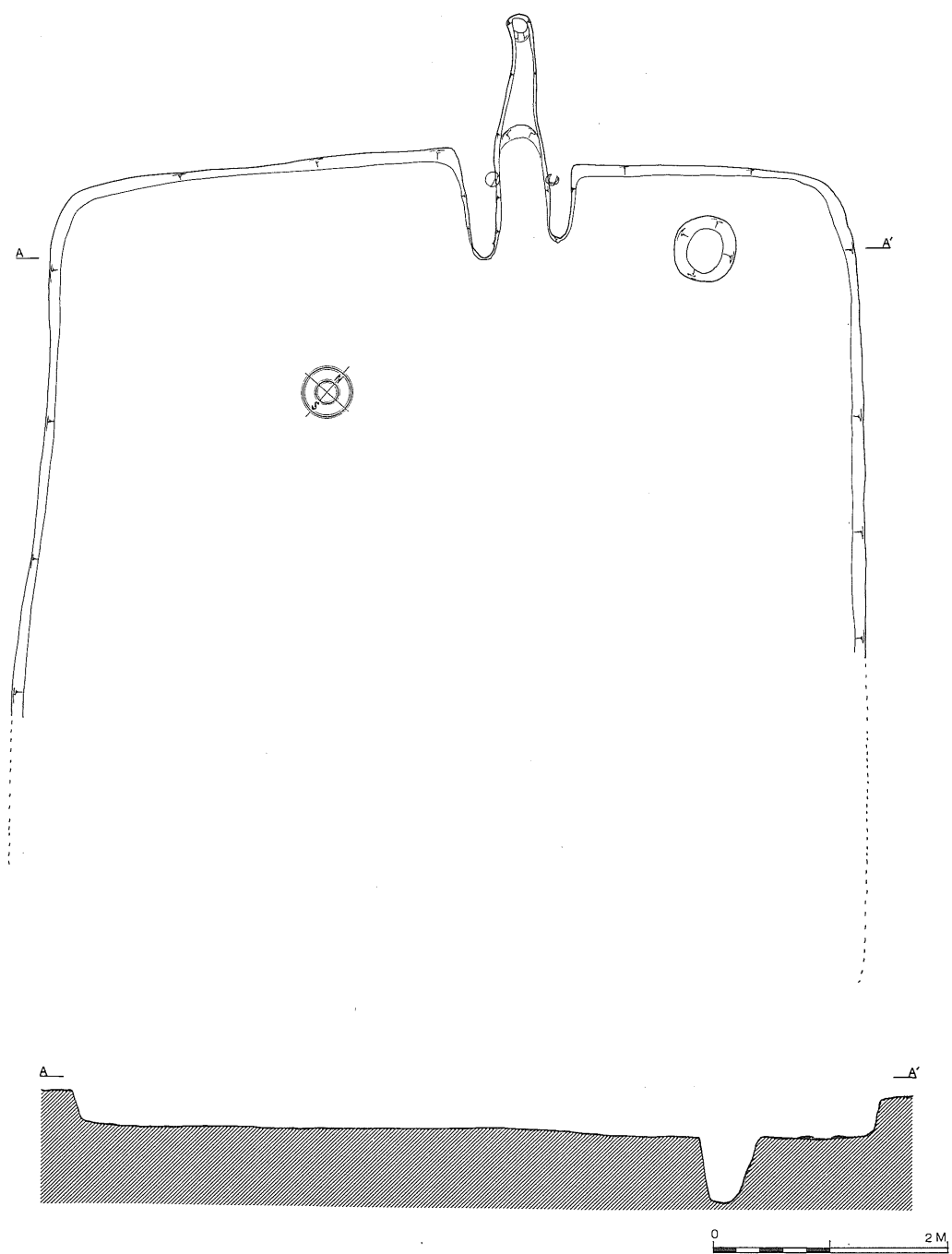
- 4.暗褐色土（灰を多量に含む） 5.暗褐色土（砂を含む）



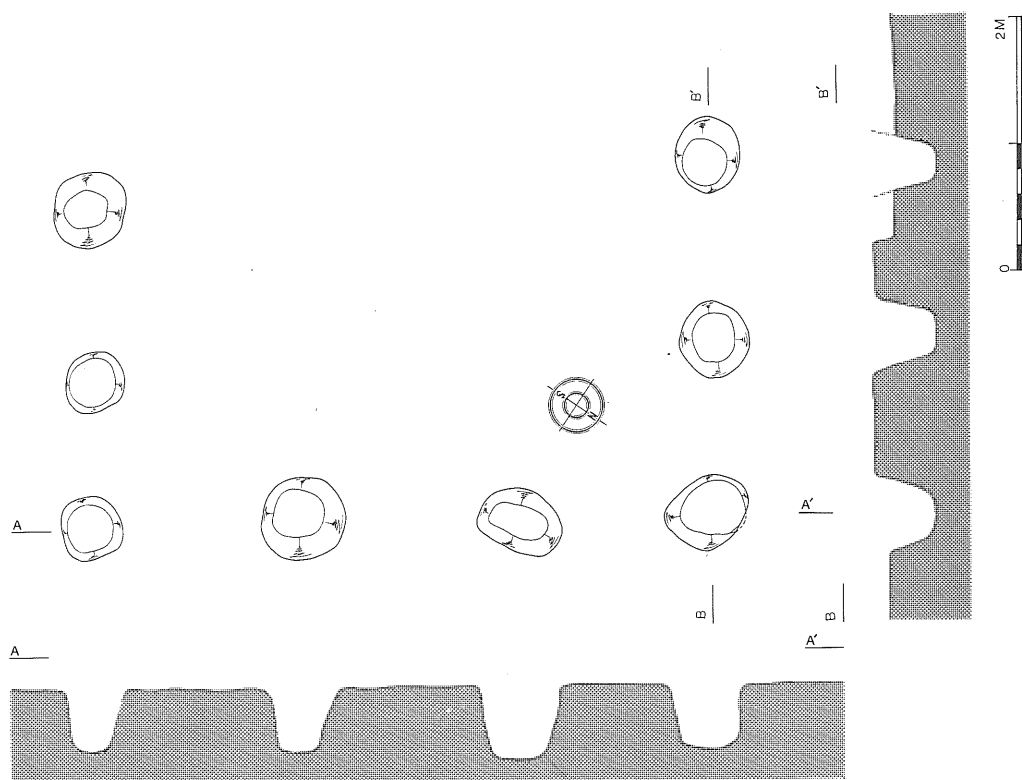
第63図 第14号住居址実測図



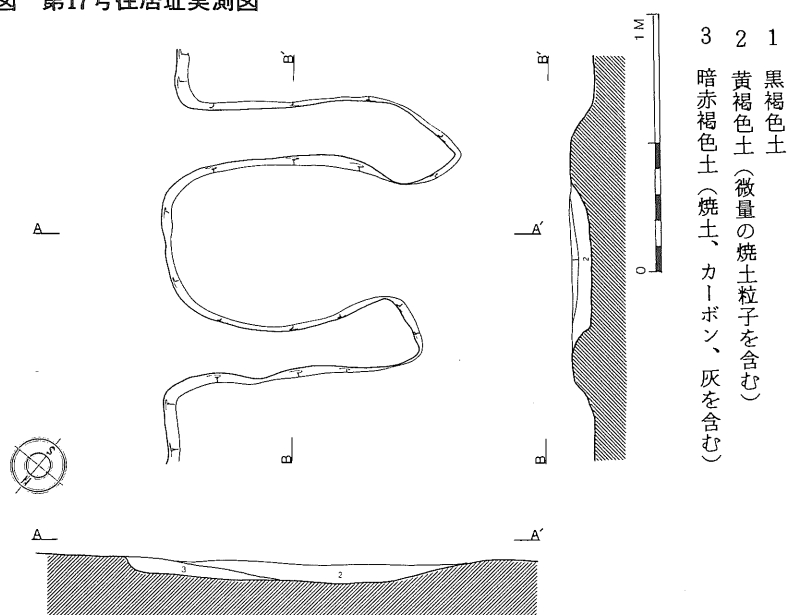
第64図 第16号住居址カマド実測図 1.焼土 2.暗褐色土 3.カーボン 4.灰 5.黄褐色土



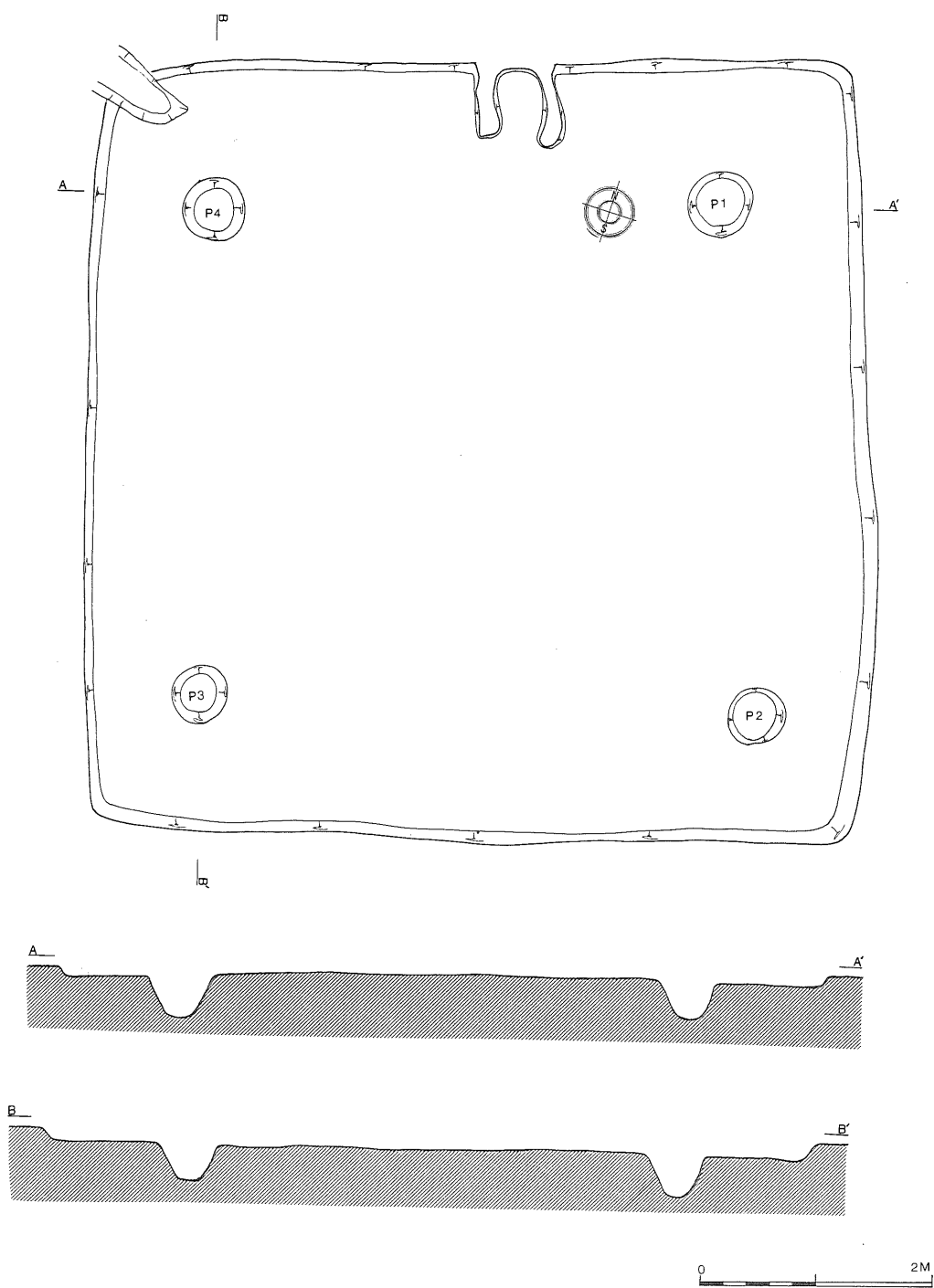
第65图 第16号住居址实测图



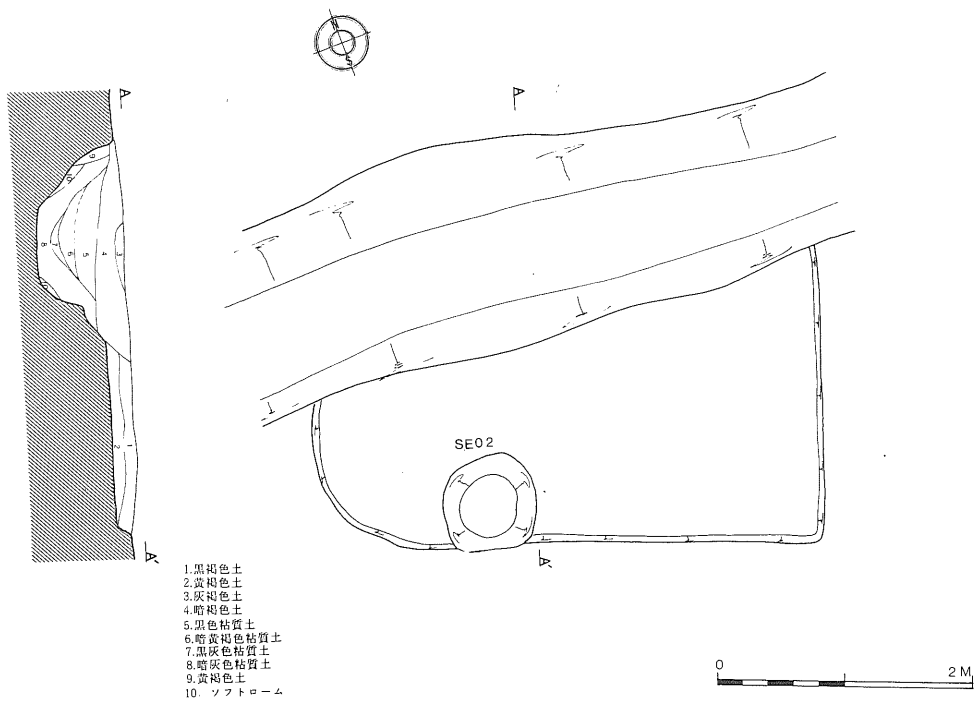
第66図 第17号住居址実測図



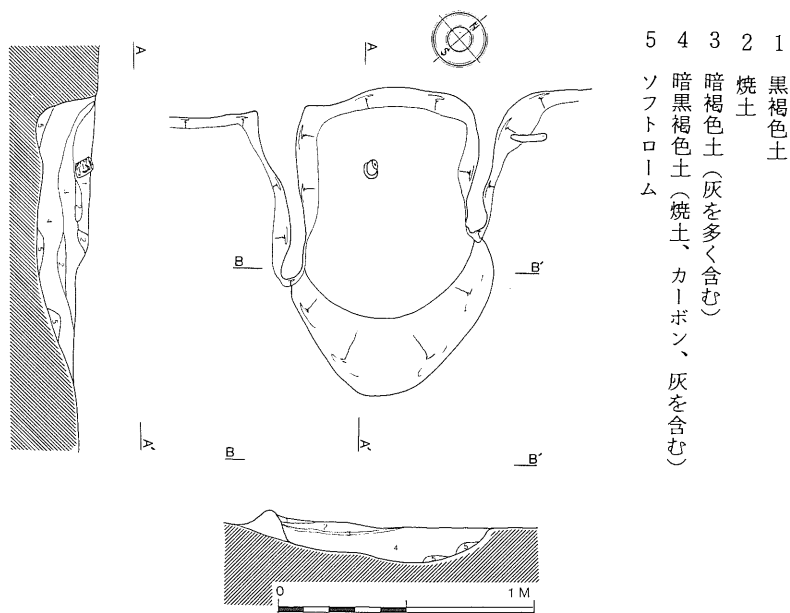
第67図 第18号住居址カマド実測図



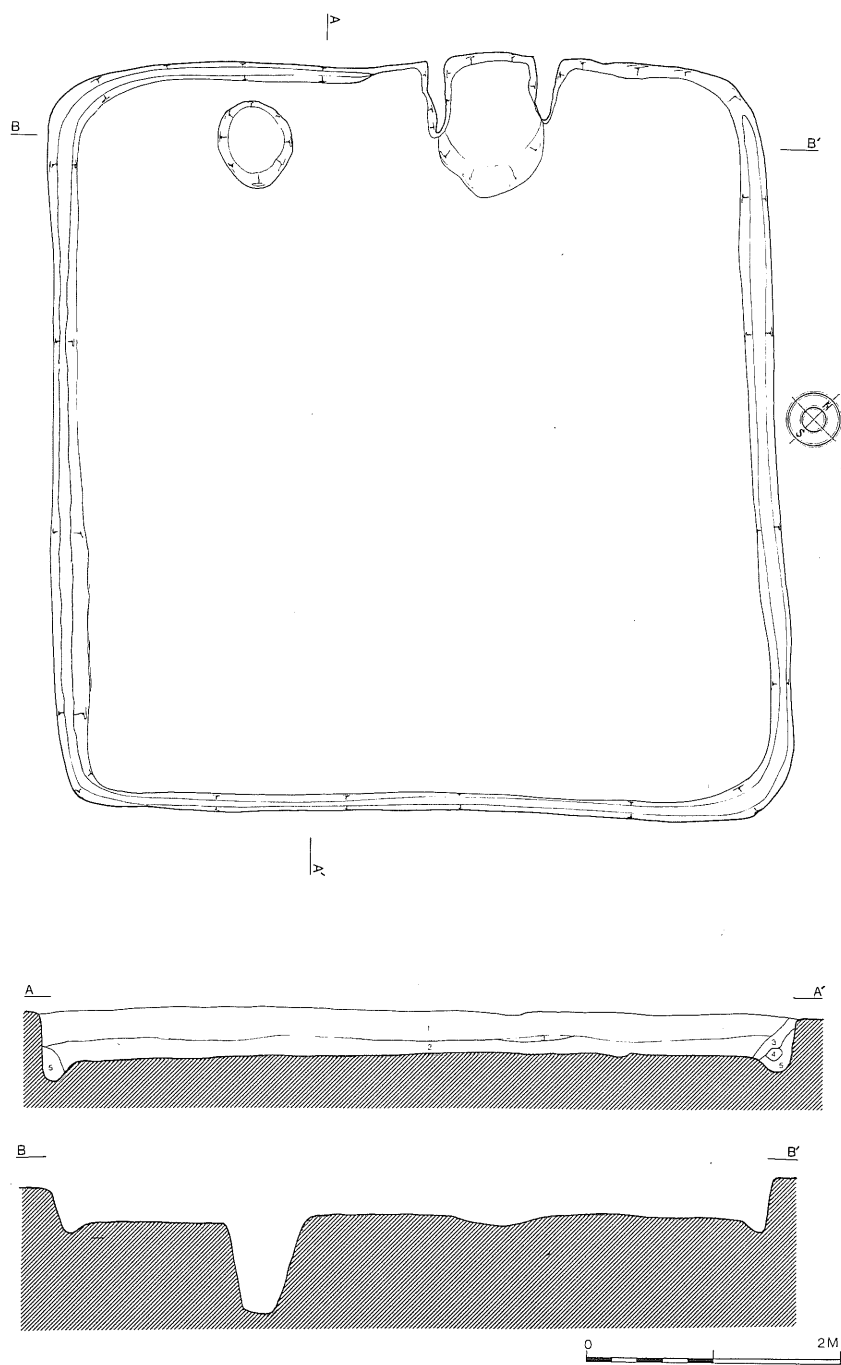
第68图 第18号住居址实测图



第69図 第19号住居址・SE02実測図

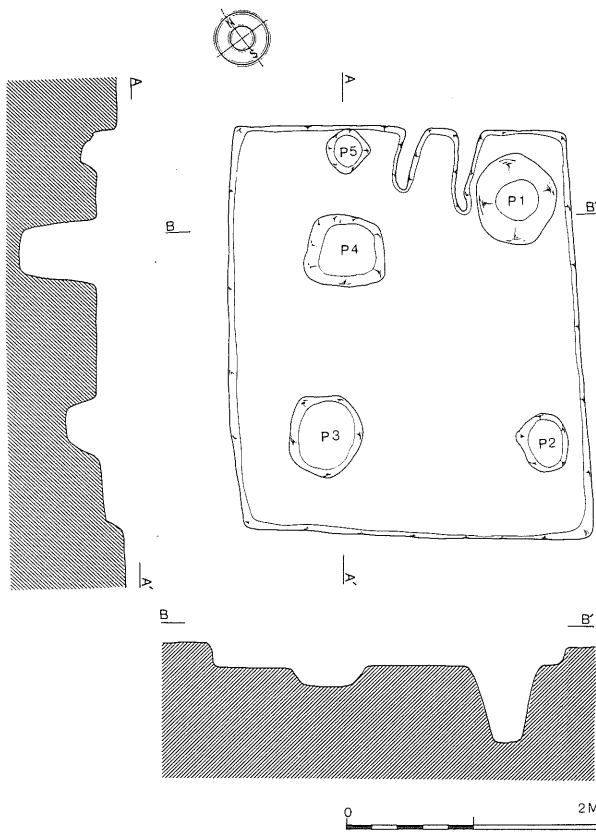


第70図 第21号住居址カマド実測図

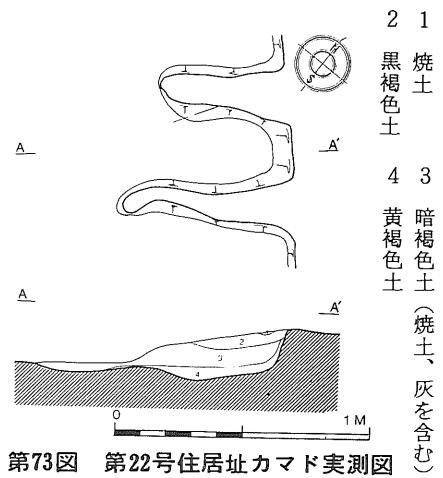


第71図 第21号住居址実測図

- | | |
|---------|----------------------|
| 1. 黒褐色土 | 3. 黄褐色土 |
| 2. 焼土 | 4. 赤褐色土 (焼土にカーボンを含む) |

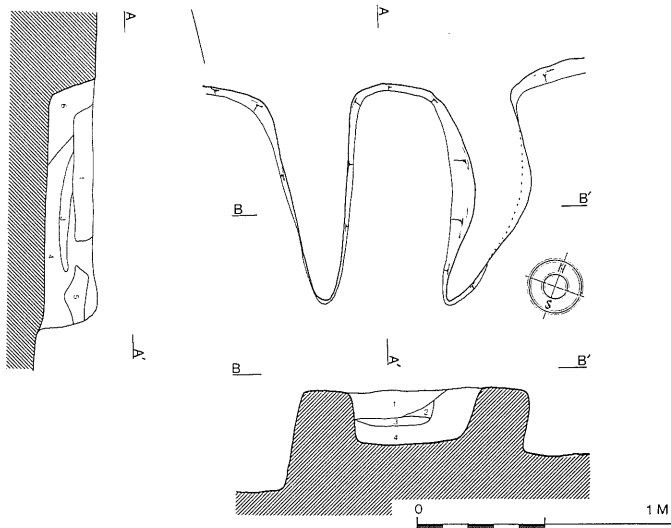


第72図 第22号住居址実測図



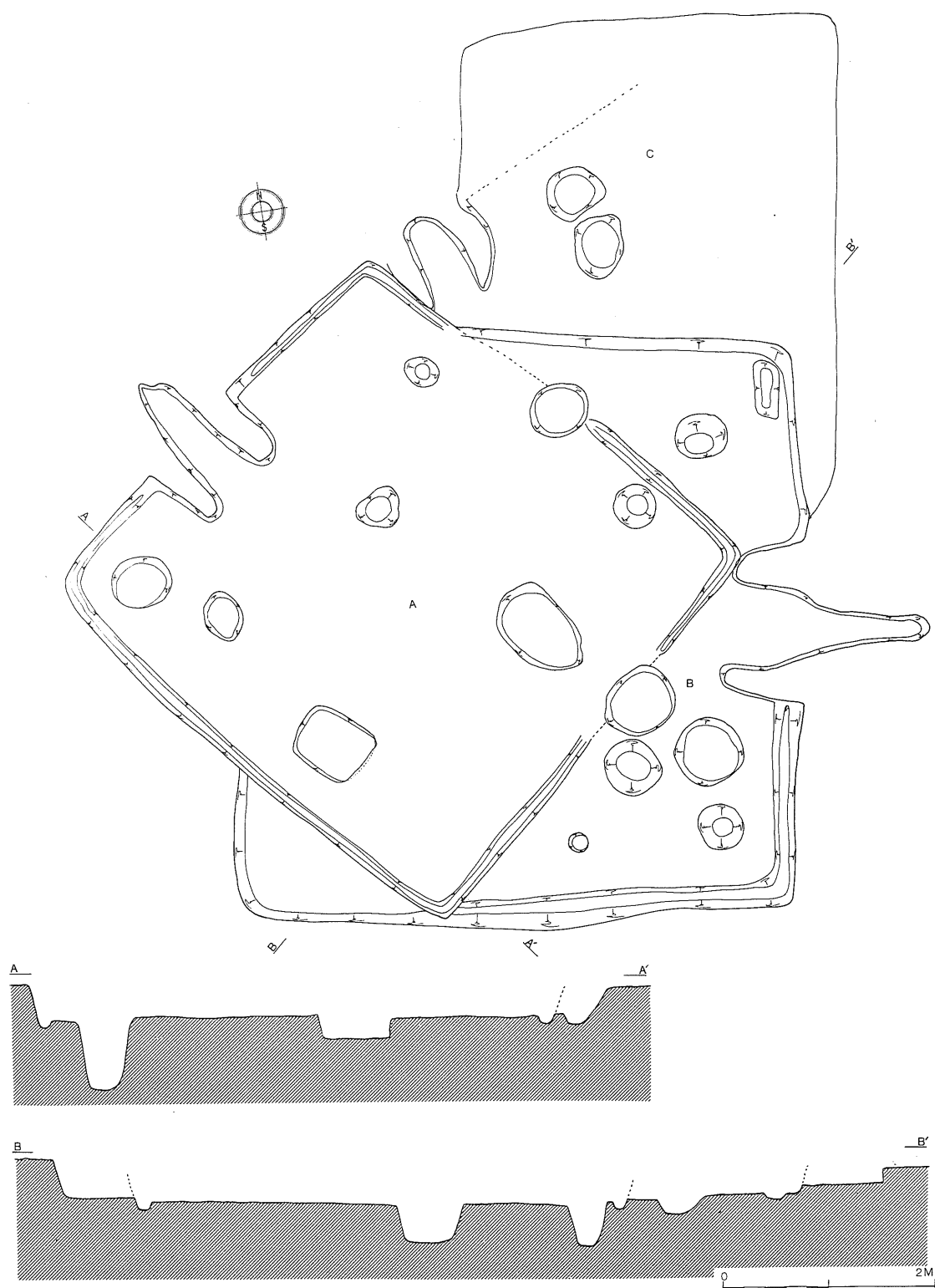
第73図 第22号住居址カマド実測図

2 1
黒褐色土 焼土
4 3
黄褐色土 暗褐色土 (焼土、灰を含む)



第74図 第23号C住居址カマド実測図

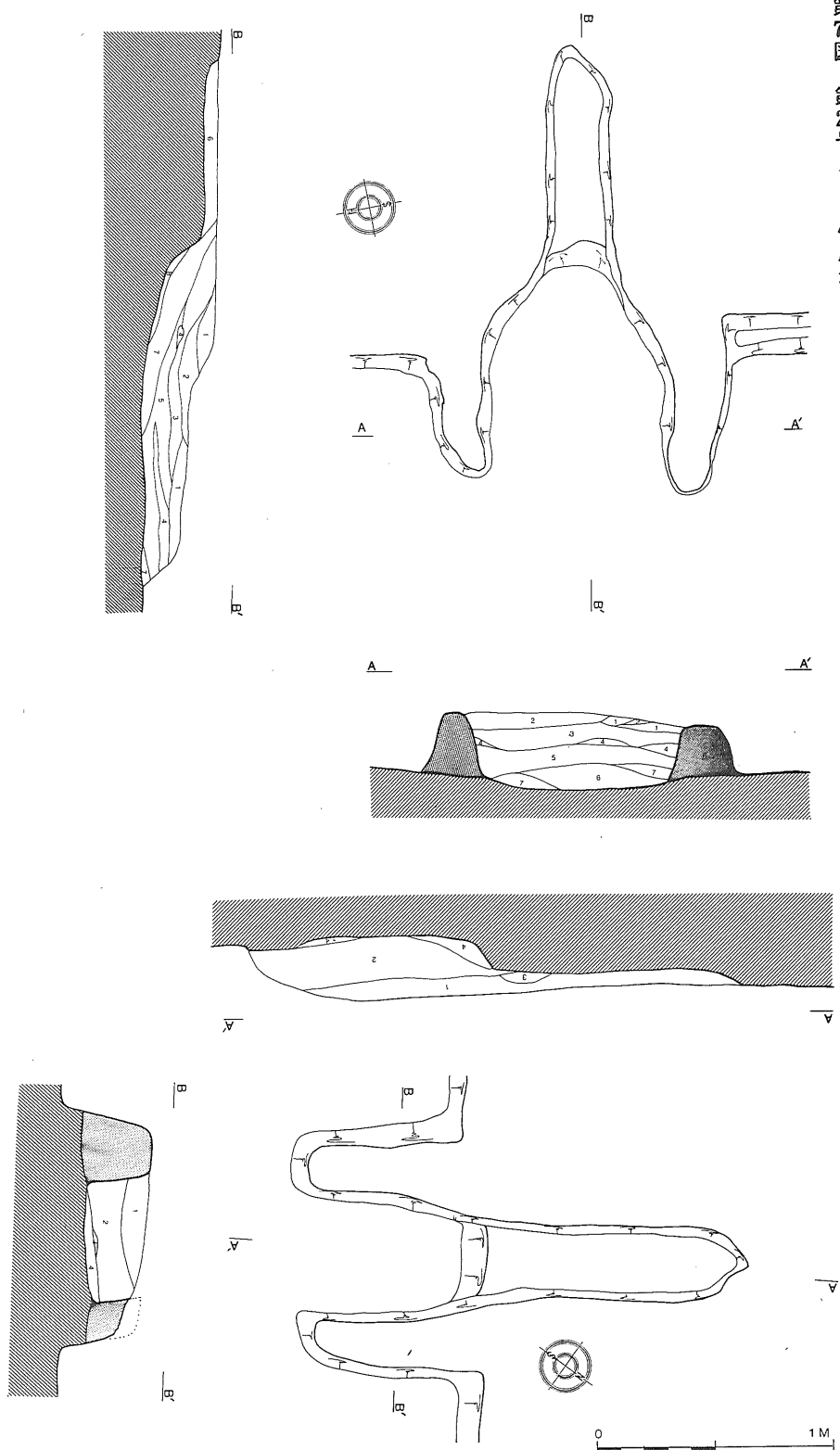
1.黒褐色土
2.焼土
3.灰
4.黄褐色土
5.暗褐色土
6.茶褐色土

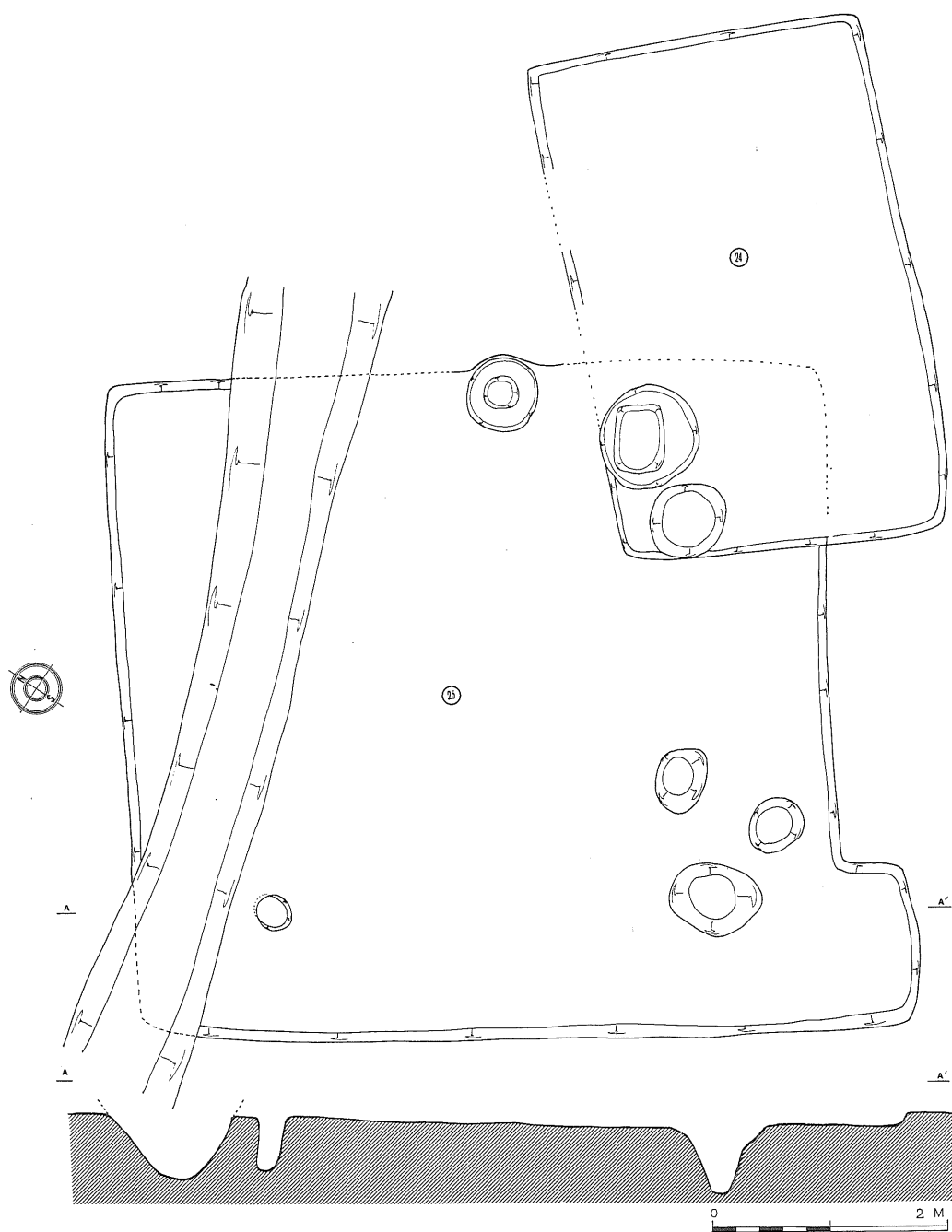


第75図 第23号 A・B・C住居址実測図

第76図 第23号A・B住居址カマド実測図

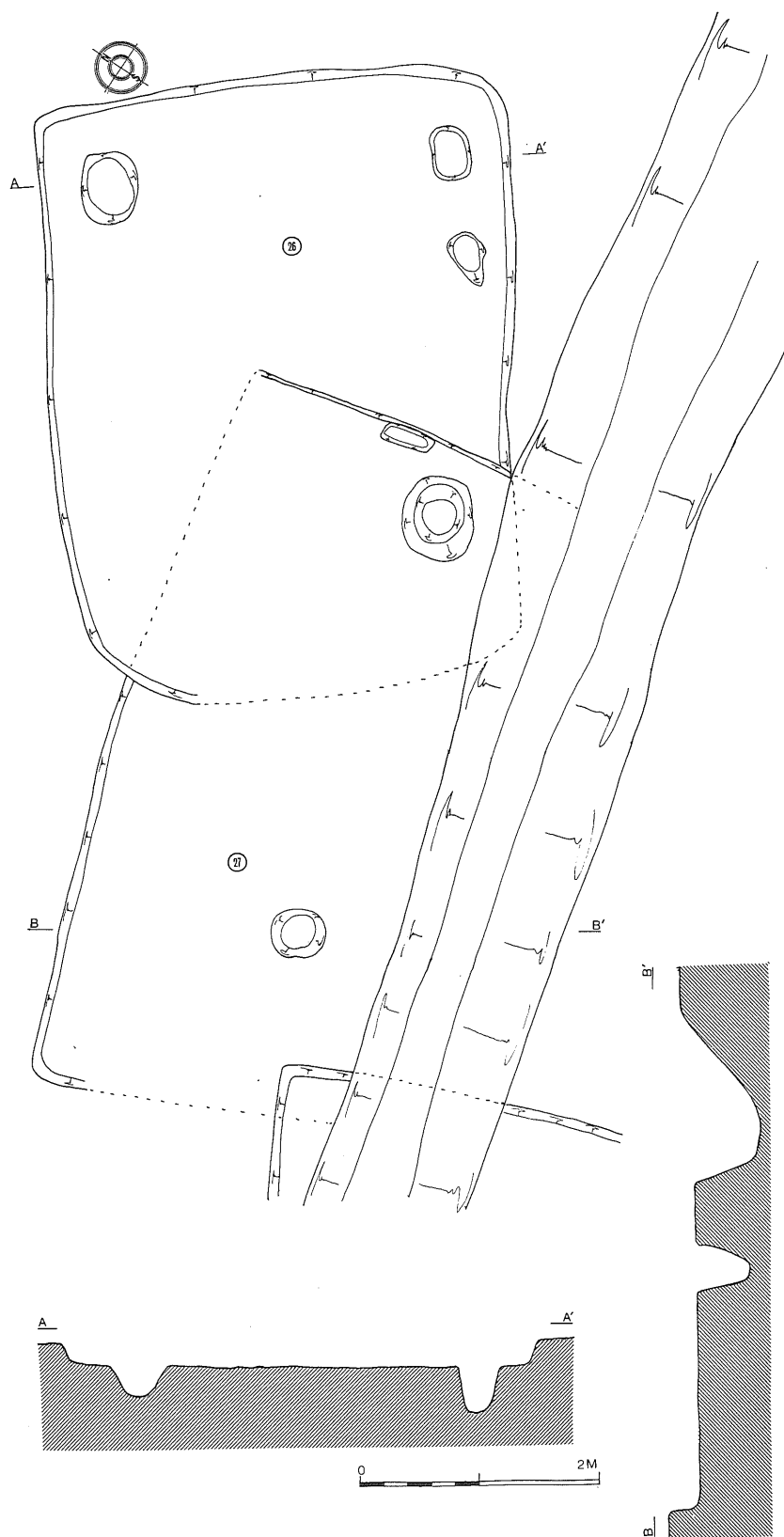
- | | |
|---|-----------------|
| 1 | 黒褐色土 |
| 2 | 暗褐色土 |
| 3 | 明褐色土 |
| 4 | 灰 |
| 5 | 赤褐色土(焼土、灰の混土层) |
| 6 | 暗褐色土(焼土、灰を微量含む) |
| 7 | 焼けたソフトローム |
| 8 | ソフトローム |

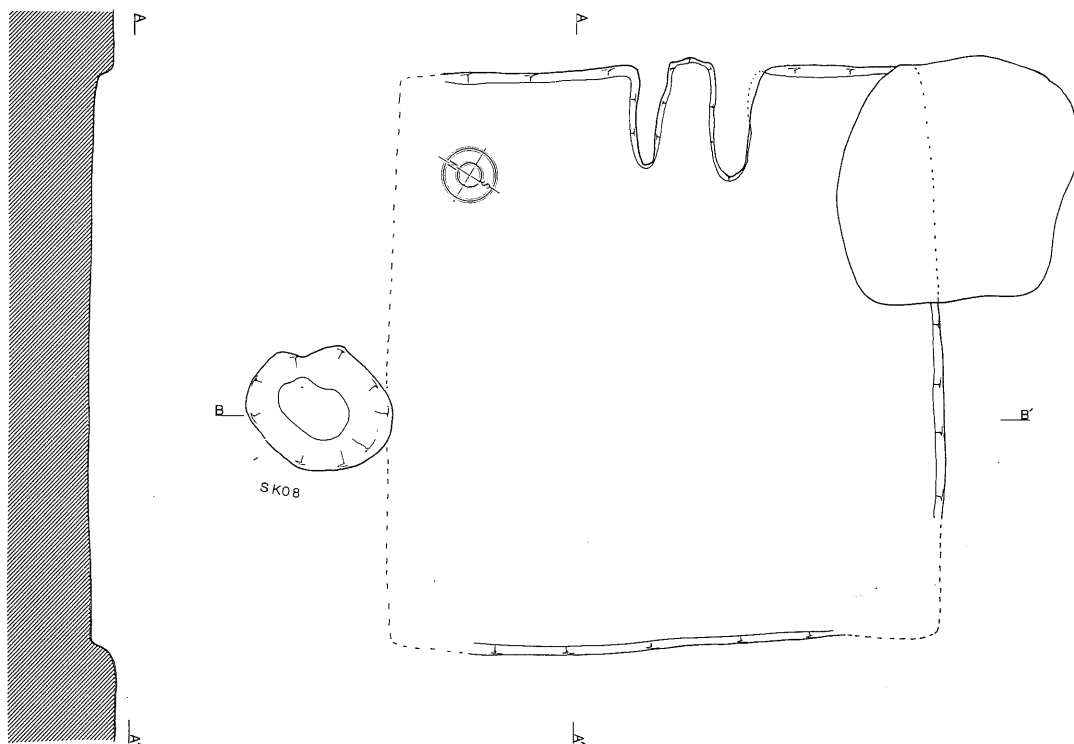




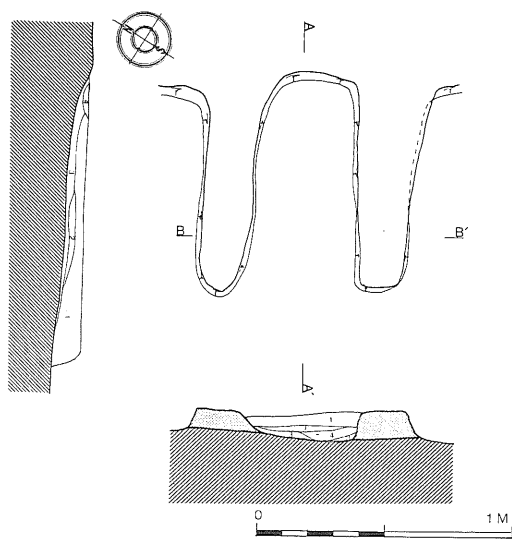
第77图 第24・25号住居址实测图

第78図 第26・27号住居址実測図



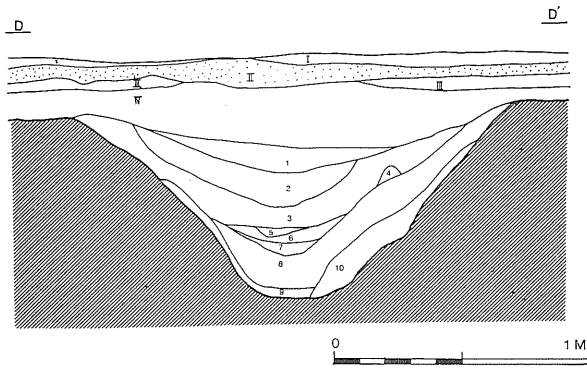


第79図 第28号住居址・SK08実測図



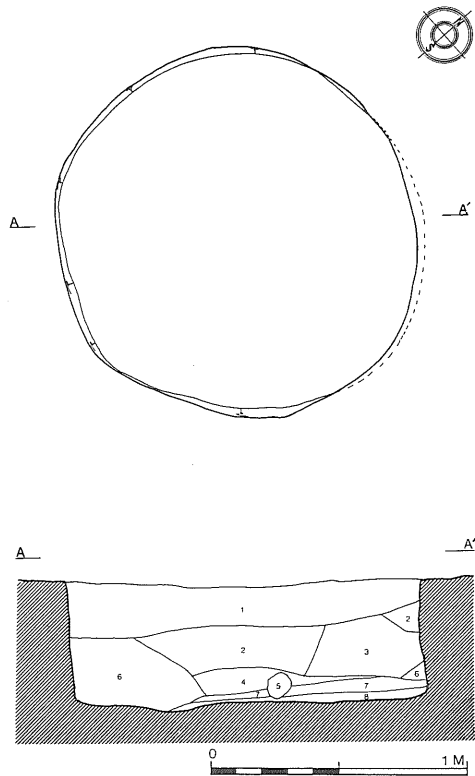
第80図 第28号住居址カマド実測図

1. 黒褐色土（微量の焼土・灰を含む）
2. 灰
3. 焼けたソフトローム
4. 明褐色土（焼土に3を含む）



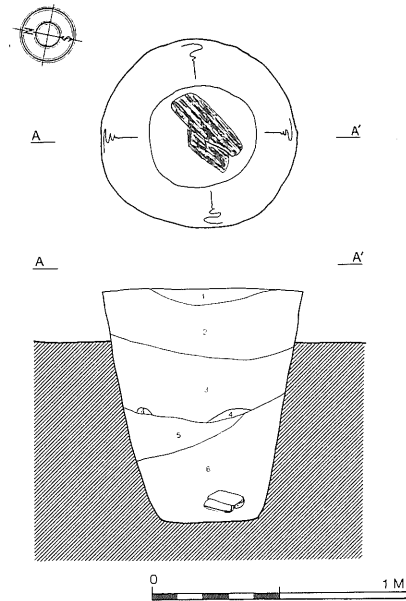
第81図 S D 0 2 土層図

- I 耕作土
- II 灰褐色火山灰層
- III 暗褐色土
- 1. 黒色土
- 2. 黒褐色土 (やや粘性有り)
- 3. 灰褐色粘質土
- 4. ソフトローム
- 5. 青灰色粘質土
- 6. 暗灰色土 (砂を微量含む)
- 7. 砂層
- 8. 黒灰色粘質土
- 9. 黄褐色土 (粘性強い)
- 10. 黄褐色土 (粘性弱い)



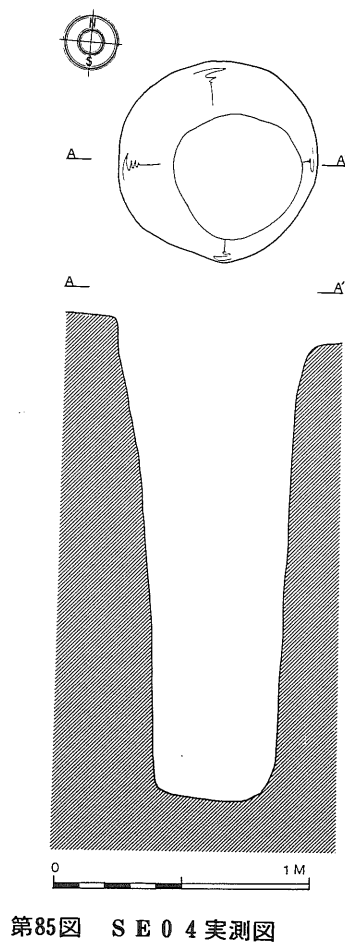
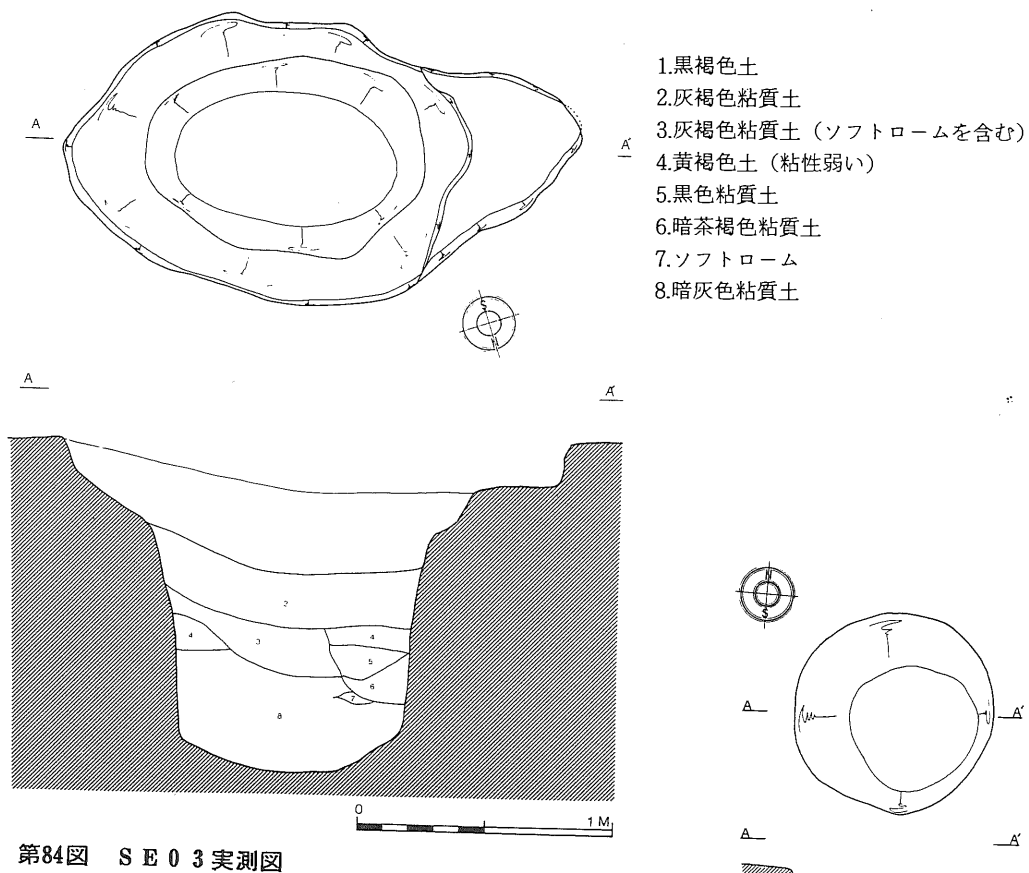
第82図 S K 0 9 実測図

- 1. 黒褐色土
- 2. 黄褐色土
- 3. 黄褐色土 (カーボンを微量含む)
- 4. 茶褐色土
- 5. 焼土ブロック
- 6. 暗黒褐色土
- 7. 暗灰色土
- 8. 黄褐色粘質土

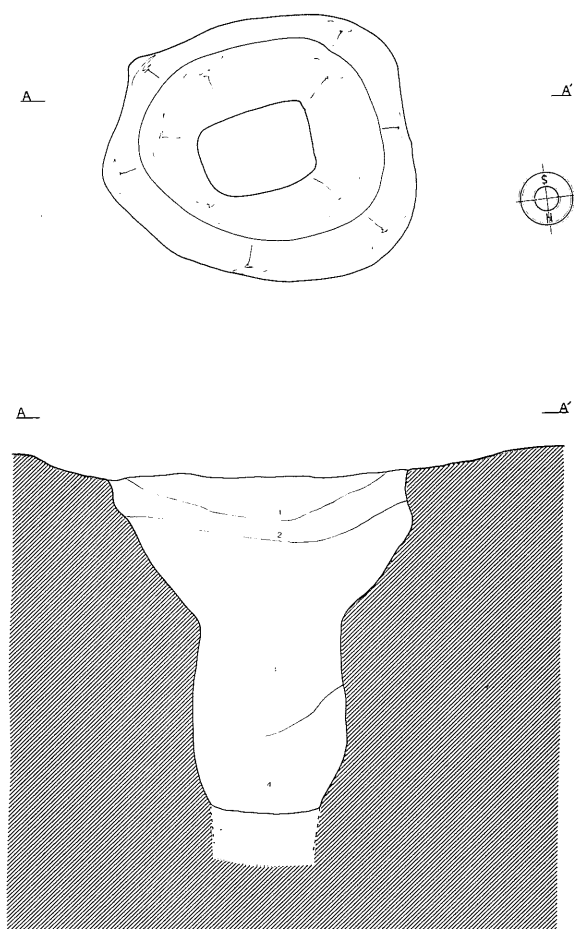


第83図 S E 0 1 実測図

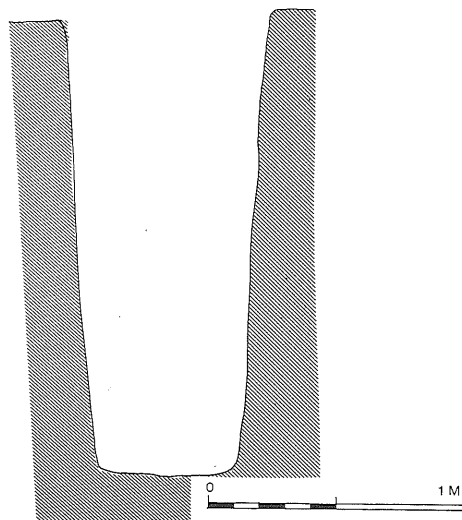
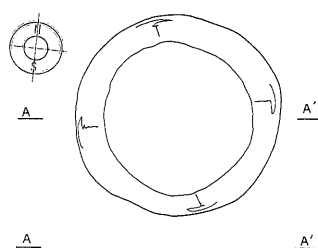
- 1. 黒色土
- 2. 黒褐色土
- 3. 暗褐色土
- 4. ソフトローム
- 5. 灰褐色粘土
- 6. 青灰色粘質土



1. 黒色土
2. 暗褐色土
3. 黄褐色砂層（キメの細かい）
4. 黄色砂層



第86図 SE 05 実測図



第87図 SE 06 実測図

(2) 遺物

第1号住居址出土遺物 (第88図)

器種	番号	大きさ (cm)	形態の特徴	手法の特徴	備考
甕	1	口径(16.8)	口縁外反し、上位は直立、全体に薄手。	口縁横撫、頸部に篋による調整痕、内面は横撫平滑。胎土中に小砂粒を含む。色調は灰褐色。	
〃	2	底径(7.3)	底部の突出はあまりなく、胴部に移行しやや凹凸有り。	外面荒い縦方行の篋削り。内面は横方行の細い刷毛目が残る。胎土やや細かい。色調は赤褐色。	
坏	3	口径(10.7) 器高(4.5)	口縁下部に整形時の沈線が有り、体部の稜は小さい。	口縁部横撫、体部篋削り。胎土中の小砂粒が表面に見られ色調は暗褐色。	二次的加熱を受ける。
〃	4	口径(10.9)	体部に鋭い稜があり、器肉は口縁部に向い器面に凹凸が目立つ。	口縁部横撫、体部篋削り、器面平滑、胎土良。色調黄褐色。	
甗	5	口径(24.0) 器高(25.4) 底径(10.6)	口縁やや外反し、ゆるやかに底部に向い器面に凹凸が目立つ。	口縁横撫、体部は縦方行の篋削り後撫でつけが行なわれる。底部付近はさらに横方行の篋削りと入念な再調整痕有り。内面荒い篋削りが顕著に残り底部付近に輪積痕有り。胎土精選、色調明褐色。	口縁部欠。
土 鍾	6	全長 4.2	紡錘形を呈し全体にゆがみ有り。	外面撫、全体に磨滅し色調は黒褐色。	
壺	7	口径(18.0) 器高 14.1 底径 5.8	薄手精巧で口縁やや外反肥厚、底部やや突出。	口縁横撫、整形時の沈線残る。体部篋磨きにより平滑。底部近くに篋削り痕が残り底部の整形はやや粗雑。内面はよく磨かれ平滑。胎土精選、焼成良、色調明褐色、一部黒色を呈する。	

第2号住居址出土遺物 (第89図)

器種	番号	大きさ (cm)	形態の特徴	手法の特徴	備考
甕	1	口径 17.9	頸部の屈曲著しく、肩部に輪積痕明瞭。	口縁部横撫、体部に斜めの篋削りがわずかに残り全体に篋磨きが行なわれているが表面はざらつく。内面篋磨きにより平滑にされるがやや粗雑。胎土中に小砂粒を多量に含む。色調灰褐色。	
〃	2	口径 18.0	短い口縁から肩部に最大径を有し、ゆるやかに底部へ移行する。	口縁部は横撫、調整時の沈線が2条、指頭痕が残る。体部は縦の篋削りが顕著に残る。内部は篋磨により平滑、頸部、肩部に輪積痕が残る。胎土精選、焼成良好、色調部位により著しく異なり口縁部灰褐色、胴部は赤褐色、黒色、茶褐色。	

器 種	番号	大 き さ (cm)	形 態 の 特 徴	手 法 の 特 徴	備 考
甌	3	口径 20.0	口縁肥厚し頸部の屈曲急。器面やや凹凸。	口縁内外とも横撫、整形時の沈線が残る。体部は荒い篋削り。内面撫でにより平滑。上部に篋削りがわずかに残る。胎土はやや大型の砂粒を含む。焼成ほぼ良、色調暗黄褐色。	胴部下半に炭化物付着。
〃	4	口径 17.8 器高 25.9 底径 8.0	口縁部やや外反し、胴の下半に最大径を有し形態整う。	口縁部上方は横撫により平滑、胴部の縦篋削りが口縁下部におよぶ。底部付近は入念な篋による整形が施される。内面は粗雑な横撫。胎土に2ミリ前後の砂粒を多く含む。色調明褐色。	
壺	5	口径 16.2	口縁わずかに外反し、頸部より大きく開く胴部へ移行。	磨滅が著しく明瞭ではないが、胴部は縦及び横の篋削り後磨かれる。輪積痕明瞭。胎土はほぼ細、焼成ほぼ良、色調灰褐色。	
〃	6	口径 10.1 器高 10.5	口縁直立し口唇部がわずかに突出。肩部から胴中央部にかけ直線的に下り球形に近い底部へ移行、形態整う。	口縁から肩部にかけ横撫により平滑。肩部以下は入念な篋磨き。下半部は欠落が著しく整形不明。内面も横撫により平滑。胎土緻密焼成良好、色調明褐色。	貯蔵穴P1底部から出土。
坏	7	口径 13.6 器高 5.6	口縁ゆるやかに立ち上る。体部との稜明瞭。	口縁横撫、体部篋削り、器面滑らか、胎土細、焼成良好、色調赤褐色。	

第4号住居址出土遺物 (第90図)

器 種	番号	大 き さ (cm)	形 態 の 特 徴	手 法 の 特 徴	備 考
甕	1	口径(18.2)	口縁外反し頸部でややくびれ胴部へ移行する。	口縁横撫、下部に篋痕明瞭。胴部斜めの篋削り。胎土精選、焼成良好、色調黒褐色。	
〃	2	底径(6.2)	底部わずかに突出し、緩やかに立ち上り器面に凹凸有り。	内外とも入念な篋削り。胎土砂粒を含み割れ口は輪積痕。焼成良好、色調黒褐色。	
坏	3	口径 17.3 器高 5.4	やや大形で胴部は凹凸が有り安定性に欠け口縁は小さく、大きく外反し体部の稜は鋭い。	口縁横撫、体部の篋削りは横と縦に入念に施されている。胎土は微量の砂粒を含み焼成良好、色調黄褐色。	
〃	4	口径(17.4) 器高 4.7	底部は比較的浅く、大きな外反する口縁部、稜はやや浅い。	口縁横撫、体部篋削り、胎土細焼成良好、色調明褐色。	
〃	5	口径(14.6) 器高 4.5	口縁外反し口唇部で直立。内面に整形時の沈線有り。稜は浅く、底部直線的。	口縁横撫平滑、体部は底部に向う篋削り。胎土に砂粒を含み焼成良好、色調暗褐色。	

器 種	番号	大 き さ (cm)	形 態 の 特 徴	手 法 の 特 徴	備 考
坏	6	口径(12.8) 器高 4.5	口縁はほぼ直立、稜明瞭。底部やや厚い。	口縁横撫、体部篋削り。胎土不純、アバタ状の小穴有り。色調黄褐色、黒色の斑点。	
〃	7	口径(17.1) 器高 5.1	深みのある体部から外反する口縁に移行。口唇部はやや直立。	口縁横撫、体部篋削り、胎土細焼成良好、色調明褐色。	
〃	8	口径(15.8) 器高 3.6	直線的な底部から口縁は外反し口唇部直立。	口縁横撫、体部篋削り、胎土精選、焼成良好、色調明褐色。	
〃	9	口径(14.8) 器高 4.6	口縁外反し中央部わずかにふくらみ胴部へ移行。	口縁横撫、体部篋削り、胎土やや細、焼成良好、色調黒褐色。	すす付着。
須恵器 蓋	10	口径(12.7)	二段の稜を有し、薄手。	口縁横撫、体部にロクロ痕わずかに残る。胎土、微砂粒をやや多く含み、色調青灰色。	内面にすす付着。

第 5 号 A 住居址出土遺物 (第91、92、93図)

器 種	番号	大 き さ (cm)	形 態 の 特 徴	手 法 の 特 徴	備 考
甕	1	口径 17.1 器高 33.5 底径 6.8	「く」の字状口縁、形態整い胴部のやや上方に最大径を有する。	口縁横撫、体部縦方行の篋削り。内部は篋磨きで極めて平滑、胎土細、焼成良好、色調口縁から体部上方にかけ黒褐色、以下二次的加熱により赤褐色。	
〃	2	口径 19.0 器高 32.2 底径 6.4	「く」の字状口縁、形態整い器面に凹凸あり。	口縁横撫、頸部に接合痕、体部は篋削り後磨き、底部付近はやや入念な篋削り。胎土微粒な砂を多量に含み露出する。焼成はほぼ良好。色調黄褐色。	
〃	3	口径 18.4 器高 33.8 底径 7.7	口縁「く」の字状をし頸部の屈曲急。胴下半に最大径を有し底部はやや突出。	口縁部は上部に横撫、接合痕残り篋削りが部分的に口縁部にも施され一部指頭痕残る。胴部縦方行の篋削りがまんべんなく施され底部付近はさらに入念。胎土は4ミリ前後の砂、微粒の砂も含み焼成良好、色調黒褐色、明褐色、黄褐色と部分的に変化する。	
〃	4	底径 5.4	薄手で残存部分は砲弾型を呈し底部は凹凸有り。	上部は縦の篋削り、下部は斜めの篋削り。内面の底部の凹凸が著しい。胎土は小砂粒を含み焼成良好、色調黄褐色。	
〃	5	口径 19.5	口縁やや肥厚し、「く」の字状	口縁横撫、輪積痕残る。胴部縦篋削り後篋磨き。内面木口状工具による調整痕。胎土細、焼成はほぼ良。	

器 種	番号	大 き さ (cm)	形 態 の 特 徴	手 法 の 特 徴	備 考
甕	6	口径 18.0	「く」の字口縁立ち上りゆるやか。	口縁横撫、篋痕深く明瞭、胴部縦の篋削り。内面丁寧な横撫、特に頸部入念。胎土に小石を含み焼成良好、色調黄褐色。	一部表面欠落。
〃	7	口径 17.7	口縁短かく「く」の字状を呈する。	口縁内外とも刷毛により調整痕浅く残る。胴部篋削り後磨き平滑。胎土砂粒を多く含む。焼成良好、色調暗褐色。	
〃	8	口径(17.5)	口縁に稜を有し肩部から胴部にふくらむ。	外面全体に研磨され平滑。内面やや粗雑な篋削り、凹凸有り。胎土精選、焼成良好、色調明褐色。	
甌	9	口径 23.3 器高 32.3 底径 9.0	口縁「く」の字状を呈し肩部か底部にゆるやかに移行する	口縁内外とも横撫、頸部篋痕顕著。体部は篋削り後撫、内面篋削りのみ。胎土やや細、焼成は良好、色調淡褐色、黒色。	
埴	10	口径 9.8 器高 15.7 底径 17.7	口縁ゆるやかに立ち上り上端は直立、頸部屈曲し胴中央部に最大径を有し球型の底部へ移行。	胴中央部以上は磨き、下半部、磨滅するが浅い篋削りわずかに残る。胎土砂粒を含み、焼成は良好色調黄褐色。	
小型壺	11	口径 12.3	口縁やや外反、肩部からややふくらみを持つ。	器面全体に磨滅、剥離著しく外面不明、内面横撫、平滑、頸部に輪積痕、器壁薄い。胎土小砂粒を多量含。焼成は良好、色調赤褐色。	
坏	12	口径 13.3 器高 5.8	深い球形の底部からゆるやかに外反する口縁へ移行し口縁の下半でややふくらむ。	口縁横撫、胴部篋削り後撫、器面全体平滑。胎土細、焼成良好、色調暗褐色。	すす付着。
〃	13	口径 12.2 器高 5.8	半球形の胴部からやや直線的に開く口縁部へ移行。	口縁内外横撫、胴部篋削り入念。胎土やや細、焼成やや良、色調黄褐色。	
〃	14	口径 12.0 器高 5.4	段はゆるやかな稜線、器壁やや厚い。	口縁横撫、胴部篋削り、内面丁寧な撫で平滑。胎土精選、焼成良好色調赤褐色。	
〃	15	口径(12.0) 器高 5.5	器壁薄く口唇部尖る。	内面撫で平滑、外面口縁横撫、胴部篋削り、胎土やや細、焼成良好、色調黒褐色。	
〃	16	口径(13.0)	口縁はほぼ直立、口唇尖る。	内面撫で平滑、外面口縁横撫、胴部篋削り、胎土砂粒やや含む。焼成良好、色調明褐色。	

第 6 号住居址出土遺物（第94、95、96、97図）

器 種	番号	大 き さ (cm)	形 態 の 特 徴	手 法 の 特 徴	備 考
甕	1	口径 17.2 器高 33.0 底径 5.1	口縁緩やかに外反し頸部屈曲し 胴部やや下半に最大径を有し砲弾 形を呈する。形態整う。	口縁横撫、胴部縦及び斜めの筥 削り、一部磨かれ平滑な部分有り。 胎土やや細、焼成良、色調明褐色 黒斑有り。	
"	2	口径 16.8 器高 32.8 底径 7.3	口縁緩やかに外反、胴部凹凸が 目立ち、底部付近でやや歪む。底 部やや突出。	口縁粗雑な横撫、胴部荒い筥削 り、胎土砂粒多く含み表面に露出 焼成良、色調淡黄褐色、底部付近 二次的加熱により赤褐色及び一部 剥離。	
"	3	口径 17.3 器高 36.5 底径 6.5	口縁「く」の字を呈し口唇わず かに直立。器面の凹凸顕著、底部 に粘土粒が付着、整形粗雑。	口縁横撫、体部縦の筥削り、胎 土やや細、焼成不良、色調暗黄褐 色。	二次的加熱 を受ける。
"	4	口径 18.8 器高 34.0 底径 6.5	口縁短く、著しく外反、胴部の 凹凸顕著。	口縁横撫、整形時の沈線一周す る。体部の筥削り入念、下半部二 次的加熱による剥離著しい。輪積 痕明瞭。胎土やや細、焼成良、色 調暗赤褐色。	
"	5	口径(17.9) 器高(34.5)	口縁大きく、やや外反し、胴部 底部近くにややふくらむ。	口縁横撫、上部に沈線。体部縦 の丁寧な筥削り、胴部上方に接合 痕残る。胎土やや細、焼成良、色 調淡黄褐色、一部黒斑。	
"	6	口径 18.3	薄手、口縁緩やかに外反。	口縁横撫、体部筥削り、胎土や や細、焼成甘い。色調黄褐色、一 部二次的加熱により赤褐色。	
"	7	口径(23.0)	口縁外反し、口唇肥厚。	口縁粗雑な横撫、下方に筥痕残 る。体部上方に接合痕残り、縦の 筥削り、胎土砂粒を含む、焼成や や良、色調黄褐色。	
"	8	口径 17.2	口縁「く」の字を呈し短くやや 薄い。胴部やや丸味をおびる。	口縁横撫、胴部磨滅し不明、胎 土やや細、焼成良、色調黄褐色。	
"	9	口径 16.6	胴部直線的に底部へ移行。口縁 薄手、先端丸味をおびる。	口縁横撫、体部筥削り、胎土砂 粒を含む。焼成良、色調明褐色。	
"	10	口径(15.2)	口縁短く外反し先端直立。	口縁丁寧な横撫、体部筥削り後 撫でにより平滑、一部指頭痕残る。 胎土やや細、焼成良、色調暗黄褐 色。	
"	11	口径 26.2	大形、胴下半以下を欠失。口縁 「く」の字に開き下半に低い稜を 有する。口唇肥厚、上端を削る。	口縁の稜上方丁寧な横撫、下半 やや粗雑。一部筥削り、胴部筥削 り後撫でにより滑らか。胎土やや 細、焼成良、色調明褐色。	

器 種	番号	大 き さ (cm)	形 態 の 特 徴	手 法 の 特 徴	備 考
壺	12	口径 13.2 器高 15.0 底径 6.0	小形の作りで口縁は小さく開く。 口唇部外面は平縁となる。	口縁内外面は横撫、肩部は斜めの篋削り調整、胎土中に2～3ミリ程の砂粒を含む。色調は明赤褐色。	
〃	13	口径 13.6 器高 15.8 底径 5.5	口縁は広くゆるやかに立ち上る。底部が厚く篋削りによる凹凸が顕著である。	口縁部内外面は横撫、体部は大きな篋削り調整。その上を縦方向の撫でつけ調整。内面に篋による横位の撫でつけ調整。色調暗赤褐色、胎土中に砂粒含む。	二次的加熱による器面剥落有り。
〃	14	口径 15.6	幅広の口縁が直立気味に立ち上がり肩部に、若干膨りを持つ体部がつらなる。胴下半を欠失。	内外面に輪積痕をみとめる。口縁部内面横撫、胎土中に1～2ミリ程の砂粒を含む。色つやは茶褐色。	二次的加熱を受け器面が剥落。
碗	15	口径(13.5)	小形の造りで短い口縁がわずかに外反する。肩部に膨りを持ち体部下半を欠損。	器肉は薄く、なめらか。内面は横撫。体部は横位の篋削り。胎土中に赤褐色の粒子を含む。	
甌	16	口径 19.3 器高 14.6 底径 5.4	小形の器種で、大きく外反した口縁を有す。口唇部は幅4ミリ程の平縁となる。	口縁内外面は横撫、細かな篋及び刷毛による調整。底部付近は横位の調整。胎土中に2～3ミリの砂粒を含む。焼成良。色調は明褐色。	
〃	17	口径 24.6 器高 34.8 底径 8.7	長胴の体部に大きく外反する口縁を有す。輪積痕が残り凹凸が顕著である。	口縁部は横撫で調整、体部は縦の篋削り。胎土細かく焼成良。	
〃	18	口径 23.2 器高 33.1 底径 10.0	長胴の体部は胴下半に若干のふくらみを持つ。頸部は直立し口縁の先端で開く。	口縁部は横撫、体部は縦の篋削り。胎土中に2～3ミリの砂粒を含む。焼成良、色調は暗褐色、黒斑を有す。	
〃	19	底径 6.2	底部小破片で下部に稜を持つ。体部に縦の調整。	色調は赤褐色、焼成良。	
壺	20	底径(7.3)	小さく平滑した底部から大きく開く体部を有す。輪積接合部から割れ、割れ口を整えている。	底部は横位の調整。内面に撫でつけ痕あり、胎土細かく焼成良。色調茶褐色で黒斑あり。	二次的利用品。
坏	21	口径 15.3 器高 6.4	大形の坏で底部丸く、やや突出気味。口縁部は直立し、体部との境に鋭い稜を有す。口唇は内側に削られ稜を造る。	口縁部横撫、体部篋削り。色調赤褐色、胎土精選、焼成堅緻。	
〃	22	口径 15.6 器高 6.4	大形で幅広の口縁が直立気味に立ち上がり体部との境に稜を有す。	体部は篋削りで口縁部は横撫、胎土細かく焼成良、色調赤褐色。	
〃	23	口径 13.1	突出気味の底部に短い口縁が先	口縁部は横撫、体部は篋削り、	

器 種	番号	大 き さ (cm)	形 態 の 特 徴	手 法 の 特 徴	備 考
坏		器高 5.9	端で外反する。	色調赤褐色で、焼成良、胎土細かい。	
	24	口径 12.3 器高 5.4	深みのある体部に直線的な口縁がある。口唇部は鋭く稜を持ち内面が削ぎ落とされている。	口縁部は横撫、体部は篋削り、胎土中に砂粒を含み赤色粒子が見られる。内面平滑で焼成堅緻。色調茶褐色。	
	25	口径 11.5 器高 5.3	小形で直線的な口縁が開く。体部の稜はやや突出気味に目立つ。	口縁部は横撫、体部は篋削り。胎土中に砂粒を含み、篋削りの痕ザラつく。焼成甘く、色調赤褐色。	
	26	口径 12.2 器高 5.3	浅い体部に大きな口縁が外反する。体部の稜は大きく鋭い。口唇部は上面平滑。	口縁部横撫、体部篋削り、器面滑らか。胎土精選され色調明褐色。底部に黒斑有り。	
	27	口径 11.6 器高 5.5	深味のある体部は丸く口縁はゆるやかに外反する。口縁下部に整形時の沈線が一周する。	口縁部横撫、体部篋削り。胎土精選され器面滑らか焼成良、色調淡褐色。	
	28	口径 12.5 器高 5.0	体部浅く突出気味で幅広の口縁が外反する。口縁下部に整形時の沈線が一周する。口唇部上面平滑。	口縁部横撫、体部篋削り。胎土細かく精選され焼成あまく色調赤褐色。	
	29	口径 12.6 器高 5.9	深味のある底部は若干突出気味。口縁は直線的に立ち上がる。体部の稜は小さいが鋭い。	口唇部は外側に丸味を持ち、横撫調整、体部は篋削りで細かく丁寧な造り。胎土精選され器面滑らか焼成良、色調燈褐色。	
	30	口径 11.8 器高 5.2	体部の稜は鋭く突出して幅広の口縁は緩やかに外反する。	口縁部は横撫、体部は篋削り。胎土精選され、器面滑らか焼成良、色調赤褐色。	
	31	口径 11.8 器高 5.1	口縁が直立し、内面にふくらみが見られる。体部は浅く丸い。	口縁部は横撫、体部は篋削り、色調茶褐色、焼成良。	
	32	口径 12.6 器高 5.2	わずかに内湾しながら立ち上る口縁。底部は丸く浅い。	口縁部は横撫、体部は篋削り。胎土中に砂粒を含む。器面滑らか色調赤褐色で器面に黒斑を認める。	
	33	口径 12.5 器高 4.7	器肉は厚く口縁は短かく外反する。口縁下部に浅い沈線がある。	口縁部は横撫、体部は篋削り。色調は淡褐色で胎土中に砂粒を含む。内面滑らか、焼成良。	
	34	口径 12.2 器高 5.0	体部浅く幅広の口縁が上端で開く。内面底部中央がくぼむ。	口縁部は横撫、体部は篋削り。口唇部に沈線が一周。色調赤褐色焼成良好。器面滑らか、底部に黒斑有り。	
	35	口径 12.4	浅く丸味を持った体部で口縁は	口縁部は横撫、体部は篋削り。	

器 種	番号	大 き さ (cm)	形 態 の 特 徴	手 法 の 特 徴	備 考
坏	36	器高 5.5	直線的に開く。	口縁と体部の境に沈線が一周。焼成良、色調淡褐色、底部に黒斑有り。	
		口径 13.6 器高 5.1	浅く突出気味の体部で直線的に開く口縁は上端で外反する。口唇部に浅い沈線が一周。	口縁部は横撫、体部篋削り。器面滑らか焼成良、底部は黒褐色。	
	37	口径 12.8	体部に突出気味の稜を持ち、短い口縁は先端で外反する。体部は浅く突出気味。	口縁部は横撫、体部は篋削り。胎土は精選され器面滑らか。色調茶褐色で底部に黒斑有り焼成良好。	
		器高 5.5			
	38	口径 12.6	滑らかな丸味を持つ体部に下端にくぼみを持つ口縁がつながる。口唇部は鋭く内側に削ぎ落とされている。	口縁部は横撫、体部は篋削り。胎土精選され器面滑らか色調赤褐色。	
		器高 5.2			
	39	口径 12.6	浅い体部に稜が鋭く突出し、緩やかに外反する口縁につながる。	口縁部は横撫、体部は篋削り。底部外面に黒斑が有り、胎土精選され色調淡褐色。	
		器高 5.3			
	40	口径 12.5	体部は浅く滑らかな丸味で直線的な口縁がわずかに開く。	口縁部は横撫、体部は篋削り。内面は風化し若干のザラつきを認める。胎土中に2ミリ程の砂粒を少量含む。	
		器高 5.4			
	41	口径 13.3	大きく丸味を持った体部に垂直に立ち上った口縁は先端で短く外反する。体部の稜は崩れ丸味を持つ。	口縁部は横撫、体部は篋削り。内面は滑らか、焼成堅緻。色調赤褐色。	
		器高 5.0			
	42	口径 12.5	やや突出気味の底部に内湾しながら立ち上る口縁を有す。体部との境に浅い沈線が一周する。	口縁部は横撫、体部は篋削り。器面は風化してザラつく。焼成やや甘く色調燈褐色。	
		器高 5.7			
	43	口径 12.8	浅くやや偏平な体部に垂直な口縁が立ち上る。体部の稜は崩れ丸味をおびる。	器面風化して整形痕不明。色調茶褐色。	
		器高 4.9			
	44	口径 12.7	丸味のある体部に内湾しながら口縁が立ち上る	口縁部は横撫、体部は篋削り。木口状工具による整形。口唇部に浅い沈線がめぐる色調燈褐色、焼成良好。	白玉出土
		器高 5.3			
	45	口径 12.2	浅く偏平な体部に大きく張り出し丸味を持った稜を持つ。口縁は緩やかに立ち上り先端で外反する。	口縁部は横撫、体部は篋削り。胎土精選され器面滑らかで丁寧な造り。口唇部に浅い沈線が一周。色調明褐色、焼成良好。	
		器高 5.0			
埴	46	口径 10.7 器高 5.4	やや突出気味の底部から上部に丸味を持った体部へつながり口縁	口縁部は横撫、体部は篋削り。内面は丁寧に撫でつけられ滑らか	

器 種	番号	大 き さ (cm)	形 態 の 特 徴	手 法 の 特 徴	備 考
高 坏	47	裾径 13.6	部は、小さく内湾する。 口縁部を欠失。口縁は体部との境に稜を有し器肉の厚い造り。脚部はふくらみを持って大きく開いた裾部とつながる。	胎土精選され焼成堅緻、色調明赤褐色。 口縁部は横撫、体部内面は丁寧な撫つけ、裾部は内外面とも横撫接合部付近に絞りが残る。胎土精選され器面滑らか焼成良好、色調燈褐色。	カマド支柱に利用
"	48	裾径 12.0	坏部を欠損。大きく開く脚部は幅の狭い裾がつく。	裾部は横撫、脚内面は横位の筥削り。胎土精選され焼成良好、色調明赤褐色。	カマド支柱として利用。

第7号住居址出土遺物（第98、99、100図）

器 種	番号	大 き さ (cm)	形 態 の 特 徴	手 法 の 特 徴	備 考
甕	1	口径 18.6 器高 34.1 底径 4.8	口縁外反し胴部は緩やかに底部へ移行し丸味を持つ。	口縁横撫、頸部筥痕、胴部筥削り、内面撫でにより平滑。胎土やや粗、焼成ほぼ良、色調暗褐色。	貯蔵穴内出土。
"	2	底径 5.3	口縁欠損、薄手長胴。	体部縦方向の筥削り、下部横、斜めの筥削り入念。胎土砂粒多く含、焼成良、色調赤褐色。	カマド内出土。
"	3	口径 19.0	口縁ゆるやかに外反、頸部明瞭。	口縁横撫やや粗雑、胴部筥削り胎土砂粒、雲母を多量に含み表面露出、焼成良、色調赤褐色。	貯蔵穴内出土。
"	4	口径(20.0)	口縁ゆるやかに外反、口唇直立先端尖る。	口縁横撫、頸部筥痕、胴部磨減、整形不明瞭。内面撫で平滑、胎土粗、焼成ほぼ良、色調黒褐色。	
"	5	口径(19.2)	口縁外反し、下端に沈線、口唇直立やや内湾。	口縁横撫、頸部筥痕明瞭、体部筥削り、胎土砂粒含、焼成良、色調黄褐色。	
"	6	口径 13.4 器高 19.8 底径 3.8	口縁やや外反、口唇直立、形態整う。粘土粒の付着有り、器面やや凹凸。	口縁横撫、胴部斜め及び縦の筥削り。胎土やや粗、焼成良、色調赤褐色。	カマド内出土。
"	7	口径 17.3	口縁外反し頸部やや強く屈曲。	口縁粗雑な横撫、胴部筥削り粗雑。胎土砂粒多く含、色調黄灰褐色。	カマド内出土。
"	8	口径 18.6	口縁外反し中央でややふくらむ。	口縁上半のみ横撫、下端筥削り胎土砂粒多量含、色調黄褐色。	
"	9	底径 5.4	底部わずかに突出胴部へ移行。	筥削り後撫、比較的平滑、胎土やや細、焼成良好、色調黄褐色。全体に整形整う。	

器 種	番号	大 き さ (cm)	形 態 の 特 徴	手 法 の 特 徴	備 考
壺	10	底径 5.5	胴下半に最大径を持ち頸部に接合痕残る。	胴部縦篋削り下端入念な篋削り、内面平滑、胎土砂粒多く含、焼成やや良、色調黒褐色。	
甗	11	口径 17.5 器高 14.2 底径 4.6	口縁やや外反口唇直立小形、形態整う。単孔。	口縁に調整時の沈線、以下横撫胴部入念な篋削り、内面篋痕顕著に残る。胎土砂粒含、焼成良、色調明褐色。	カマド内出土。
"	12	口径 22.6 器高 30.3 底径 9.4	口縁外反し肩部最大径を有し底部へ移行する大形、形態整う。	口縁横撫篋削り併用、胴部篋削り内面平滑、胎土やや粗、焼成良、色調黄褐色。	貯蔵穴内出土。
"	13	口径 26.0 器高 28.6 底径 9.0	口縁やや大きく外反、形態整う。器面凹凸有り。	口縁横撫、胴部篋削り細く入念内面ほぼ同様。胎土細、焼成良好、色調黄褐色。	貯蔵穴内出土。
"	14	底径 9.7	胴部上半以上欠失、器肉薄手は均一。	縦の篋削り内面平滑、胎土やや細、焼成良好、色調明褐色。	
壺	15	口径 10.6 器高 10.8 底径 4.4	頸部屈曲、口唇直立、両面より削り細く突出、形態整う。	口縁横撫、胴部篋削り。胎土細、二次的加熱を受け外面赤褐色、内面黒色。	カマド内出土。
埴	16	口径 11.6	口縁のみ。胴部以下欠失、ゆるやかに外反、口唇内側より削り先細。	内外とも横撫、平滑。二次的加熱により剥落有り。焼成良好、色調外面赤褐色、内面明褐色。	倒立し支柱として利用
支 柱	17	器高 17.1 底径 8.1	上部にややゆるみ有り、脚部「ハ」の字に開く。	脚部横撫平滑、体部指撫、上部に指頭痕わずかに残る。胎土細、焼成良好、色調黄褐色。	床面出土
坏	18	口径 15.2 器高 4.5	底部浅く稜明瞭、口縁外反し、口唇丸くなる。器形ややゆがむ。	口縁入念な横撫平滑、胴部の篋削り浅く残り、底部中央やや突出胎土精選、焼成良好、色調明褐色。	
"	19	口径(14.5) 器高 5.0	口縁下端に沈線、底部丸底、明確な稜。	口縁横撫、体部篋削り。胎土細、焼成良好、色調明褐色。	
"	20	口径 14.0 器高 4.5	口縁わずかに外反、上部にふくらみを有し、体部との稜端鋭く尖る。	口縁に丁寧な撫、体部篋削り、胎土細、焼成良、色調暗褐色。二次的加熱を受ける。	
"	21	口径 12.7 器高 5.8	球形の胴部から口縁はほぼ直立。	口縁横撫、体部篋削り、胎土細、焼成良、色調黒褐色。	フク土。
"	22	口径(14.3) 器高 4.6	口縁外反し、底部やや直線的。	口縁横撫、体部篋削り、胎土砂粒多く含、焼成やや良、色調黄褐色。	

器 種	番号	大 き さ (cm)	形 態 の 特 徴	手 法 の 特 徴	備 考
高 坏	23	裾径 12.0	脚柱太く、裾「ハ」の字に開き、先端わずかに反る。	坏部下端より脚部丁寧な撫で、坏部筥削り、脚柱内面絞りわずかに残る。胎土細、焼成良、色調赤褐色。	
坏	24	口径(14.1) 器高(3.8)	口縁内傾、口唇やや反りきみ。稜部の端部丸い。	口縁横撫、体部筥削り。磨滅著しい。胎土やや細、色調黒褐色。	貯蔵穴内出土

第 8 号住居址出土遺物 (第 103 図)

器 種	番号	大 き さ (cm)	形 態 の 特 徴	手 法 の 特 徴	備 考
甕	1	口径(17.8)	口縁外反、下部に稜を持つ。	内外とも撫で、接合部より割れる。胎土やや粗、焼成良、色調外面黒褐色、内面灰褐色。	フク土
坏	2	口径 12.5 器高 5.6	球形の胴部から口縁わずかに外反気味に立ち上る。	口縁横撫、胴部筥削り、内面平滑、器肉やや厚い。胎土細、焼成良好、色調明褐色。	
〃	3	口径 12.6 器高 5.7	2 に近く口縁ほぼ直立。	口縁横撫、胴部筥削り。胎土細、焼成良、色調赤褐色。	
〃	4	口径 12.3 器高 5.8	胴部球形、稜明確、口縁直立。	口縁丁寧な横撫、胴部筥削り、胎土精選、焼成良、色調黄褐色。	
〃	5	口径(12.3)	底部直線的、口縁わずかに外反。	口縁横撫、胴部筥削り、胎土粗、表面ザラつく、色調暗褐色。	
高 坏	6	口径 17.5	口縁大きく外反し、稜明瞭、稜のやや上方に浅い沈線一周	器面全体に丁寧な撫で、内面わずかに刷毛目残る。接合面より脚部剥離。胎土やや粗、色調黄褐色。	

第 9 号住居址出土遺物 (第 101・102 図)

器 種	番号	大 き さ (cm)	形 態 の 特 徴	手 法 の 特 徴	備 考
甕	1	口径 16.0	口縁外反、頸部屈曲、胴部の凹凸やや目立つ。器肉下方やや厚くなり底部欠失。	口縁横撫やや粗雑、体部筥削り後撫。胎土細、焼成良好、色調黄褐色。	カマド内出土。
〃	2	底径 6.0	口縁欠失、砲弾形を呈する。	体部粗雑な筥削り、器面に粘土粒の付着多い。胎土砂粒を多く含む。内面撫でにより平滑、色調黄褐色。	カマド内出土。
〃	3	口径 17.5	「く」の字状口縁、口唇外部を削り内面に浅い沈線残る。	口縁横撫、体部筥削り後撫で、胎土に砂粒多く表面に露出、焼成良、色調白黄褐色。	
鉢	4	口径 17.2 器高 10.0	口縁外反しなだらかに底部へ移行。	口縁丁寧な横撫、胴上半部は縦筥削り、下半横筥削り。胎土砂粒多く表面露出、焼成良好、色調淡黄褐色。	底部焼成後の穿孔有り、甑として利用か？

器 種	番号	大 き さ (cm)	形 態 の 特 徴	手 法 の 特 徴	備 考
埴	5	口径 10.0 器高 17.3	口縁わずかに外反し中央やや下部に段を有し胴部はほぼ球形となる。形態整う。	器面全体に丁寧な撫でにより平滑。胴部に篋による察痕わずかに残る。胎土細、焼成良、色調明褐色。	
高 坏	6	口径 12.4 器高 8.4 裾径 9.7	坏部有稜、脚部短く、裾やや開く。	口縁横撫、胴部篋削り、脚部撫で、内面に浅い刷毛目残る。胎土細、焼成良好、色調明褐色。	
”	7	口径 13.2 器高 9.5 裾径 10.0	6 に比べやや大形、坏部の底部やや深く、脚部は短く一気に反る。	口縁横撫、胴部篋削り、脚部丁寧な撫で平滑。内面絞り痕残る。胎土細、焼成良、色調黄褐色。	
坏	8	口径 12.3 器高 5.3	胴部球形、稜明瞭、口縁やや外反、口唇内側を削る。	口縁横撫、胴部篋削り、胎土細、焼成良、色調明褐色。	
”	9	口径 12.7 器高 5.4	底部やや尖り、口縁外反。	口縁横撫、胴部篋削り、胎土やや細、焼成やや良い、色調淡黄褐色。	
”	10	口径 12.7 器高 5.4	口縁はほぼ直立し口唇わずかに外反。体部との境の稜は低い。胴部球形。	口縁横撫、胴部篋削り痕わずかに残る。胎土やや細、焼成良、色調淡褐色。	貯蔵穴内出土。
”	11	口径 12.4 器高 5.4	胴部球形、稜はやや浅い。口縁わずかに外反。	口縁横撫、篋削り、内面丁寧な撫で平滑。胎土細、焼成やや良、色調淡黄褐色。	
”	12	口径 12.4 器高 4.7	口縁ややゆがみ、やや外反。上部にふくらみ有り。	口縁横撫、稜部に篋痕一部残る。胴部篋削り。胎土に小砂含、焼成良好、色調明褐色。	
”	13	口径(13.2) 器高 4.8	口縁外反、稜低い。	口縁横撫、胴部磨滅、篋削りわずかに残る。内面篋痕残る。	
”	14	口径 12.7 器高 4.5	やや厚手、底部やや浅く口縁外反。口唇内面沈線一周。	口縁入念な横撫、胴部篋削りやや凹凸有り。胎土細、焼成良、色調口縁明褐色、底部黄褐色。	
”	15	口径 11.9 器高 4.4	底部浅く口縁やや大きく、わずかに外反。	口縁横撫、丁寧平滑、体部篋削り。胎土細、わずかに雲母片を含む。焼成良、色調淡褐色。	貯蔵穴内出土。
”	16	口径(12.4) 器高 4.9	稜端丸く、口縁外反。	口縁横撫、胴部の篋削りやや稚。胎土細、焼成やや良、色調淡黄褐色。	
”	17	口径 12.3 器高 4.9	口縁直立、口唇丸味をおびる。底部に粘土粒の付着有り、やや凹凸。	口縁横撫丁寧、胴部篋削りやや粗稚。胎土細、焼成やや良い、色調淡褐色。	
”	18	口径 12.3	胴部球形やや深く稜は低い、口縁はほぼ直立	口縁及び内面丁寧な撫でにより平滑。胴部篋削り、胎土小砂を含む、焼成良、色調明褐色。	

第11号住居址出土遺物（第104、105図）

器 種	番号	大 き さ (cm)	形 態 の 特 徴	手 法 の 特 徴	備 考
甕	1	口径 17.2	口縁大きく外反。頸部やや厚味を持つ。	両面とも丁寧な横撫、胎土精選焼成良好、色調明褐色。	
〃	2	底径 6.8	やや厚手、底部突出。	外面は篋削り、内面木口状工具による整形痕有り。底部全面篋削りにより平滑。胎土砂粒を多く含む露出、焼成良、色調淡褐色。	
〃	3	底径 7.1	薄手、底部突出、上げ底。	内外とも撫で、底篋削り後やや丁寧な磨き、胎土やや細、焼成良好、色調黒褐色。	
甕	4	口径 26.0 器高 29.3 底径 8.3	口縁外反し、頸部の屈曲ゆるやか器面凹凸あり。形態整う。	口縁上部横撫、下端より底部にかけ縦篋削り、頸部篋削り痕残る。内面頸部に接合時の篋痕残る。内面全体に丁寧な撫でにより平滑。胎土砂粒多く含む。焼成良、色調明褐色。	ピット内出土。
台付甕 底部	5	底径 8.7	台部接合部よりゆるやかに反り端部で開く。器肉やや厚目。	外面横撫、一部凹凸。内面横撫平滑。胎土精選、焼成良、色調明褐色。	
鉢	6	口径(14.1)	薄手、口縁大きく外反。	外面二次的加熱によりひび割れ整形不明瞭、内面粗雑な撫で、胎土砂粒を多く含。焼成ほぼ良、色調外面黒褐色、内面明褐色。	
碗	7	口径(11.4)	胴部丸味を持ち口縁短く外反、口唇細く尖る。	内面丁寧な撫で平滑、外面磨滅著しく不明瞭。胎土細、焼成良、色調黄褐色。	
須恵器 甕	8	底径(9.1)	低部に高台を有し、ゆるやかに胴部へ移行。	外面クロクロ痕及び篋による粗雑な磨き、表面ザラつく、内面平滑。白色自然釉、胎土粗、焼成ほぼ良、色調暗黄灰色。	
〃	9		口縁の一部。	外面連続する沈線と浅い不連続沈線の二条の下に波状沈線。色調青灰色。	
坏	10	口径(12.0)	浅い有段口縁、及び沈線、口縁やや外反。	口縁横撫、胴部の篋削りやや粗雑。内面丁寧な撫で、平滑。胎土細、焼成やや良、色調灰白色。	
〃	11	口径(12.6) 器高 5.2	形態整いやや薄手。底部やや深目の球形。	口縁丁寧な横撫、胴部篋削り、胎土精選、焼成良、色調明褐色。	

器 種	番号	大 き さ (cm)	形 態 の 特 徴	手 法 の 特 徴	備 考
坏	12	口径(12.3) 器高 4.7	口縁外反、口唇尖り胴部球形。	口縁横撫、体部篋削り、胎土細 焼成やや甘い。色調口縁淡黄褐色、 底部黄褐色。	
"	13	口径(12.9) 器高 4.8	稜部からやや屈曲し、口唇先細 胴部球形。	口縁丁寧な横撫、体部篋削り、 胎土細、焼成やや良、色調暗褐色。	
"	14	口径 12.0 器高 4.3	口縁は稜上部で屈曲し、外反。 底部やや平底状を呈する。	口縁横撫、胴部篋削り、内面平 滑、胎土細、焼成良、色調明褐色。	
"	15	口径(12.7) 器高 5.2	胴部球形、底部でやや尖る。 稜部やや低く、口縁わずかに外反 口唇内側に沈線。	口縁横撫、体部篋削りわずかに 残る。内面平滑、胎土やや細、焼 成やや甘い。色調淡黄褐色。	
"	16	口径(13.3) 器高 5.4	底部やや深く球形、稜部明瞭、 口縁はほぼ直立、口唇部細く内側削 る。	口縁丁寧な横撫、胴部篋削り後 撫で。胎土細、焼成良好、色調口 縁明褐色、底部黒色。	
"	17	口径(12.3) 器高 4.0	底部直線的、稜部やや低い、整 形やや粗雑。	内面平滑、口縁横撫、体部篋削 り、胎土やや細、焼成やや良、色 調黄褐色。	
"	18	口径(13.5) 器高 5.2	底部やや尖り、胴部やや球形、 形態整う。口縁外反、上部にやや ふくらみを持ち、やや厚手。	口縁横撫、体部篋削り、胎土砂 粒をやや含、焼成良好、色調淡黄 褐色。	
"	19	口径(12.1) 器高(4.2)	稜深く明瞭、形態整う。	口縁丁寧な横撫、体部篋削り、 胎土細、焼成良好、色調明褐色。	
"	20	口径(12.7) 器高 5.2	形態整い、胴部球形。薄手、口 縁外反し、口唇内面に削り。	口縁横撫平滑、体部篋削り、胎 土細、焼成良、色調明褐色。	
"	21	口径(12.2) 器高 5.3	口縁内湾気味に立ち上る。稜明 瞭、胴部球形。	内面丁寧な撫でにより平滑、口 縁横撫、胴部篋削り、やや凹凸目 立つ、胎土細、焼成良、色調明褐 色。	
"	22	口径(11.5) 器高 4.8	形態整う。屈曲やや急。	口縁横撫、体部篋削り内面平滑。 胎土細、焼成ほぼ良、色調黄褐色。	
"	23	口径(13.1)	体部の稜はやや浅く、口縁外反 し、口唇内側より削り端部尖る。	口縁粗雑な撫で、体部荒い篋削 り、胎土やや細、焼成不良、色調 暗赤褐色。	二次的加熱 を受ける。
"	24	口径(12.7)	体部の稜低く、口縁外反。	口縁横撫、胴部磨滅、篋削り痕 不明、胎土砂粒含、焼成不良、色 調黄褐色。	

器 種	番号	大 き さ (cm)	形 態 の 特 徴	手 法 の 特 徴	備 考
坏	25	口径(12.3) 器高 4.3	形態整う、薄手、体部の稜明瞭 口縁直立し、口唇外反。	内面丁寧な撫で平滑。口縁横撫 体部篋削り、胎土やや細、焼成良 好。色調明褐色。	二次的加熱 を受ける。
"	26	口径(12.5) 器高 5.0	深みのある胴部丸く、底部やや 尖る。口縁外反、薄手、形態整う。	口縁横撫平滑、体部篋削り、や や凹凸有り、胎土細、焼成良、色 調淡黄褐色。	
"	27	口径(12.3)	口縁外反、体部の稜ややゆがむ。	口縁横撫、体部篋削り、胎土細 焼成はば良、色調赤褐色、底部黒 斑有り。	
"	28	口径(13.2)	口縁外反し、口唇尖る。	口縁横撫、体部篋削り、胎土細 焼成不良、色調暗褐色。	
"	29	口径(13.0)	口縁ほぼ直立、口縁やや尖る。	口縁横撫平滑、体部篋削り、胎 土砂粒を含、焼成やや良、色調明 褐色。	
"	30	口径(11.9)	体部の稜明瞭、口縁やや外反。	口縁横撫、体部磨滅、篋削り痕 不明、胎土砂粒を含む。焼成不良 色調赤褐色。	
高 坏	31	口径 12.8 器高 8.0 裾径 9.5	口縁ほぼ直立し、体部の稜低い。 脚部太く短く開く。	全面磨滅し、整形不鮮明。	
"	32	口径 17.3 器高 14.5 裾径 12.7	形態整いやや大形、口縁大きく 外反、坏部の稜端やや尖る。脚部 裾が大きく広がりやや薄手。	内面に刷毛目鮮明に残る。外面 丁寧な撫でにより器面滑らか。脚 部内面に絞り痕残る。胎土精選、 焼成良好、色調明褐色。	

第12号住居址出土遺物 (第106 図)

器 種	番号	大 き さ (cm)	形 態 の 特 徴	手 法 の 特 徴	備 考
甕	1	口径(15.5)	口縁「く」の字状、口唇直立し 内面削る。	口縁横撫、体部篋削り後磨き、 器面滑らか。頸部に輪積痕、胎土 細、焼成良好、色調明褐色。	一部二次的 加熱を受ける
甌	2	底径(11.4)	底部の一部のみ、整形雑。	外面一部篋削り痕残る。やや凹 凸、内面撫で、平滑。胎土やや粗 焼成やや良、色調淡黄褐色。	
坏	3	口径 12.1 器高 4.7	形態整い、薄手。体部の稜端や や尖る。	口縁横撫、胴部篋削りわずかに 残る。胎土細、焼成良好、色調淡 黄褐色、底部黒斑。	
"	4	口径(12.7)	胴部球形、稜低く、口縁わずか に外反する。	口縁横撫、体部篋削り、胎土粗 焼成不良、色調明褐色。	
"	5	口径(13.2) 器高(5.3)	胴部球形、稜端やや尖り、口縁 直立ぎみに開く。	口縁横撫、胴部篋削り、やや凹 凸、胎土細、焼成やや甘く、色調 黄褐色、底部黒斑。	
"	6	口径 12.2 器高 4.5	底部やや浅く、稜部の屈曲急。 口唇内側より削る。形態整う。	口縁横撫、体部篋削り明瞭、内 面平滑、胎土細、焼成良好、色調 淡褐色。	

第13号住居址出土遺物 (第107、108図)

器 種	番号	大 き さ (cm)	形 態 の 特 徴	手 法 の 特 徴	備 考
甕	1	口径(20.4)	口縁部「コ」の字状を呈し上段のくびれは強く下段は弱い。	口縁の上段は入念な横撫、下段粗雑な横撫、胴部篋削り。内面木口状工具による整形。胎土精選、焼成良好、色調明褐色。	
〃	2	口径(20.8)	「コ」の字状口縁、口唇部やや直立、上段のくびれ深く明瞭、下段浅い。	口縁部は横撫平滑、下端に篋痕明瞭に残る。胴部篋削り、内面横撫、胎土細、焼成良好、色調黄褐色。	
〃	3	口径(20.5)	口縁ゆるく立ち上り「く」の字状を呈す。	口縁に整形時の沈線が残り粗雑な横撫、体部篋削り、粘土粒の付着がありやや粗雑な作り。色調口縁部灰褐色、胴部黒色。	
〃	4	底径(4.6)	底部直線的、立ち上りも直線的になり器肉薄い。	外面交叉する篋削り、内面下端に刷毛による整形。上部篋磨きで平滑。	
須恵器 長頸壺	5	口径 14.1	口縁外反しながら開き口唇部は直立。	ロクロ調整痕明確、胴部との接合部から剥離、胎土石英、雲母粒を多量に含む。色調灰色。	
須恵器 坏	6	口径 12.5 器高 4.6 底径 6.0	口唇肥厚外反、底部わずかに突出。小形で身深い。	ロクロ水挽き。底部回転糸切り、篋痕有り、胎土砂粒含む、色調灰褐色。	
〃	7	口径 12.6 器高 2.9 底径 6.4	口唇外反、先端やや尖がる。身浅く皿状を呈する。	底部回転糸切り、器面荒れザラつく。胎土砂粒含む、焼成やや不良、色調淡灰褐色。	
〃	8	口径(12.8) 器高 2.9 底径 5.8	7に類似、器壁やや厚手。	ロクロ水挽き、底部回転糸切り、篋痕有り、胎土砂粒をわずかに含む、焼成良、色調暗茶褐色。	
〃	9	口径(12.9) 器高 2.2 底径(6.8)	口縁外反、やや尖がり気味、身浅く、わずかに上げ底。	器面磨滅、底部回転糸切り、胎土やや細、焼成あまい、色調暗茶褐色。	
〃	10	口径(12.9) 器高 3.6 底径(5.8)	口縁肥厚外反、小形、形態整う。	ロクロ水挽き、器面に粘土粒付着、整形粗雑、ややザラつく、底部回転糸切り、胎土細、焼成やや良、色調青灰色。	
〃	11	口径(14.2) 器高 5.8 底径 6.3	口縁の肥厚顕著、身深く形態整う。	体部のロクロ痕明瞭、底部糸切り後、撫で、高台部貼付、胎土微粒の砂を含む、焼成やや良、色調灰白色。	

器 種	番号	大 き さ (cm)	形 態 の 特 徴	手 法 の 特 徴	備 考
須恵器 坏	12	口径(16.0) 器高 5.2 底径 6.3	口縁肥厚、高台部低い。	ロクロ痕明瞭、底部糸切り後、高台貼付、高台部に篋痕わずかに残る。胎土小砂を含む。焼成良、色調、暗茶褐色。	
〃	13	口径(13.3) 器高 5.9 底径 6.3	体部の立上がり強く、口縁丸味を帯びる。高台「ハ」の字に開く。	ロクロ水挽き、胎土粗雑、表面の露出目立つ、底部糸切り後、撫デロクロ痕浅い。高台内面、丁寧な撫デ、外面やや粗雑、焼成良、色調、淡青灰色。	
〃	14	底径(6.2)	高台「ハ」の字形、器面の凹凸目立つ	底部切り離後、撫デに依り、ロクロ痕不明。胎土粗雑、焼成やや甘い。色調、暗茶褐色。	
〃	15	底径(6.5)	器壁薄手、高台「ハ」の字に開く	底部、回転糸切り後、高台部貼付、胎土やや細、焼成良、色調、外面淡灰白色、内面、暗茶褐色。	

前14号住居址出土遺物 (第109図)

器 種	番号	大 き さ (cm)	形 態 の 特 徴	手 法 の 特 徴	備 考
甕	1	口径 14.7 器高 19.6 底径 5.0	形態整い底部やや突出、口縁有段、「く」の字に外反。	胴下半に篋削り痕わずかに残り器面全体が丁寧な撫で、磨きにより滑らか。胎土細、焼成やや良、色調黄褐色。	
壺	2	口径 11.7 器高 14.8 底径 6.8	口縁わずかに外反、やや不整。	器面二次的加熱により磨滅著しく整形不鮮明、下端にわずかに篋削り残る。輪積痕明瞭。	1の甕内に重なり出土。
坏	3	口径(12.1) 器高(5.2)	薄手、整形粗雑。	口縁横撫、胴部磨滅、胎土細、焼成良、色調黄褐色。	

第15号住居址出土遺物 (第110図)

器 種	番号	大 き さ (cm)	形 態 の 特 徴	手 法 の 特 徴	備 考
甕	1	口径(18.3)	口縁ややふくらみ外反、頸部内湾。	口縁横撫、指頭痕明瞭。胴部斜めの篋削り浅く残り凹凸目立つ胎土精選、焼成良好、色調明褐色、一部黒斑有り。	
〃	2	口径(18.3)	口縁「く」の字状を呈し、口唇先細。	器面やや磨滅し整形不明瞭、表面ザラつく。胎土粗雑、焼成不良色調淡黄褐色。	貯蔵穴内出土
〃	3	口径(13.5)	小形、やや厚手。	口縁横撫、体部細い篋削り、頸部の輪積痕明瞭。	
〃	4	口径(13.6) 器高(13.0) 底径(5.3)	形態整う。口縁外反し先細、器肉底部に向い厚くなる。	口縁丁寧な横撫、体部篋削り、やや凹凸。胎土砂粒を含み露出、焼成良好、色調淡黄褐色。	

器 種	番号	大 き さ (cm)	形 態 の 特 徴	手 法 の 特 徴	備 考
甗	5	底径 9.2	接合痕明瞭、凹凸著しい。	縦の筥削り、底部やや上部に横一条の筥削り、底部付近に筥痕残る。内面の整形やや粗雑凹凸目立つ。胎土小砂を微量含。焼成良好色調明褐色、黒斑。	
埴	6	口径 9.7	頸部屈曲し、胴部に最大径、口縁直線的に立ち上り、先端尖る。薄手、形態整う。	外面丁寧な撫で、磨きにより滑らか。内面指頭痕明瞭、頸部の接合痕明瞭、胎土精選、焼成良好、色調明褐色。	支柱として利用
坏	7	口径(12.5)	小形、口縁外反。	内面丁寧な磨き、平滑。外面口縁横撫、体部筥削り、胎土細、焼成良好、色調明褐色。	
〃	8	口径(12.3)	口唇先細、稜やや低い。	やや磨滅し胴部の筥削り不明瞭胎土に砂を含み表面ザラつく。焼成不良、色調明褐色。	
〃	9	口径(12.3)	口縁中央でややゆがむ。稜低い。	口縁横撫、胴部の整形不鮮明、胎土細、焼成やや良、色調淡黄褐色。	
〃	10	口径(12.3)	口縁下端に浅い沈線残る。表面一部剥落。	口縁粗雑な横撫、体部筥削り、胎土砂粒多く表面露出。焼成やや良、二次的加熱により色調赤色化する。	
〃	11	口径(15.3)	比較的大形、形態整い、口縁外反。	口縁丁寧な横撫、体部筥削り、胎土精選、焼成良、色調明褐色。	

第16号住居址出土遺物 (第111図)

器 種	番号	大 き さ (cm)	形 態 の 特 徴	手 法 の 特 徴	備 考
甕	1	口径 21.1 器高 33.7 底径 5.4	口縁肥厚外反、形態整う。胴下半ややくぼむ	口縁丁寧な撫で、胴部筥削り、内面筥削り残る。胎土に5ミリ前後の砂を多量に含み内外ともに露出。焼成良、色調上半淡黄褐色、下半二次的加熱により赤褐色。	カマド左袖
〃	2	口径(21.0)	口縁外反し頸部と胴部の境明瞭。胴部直線的。	口縁横撫、体部筥削り、器面やや凹凸、胎土砂粒多く含、表面露出、焼成やや良、色調淡黄褐色。	
〃	3	口径(18.7)	口縁外反、胴部との境明瞭、胴部やや開く。	口縁丁寧な横撫、胴部筥削り、胎土やや粗、焼成良好、色調赤褐色。	
〃	4	口径(21.8)	やや大形、頸部厚い。	口縁横撫、胴部荒い筥削り、胎土微粒の砂含む、焼成不良、色調淡黄褐色。	

器 種	番号	大 き さ (cm)	形 態 の 特 徴	手 法 の 特 徴	備 考
甕	5	口径(19.0)	口縁外反し、沈線残る。	口縁粗雑な撫で、指頭、篋痕残る。胴部篋削りわずかに残る。胎土やや細、焼成不良、色調黄褐色。	
"	6	口径(16.8)	口縁外反、口唇丸味、胴部との境明瞭。	口縁粗雑な撫で、胴部縦の篋削り、やや凹凸目立つ。胎土砂粒多く含、焼成良、色調淡黄褐色。	
"	7	口径(17.8)	口唇削り平滑、口縁の外反弱い。	口縁横撫、接合時の沈線残る。胎土精選、焼成良、色調淡褐色。	
"	8	口径(18.5)	有段口縁、胴部大きく広がる。	口縁やや粗雑な横撫、胴部横方の篋削り、胎土精選、焼成良好、色調明褐色。	
"	9	底径 6.2	底部わずかに上底、薄手。	外面篋削りやや凹凸、整形やや粗雑。胎土砂粒含、焼成良、色調外面黒色、内面淡黄褐色。	
"	10	底径(5.1)	底部厚く、器面薄い。	表面磨滅著しい。一部篋削り残る。内面平滑、胎土細、焼成良、色調外面黒褐色、内面明褐色。	
坏	11	口径(17.9) 器高(5.0)	大形、口縁外反、口唇やや直立。	口縁横撫平滑、体部磨滅、整形不明瞭。胎土細、焼成良、色調明褐色。	
"	12	口径(13.2) 器高 5.1	底部深く、稜低い、口縁直立し端部外反。	口縁横撫、胴部粗雑な整形。胎土細、焼成良、色調明褐色。	
"	13	口径 12.4 器高 4.9	底部球形やや深い。口縁やや外反、形態整う。	口縁横撫、胴部篋削りやや凹凸胎土やや細、焼成不良、色調淡黄褐色、底部黒斑。	
須恵器 蓋	14		中央やや薄く、ゆるやかに開く。	ロクロ痕明瞭に残る。胎土砂粒を含む。焼成良、色調青灰色。	

第18号住居址出土遺物 (第114 図)

器 種	番号	大 き さ (cm)	形 態 の 特 徴	手 法 の 特 徴	備 考
甕	1	口径 18.3	口縁「く」の字状を呈し、口唇やや肥厚、胴部の器壁薄い。	口縁粗雑な横撫、凹凸。整形時の沈線篋痕明瞭に残る。体部幅の狭い篋削り、胎土砂粒含、焼成良、色調淡黄褐色。	
"	2	口径(14.3) 器高 11.1	口縁直線的に立ち上り、外反する。胴部わずかにふくらみ、形態整う。	口縁丁寧な横撫、肩部篋削りにより胴部との境明瞭。胴部やや磨滅、篋削り痕浅く残る。胎土やや細、焼成やや良、色調外面淡黄褐色、内面明褐色。	
坏	3	口径 15.4 器高 3.8	口縁立ち上り、段を持ち形態整う。	外面横撫、胴部篋削り後丁寧な磨き。内面等間隔の放射状の暗文有り。胎土細、焼成良、色調赤褐色。	

器 種	番号	大 き さ (cm)	形 態 の 特 徴	手 法 の 特 徴	備 考
坏	4	口径 15.2 器高 3.8	3に類似し口縁の開き小さい。	3とほぼ同様、暗文は2条を一単位とする。	
〃	5	口径 14.5 器高 3.5	口縁の段は一段でやや厚手となり、底部中央薄くなる。	口縁横撫、胴部篋削り後、丁寧な磨き。胎土やや細。焼成良好、色調黒褐色。	
〃	6	口径 14.2 器高 4.2	形態整い口縁内傾。	胴部篋削りやや入念。胎土やや細、焼成良、色調黒褐色。	
〃	7	口径(13.7)	段は浅く不鮮明。口縁直線的に立ち上る。	口縁横撫、胴部の篋削り丁寧。胎土細、焼成不良、色調黒褐色。	

第21号住居址出土遺物 (第112図、113図)

器 種	番号	大 き さ (cm)	形 態 の 特 徴	手 法 の 特 徴	備 考
甕	1	口径 19.3	口縁外反し、胴部ほぼ直線的に開く。	口縁粗雑な横撫、体部の篋削り粗雑、胎土小砂を多量に含み露出。焼成不良、色調淡黄褐色、一部二次的加熱を受け赤色化。	カマド前庭部。
〃	2	口径 18.6	「く」の字状口縁、胴部やや開く。	口縁横撫、胴部縦の篋削り、下方に斜めの篋削り、胎土砂粒を多く含み表面露出、焼成やや良、色調淡黄褐色、黒斑有り。	
〃	3	口径 18.4	口縁短く外反、やや小形、胴部ほぼ直線的に底部へ移行。	二次的加熱による剥離、磨滅により不明瞭。胎土砂粒多く含、焼成やや良、色調赤褐色。	カマド前庭部。
〃	4	口径 18.3	口縁の屈曲急、胴部の接合痕明瞭凹凸著しい。形態やや異形。	口縁丁寧な横撫平滑、体部縦の篋削り。胎土中に砂粒、雲母を多く含。焼成良好、色調黒褐色。	
〃	5	口径 18.3	形態整う。口縁外反し、口唇外側を削る。胴部の開き少ない。	口縁丁寧な横撫平滑、篋痕残り一部盛り上る。体部縦の篋削り、胎土砂粒多く含む。焼成良好、色調赤褐色。	二次的加熱を受ける。 カマド前庭部。
甌	6	底径(7.8)	小形、形態整う。胴部やや凹凸目立つ。	頸部に篋痕残る。体部篋削り、内面滑らか、胎土精選、焼成良好、色調明褐色、黒斑有り。	貯蔵穴内出土。
〃	7	口径 26.2 器高 30.5 底径 9.3	大形、形態整う。口縁やや短く外反、胴部との境明瞭。	口縁横撫、体部入念な篋削り後一部磨き、内面縦方向のやや粗雑な篋削り、胎土やや細、焼成良好色調明褐色、黒斑有り。	
坏	8	口径 15.3 器高 5.0	形態整う。稜端丸味をおび、口縁外反。	口縁横撫、体部篋削り、剥離やや目立つ。胎土精選、色調明褐色。	

器 種	番号	大 き さ (cm)	形 態 の 特 徴	手 法 の 特 徴	備 考
坏	9	口径 (15.3) 器高 4.8	形態整い、口縁内湾気味に立ち上る。	口縁横撫、体部篋削り、胎土細焼成良好、色調黒褐色。	
壺	10	口径 17.3 器高 24.3 底径 5.8	頸部の屈曲急、胴部球形、形態整う。	口縁やや粗雑な横撫、胴部斜めの篋削り、胎土砂粒を多く含む。焼成やや良、色調赤褐色。	
坏	11	口径 14.7 器高 4.6	形態整い9に類似、口縁内湾。	口縁横撫、体部の篋削り明瞭に残る。内面滑らか、やや凹凸有り。胎土精選、焼成良、色調明褐色。	
〃	12	口径 15.2 器高 5.4	形態整い稜やや低く口縁直立気味。胴部やや凹凸目立つ。	口縁横撫、体部の篋削り荒く、篋痕目立つ。内面丁寧な撫で、粘土瘤付着。胎土精選、焼成良、調黄褐色、黒斑。	
支柱	13	器高 14.0 底径 12.7	胴部ややゆがみ、脚部ゆるやかに開く。	裾内外横撫、胴部外面加熱による磨滅、剥離著しく篋削り指頭痕わずかに残る。内面絞痕明瞭。胎土小砂粒を多く含む。焼成良、色調下半赤褐色、上半白黄褐色、内面明褐色。	
須恵器 甕	14		有段口縁、上端平滑。	内面わずかにロクロ痕残る。胎土に石英粒含む。色調青灰色。	カマド内長期使用。

第22号住居址出土遺物（第116図）

器 種	番号	大 き さ (cm)	形 態 の 特 徴	手 法 の 特 徴	備 考
甕	1	口径(22.0)	口縁やや外反、口唇丸味。	口縁やや粗雑な撫で、胎土砂粒多い。焼成不良、色調淡黄褐色。	
〃	2	底径(6.4)	底部突出、やや厚い。	外面二次的加熱により整形不明瞭。内面木口状工具による整形痕、細い篋削り。胎土中に小石含む。色調赤褐色、内面黒褐色。	
坏	3	口径(13.2)	稜部やや低く、口縁先細。	口縁横撫、体部篋削り、胎土粗焼成良、色調暗黒褐色。	
〃	4	口径(11.1)	稜明瞭、口縁外反し、口唇やや尖る。	口縁丁寧な横撫、平滑、体部篋削り、胎土細、焼成良好、色調淡黄褐色。	
〃	5	口径(12.7)	稜低く口縁わずかに外反。口唇削り平滑。	口縁横撫、体部篋削り。内外とも磨滅著しい、胎土細、焼成良、色調明褐色。	

第23号住居址出土遺物 (第115図)

器 種	番号	大 き さ (cm)	形 態 の 特 徴	手 法 の 特 徴	備 考
甕	1	口径 22.3	薄手、口縁外反し、胴部大きく開く。	口縁横撫、篋痕残る。体部斜めの篋削り。胎土中に黒雲母含む。焼成良、色調黄褐色。	
坏	2	口径(12.1) 器高 4.0	形態整う。有段口縁。	口縁丁寧な横撫、体部篋削り。胎土細、焼成良、色調口縁灰白色、体部黒色。	
"	3	口径(15.7) 器高 3.5	底部浅く。有段口縁。	口縁横撫、体部篋削り平滑、胎土細、焼成良、色調黒褐色。	
"	4	口径(14.4) 器高 4.5	形態整う、口縁内湾。	口縁横撫、体部入念な篋削り。胎土細、焼成良、色調暗褐色。	
"	5	口径(12.6)	4に類似し、口唇内側より削り尖る。	口縁横撫、体部篋削り、胎土細焼成良、色調暗黒褐色。	
"	6	口径(20.1) 器高 3.2	大形で口縁短く皿状を呈する。	口縁横撫、体部篋削り。内面に放射状暗文有り、胎土やや細、焼成良、色調黄褐色。	二次的加熱を受ける。
"	7	口径(13.9) 器高 3.2	小形で口縁短く直立気味に立ち上がる。	6に類似。色調暗黄褐色。	
"	8	口径(19.3)	6に類似。	6に類似。色調暗褐色。	
"	9	口径 11.6 器高 3.4	小形、薄手、口唇内傾しやや肥厚。	口縁横撫、体部篋削り、胎土細焼成良、色調明褐色。	
"	10	口径(12.8)	9に類似、口唇尖り、やや薄い。	口縁横撫、体部粗雑な篋削り、胎土やや細、焼成良、色調明褐色。	
"	11		9、10に類似。	口縁横撫、体部磨滅し、わずかに篋痕残る。胎土細、焼成やや甘い。色調淡黄褐色。	
須恵器 皿	12	底径 11.5	薄手、口縁の立ち上がり急。	底部ロクロ切り離し後、高台貼付、胎土中に砂粒含む、焼成良、色調灰白色。	
須恵器 蓋	13	口径(14.0) 器高 2.5	身受けかえりしっかりし、鈕は疑宝珠状。	ロクロ痕明瞭、内面凹凸顕著に残る。胎土中に砂粒含み、外面一部露出、焼成良、色調暗茶褐色。	

第24号住居址出土遺物 (第117図)

器 種	番号	大 き さ (cm)	形 態 の 特 徴	手 法 の 特 徴	備 考
壺	1	口径(16.5) 器高(20.2)	胴部球形、口縁直立し、上半やや外反。	口縁横撫、胴部横篋削り、胎土砂粒を多く含み露出。焼成やや甘い。色調淡黄褐色。	
甕	2	口径 15.8	胴部球形、口縁大きく外反。	表面ザラつく、整形全体に粗雑。口縁横撫、内面平滑。胎土に6ミリ前後の小石含み、内面に露出。焼成不良、色調淡黄褐色。	
甌	3	底径 10.7	形態整い大形。	表面入念な篋削り、等間隔に叩き目。内面磨き篋痕残る。胎土細焼成良好。色調明褐色。	
碗	4	口径(10.8) 器高 5.8	形態整い、薄手。口唇細く尖る。胴部丸味。	口縁丁寧な横撫、体部磨き平滑胎土やや細、色調明褐色。	
坏	5	口径 14.0 器高 4.4	形態整う。稜やや低い。やや大形。	口縁横撫、体部の篋削り入念。胎土に砂粒多い。焼成良好、色調暗茶褐色。	
〃	6	口径(12.3) 器高 3.0	胴部浅く、器肉薄い。	口縁入念な横撫、体部篋削り、胎土精選、焼成良好、色調明褐色。	

第25号住居址出土遺物 (第118図)

器 種	番号	大 き さ (cm)	形 態 の 特 徴	手 法 の 特 徴	備 考
甕	1	口径 19.4	器面全体凹凸目立つ。頸部の屈曲ゆるやか。	胎土にやや大き目の砂粒を含み整形粗雑。口縁横撫、体部篋削り焼成不良、色調灰黄褐色。	
〃	2	口径(14.7)	頸部の屈曲ごくわずか。胴部のふくらみゆるやか。	1にほぼ類似。	
坏	3	口径 12.7 器高 4.4	有段口縁、ややゆがむ。底部浅い。	口縁横撫、体部磨滅、篋削りわずかに残り、胎土粗、焼成やや良色調黄白色、黒斑。	
〃	4	口径 11.9 器高(4.6)	有段口縁、段浅い。口縁ほぼ直立。器肉厚目、小形。	口縁粗雑な横撫、体部磨滅、篋痕浅い。胎土やや細、焼成良、色調黒褐色。	
〃	5	口径(14.4)	胴やや深く、口縁直立、先端尖る。	口縁横撫、体部浅い篋削り。胎土細、焼成良、色調淡黄褐色。	二次的加熱を受ける。
〃	6	口径(15.9)	有段口縁、段部沈線深い。やや大形。	口縁精雑な横撫、体部篋削り。胎土やや細、焼成良、色調赤褐色。	
須恵器 蓋	7	口径 13.7	天井部ほぼ平ら、口縁やや開き内面わずかに削る。	天井部ロクロ痕、篋印、周辺は丁寧な撫、口縁横撫、胎土やや細焼成良、色調、青灰色。	

第26号住居址出土遺物 (第119図)

器 種	番号	大 き さ (cm)	形 態 の 特 徴	手 法 の 特 徴	備 考
甕	1	口径 16.5	やや小形、頸部わずかに屈曲。 最大径、肩部やや下方。	口縁横撫、頸部篋痕残る。体部 篋削り浅くわずかに残る。胎土大 粒の石わずかに含む。焼成良、色 調暗褐色。	

第28号住居址出土遺物 (第120図)

器 種	番号	大 き さ (cm)	形 態 の 特 徴	手 法 の 特 徴	備 考
甕	1		大形、頸部から肩部にかけて開 く。	器面全体に剥離が著しく、整形 不明、輪積痕残る。胎土砂粒を含 み、焼成ほぼ良、色調、淡黄褐色。	
〃	2	口径 14.5 器高 16.9 底径 6.7	口縁わずかに外反、口唇尖がり 気味、胴部に最大径、底部やや突 出。	口縁横撫、指頭痕、篋痕僅かに 残る。体部、篋削り後撫でにより 滑らか。輪積痕明瞭、胎土、微粒 な鉱物含む、焼成良、色調、暗褐 色。	
〃	3	口径(18.5)	口縁「く」の字状に屈曲。	口縁横撫、体部篋削り後、撫で により滑らか。胎土細、焼成良、 色調、黄褐色。	
〃	4	底径(8.9)	底部ゆるやかに直立し、胴部へ 移行。	体部篋削り、部分的に撫で。胎 土微砂粒多く含む。焼成良、色調 明褐色、黒斑。	
坏	5	口径 12.8	形態整う。稜やや低く、口縁ゆ るやかに立ち上がる。	口縁横撫、体部篋削り、胎土精 選、焼成良、色調明褐色。	
〃	6	口径(13.5)	浅い底部から、口縁ゆるやかに 外反気味に立ち上がる。	口縁丁寧な横撫、体部篋削り、 胎土細、焼成良、色調淡黄褐色。	
〃	7	口径(10.0) 器高 3.3	小形、丸味のある器形で、口縁 わずかに内湾。	口縁上端横撫、以下篋削り、胎 土細、焼成良、色調、明褐色。	
須恵器 甕	8	口径(23.6)	口縁下端にするどく突出、頸部 「く」の字に強く外反すると思わ れる。	内外クロロ目わずかに残る。色 調、黒灰色。	

SD01出土遺物 (第123図)

器 種	番号	大 き さ (cm)	形 態 の 特 徴	手 法 の 特 徴	備 考
須恵器 甕	1	底径(10.0)	厚手、器面の凹凸目立つ。	器面全体に荒れ、指による撫で 付けわずかに残る。色調、暗褐色。	
土師器 甕	2	底径(7.3)	底部わずかに上げ底。	体部粗雑な撫で、胎土少砂含む 焼成良、色調、赤褐色。	
須恵器 甕	3			外面格子状叩き、内面、青海波 文、色調、黒灰色。	

S D 0 2 出土遺物 (第121、122図)

器 種	番号	大 き さ (cm)	形 態 の 特 徴	手 法 の 特 徴	備 考
坏	1	口径(14.5)	形態整う。	口縁横撫、体部篋削り、胎土砂粒含。焼成良、色調黒褐色。	
壺	2	口径(12.0)	小形、形態整う。	口縁横撫、体部磨滅し整形不明。胎土細、焼成良。色調灰褐色。	
高 坏	3	口径(14.5)	坏部の稜わずかに残り口緩ゆるく外反、脚部欠損する。ほぼ直線的になると思われる。	口縁横撫、体部入念な篋削り。脚部縦の篋削り。胎土やや細、焼成良、色調暗黄褐色。	
〃	4		脚部やや太めで大きく開く。脚部上段に浅い段有り。	内外ともに横撫、坏部わずかに篋削り痕残る。胎土細、焼成良、色調黄褐色。	
須恵器 長頸壺	5	口径 5.4	口縁ゆるやかに外反し、口唇でやや内傾、肥厚。	ロクロ水挽き。胎土中に砂粒を多く含み、内外にやや露出する。色調淡灰色。	
坏	6	口径 14.3 器高 3.0	口縁直立気味に立ち上がり、口唇尖がる。器壁中央に向かい厚くなる。	内外とも丁寧な撫でにより、なめらか、胎土細、焼成良、色調淡黄茶褐色。	
渥 美 甕	7			内面紐作り痕、指頭圧痕残る。外面に自然釉かかる。焼成、焼締色調、外面、黒灰色、内面暗灰色。	
〃	8			内面平滑、紐作り痕、外面、平行状叩き、焼成、焼締、色調内外共灰色。	
常 滑 鉢	9		外面の凹凸やや目立つ。口唇に浅い沈線巡る。	内面の擦痕不明瞭、外面指の圧痕僅かに残る、口縁横撫、色調、外面、淡灰褐色、内面、灰白色。	
渥 美 甕	10			8にほぼ類似。	
灰 釉 陶 器	11			内面ロクロ痕、外面平滑、色調灰白色。焼成焼締。	
瀬戸？ 瓶	12			内面ロクロ、指頭痕、外面緑色の釉、胎土に小砂粒含、色調淡緑色、内面、茶褐色。	
常滑か 渥美？ 甕	13		口縁外反。	口縁内外横撫、内面の砂の付着顕著。色調外面、暗褐色、内面、淡褐色。	

器 種	番号	大 き さ (cm)	形 態 の 特 徴	手 法 の 特 徴	備 考
常 滑 甕	14		頸部折り返し。	内面、紐作り痕、後再調整にて平滑、外面平行状の叩き。色調、外面黄褐色、内面淡褐色。	
渥 美 甕	15			内面紐作り痕、指頭痕、外面にスダレ状の条痕、胎土中に砂粒を微量に含む、色調外面淡黄緑色、内面黒灰色。	
常 滑 甕	16			内面平滑、外面篋削り調整、色調内外、淡褐色。	
〃	17			16に類似、色調外面淡褐色、内面白色の釉が霜降状にかかる。	

S E 0 4 出土遺物 (第124図)

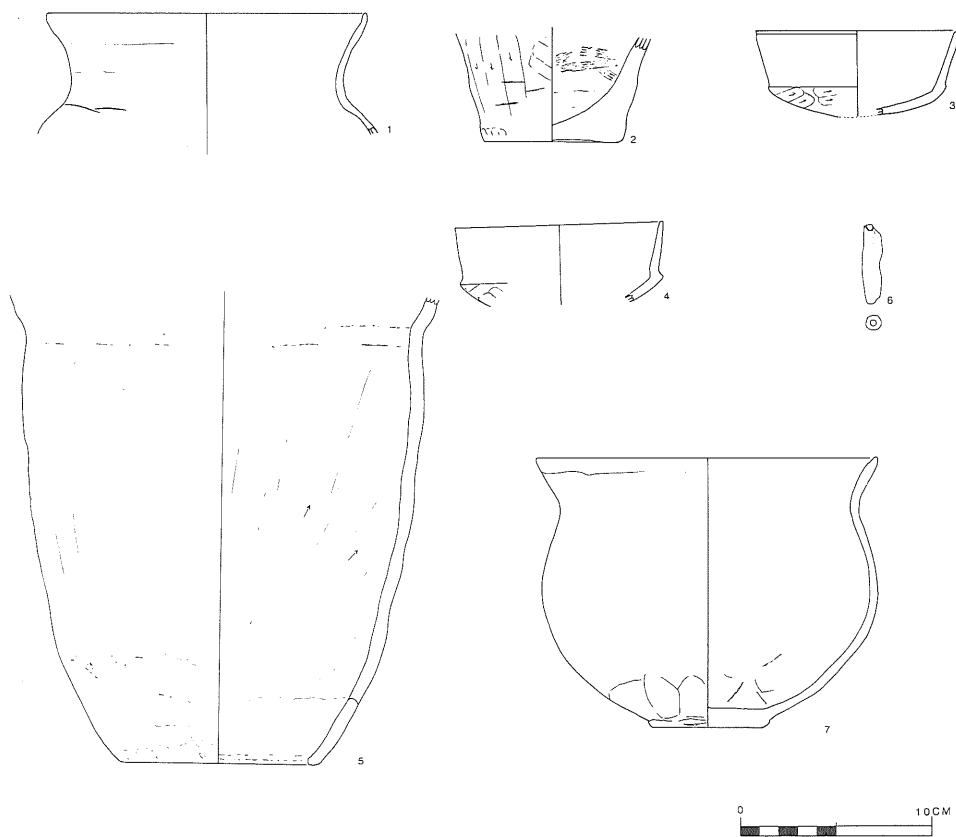
器 種	番号	大 き さ (cm)	形 態 の 特 徴	手 法 の 特 徴	備 考
須恵器 甕	1			外面白色の釉がかかり、波状の沈線。胎土微砂粒含む、色調外面白灰色、内面黒灰色。	

S E 0 5 出土遺物 (第124図)

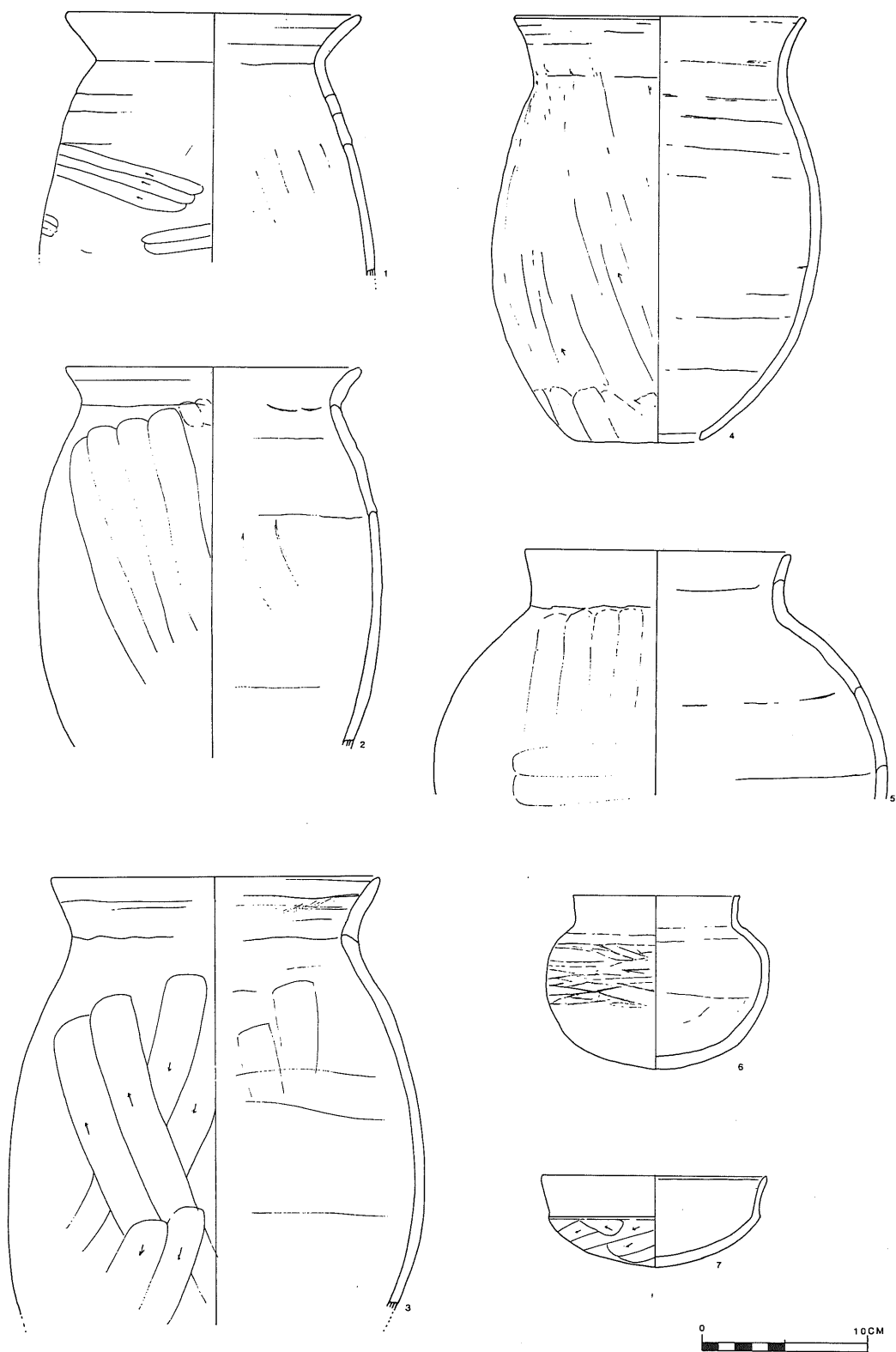
器 種	番号	大 き さ (cm)	形 態 の 特 徴	手 法 の 特 徴	備 考
土師器 甕	2	口径(12.0)	口縁ほぼ直立。肩部よりゆるやかに開く。	口縁横撫、篋痕残る。体部横方向の篋削り。胎土細、焼成良、色調、外面、暗黒褐色、内面、黒色。	
須恵器 甕	3			外面上端を除き、白色の釉がかかる。上端右隅に波状の沈線の一部、その下端に一条の沈線が巡り以下櫛状工具による波状沈線を施す。色調白灰色、内面、黒灰色。	
〃	4			外面に斜状の叩きがわずかに認められる。色調茶褐色。	
〃	5			外面に格子状の叩き。色調暗青灰色。	

S K 0 8 出土遺物 (第125図)

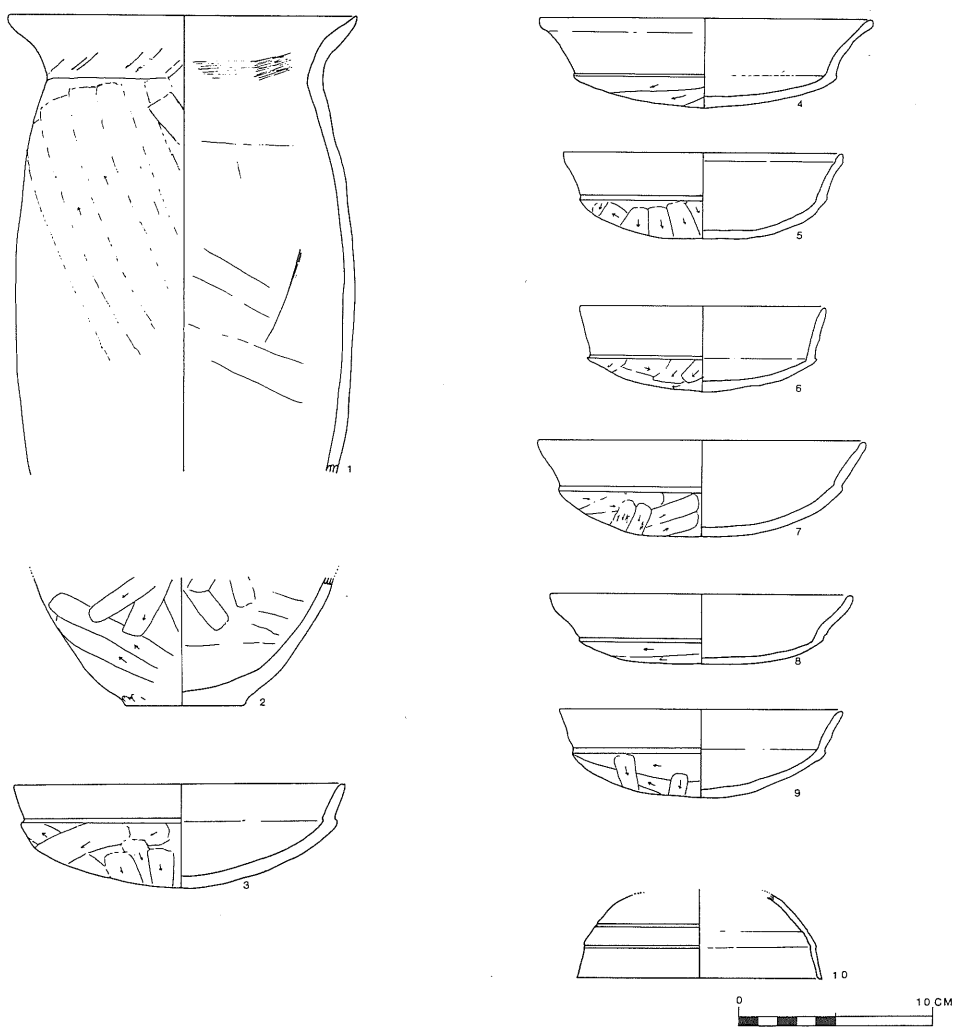
器 種	番号	大 き さ (cm)	形 態 の 特 徴	手 法 の 特 徴	備 考
須恵器 蓋	1	口径 11.3 器高 2.1	小形形態整い、鉦、疑宝珠。身受けかえり浅い。	外面ロクロ整形後、撫でにより平滑、部分的にロクロ痕消える。内面やや凹凸、胎土中に石英粒を含む、色調青灰色。	
坏	2	口径 10.9 器高 5.0		口縁横撫、焼成良好、胎土微粒の砂粒を含む。明赤褐色。	
〃	3	口径		口縁横撫、以下篋削り、胎土細、焼成良好、外面黒色、内面晴褐色。	



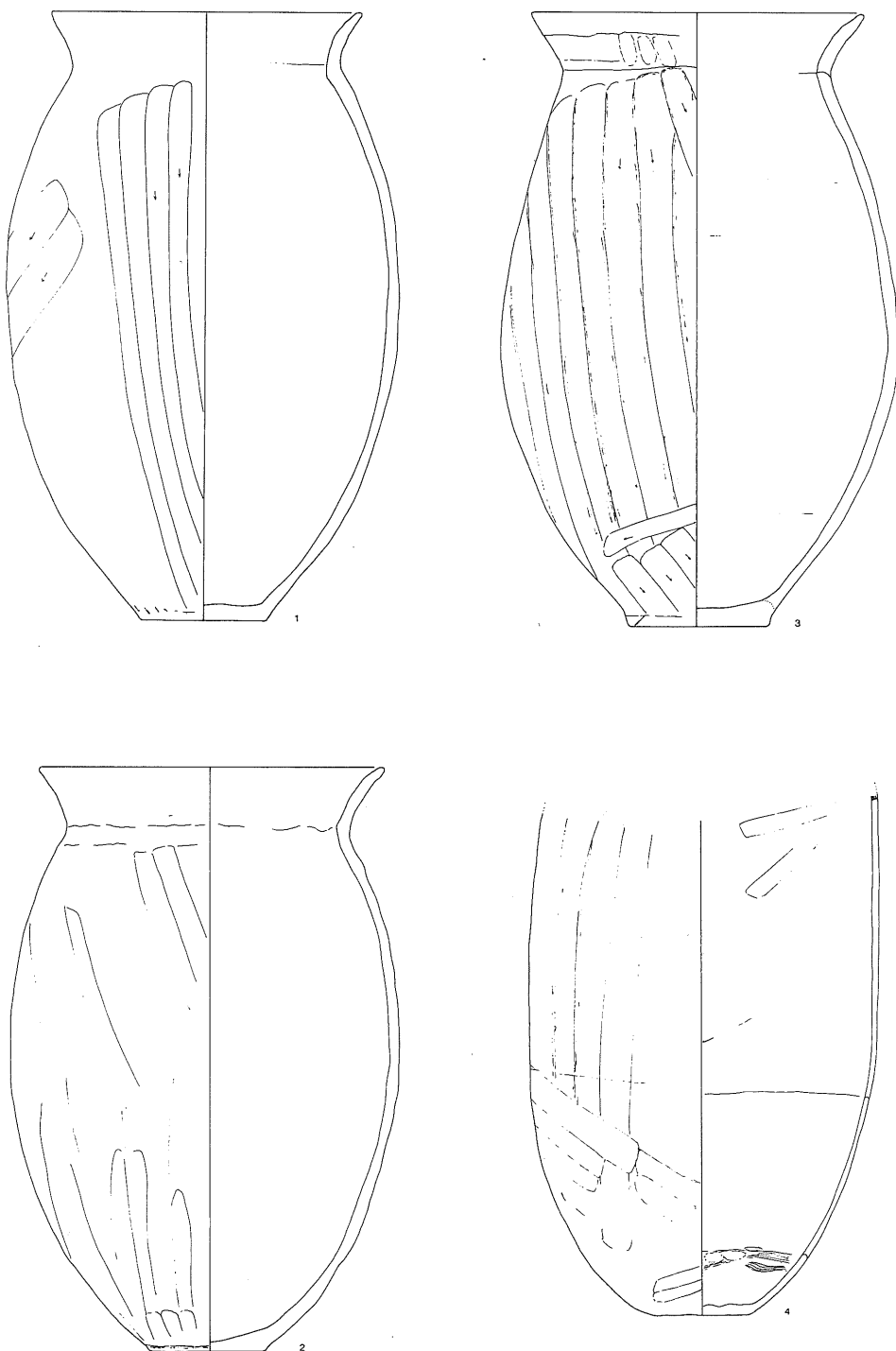
第88図 第1号住居址出土遺物



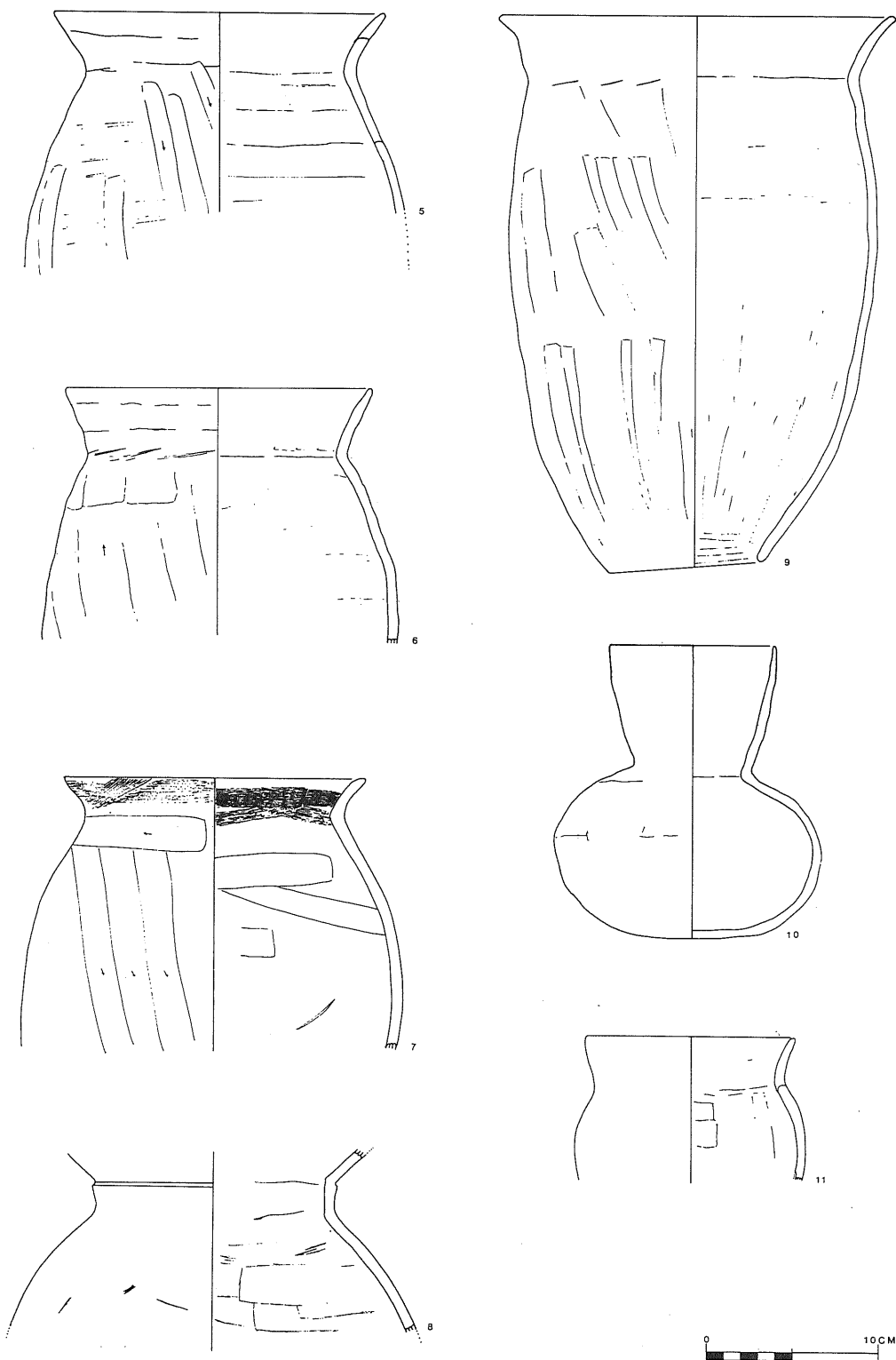
第89図 第2号住居址出土遺物



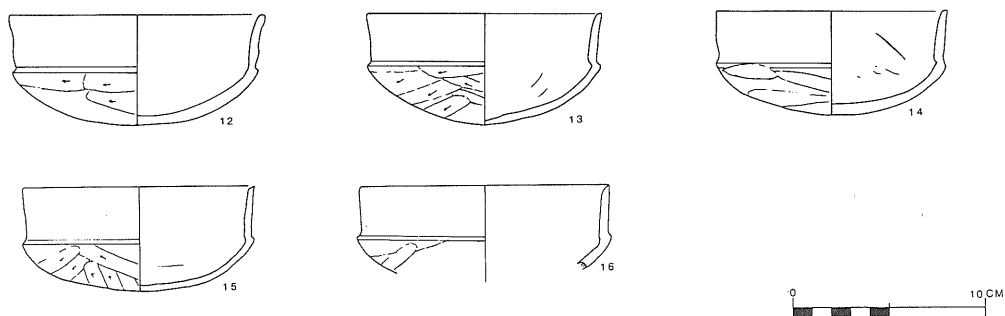
第90図 第4号住居址出土遺物



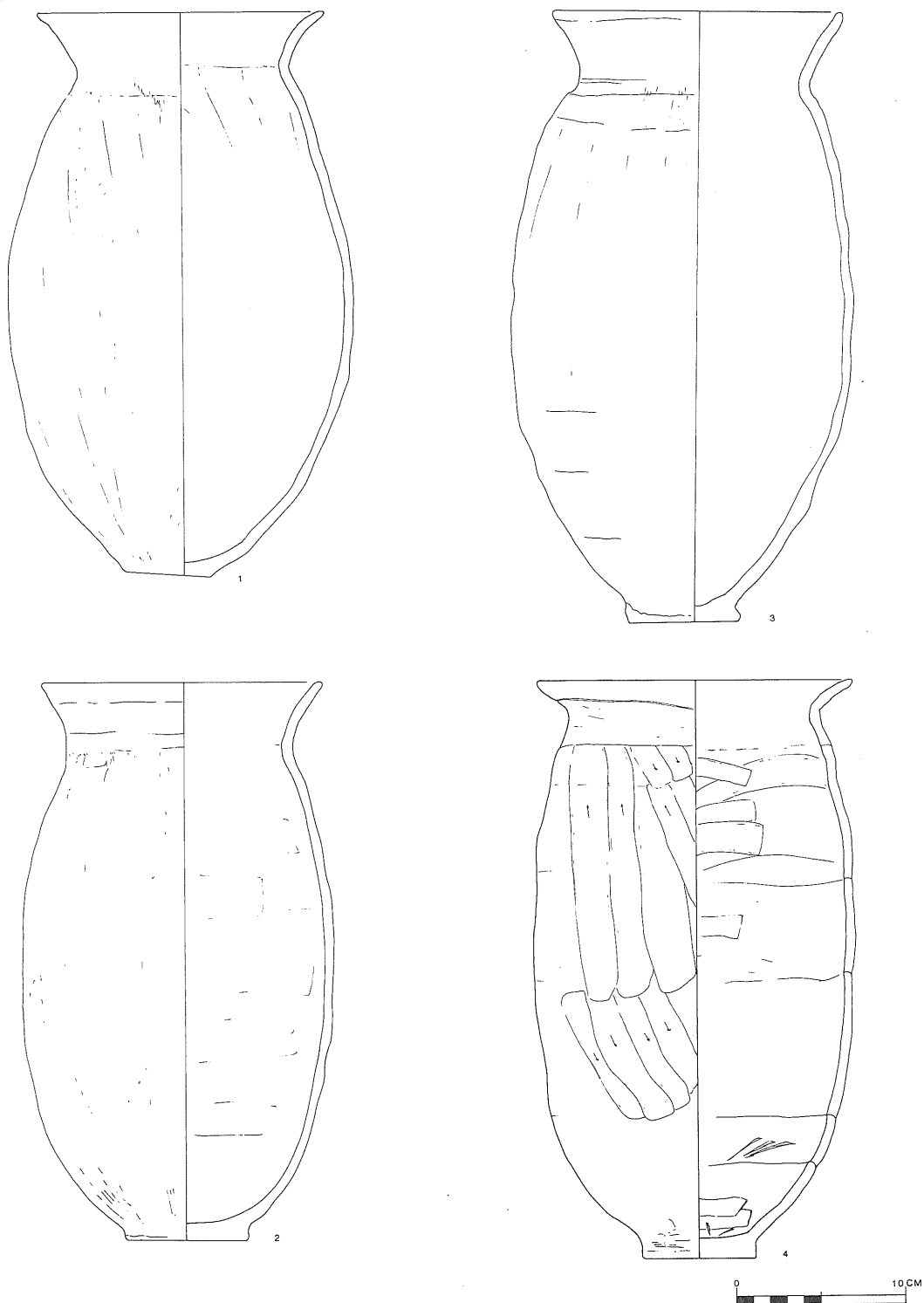
第91図 第5号住居址出土遺物(1)



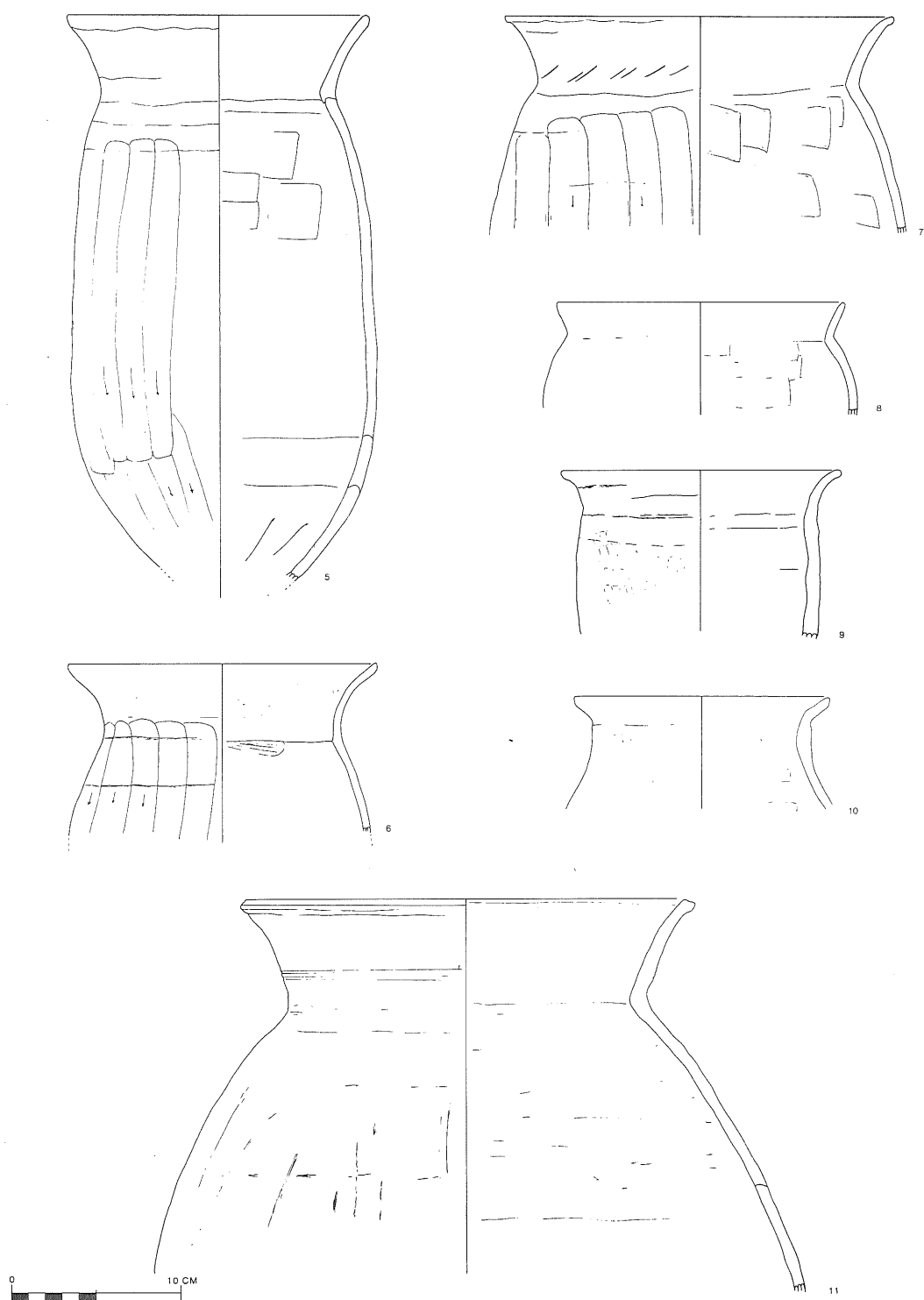
第92図 第5号住居址出土遺物(2)



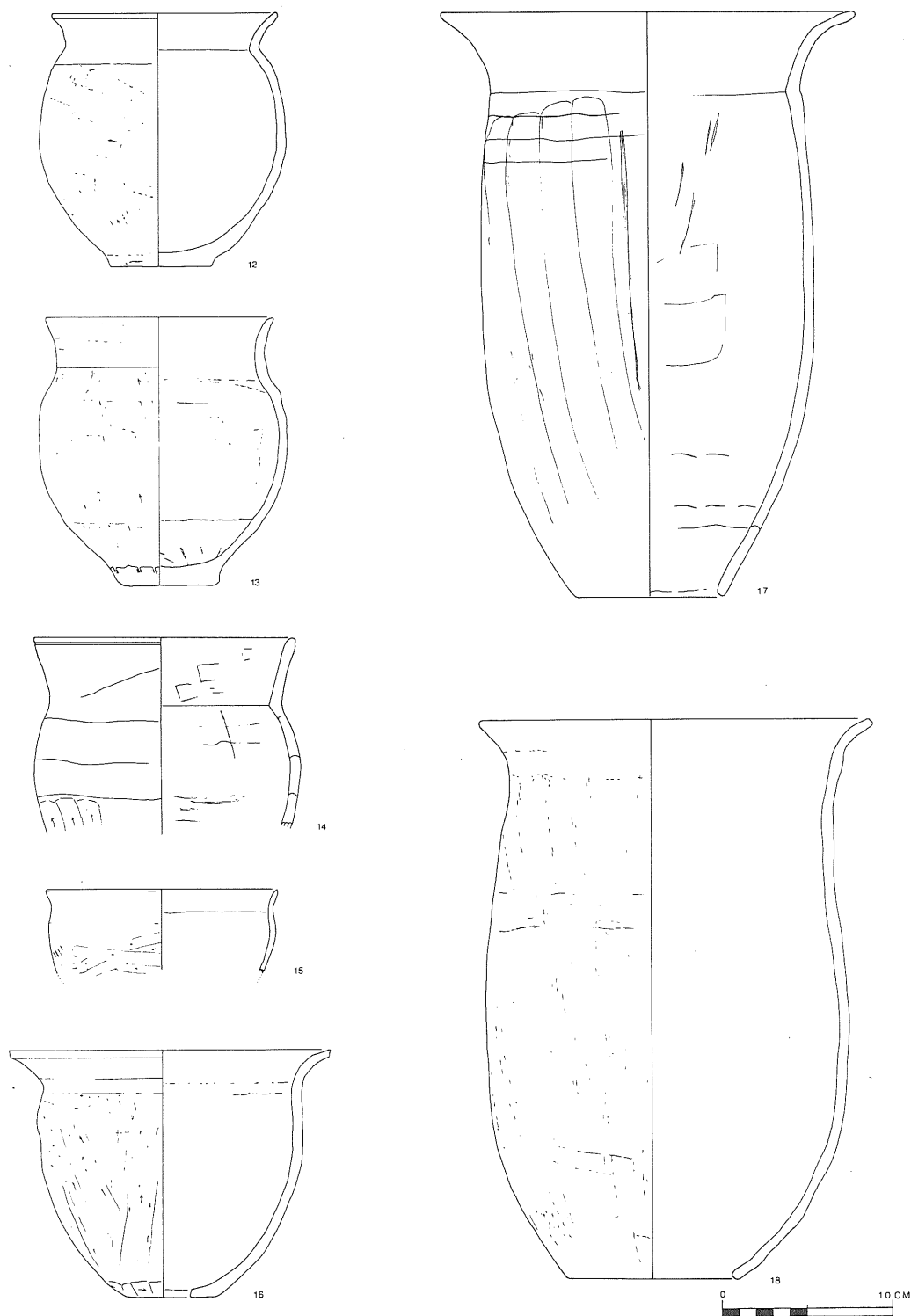
第93図 第5号住居址出土遺物(3)



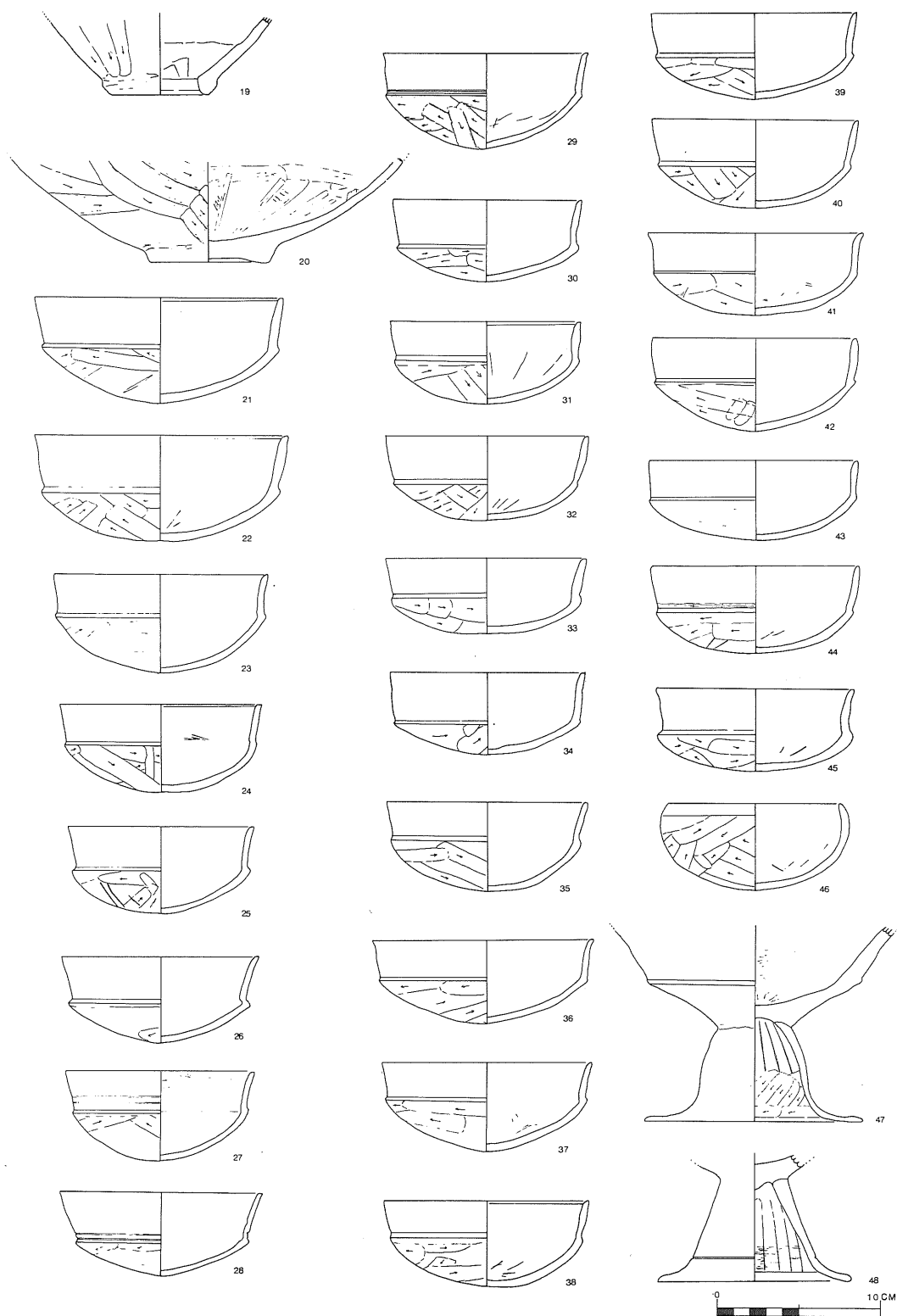
第94図 第6号住居址出土遺物(1)



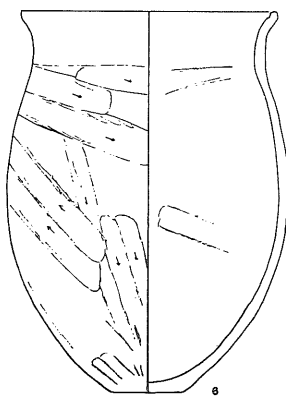
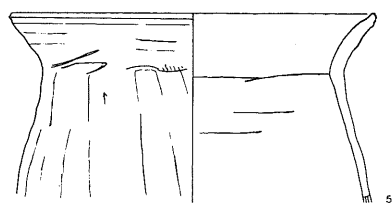
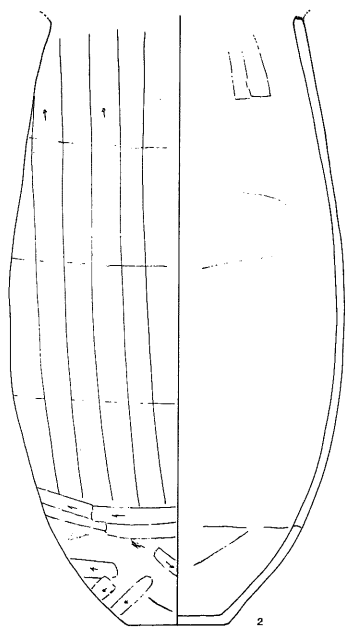
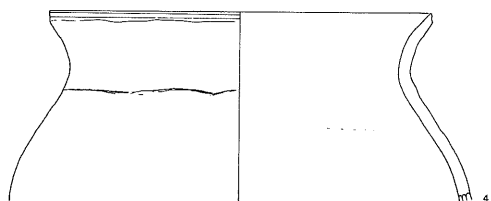
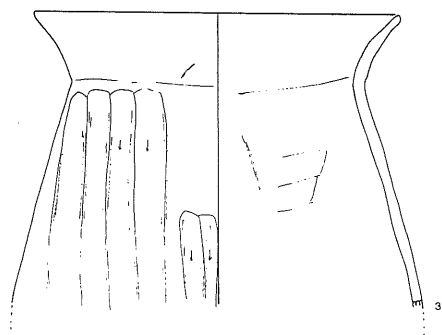
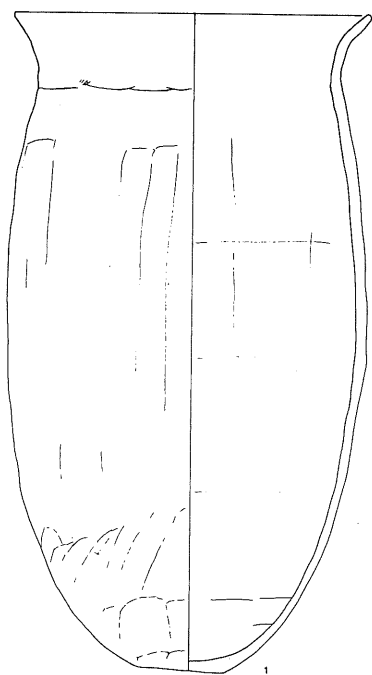
第95図 第6号住居址出土遺物(2)



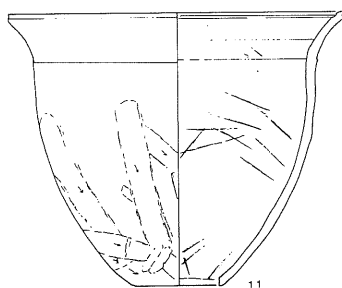
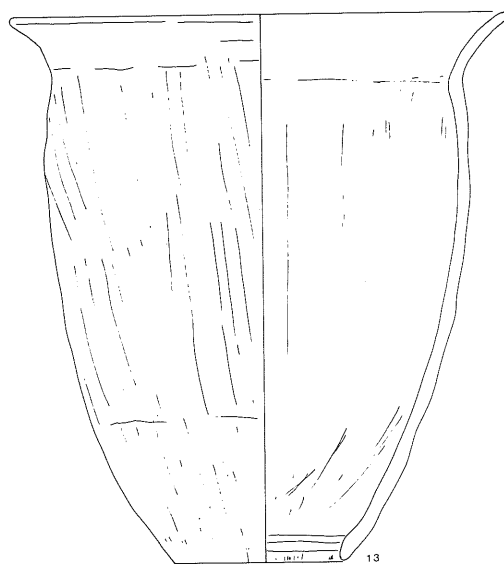
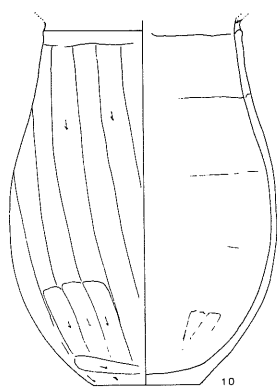
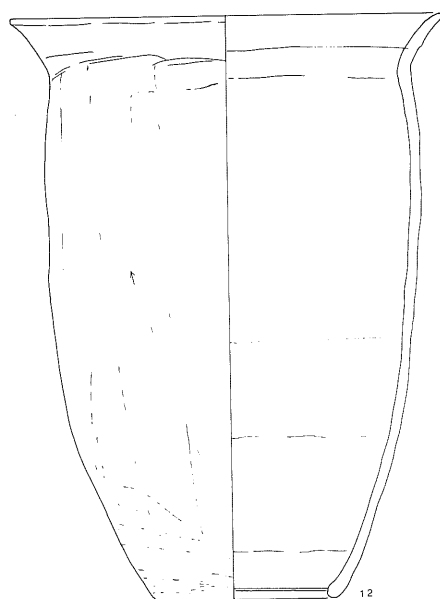
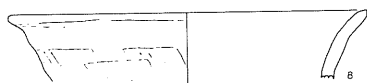
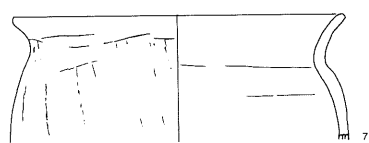
第96図 第6号住居址出土遺物(3)



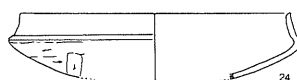
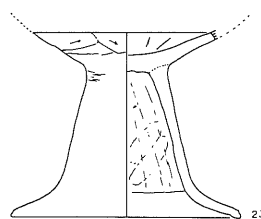
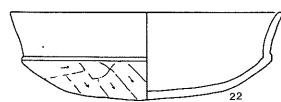
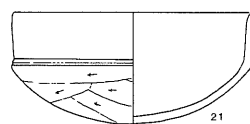
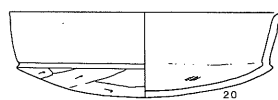
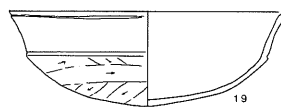
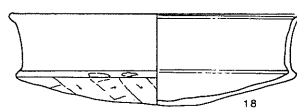
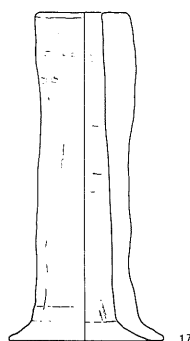
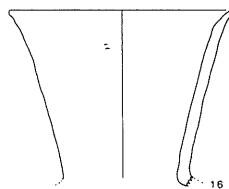
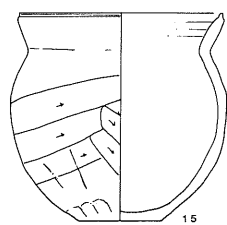
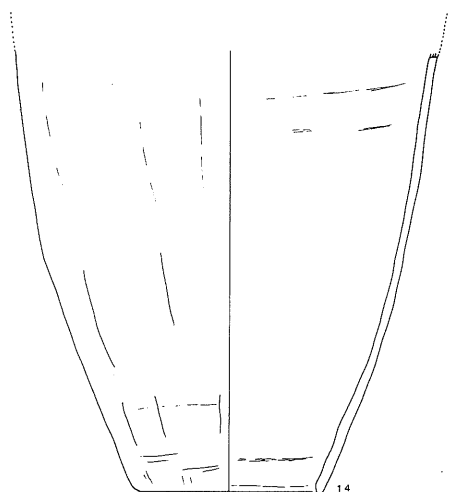
第97図 第6号住居址出土遺物(4)



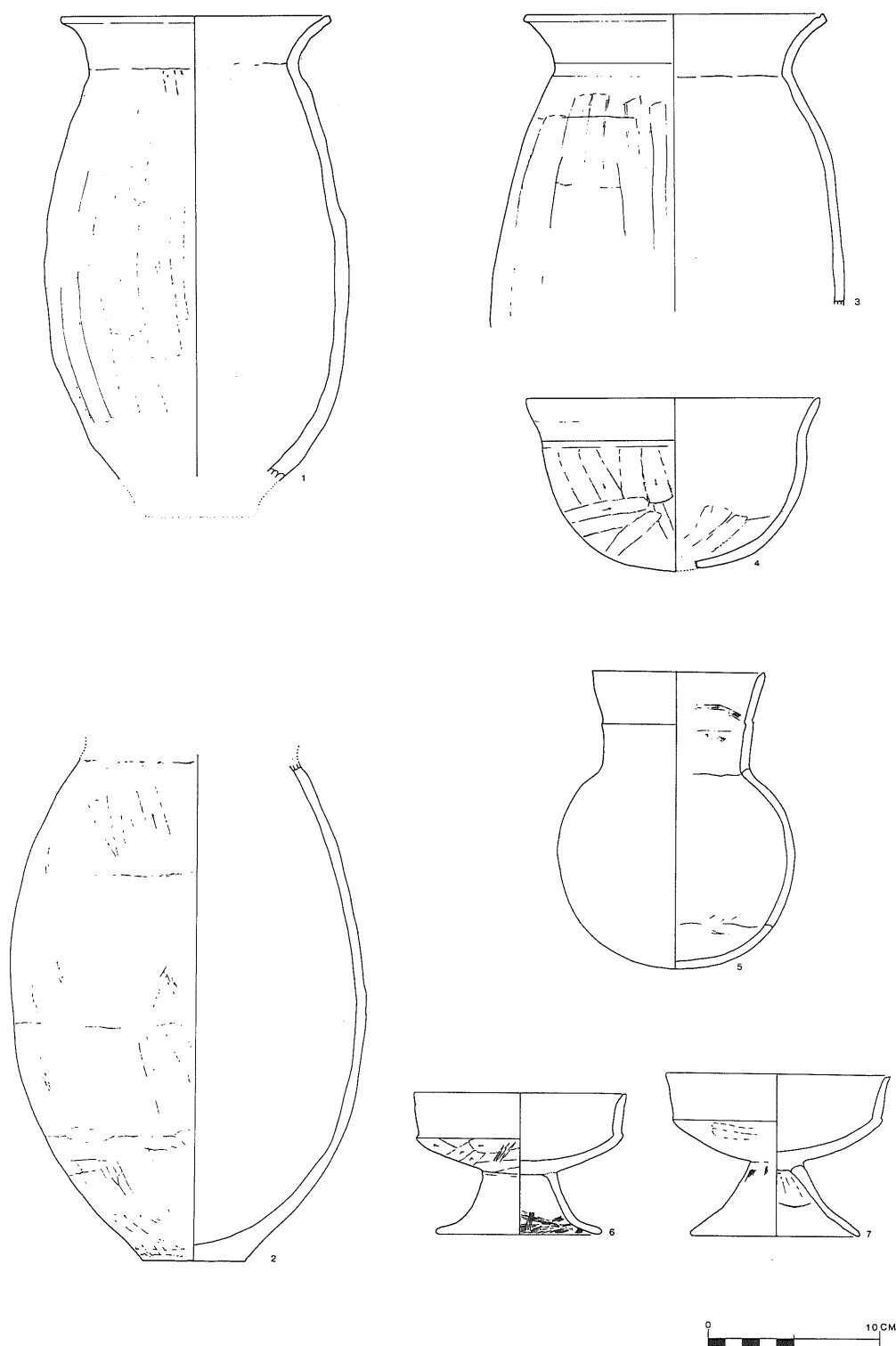
第98図 第7号住居址出土遺物(1)



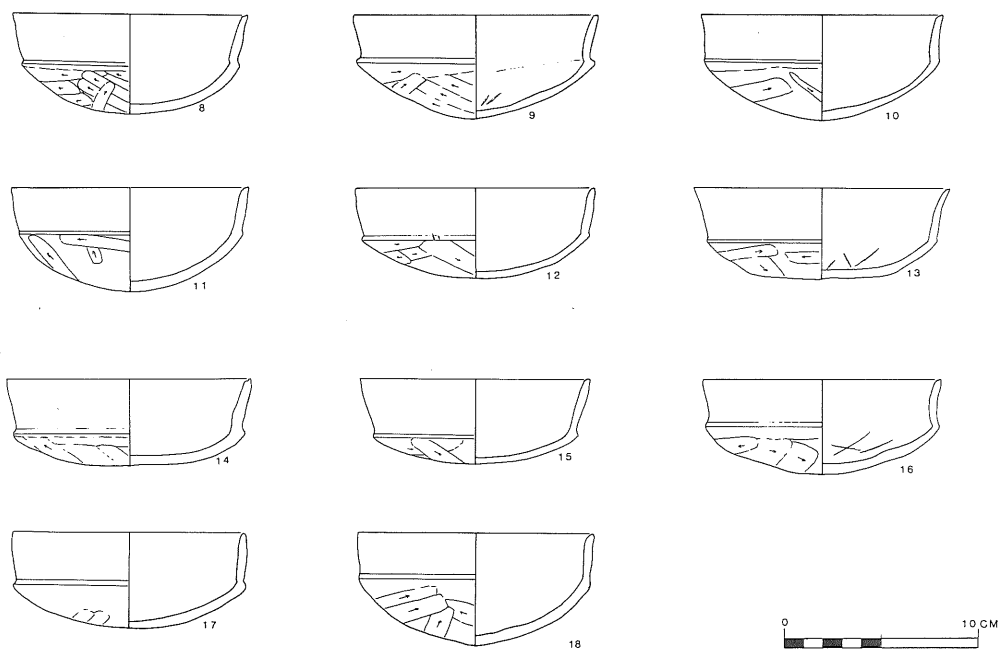
第99図 第7号住居址出土遺物(2)



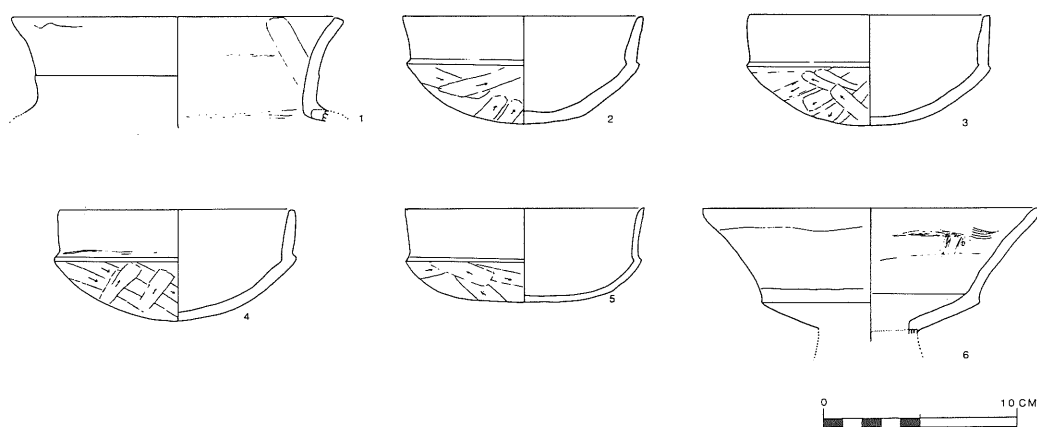
第100図 第7号住居址出土遺物(3)



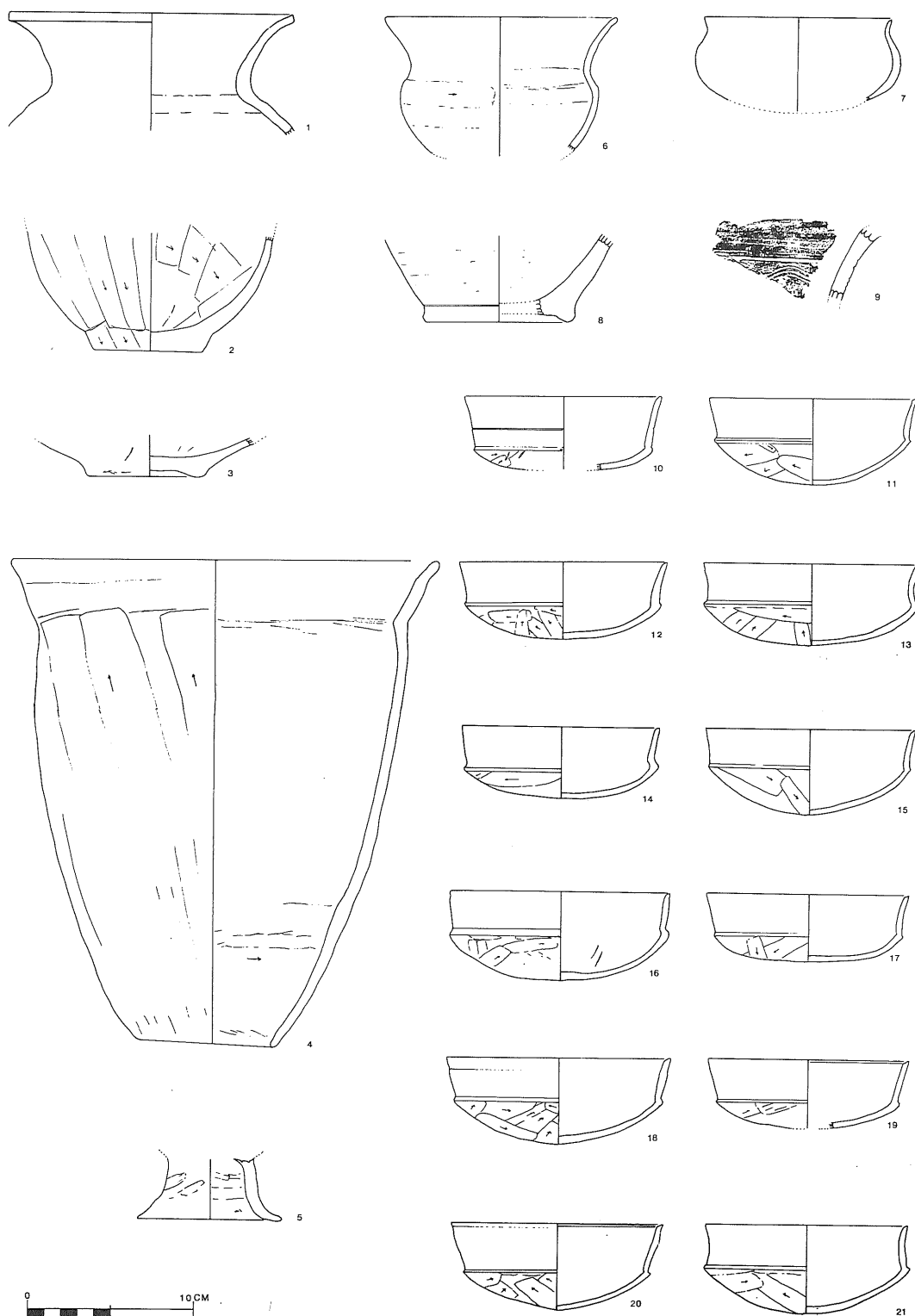
第101図 第9号住居址出土遺物(1)



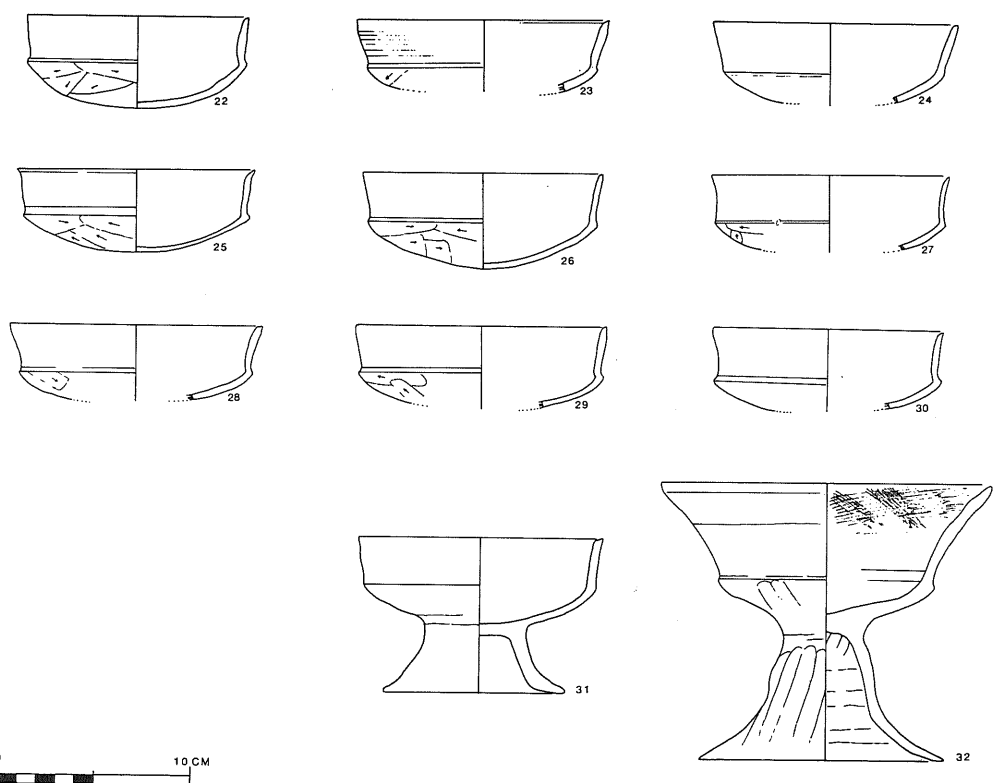
第102図 第9号住居址出土遺物(2)



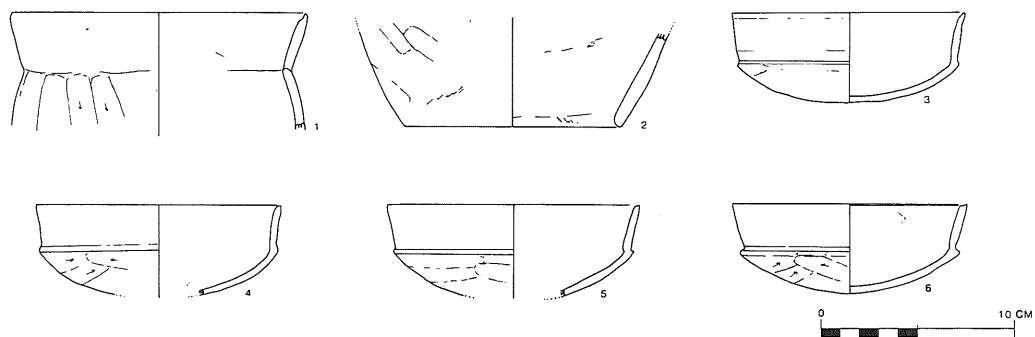
第103図 第8号住居址出土遺物



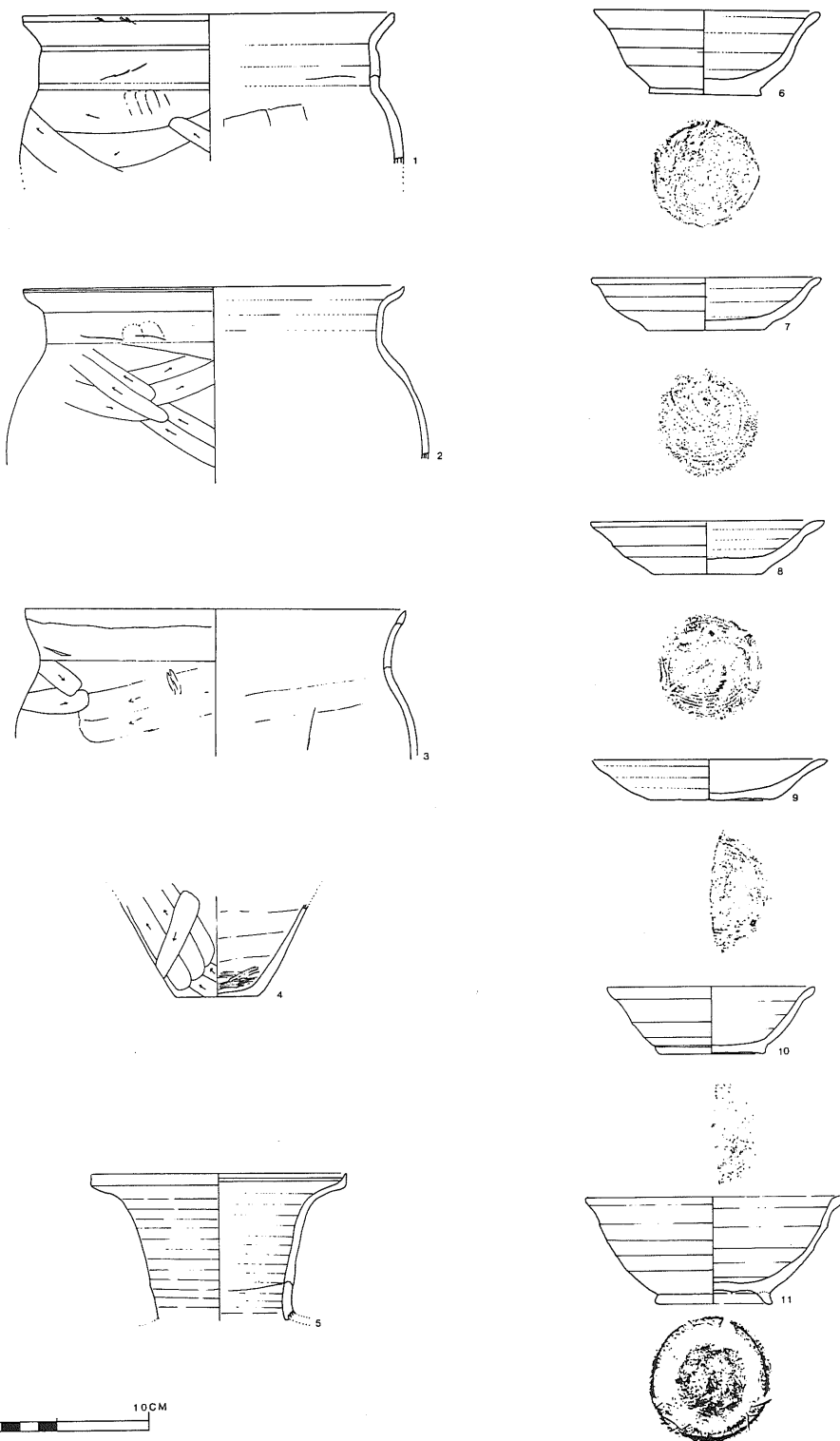
第104図 第11号住居址出土遺物(1)



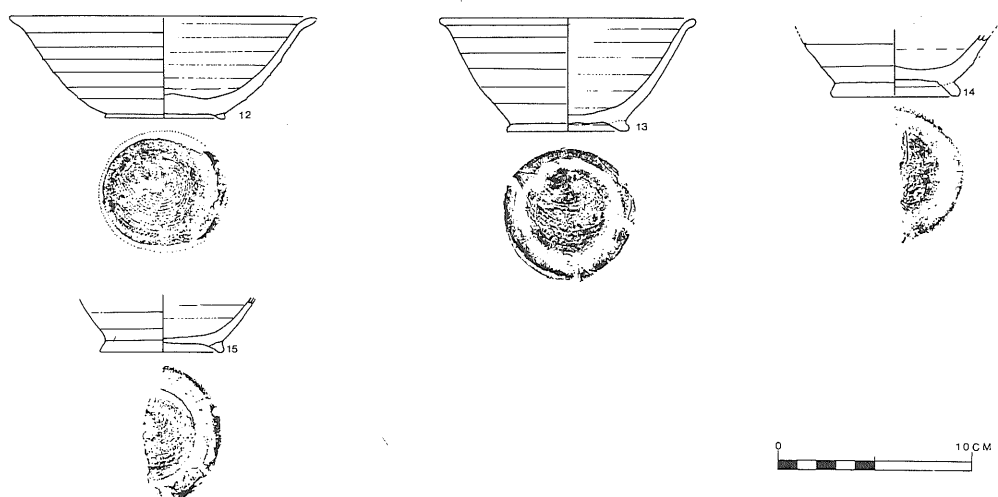
第105図 第11号住居址出土遺物(2)



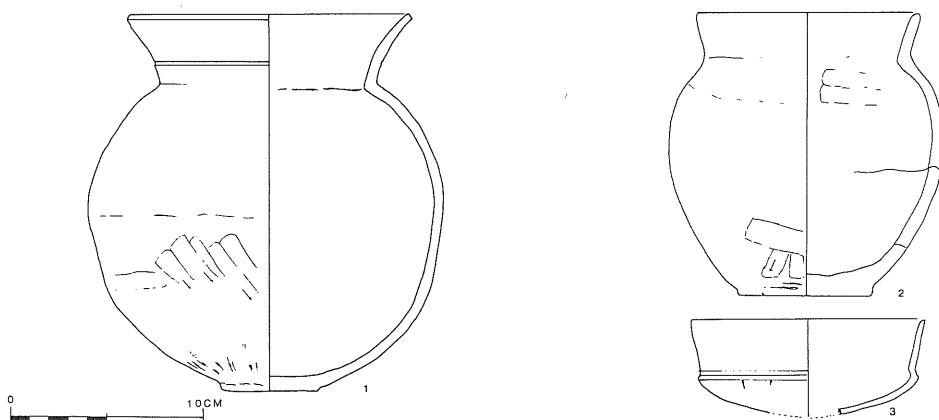
第106図 第12号住居址出土遺物



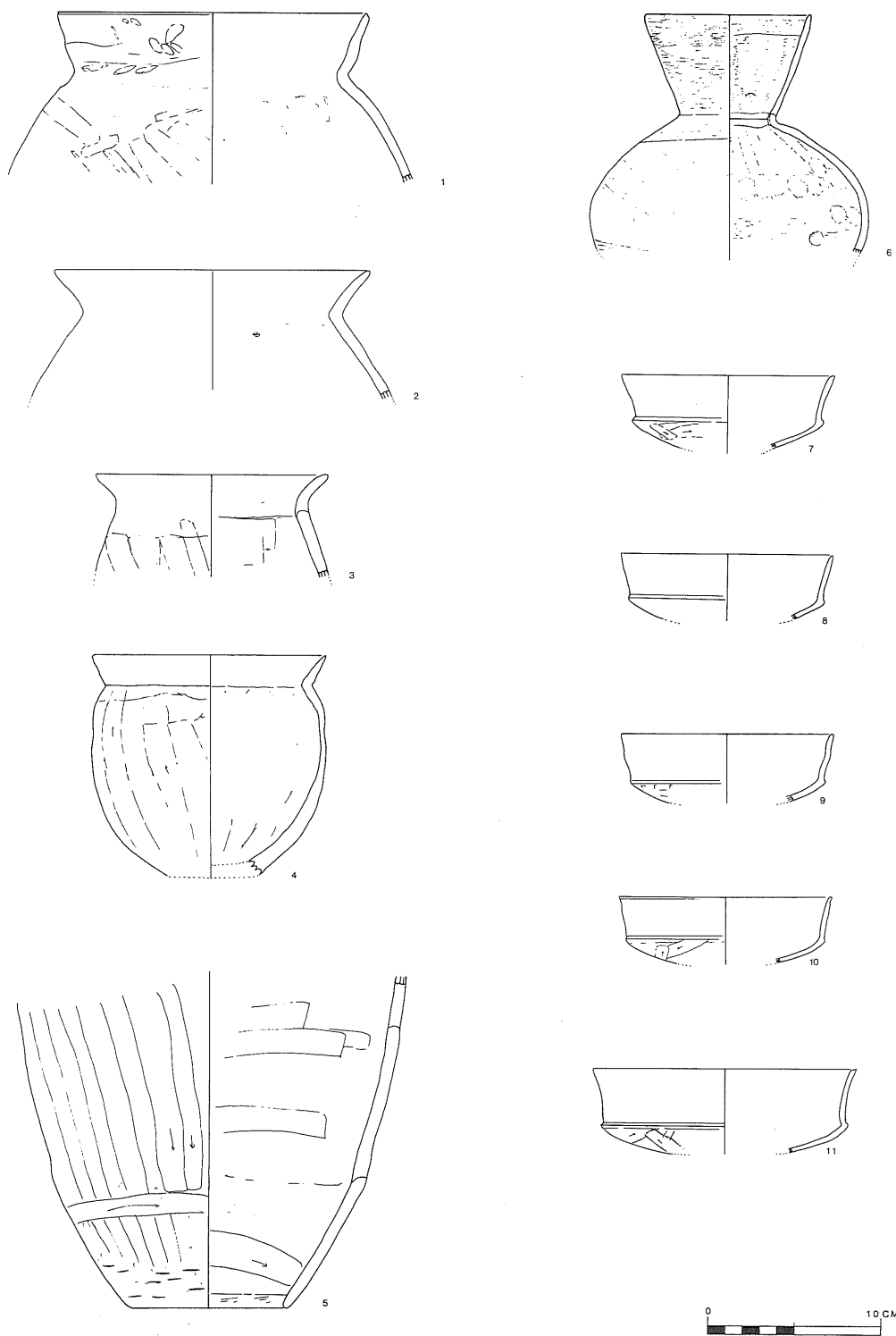
第107図 第13号住居址出土遺物(1)



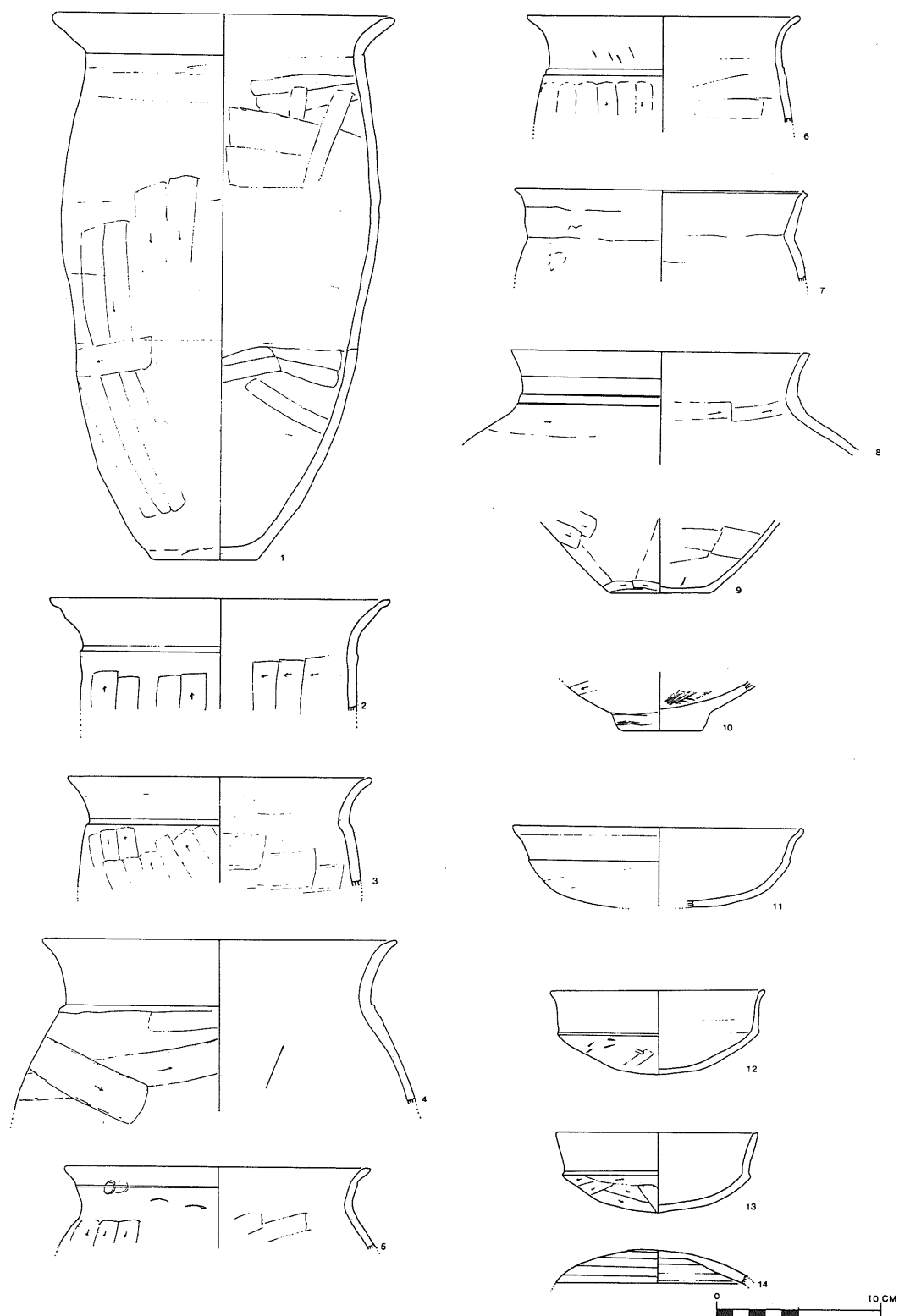
第108図 第13号住居址出土遺物(2)



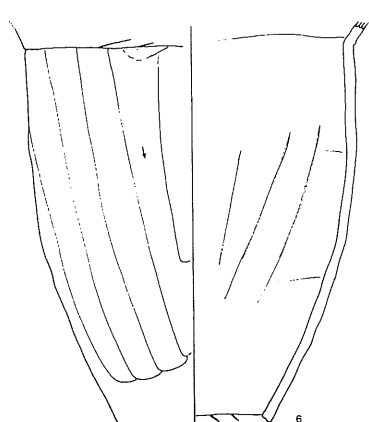
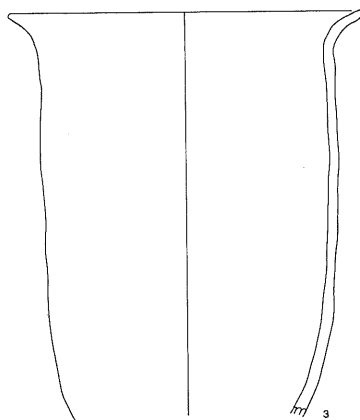
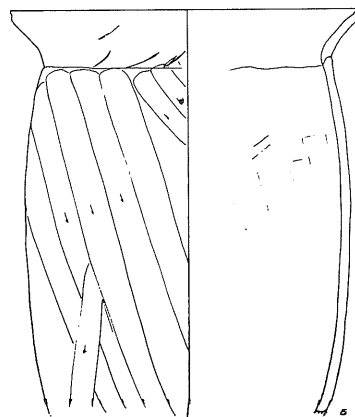
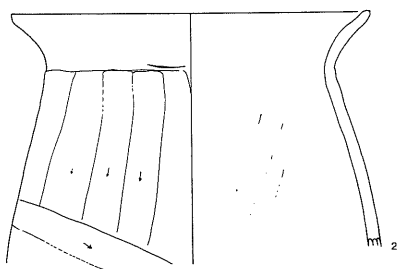
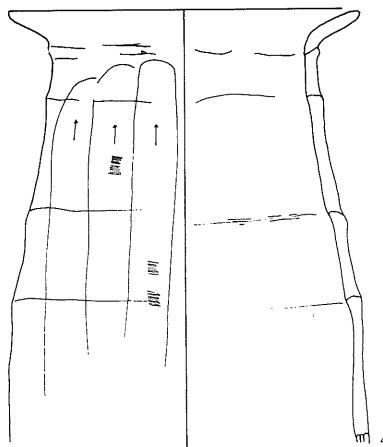
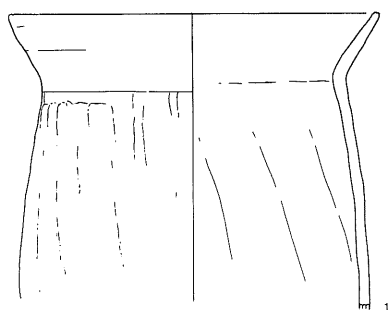
第109図 第14号住居址出土遺物



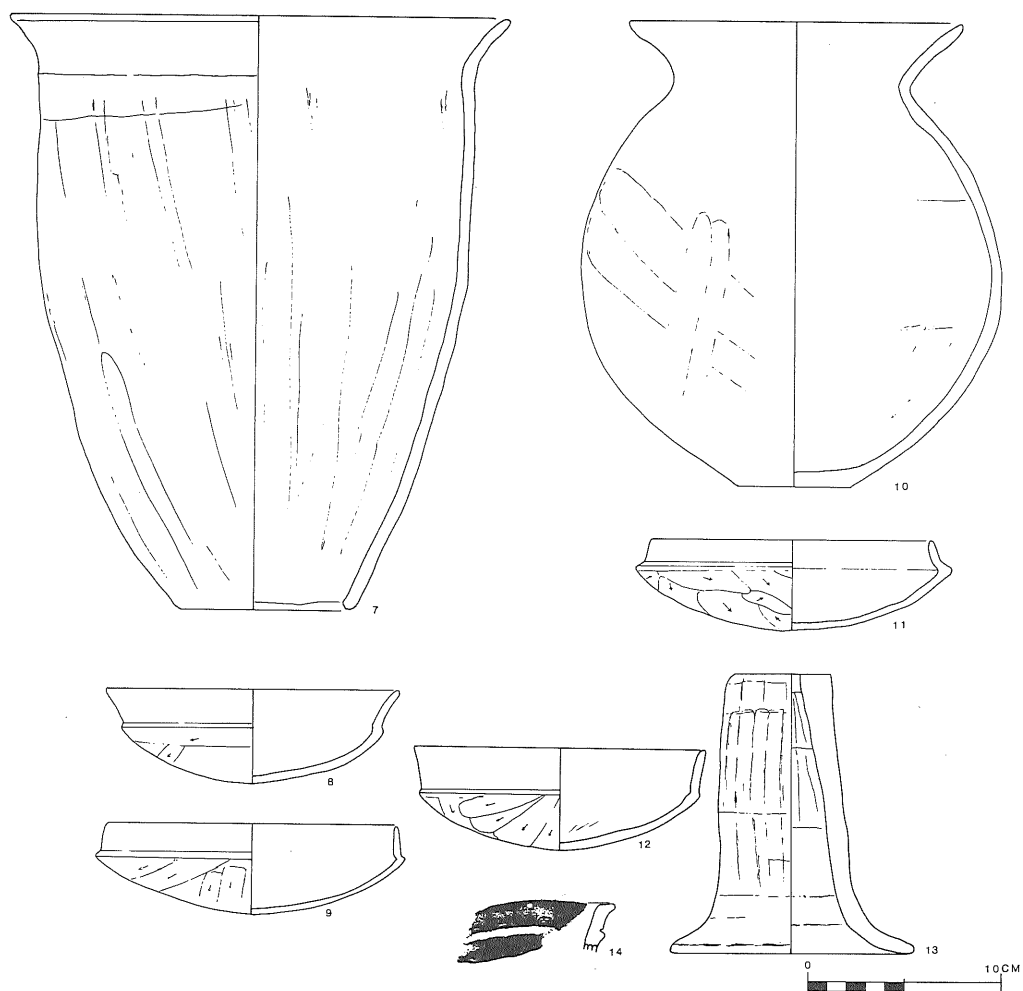
第110図 第15号住居址出土遺物



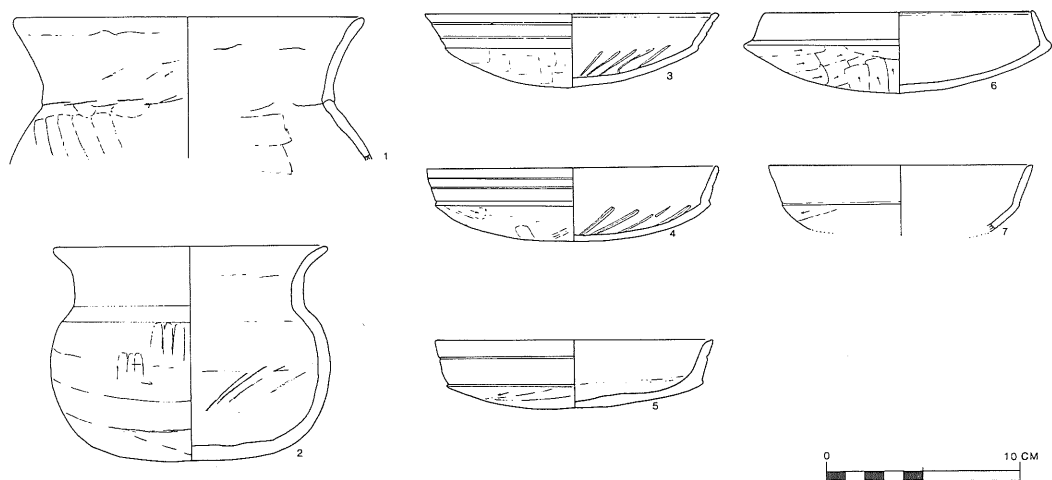
第111図 第16号住居址出土遺物



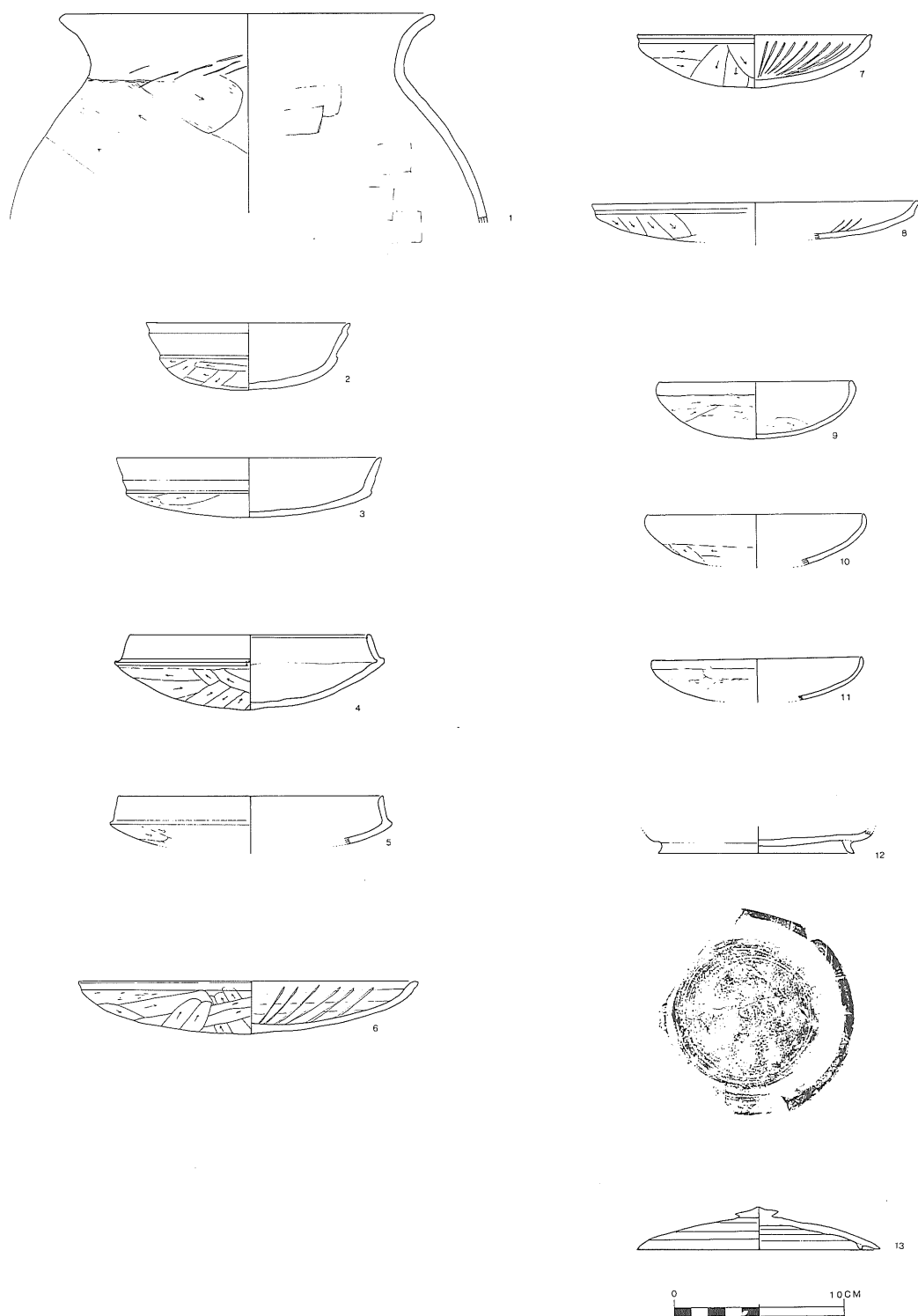
第112図 第21号住居址出土遺物(1)



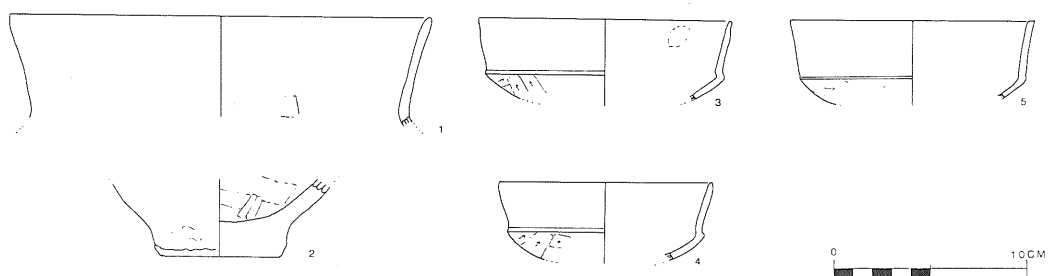
第113図 第21号住居址出土遺物(2)



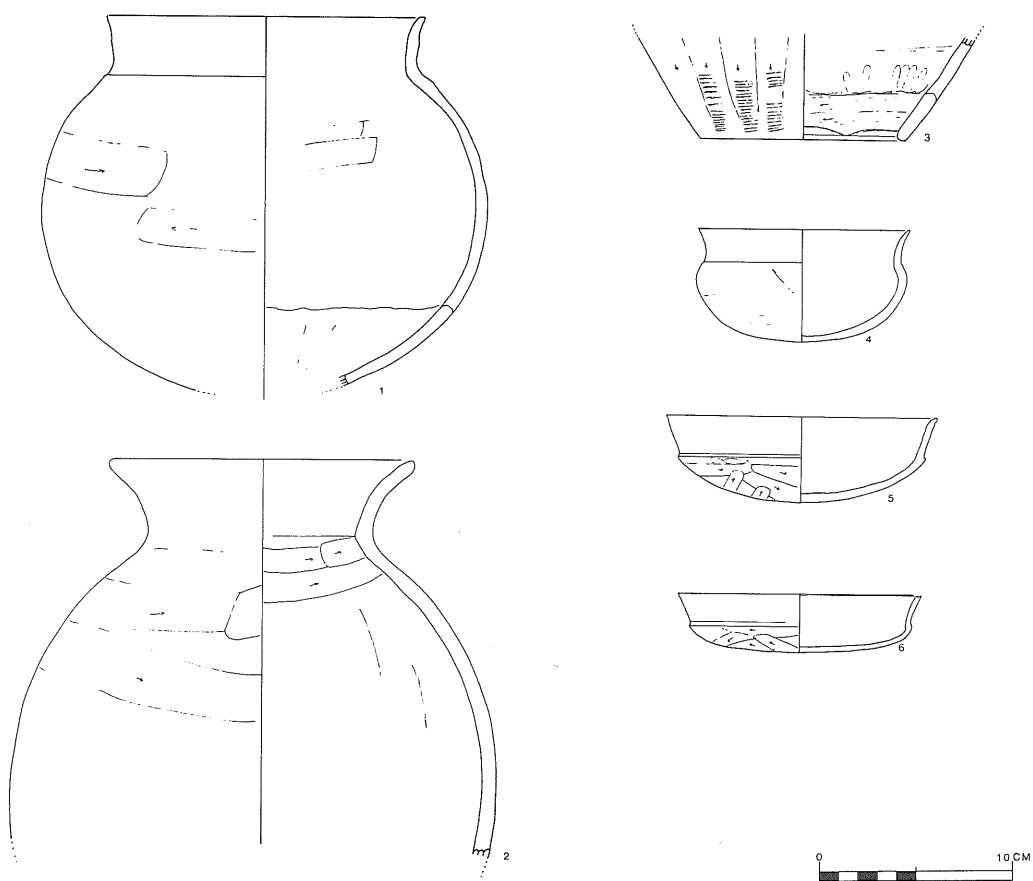
第114図 第18号住居址出土遺物



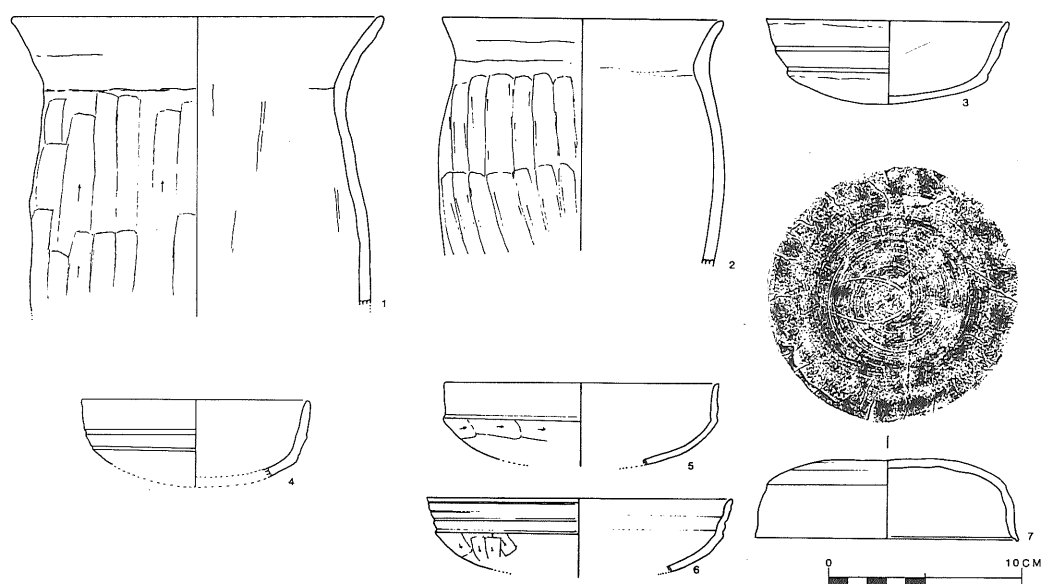
第115図 第23号住居址出土遺物



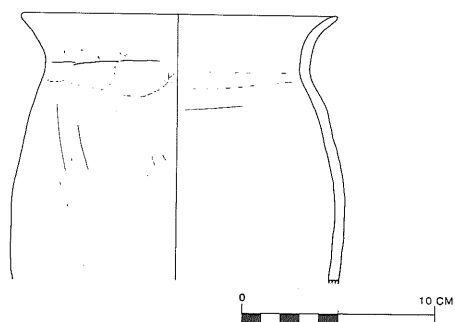
第116図 第22号住居址出土遺物



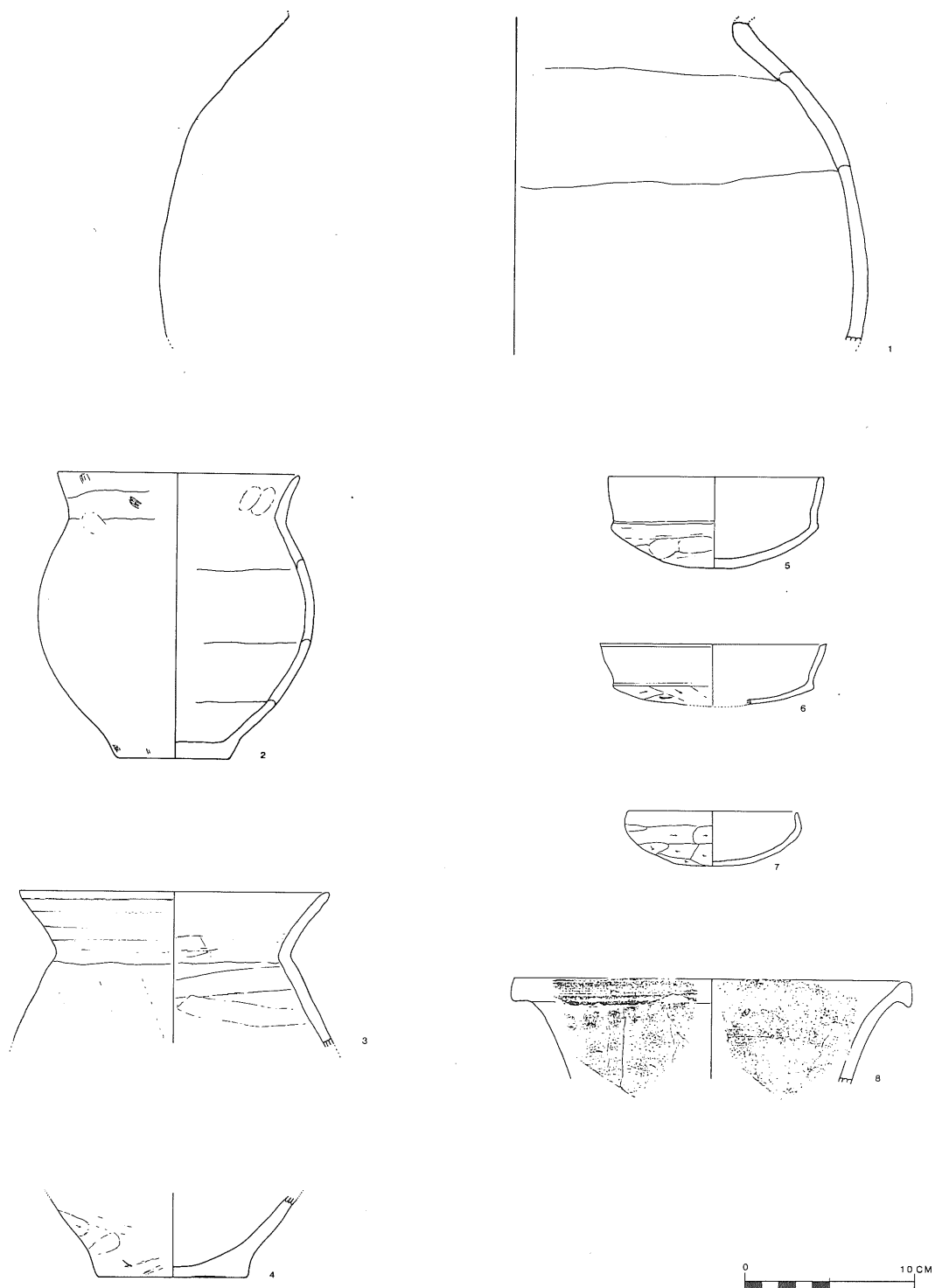
第117図 第24号住居址出土遺物



第118図 第25図住居址出土遺物



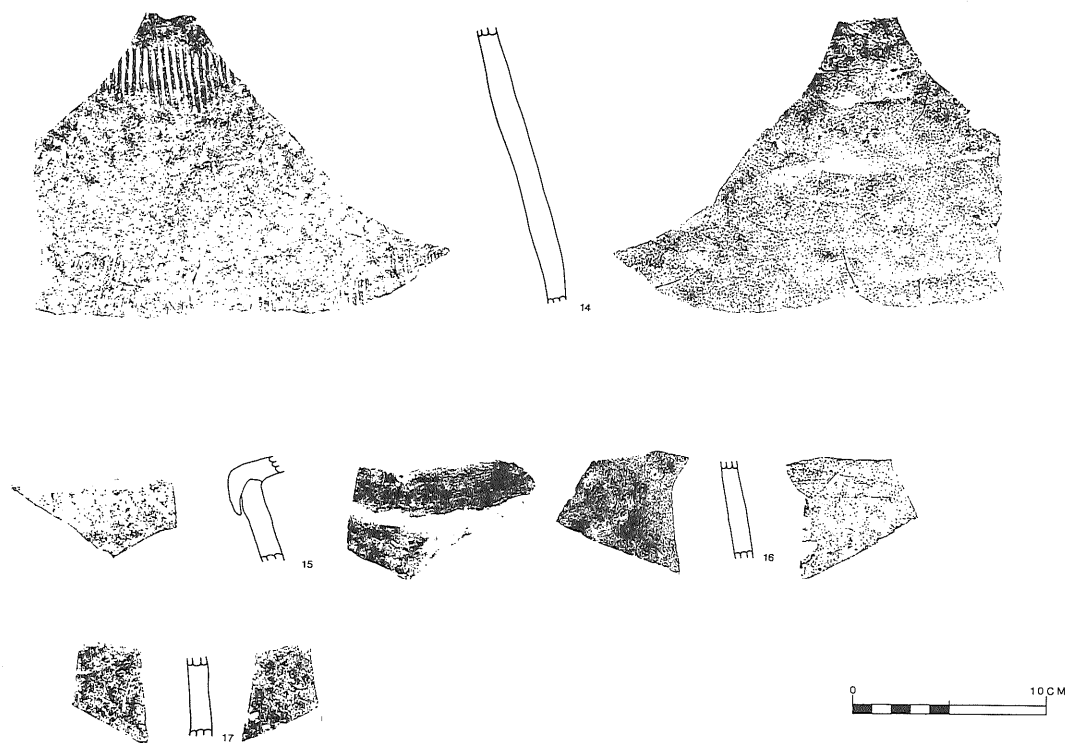
第119図 第26号住居址出土遺物



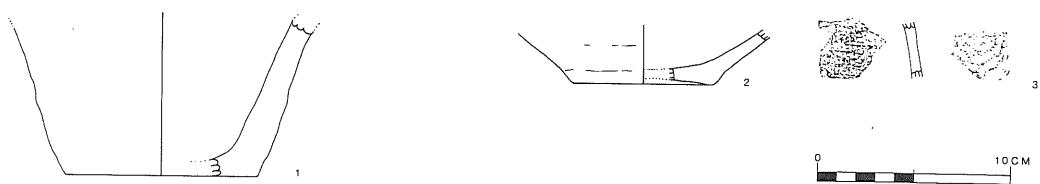
第120図 第28号住居址出土遺物



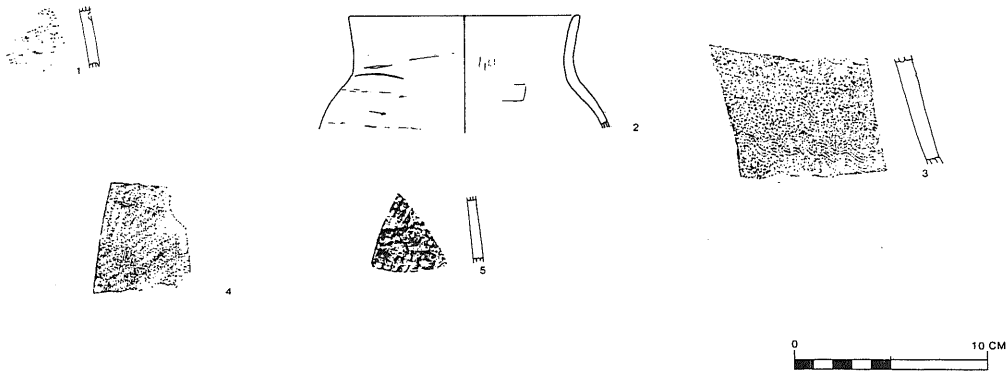
第121図 S D 0 2 出土遺物(1)



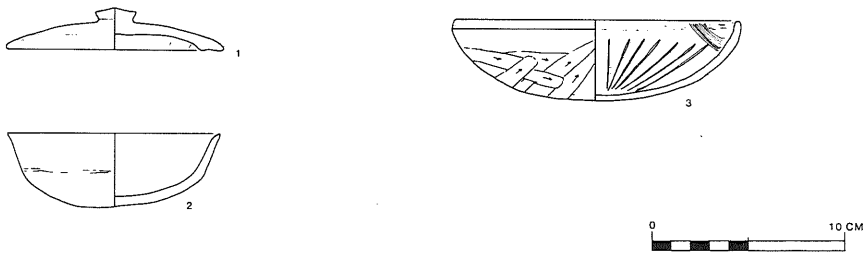
第122図 SD 0 2 出土遺物(2)



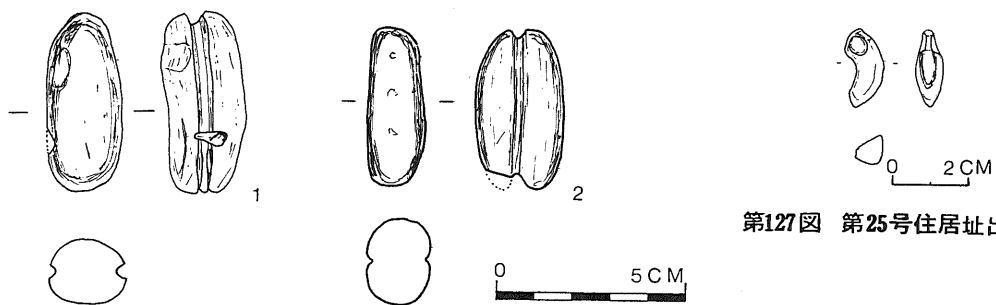
第123図 SD 0 1 出土遺物



第124図 SE 04・05 出土遺物



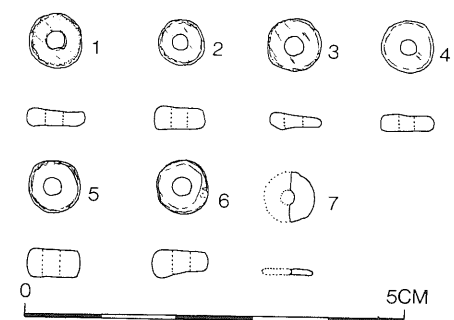
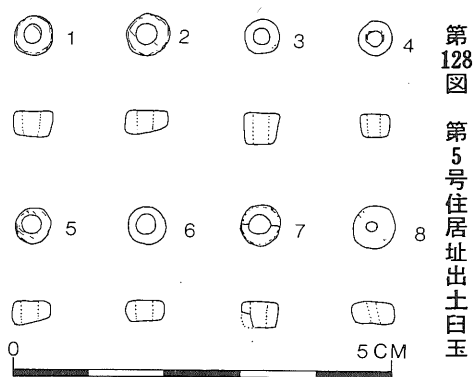
第125図 SK 08 出土遺物



第126図 グリット出土土錘



第127図 第25号住居址出土勾玉



その他の遺物

土 錘 （第126図1・2）

2つともグリットからの出土で、1は、側縁に沈線が巡り、色調、淡褐色を呈し、大きさは、全長4.5 cm、幅2 cm、重さ22.4 gを測る。2は、中央に沈線を有するもので、色調は、片面が黒色、他面は、淡白色、全長4.3 cm、幅2.4 cm、重さ17 gで下端の一部を欠損する。

勾 玉 （第127図）

第25号住居址の床面から出土したもので、石材は、碧玉、色調は濃い緑色を呈する。全長2.1 cm、幅0.7 cm、重さ4.2 gの小形な作りで、上部の穿孔部分は薄い。

臼 玉 （第128図・129図）

第128図は5号A住居の西壁際の床面近くのフク土中から出土し、129図は6号住居址の西壁際の坏（第96図44）に納められた状態で出土したもので、両者とも滑石を素材とし、大きさは、前者がやや厚味のある作りと言える。

砥 石 （第130図1～3）

1は、第9号住居址の床面からの出土で、輝石安山岩質スコリアで、色調は黒色。下半を欠損し、現存部11 cm、最大幅9.5 cm、重量635 gを測り、4面に深い砥ぎ跡が顕著に残る。

2は、B-10区より出土したもので、石質は、凝灰岩、色調、淡黄褐色。下端に剥離面が認められる。形態は、舟底状で、一面のみ平滑で、他面は、浅い擦痕状の砥ぎ跡が有り、頂部にも同様な跡が認められる。全長10.5 cm、幅4.5 cm、重さ290 gを測る。3は、SD02のフク土中より出土したもので、下半を欠損し、離面は剥離により欠落する。石質、泥質凝灰岩、色調は黒色を呈し、剥落部は、淡黄褐色。中央部が細くなり、2面に浅い砥ぎ跡が残る。現存大きさは、全長8.2 cm、上端幅3.8 cm、下端幅1.8 cm、重さ79.1 gを測る。

石製模造品 （第130図4）

第11号住居址の床面から出土したもので、下方を欠損し、現存形態は、六角形を呈し、本来は剣形の模造品と思われるが、明らかでない。石質は、滑石で、色調は銀白色。幅2 cm、長さは4.2 cmほど残り、厚味は薄く、3 mm弱を測る。

紡錘車 （第130図5・6）

5は、第28号住居址のフク土、6はF-16区の表土中より出土したもので、何れも蛇紋岩を素材とし、色調は、暗緑色。両者共、截頭円錐形で、表面に、擦痕が残る。

（荒川 弘）

Ⅵ ま と め

縄 文 時 代

ここでは、2個体の土器が保有する型式特性の確認を行い、幾つかの点に触れて要約したい。

(第7図1) この深鉢は、加曽利B式である。口縁に配置される把手と胴上半の収縮部から直線的に外反する口頸部の形態的な特徴を備えて、内面に巡る2条横線の施文は、この形態特有の強い規制が存在する手法特性として、類型把握を明解に示すものと言える。体部に展開する斜行沈線文は、この形態を示し系列化される土器の中で後出段階に位置する体部文様の把握が可能となるものである。典型的な地域展開は、大宮台地周辺部、西関東において主体的な深鉢として存在し、甲信、東海方面に及ぶ広い地域にわたる分布圏を形成して、甲信方面では、斜行沈線文が在地化して主要文様となる側面を備えて、主要な器種となる土器である。一方、常総方面の東関東では、類例の乏しい様相が知られ、主体となる精製系の波状口縁深鉢と対立的な土器として存在し、強い地域的な展開を示すものである。この地域的展開は、系列化された体部文様の構成が、孤線文系の形成段階を契機に現われるものとして理解される。斜行沈線文に至る体部文様の過程は、系統的な把握がなされている(注1)。形態的な変化と体部文様の転換は、漸移性を示すもので、主要な構成を大雑把に見ると、横帯文系→孤線文系→孤縄文(非縄文)→斜行沈線という変遷の跡付けが可能で、浅見山遺跡の(孤線文、非縄文)と平尾遺跡の(斜行沈線)に介在するこの土器は、形態的、体部整形痕、体部文様の個々の部分に強い関連を伺わせる深鉢であり、時間的に接続する段階に据えられる内容を示している。斜行沈線文の構成は、その系統的な出自が不明な部分が多く、成立段階の認識は、文様の共有化という可能性を想定するものである。更に、形態変化と把手の形彫化、胴部区画の消失等、内面2条横線の類型は、後続する系統性を示す在り方を示して、多くの分析を必要とし、実体把握が望まれる土器群と言える。

(第7図2) 口縁部が「く」の字状に内折する特徴的な形態を示す深鉢である。口縁部に集約される文様帯を備えている。口縁部文様の展開は多種にわたる構成と施文手法が存在して、高井東遺跡(注2)でまとまった出土が知られている。この類型は、大宮台地周辺部と西関東に類例が知られ、口縁部の内折形態は、西日本を結ぶ密接な運動性を備えた性格を保有している。現在、この深鉢は、曾谷式の地方的系列として高井東2式と認定される内容を示すものである(注3)。口縁部に巡る2条沈線は、類型の基本単位として存在し、文様の在り方は、無文、縄文、磨消手法を伴う多様性を示すものである。地文縄文である原体は、無節Lで、高井東遺跡では、圧倒的な数値を占めて構成し、高井東系列の土器を特徴付ける施文原体の特性が指摘できる。文様帯を分断する単位文は、4単位で構成し、ボタン状瘤の多用が知られ、類型内では、初めての確認と言え、波状口縁深鉢との強い関連が伺える。単位文としての瘤には、多くの形状が知られるが、個々の形態把握は、施文手法の確認と限定的な文様構成を示す中で時間的変遷の追求を可能としよう。更に、東南北部に分布する瘤付土器との関連をより明確にする内容を示している。この深鉢が示す口縁部形態は、帯縄文を明確に区画して、高井東遺跡25号住の深鉢とは若干の相違が見られ、先行する段階に位置する想定を指摘しておきたい。

条 里 遺 跡

妻沼道ヶ谷戸条里は現有地形の観察から南は福川の線、北は江原の集落地帯の間に展開し、現有水路及び畦畔が良く区画の痕跡をとどめている。特に福川の流れは西側で直角に屈曲しながら流れこのカーブと条里の線が符合している。おおよそ109 mの距離を一段として四段からなり、一町ごとの区割に等しい数値となっている。

このことは、福川が改修の結果、今の流路に定まるにあたって条里の区割による規制を受け、109 mを一段とする屈曲した流れとなったことが推測され、耕地計画上から近世に至っても強い規制が及んでいたと想象される。

条里の規模として現在その痕跡が認められるのは狭い範囲で、北方の南八幡、飯塚地区では、旧河川の流路の痕跡が顕著で条里は施行されなかったと思われる。

このことは、飯塚南遺跡の東側、水田となっている旧河川の痕跡地を試掘した結果、全く遺構が検出されず、遺構の分布状態も旧河川西側で切れてしまうため弥生時代中期以前に形成された河川であることが判明し、古墳・奈良・平安時代に至っても川として機能していたものであろう。その後・近世に入り、水田として耕作されてきたものである。

条里遺構の調査は、トレンチ断面観察によって第1トレンチ内で4ヶ所の溝が検出されたが、このうち第3層から灰釉陶器が出土した。壺体部の破片で全体の器形は不明であるが器地の精密な製品である。又第4層からは、内面黒色処理された土師器の坏が出土している。坏形土器は口径14.5 cmを測り、体部下半に深味のある安定した器形で小形の高台がつぶれて横に開くを特徴とするもので、9世紀後半から10世紀初頭に位置づけられる。

灰釉陶器は10世紀後半から11世紀初頭の所産に比定できるものである。

上記二種の土器は約100年の差がみられ、これを3層と4層の差に置きかえれば、同様にして100年の差が認められることになる。

検出された溝は、現有水路とは、位置的に若干のズレはあるものの、数回の改掘が行なわれ、水路位置を大きくかえることなく改修されてきたもので、基本的な水路は、条里施行当初とほぼ同位置にあたることが判明した。

又、条里施行以前の遺構として、第1トレンチ内から埴輪を伴う古墳の周溝が検出されたことにより、かつて古墳が存在したことが確認された。

調査前には古墳の存在を示す地形的特徴はみられずかなり古い時期に削平されたもので、この他に福川付近の水路工事で掘り上げられた埴輪が発見され古墳の存在が確認されている。

福川周辺部では、やや土地の高い部分が畑地として残るところがあり、地名にも「飯塚」として塚を冠する字名が現存することから古墳群の存在は十分考えられるところである。

条里周辺にみられる飯塚南遺跡や道ヶ谷戸遺跡で検出された鬼高期や国分期の住居址群は、古墳の築造や、条里水田で耕作に従事した人々の居住地区とみられる。特に限定された集落地帯の中で、真間期の住居が検出されなかったことは、条里施行時期を消極的ながら平安期とする傍証例ともいえる。

更に、土師器坏を出土した第4層及び第3層を切る溝の推積状態などから10世紀代には条里が施

行されていたものと推定される。

(駒宮 史朗)

引用・参考文献

注 1. 安孫子昭二 「平尾遺跡Ⅰ」 平尾遺跡調査会 1970

注 2. 安孫子昭二 「日本考古学を学ぶ 2」 1979

注 3. 市川 修 「高井東遺跡」 埼玉県教育委員会 1974

鈴木 正博 「曽谷式土器研究序説」 1980

原島 礼二他 「あたご山古墳・南河原条里遺跡」 1977

並木 隆・原島 礼二他 「中条条里調査報告書Ⅰ」 1979 熊谷市教育委員会

斎藤 国夫 「池守遺跡発掘調査概報」 行田市教育委員会 1980

栗原 文蔵・田部井 功 「弥藤吾新田遺跡発掘調査報告」 埼玉県遺跡調査会報告第29集 埼玉県遺跡調査会 1976



姜沼西南地区航空写真

図版 2



道ヶ谷戸条里遺跡遠景



道ヶ谷戸条里遺跡作業風景



1号トレンチ



2号トレンチ

図版 4



1号トレンチ(西→東)



1号トレンチD断面

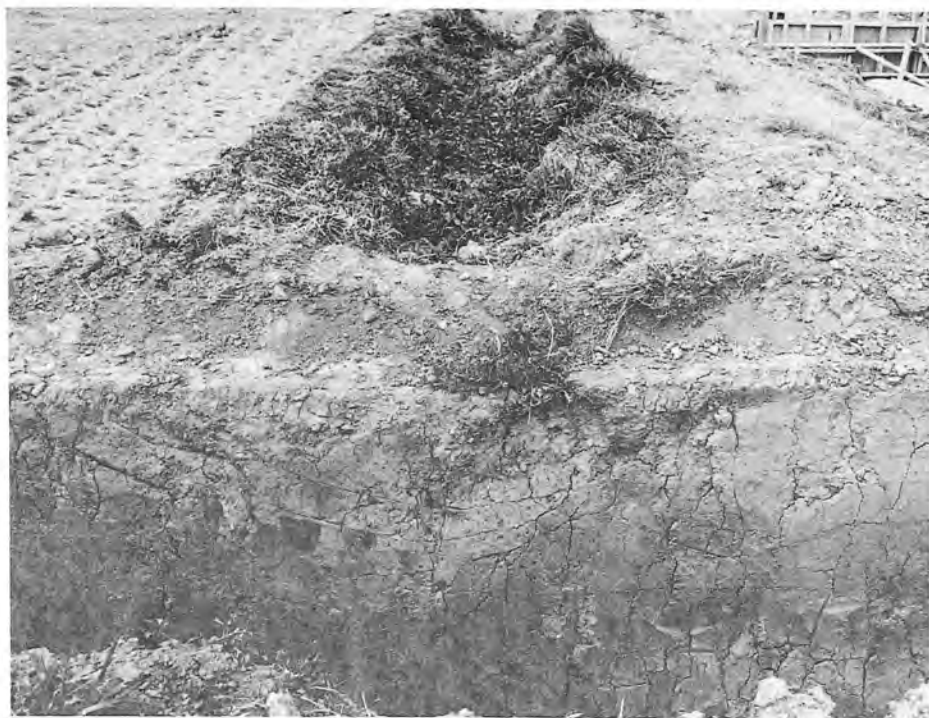


1号トレンチC断面

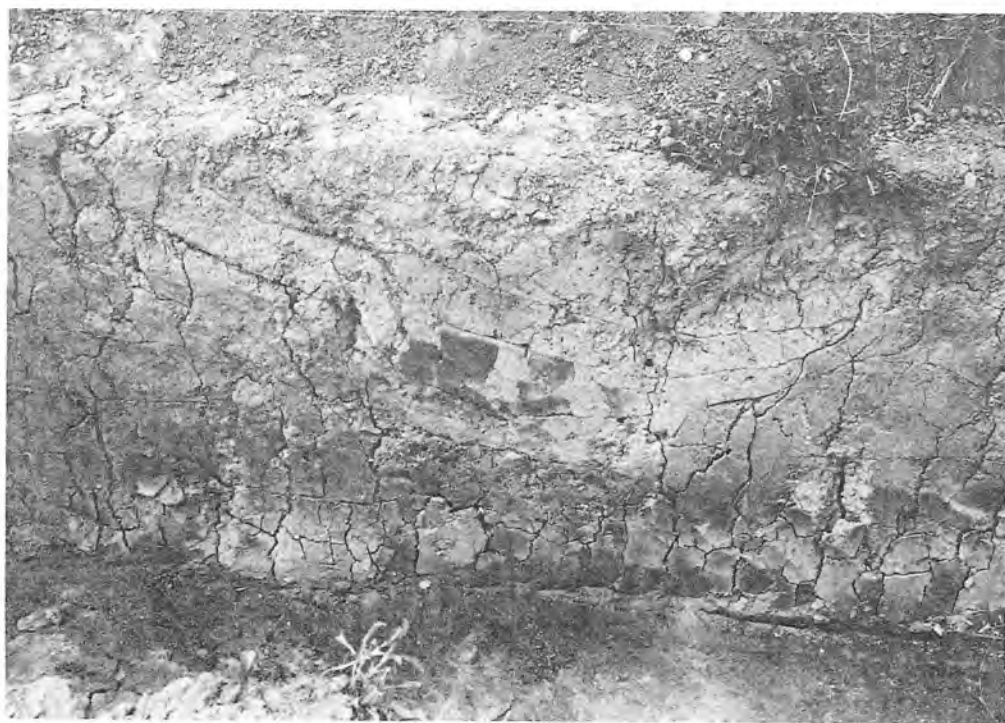


同近景

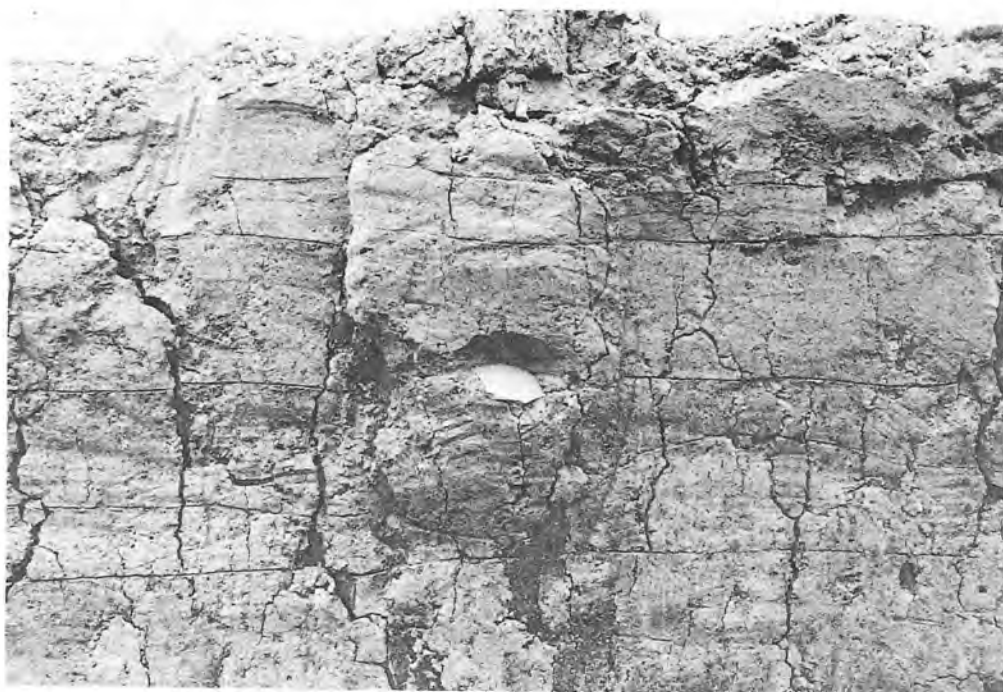
図版 6



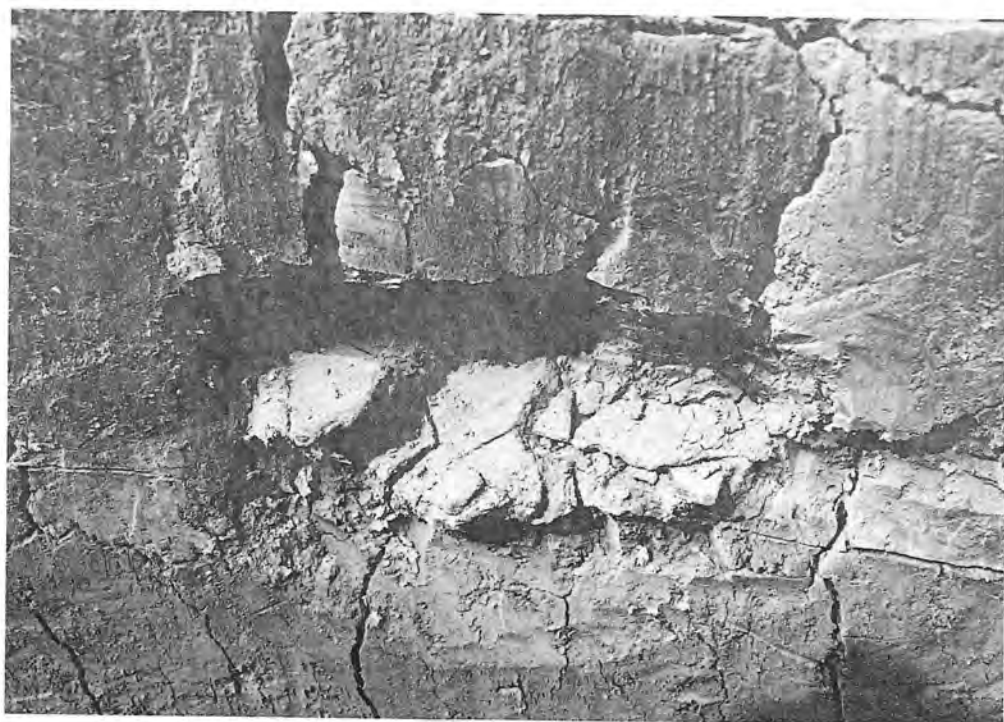
1号トレンチB断面



同



1号トレンチ灰釉陶器出土状態



1号トレンチ縄文土器出土状態



1号トレンチF断面





2号トレンチB断面



1号トレンチ古墳周溝



道ヶ谷戸条里遺跡出土遺物



道ヶ谷戸遺跡遠景



道ヶ谷戸遺跡作業風景

図版 12



1号住居址



1号住居址カマド



2 号住居址



2 号住居址炭化材出土状态

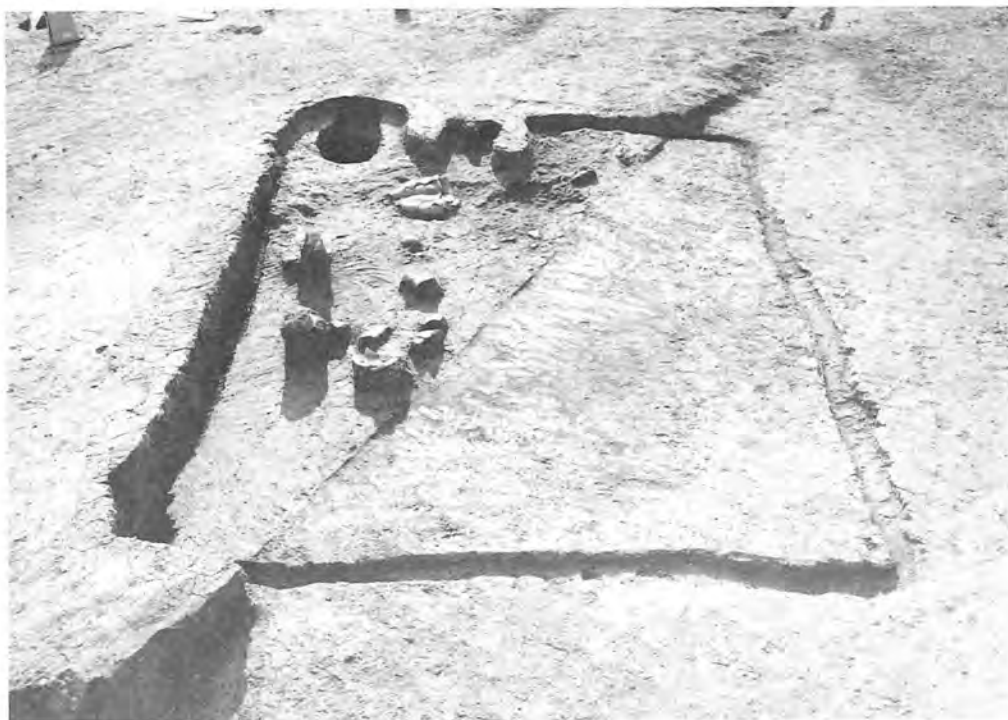
図版 14



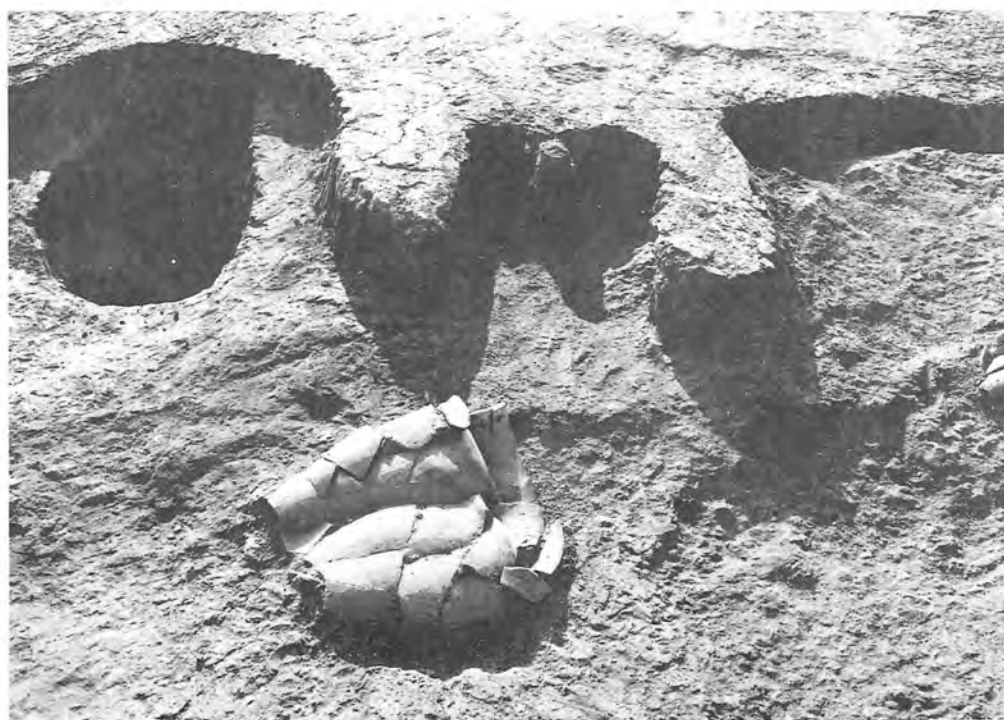
3号住居址



4号住居址



5号住居址



5号住居址カマド付近遺物出土状態

图版 16



同出土状态



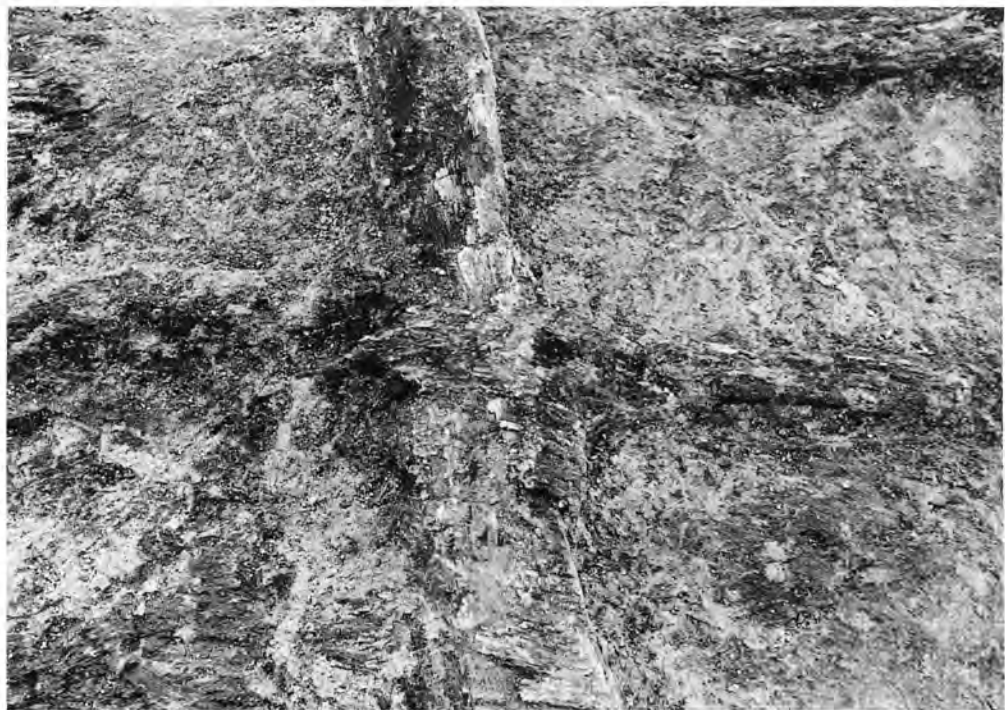
6号住居址



7 号住居址



7 号住居址炭化材出土状态



同出土状态



同遺物出土状态



8、10号住居址



10号住居址カマド

図版 20



9号住居址



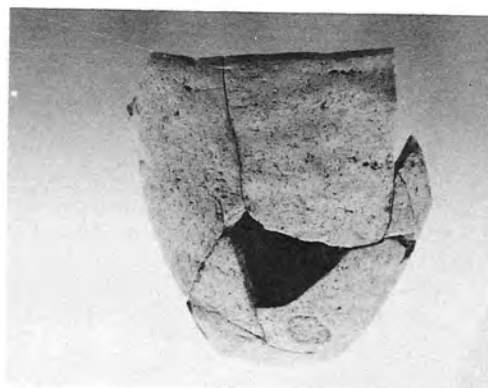
11号住居址



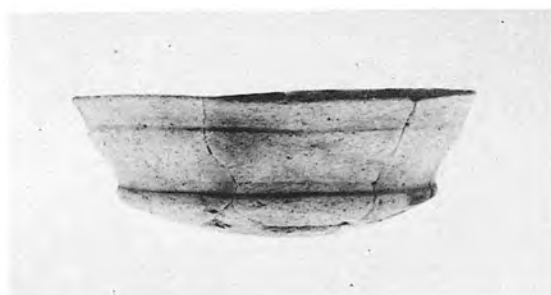
11号住居址カマド



1号溝



3号住居址出土遺物



7号住居址出土遺物



5号住居址出土遺物



8号住居址出土遺物



10号住居址出土遺物



11号住居址出土遺物

13号住居址出土遺物



12号住居址出土遺物





飯塚南遺跡遠景（東より）



飯塚南遺跡遠景（西より）



飯塚南遺跡作業風景



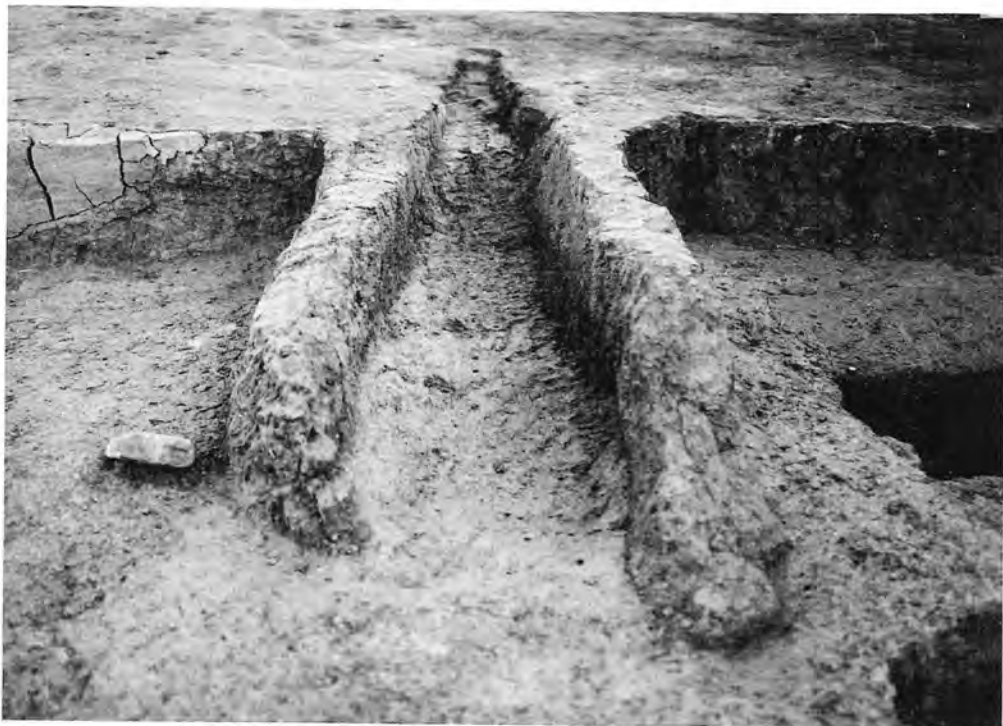
1号住居址



2 号住居址



2 号住居址貯藏穴遺物出土狀態



2号住居址カマド



5号住居址



5号住居址貯蔵穴遺物出土状態



6号住居址遺物出土状態



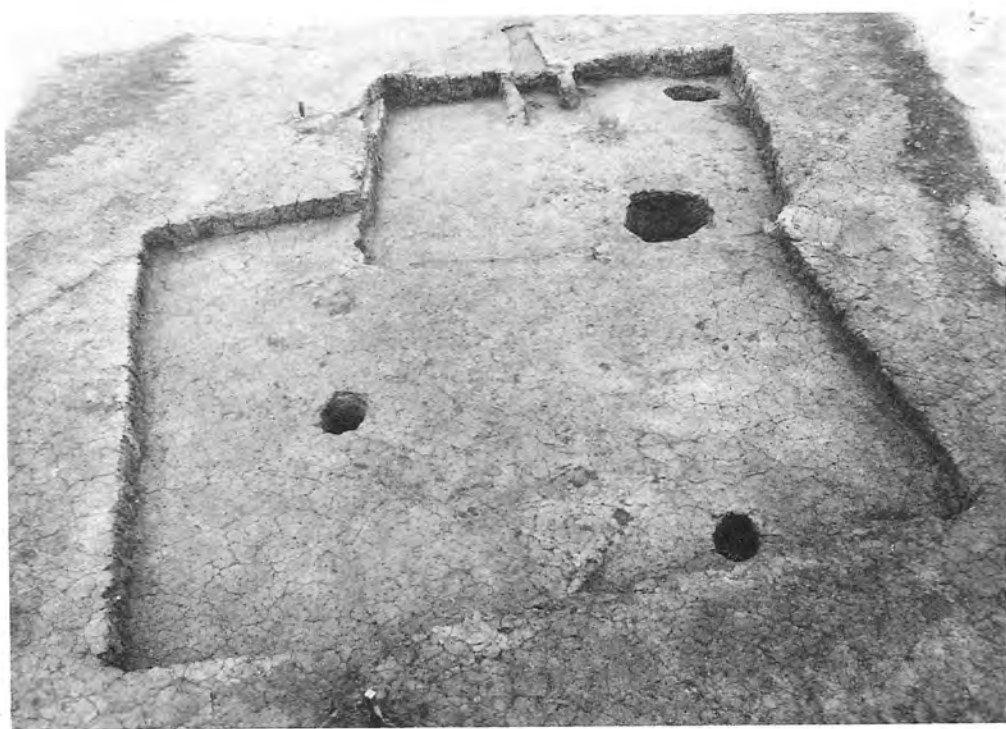
6号住居址



同白玉出土状态

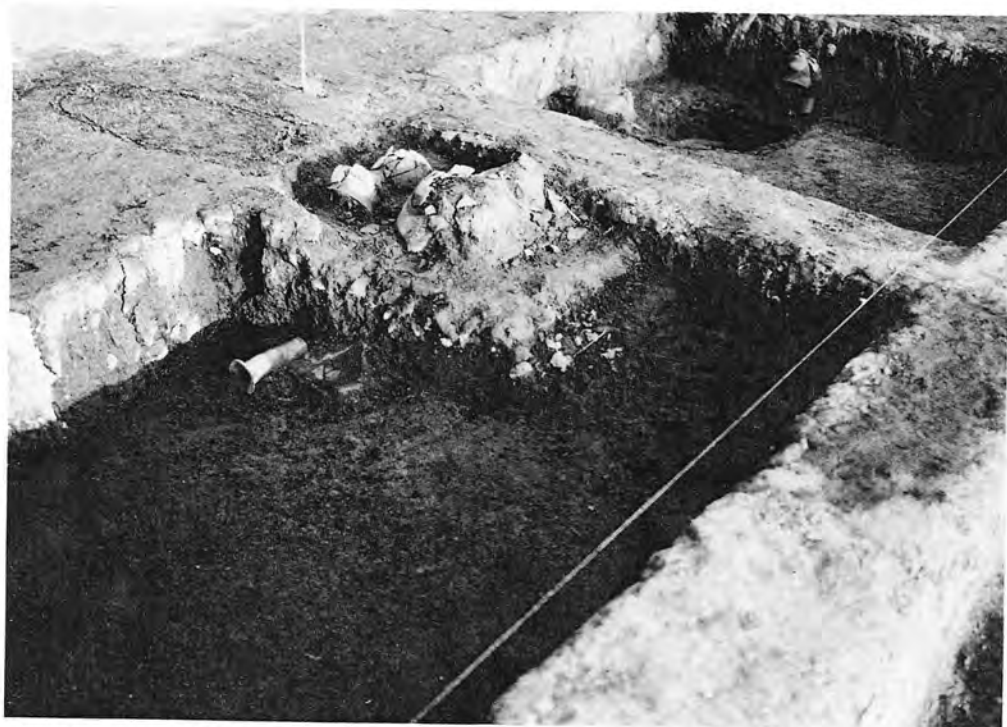


6号住居址カマド

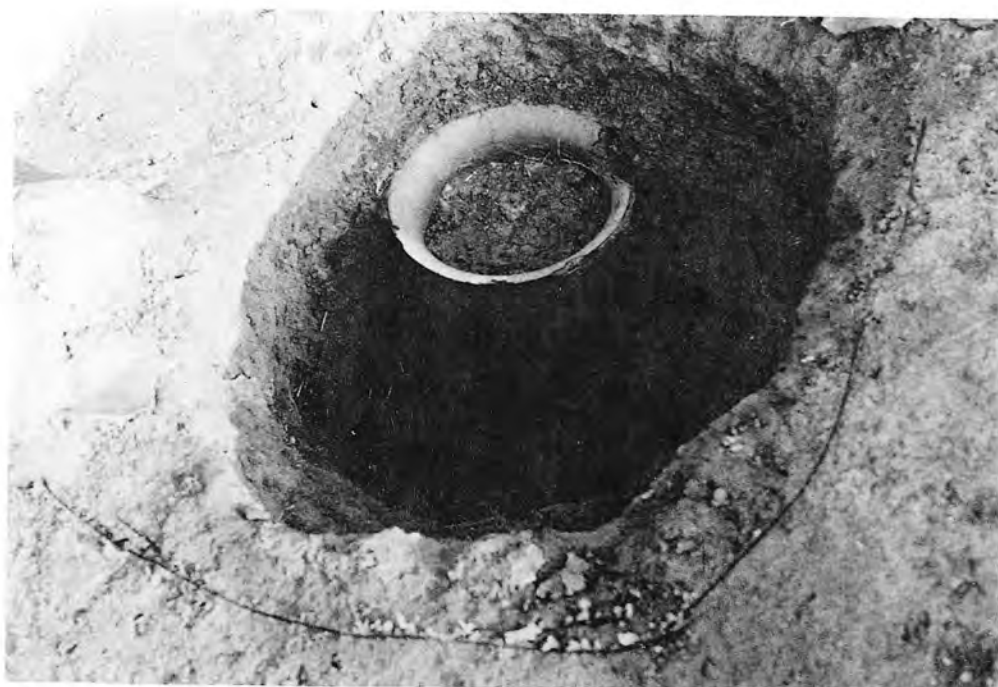


7、8号住居址

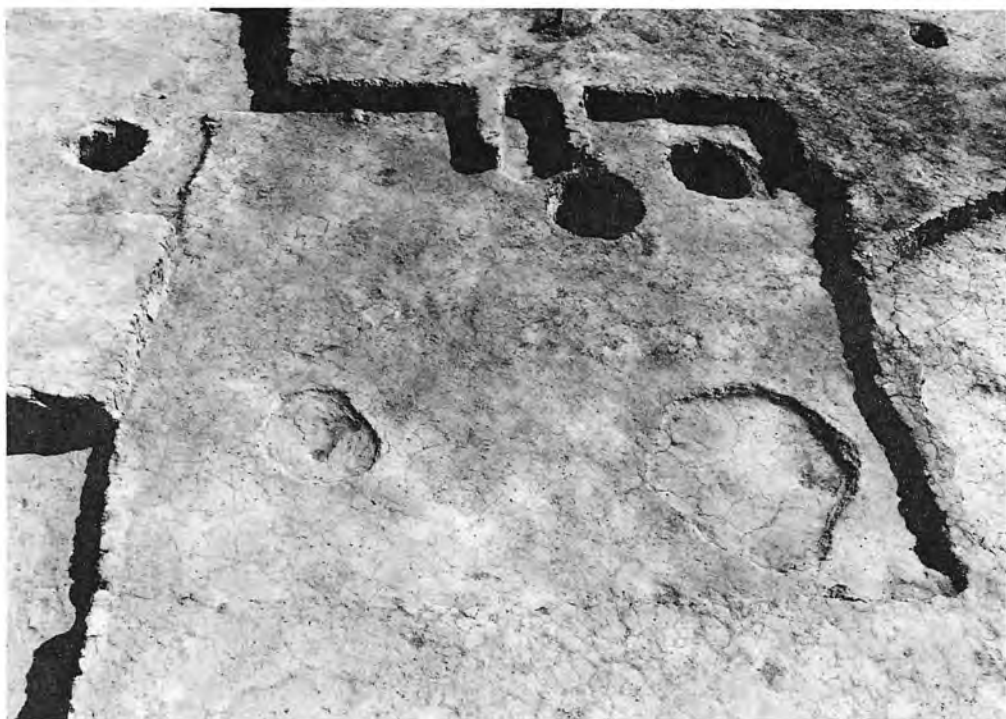
図版 34



7号住居址カマド付近遺物出土状態



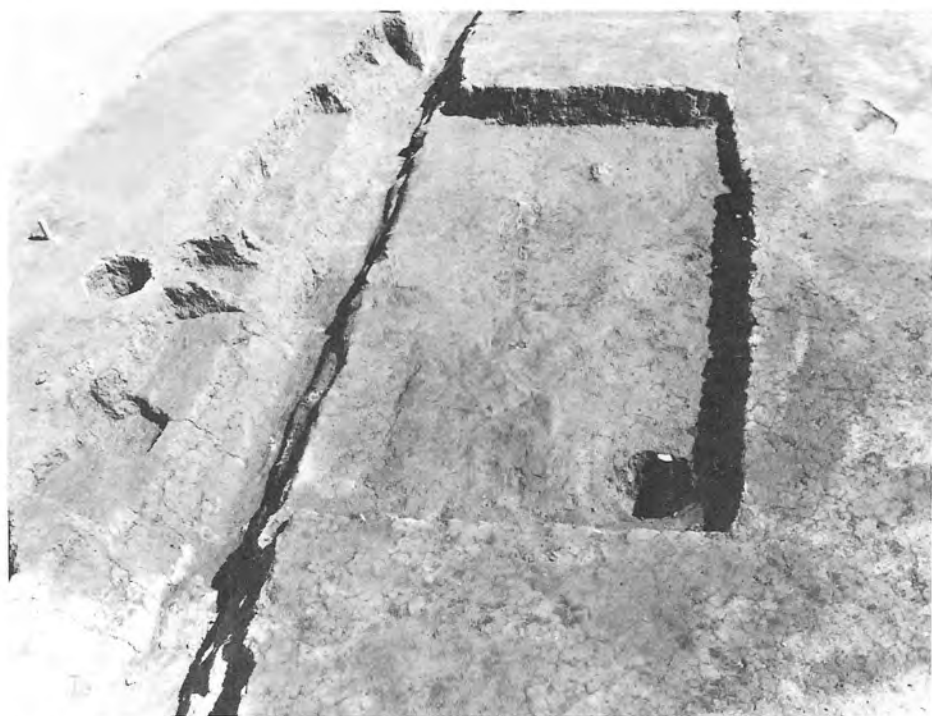
7号住居址貯蔵穴遺物出土状態



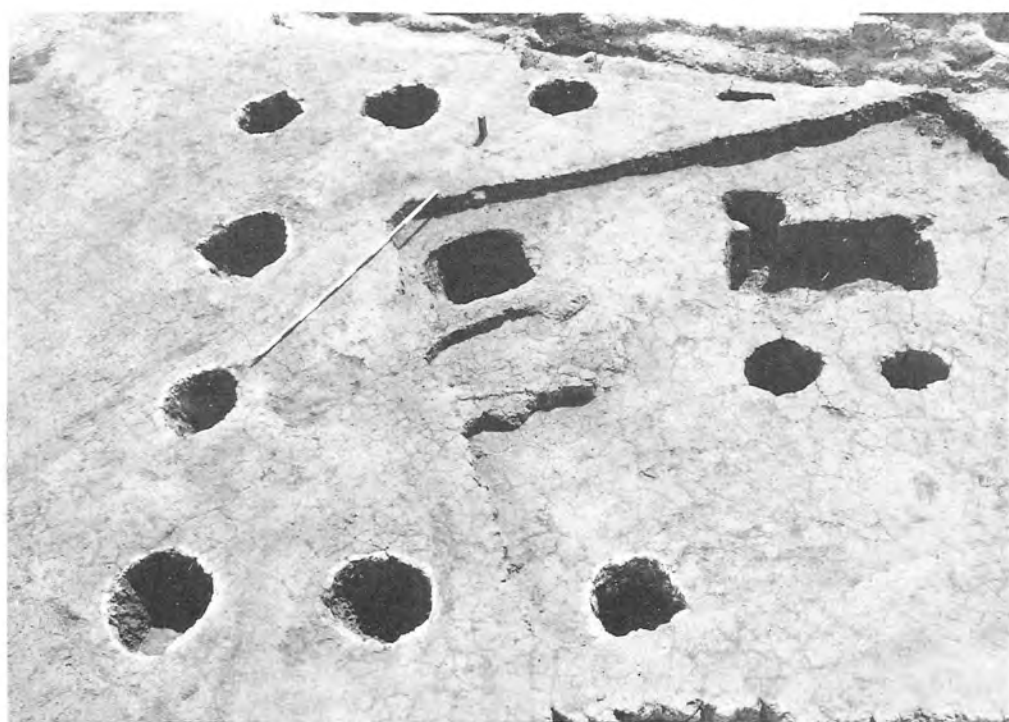
9 号住居址



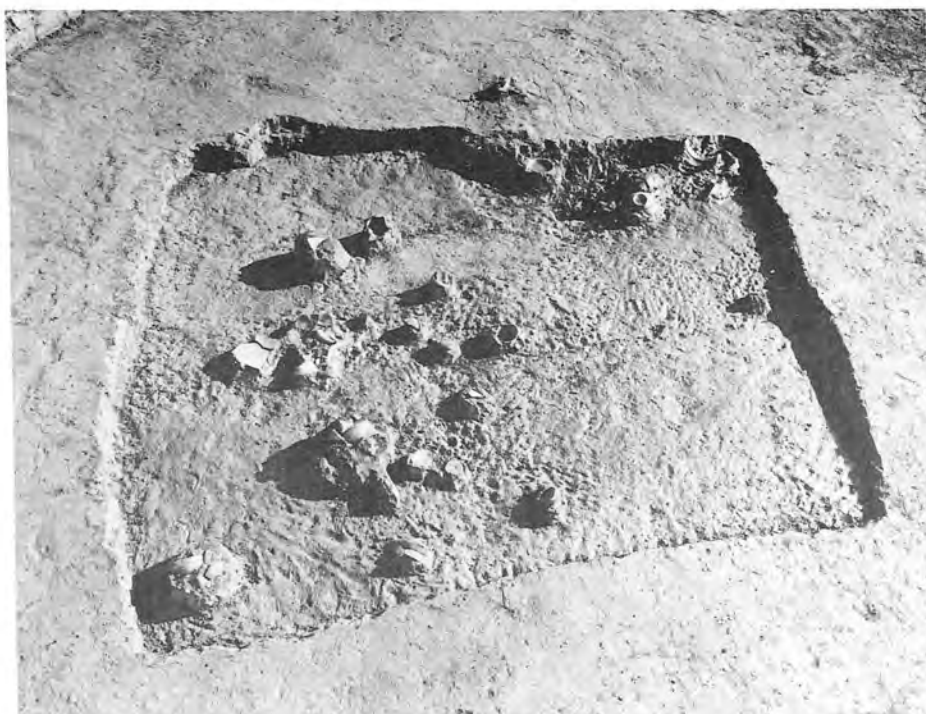
9 号住居址遺物出土狀態



11号住居址



12、17号住居址



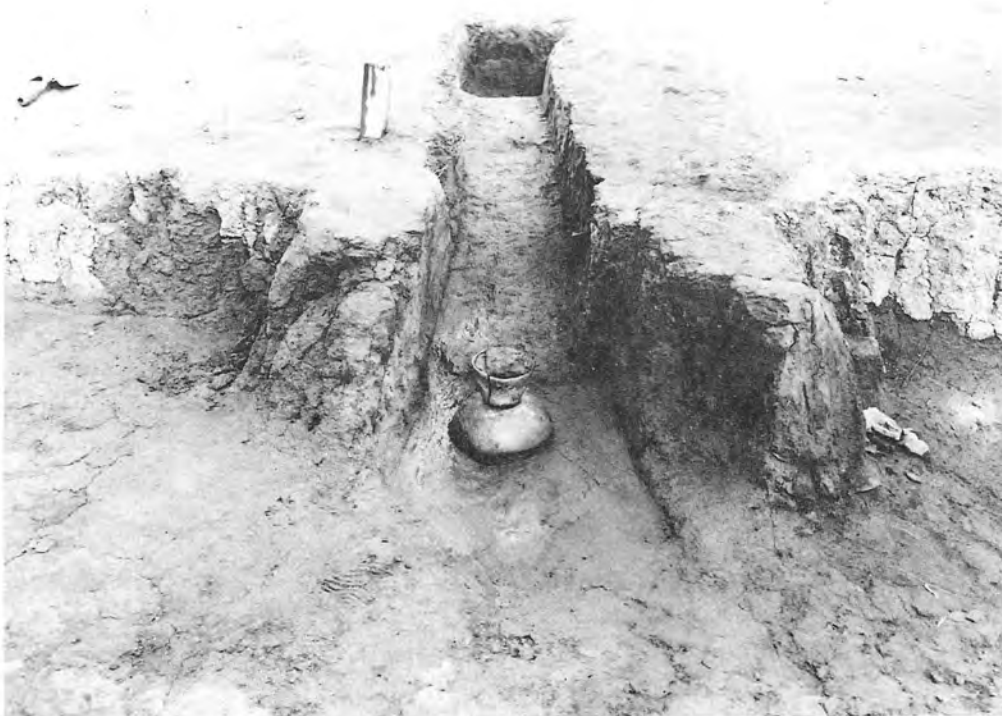
13号住居址遺物出土状態



13号住居址カマド



15号住居址



15号住居址カマド



15号住居址遺物出土狀態



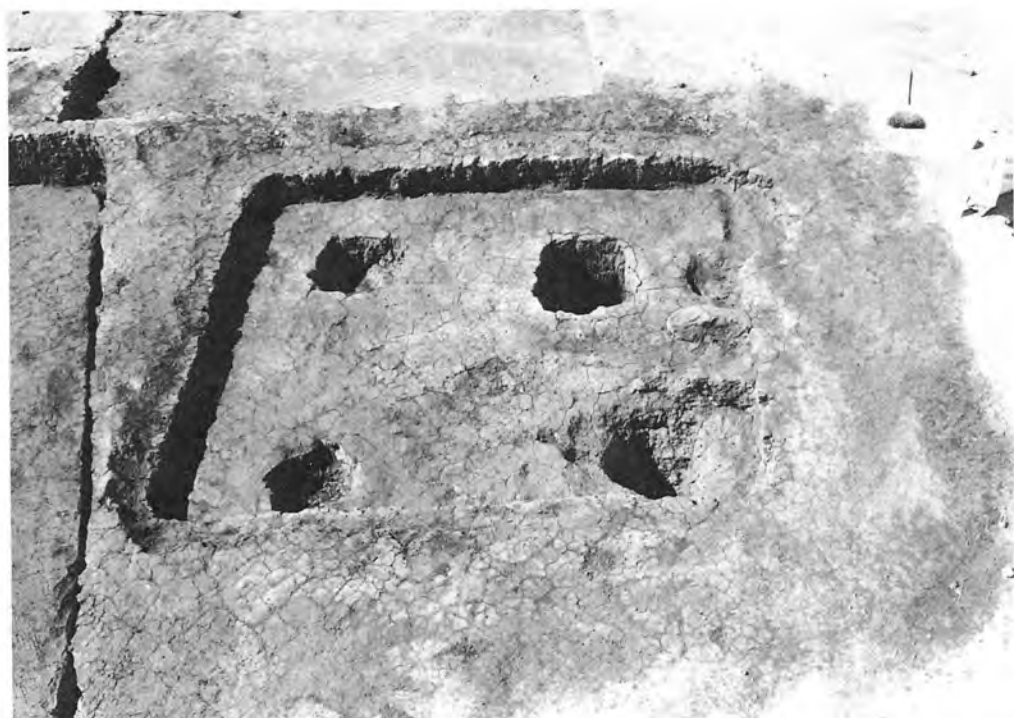
21号住居址



21号住居址カマド遺物出土状態



21号住居址カマド



22号住居址



23号A、B、C住居址

图版 42



24、25号住居址



25号住居址遺物出土狀態



28号住居址



SD02



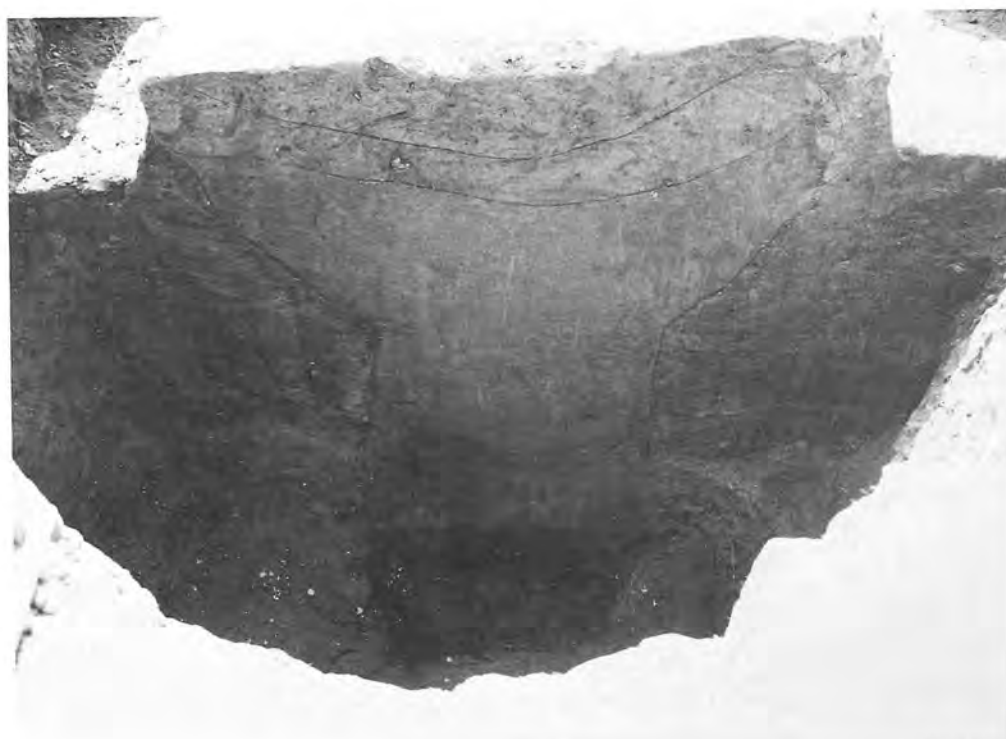
SE 0 1



SE 0 2



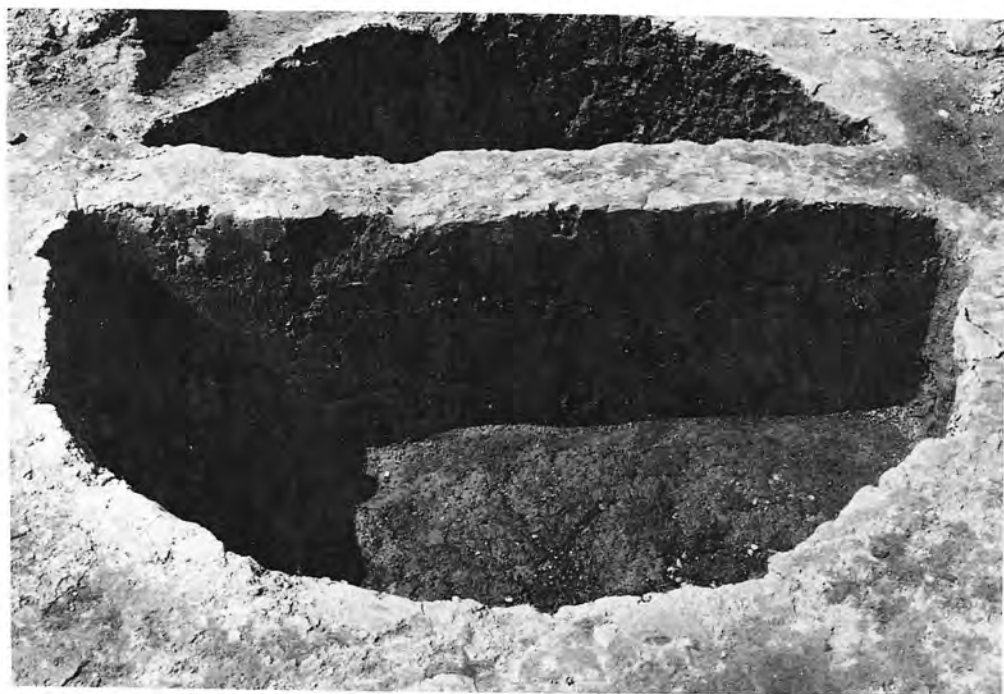
SE 0 3



SE 0 5



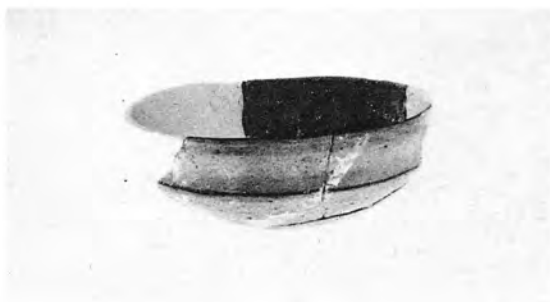
SE 05



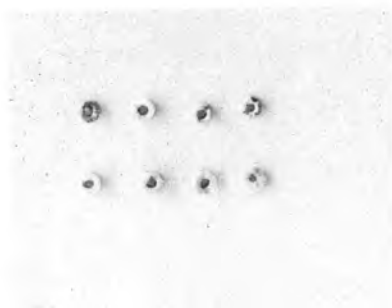
SK 09



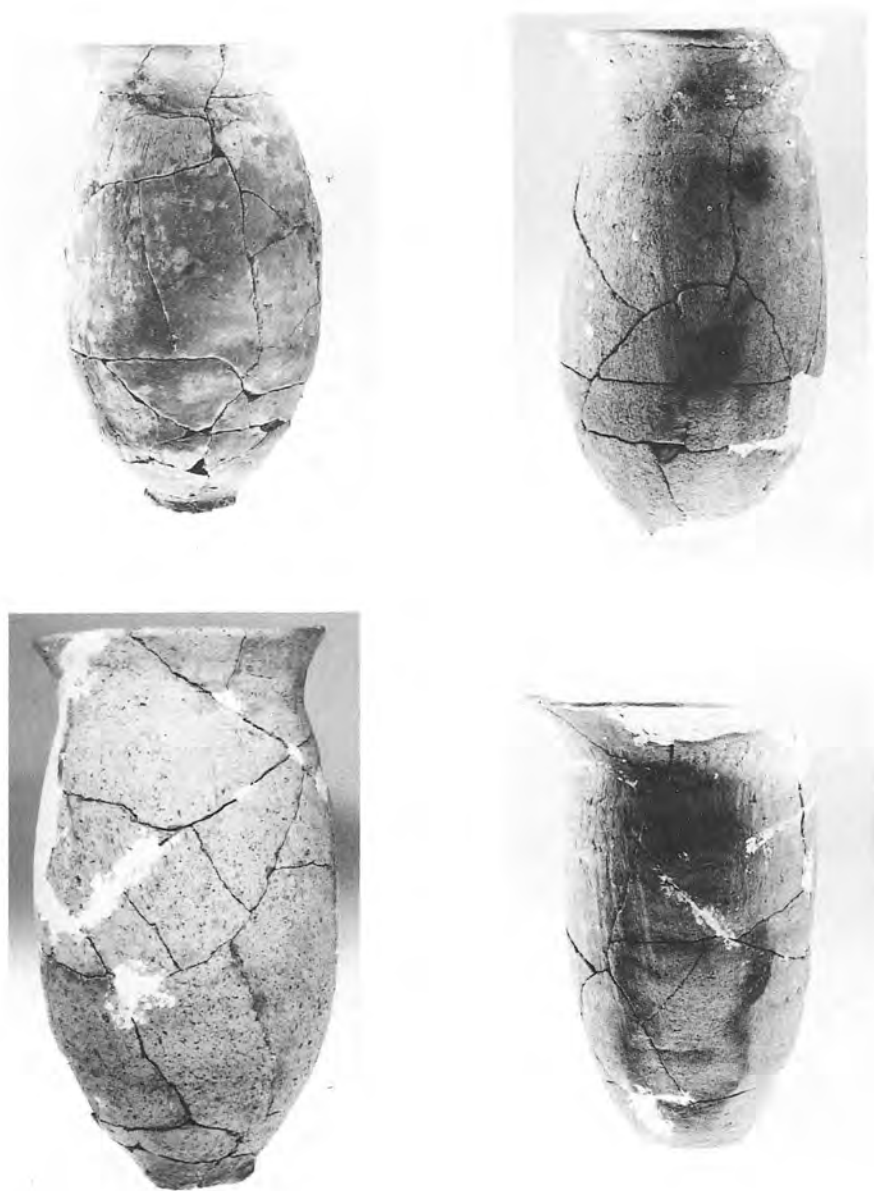
1号住居址出土遺物



2号住居址出土遺物



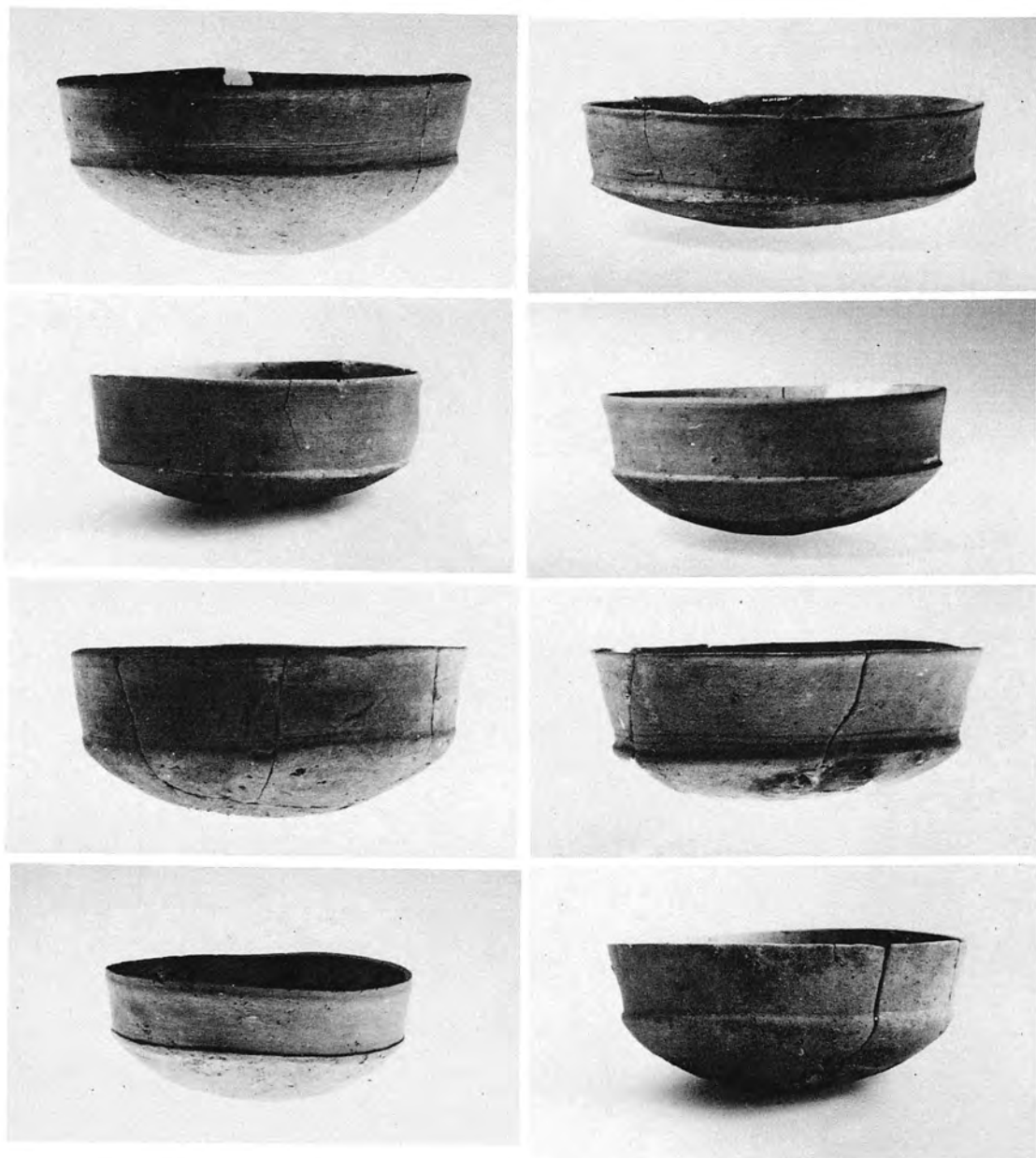
5号住居址出土遺物



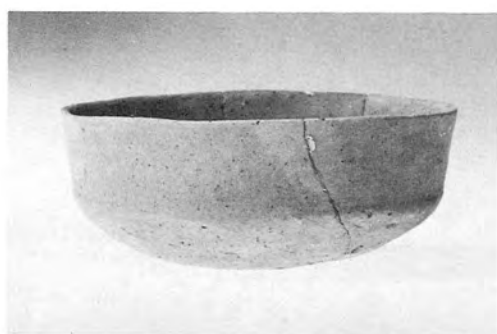
6号住居址出土遗物(1)



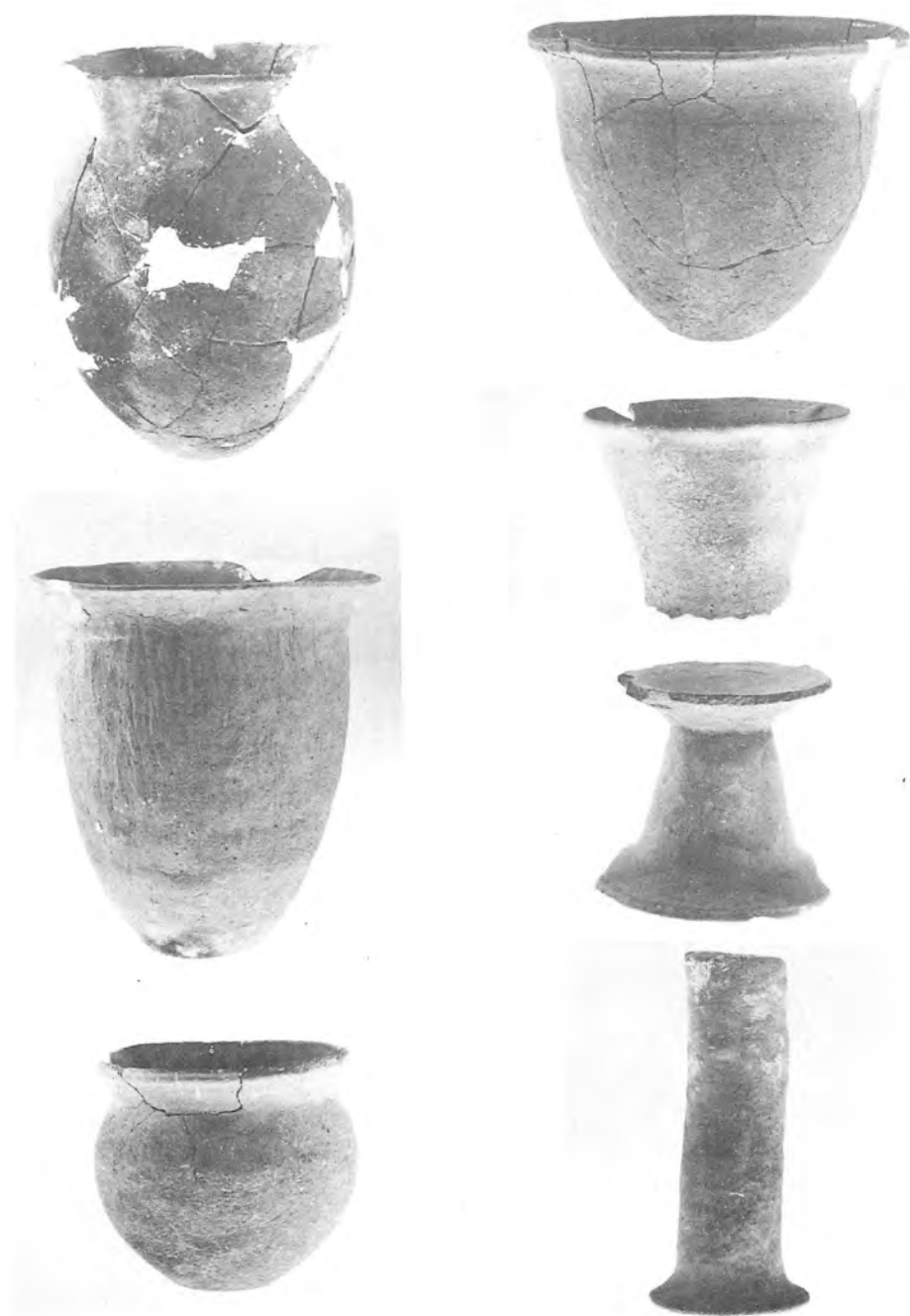
6号住居址出土遺物(2)



6号住居址出土遺物(3)

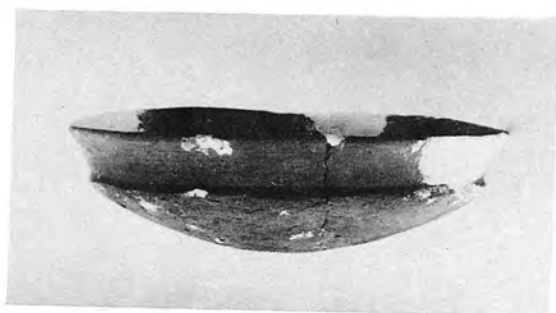


6号住居址出土遺物(4)



7号住居址出土遺物

图版54



4号住居址出土遺物



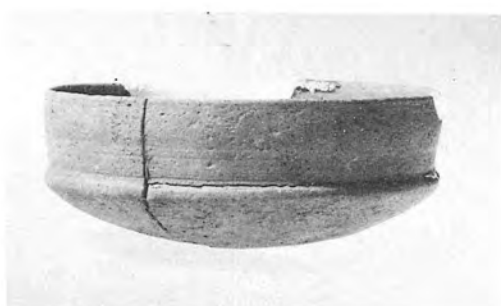
12号住居址出土遺物



8号住居址出土遺物



9号住居址出土遺物(1)



9号住居址出土遺物(2)



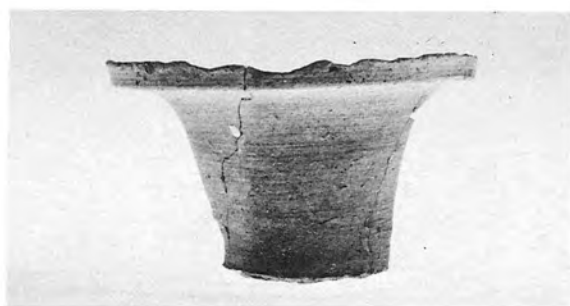
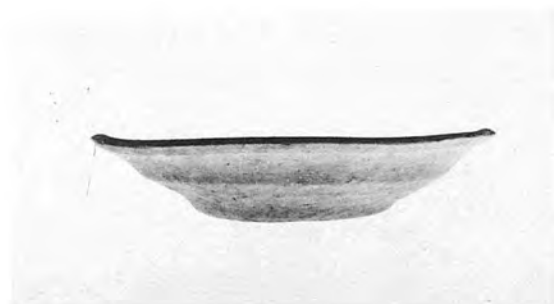
11号住居址出土遺物



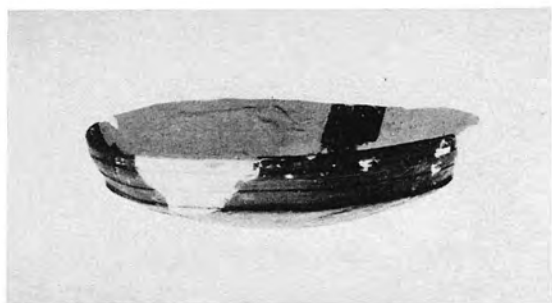
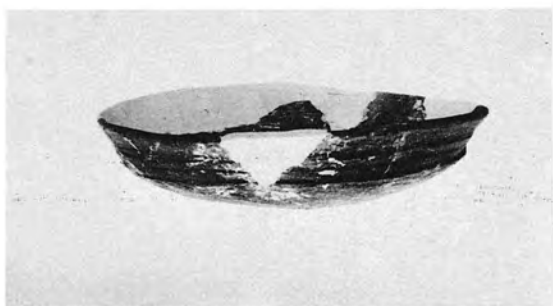
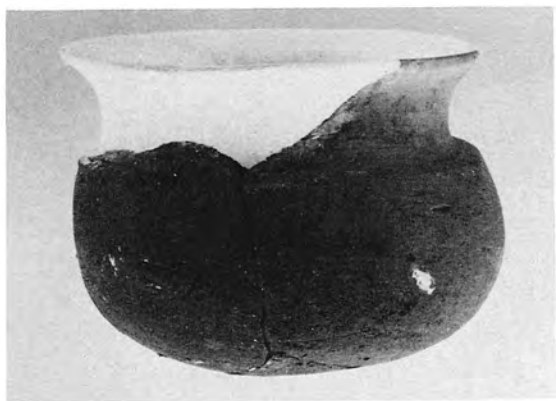
14号住居址出土遺物



15号住居址出土遺物



13号住居址出土遺物



18号住居址出土遺物



21号住居址出土遺物



23号住居址出土遺物



24号住居址出土遺物



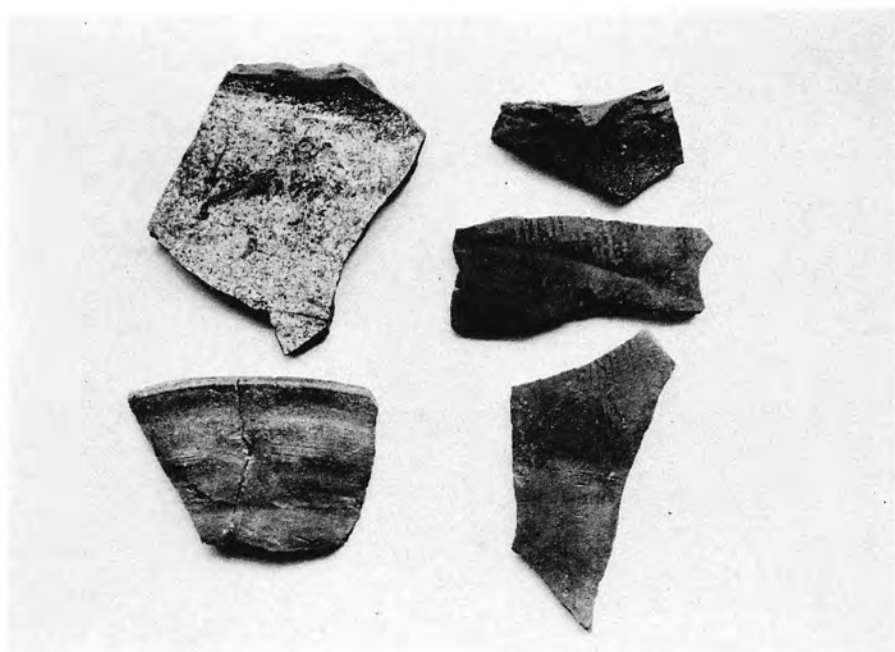
26号住居址出土遺物



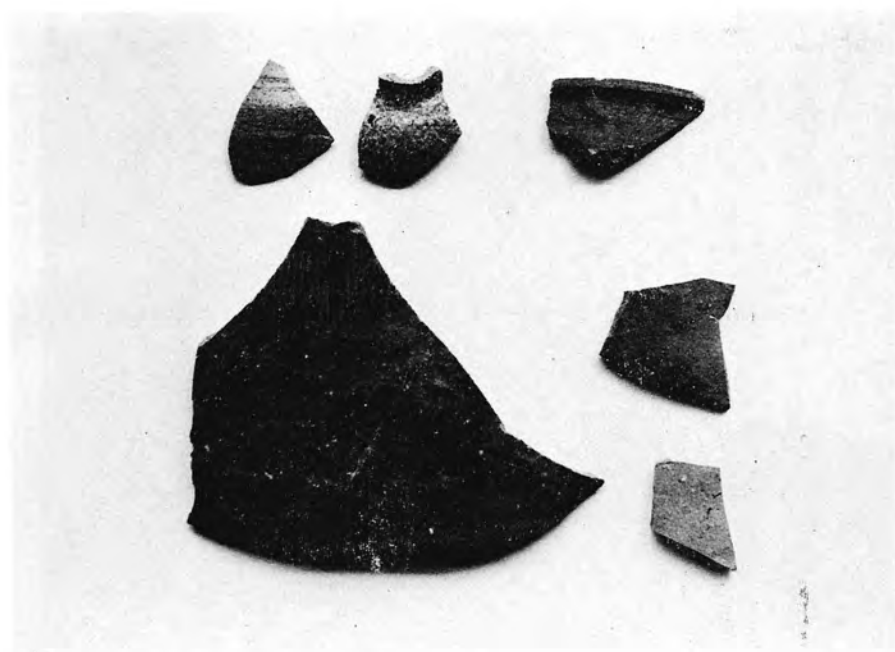
25号住居址出土遺物



28号住居址出土遺物



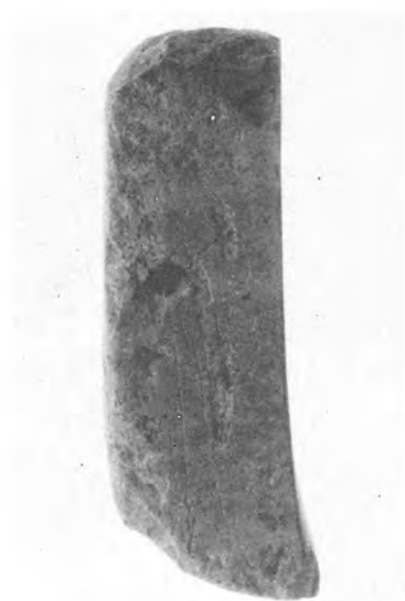
S D 0 2 出土遺物 (1)



S D 0 2 出土遺物 (2)



SK08出土遺物



G-16区出土土錘



A-17区出土土錘



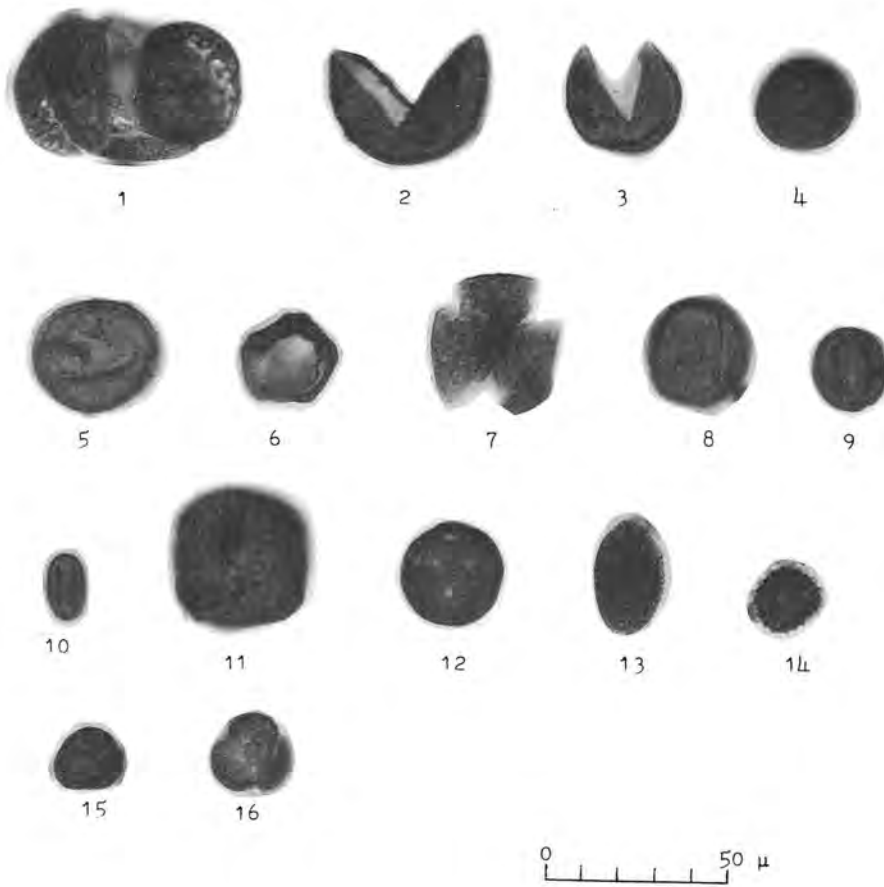
B-10区出土砥石



28号住居址出土紡錘車



F-16区出土紡錘車



EXPLANATION OF PLATES

PHOTO No.65	SAMPLE No.	POLLEN & SPORES
1	A — 1	PINUS
2	A — 1	TAXODIACEAE
3	A — 1	TAXODIACEAE
4	A — 1	CRYPTOMERIA
5	A — 4	CRYPTOMERIA
6	A — 1	ALNUS
7	A — 1	LEPIDOBALANUS
8	A — 1	LEPIDOBALANUS
9	A — 1	CYCLOBALANOPSIS
10	A — 1	CASTANEA
11	A — 3	ZELKOVA
12	A — 1	CARYOPHYLLACEAE
13	A — 1	CRUSIFERAE
14	A — 2	CARDUOIDEAE

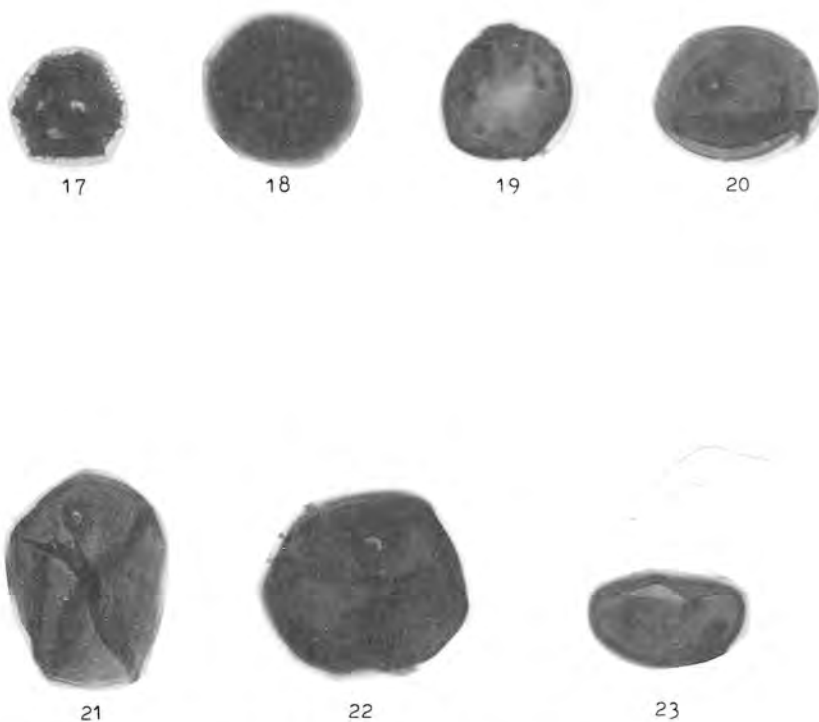


PHOTO No.66	SAMPLE No.	POLLEN & SPORES
17	A — 1	CICHORIOIDEAE
18	A — 1	PERSICARIA
19	A — 1	GRAMINEAE
20	A — 1	GRAMINEAE
21	A — 1	GRAMINEAE
22	A — 1	GRAMINEAE
23	A — 4	MONOLETE SPORE

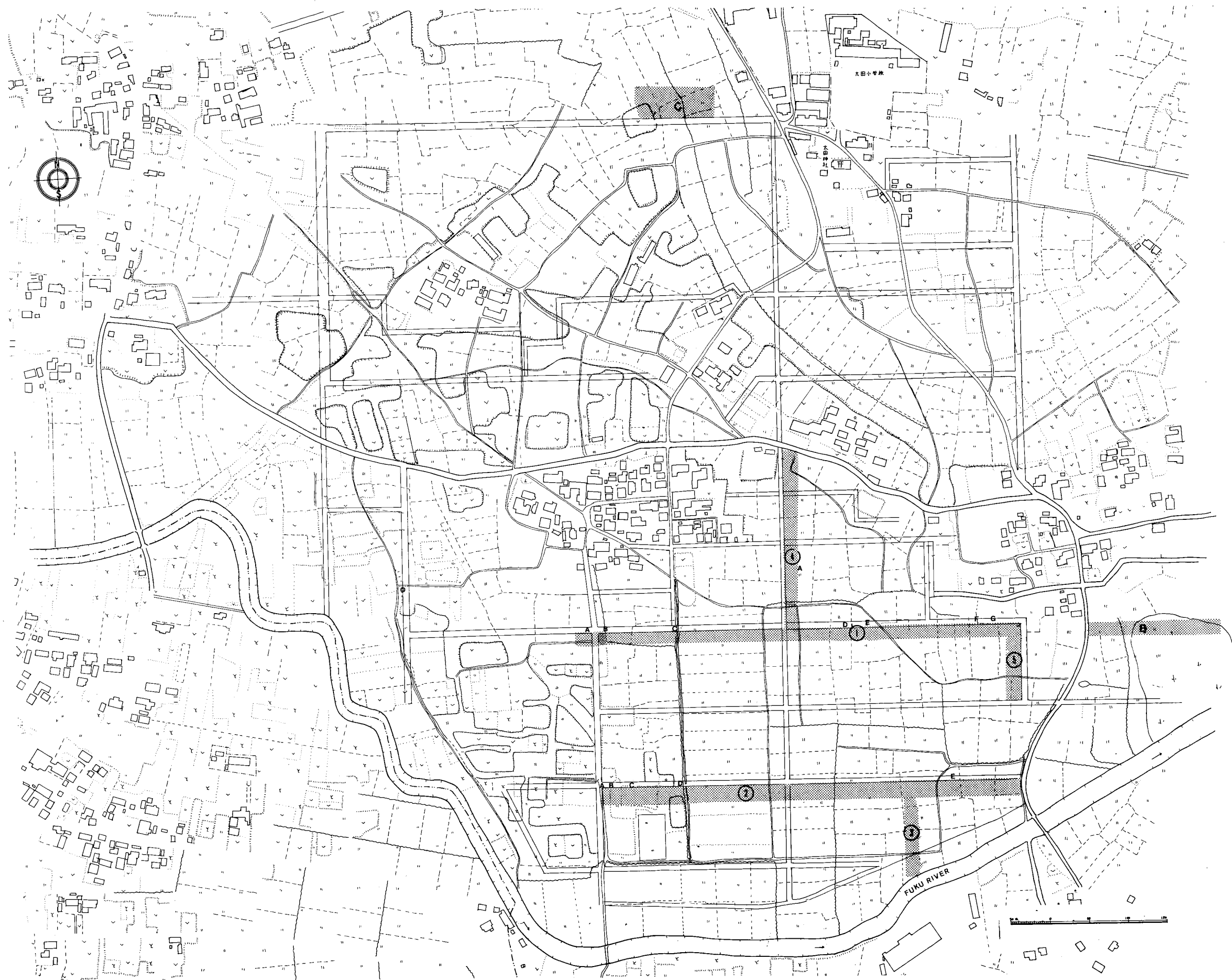
0 50 μ

妻沼町埋蔵文化財調査報告第1集
妻沼西南遺跡群Ⅰ
一道ヶ谷戸条里・道ヶ谷戸・飯塚南一

昭和56年3月20日印刷

昭和56年3月31日発行

発行 妻沼町教育委員会
印刷 聖進社印刷



付図 西南遺跡群トレンチ・遺跡配置図
B 一道ヶ谷戸遺跡 C 飯塚南遺跡